本丸の外廓や濠の一部が殘つて居る。城は德川氏の手に歸してからは廢されたが、江川氏は代々此の地に代官として居り、維新後韮山縣が置かれた時には江川氏その知事に任ぜられたのであつた。▲江川邸　韮山城址の東方一粁半にあり、伊豆の豪族江川氏の邸第で、累層入母屋造茅葺、鎌倉時代の建築（七百年前）にかかる日本最古の邸宅建築で、同所に育つた立木をその儘生柱として使用するなど當時の住宅建築を徴すべき貴重なる遺構であると云ふ。▲反射爐址　長岡驛の東一粁二分、鳴瀧に在る。江川氏代々のうち最もよく人に知られたのは太郎左衛門英龍で、幕末國事多端の折から君國の前途を憂ひて幕府に建議し、苦辛研鑽の結果安政二年に造營したもので、爾後明治維新迄に大小砲數百門が造られたものである。今東京靖國神社境内大村益次郎銅像下にある砲身は此處で鑄造されたものである。遺址は今陸軍省の所管に移り、高さ一幅五米の爐址が存して居る。（昭和五年秋、伊豆震災の時、頂部を少し失つた）之に使用されて居る煉瓦は千七百度の高熱に堪へるもので、英龍が天城山麓梨木その他の土を採り、苦辛の後破工したものであると云ふ。▲願成就院　伊豆長岡驛の北一粁、韮山村寺家に在る。文治五年北條時頼が奥州征伐の戰勝を祈る爲建立した寺で、本尊の阿彌陀座像は國寶に指定されて居る（眞言宗）。▲蛭ケ小島　平治の亂に十三歳にしてとらへられた頼朝が流されて二〇年雌伏した地で、古奈溫泉の人家に近い田圃中の孤松の下に、石に標して古蹟が表示されて居る。

その他韮山村大字古谷の毘沙門堂のある所は文覺上人流寓の地と云はれ、江間村北條寺の東南方の丘上に義時夫妻の墓と呼ばれるものがあり、義時の父政時の館址も韮山村北條にあつて、その墓は附近の願成就院にある。また堀越御所の址、茶々丸の墓、源三位頼政との故事で有名な宮中第一の美人であつたと云ふ菖蒲の前の邸址（西浦村河内の禪長寺内）など、訪ぬるに違のない程舊蹟に富んで居る。▲菖蒲の前の舊跡（西浦村河内禪長寺境内）菖蒲の前は、父たる殿上人が罪を得て古奈に謫居中、其處で生れ、頗る美容の才女であつた。後父の赦免と共に入洛して平女と成り宮中第一の容色は源三位頼政あこがれる處となり、鳥羽院から賜つた婦人である。治承四年頼政が宇治で戰死したので其の子仲綱の領地である此處に歸り來つて、草庵を結び、ひたぶるに頼政の追福を祈つて世を終つたと云ふ。願政堂には頼政と後妻と二人の木像や、下畠札、仁王面などの遺物がある。五月雨に池の眞弧の水増していつぞや菖蒲と引ぞわづらふ。（源三位頼政）。▲靜御前の舊跡と墓　靜は伊東祐親の末女、頼朝と通じ、父の怒を買つて頼朝は北條方面へ奔走、靜は其の跡を追つたが會ふこと叶はず、附近の池に身を投じ、侍婢六人これに殉じたのである。時人憐んで池畔に葬り、滿願寺と云ふ一宇を建立し、池を靜の沖と稱へ、墓も寺内にあつたが寺の荒廢と共に今は中條の眞珠院に移されてゐる。▲堀越御所址　（韮山村北條四日町に在る）狩野川西を圍して江間山と隔たり、後に守山を控へ、東に堀を深くし、景致に富んだ處である。元北條時政の館があつたが、足利義政が、改修して御所としたものである。堀越の名は地域が狩野川を挾んで居るのに起つたものであらう。長禄元年から延德三年迄三六年間、古河御所と對立して西部關東の重鎭であつた所で、公方政知の死後、嗣子茶々丸幼にして將師の器でなく、伊勢長氏の乘ずる處と成り、茶々丸は附近の願成就院に逃れて自害し、御所は終に亡びたのである。其の墓は、願成就院後方守山の裾にある横穴の中に小さな塔があつてそれと知る事が出來る。

長岡溫泉

▲駿豆鐵道伊豆長岡驛から西一粁七、自動車一〇分、乘合一二錢（前七時—後八時迄凡二〇分毎ニ發）、貸切一圓。三島驛から貸切二圓五〇錢。▲沼津驛から江ノ浦、長塚經由一四粁四、駿豆鐵道會社のバスで四五分、賃六〇錢（一日一四回運轉）、貸切四圓五〇錢。沼津から三津經由東海バスで長岡溫泉入口迄（修善寺ゆき）六〇錢。▲三津海岸から八粁、自動車二五分、乘合二〇錢（一日五回）、貸切一圓半。

長岡溫泉は前記古奈山の一小巒を隔てゝ古奈溫泉と相對峙し、四周は一面に青葉の丘で、富士の眺望がよい。

〔泉質・效能〕　溫泉は伊豆諸溫泉中最も新しいもので、明治四〇年の發見にかかる無色透明の弱鹽類泉で、溫度四九度、リウマチス・濕疹・皮膚病・ヒステリー・腺病・婦人病等に效がある。〔特色〕　行樂並に療養向。

〔溫泉旅館〕　大和（電伊豆長岡四・九—一〇、和室六六、洋室二、㊐四圓）、さかな屋（電同三・二八、室三三、一泊㊐三圓半）、山田屋（電一五、室二〇、二圓半—五圓、㊐二圓半）、柳屋（電五、室二七、㊐二圓、普通一圓半—三圓）。

〔附近名所〕　▲最明寺　寺は所謂最明寺殿北條時頼の開基で、境内に時頼の墓と云はれる石塔が存在してゐる。その他古代の石棺、三津海岸等がある。

〔名物土產品〕　川西特產柿、蜜柑、椎茸、雁皮紙布織、木地細工等。

修善寺溫泉

靜岡縣田方郡修善寺町。

▲駿豆鐵道修善寺驛から三粁一、バス一〇分、一〇錢、▲東海道線沼津驛から三津經由二九粁五、東海バスで一時間二〇分、賃一圓、貸切七圓（省線と連帶の場合は九〇錢）一日一四回運轉。同上三島經由二八粁七、東海バスで一時間二〇分、賃九〇錢、一日一九回、貸切三島驛から五圓半。▲伊東溫泉から二七粁七、東海バスで一時間二〇分、一圓二五錢、一日一四回運轉、貸切五圓半。

峯巒南北に巡り、東西僅かに溪谷を通じ、達磨山から流れ出た桂川の清流町の中央を貫流し、浴舍は其の流れを挾んで軒を列ねて居る山水双美の物靜かな溫泉鄉である。人口五、四六八（昭和五・一〇調）。

溫泉は可なり古くからの發見で大同年間、弘法大師諸國巡錫の砌り獨鈷を以て桂川の中なる岩を穿つて溫泉を得たのに始まると傳へられ、その湯は今も尙川中から涌出し獨鈷の湯と呼ばれて居る。その他石湯、稚兒の湯、白糸の湯箱湯等皆泉源を河中に有して居るが主なる旅館には内湯がある。

〔泉質・效能〕　泉質は何れも弱鹽類泉で溫度六〇乃至六九度、神經痛・胃腸病・婦人病・呼吸器病・皮膚病・リウマチス等に效がある。〔特色〕　療養並に行樂向。

〔溫泉旅館〕　菊屋別館（電修善寺二・一〇、室一二〇、普通一泊三圓以上、㊐四圓）、菊屋本館（電同九、室百、一泊三圓以上、㊐三圓）、新井養氣館（電同七、室八〇、一泊三圓—七圓、㊐四圓）、淺羽樓別館（電同二〇、室一〇、普通一泊同上、㊐三圓）、野田屋（電同八、室五〇、普通一泊同上、㊐三圓）、淺羽樓本館（電同四、室五〇、二圓半—五圓、㊐二圓半、丸久（電同六、室四〇、二圓半以上）、仲田屋桂流館（電同一三、室四五、二圓半—五圓）、橋本屋（電同一二、室三〇、二圓以上）、水月屋（電同二三、室二五、二圓以上）、柏屋（電二二、室二五、一圓半以上）、福壽館（電同五、室一五、一圓三〇錢以上）、月ノ家（電同三八、室一二、一圓二〇錢以上）等。

修善寺は鎌倉時代を背景とした骨肉相嚙む悲劇を殘した所、卽ち源頼家及範頼終焉の地として千古の哀史を此所に留めて居る。頼家は頼範の嫡嗣であるが、北條時政の纔に逢ひ、母政子の爲此地に幽閉され、遂に北條時政の爲に今の淺羽樓の浴室のある處で虐殺せられ、また頼朝の弟範頼は兄の猜疑を買つて此地修善寺の信切院に幽閉され、建久四年梶原景時の來襲にあひ、火を放つて焚死した。今頼家の墓は指月殿の左側に、範頼の墓は修善寺町の西方數丁戸田街道の小山、若宮八幡の傍にある。

〔名所〕　▲修禪寺　修善寺町の中央にあり、創建は詳でないが曹洞宗の古刹で、建治元年には宋の僧蘭溪來住して臨濟宗に改め、其後正安年中には元の僧一寧も來住した事があり、北條早雲が伊豆を略し、韮山に據るに及んで曹洞の隆溪禪師を迎へ來り、大いに復興して今日に及び居る。文久元年堂塔悉く燒失し、明治一六年再建す。往時は八院の塔頭を有したが今は正覺院（四粁許の奥にある奥の院である）のみを殘して居る。▲指月殿　虎溪橋を渡つて一〇〇米許りの左側、菊屋山莊の隣地にある。母政子が源頼家の冥福を祈る爲朱板一切經を寫めて建立した經藏である。其經卷の一部は芝の增上寺に送り、他は修禪寺で保管して居ると云ふ。—心なき月を仰ぎて尼君の、猛き心も挫けたりけむ—佐佐木信綱。▲十三人塚　塔の峯の麓に頼家侍臣の墓と傳ふる大小九基の古墳がある。▲城山公園　溫泉場の入口、南方の山上にあり眺望がよい。某他日

枝神社、長瀞園不老の瀧等がある。

船原溫泉　靜岡縣田方郡中狩野村上船原。

▲修善寺驛の西南一一粁、バス三五分、六〇錢、一日八回、貸切二圓廿錢
▲沼津驛から三津經由東海バス一圓四五錢。貸切九圓。三島驛から同一圓二〇錢。貸切六圓。

地は下田街道の出口部落から西に折れて約四粁（自動車二〇錢）で天城山の北嶺棚場山御料地の東麓にある船原川の溪流美に臨む清閑なる所である。此處から小山越に吉奈溫泉へ二粁、西海岸の土肥溫泉へは昭和七年秋自動車路が開通した。

〔泉質・効能〕無色透明の弱鹽類泉で溫度四九度、リウマチス・神經痛・胃腸病・婦人病等に效がある。

〔溫泉旅館〕船原ホテル（電青羽根五、和洋兩式、遊覽券指定一泊四圓。和室三〇、一泊三圓以上、洋室四、室料三圓、三圓半、一人增一圓。食事（和）朝五〇錢、晝一圓、夕一圓半、洋食は夏季中にて各五〇錢增。茶代廢止、ホテルには玉突、テニスコート、大弓、溫泉プール等の設備がある）、船原館（㊐二圓、電同三二、室六、對山莊（室八）、昭和館（室四）。

〔附近名所〕寶藏院、魚止の瀧、土肥峠の駿河灣遠望等、又船原川には鮎や鰻が多く、岩魚、山女等が釣れる。

矢熊溫泉　上狩野村矢熊、船原溫泉へ行く途中、岐路に當つて出口の村落があり、その川の對岸一〇〇米の所にある。修善寺驛から約八粁、バス四〇錢、貸切六人乘一圓半。地は東に武田山脈を背ひ、西は狩野川に臨み、南方遙に天城の連峯を望み、北に富士の美峯を仰ぐ、此邊は船原と同じく鮎と山女が釣れ、山葵と椎茸の本場として知られて居る。溫泉は鹽類泉で微溫、神經痛・リウマチス・婦人病等に効がある。

〔旅館〕堀江館（電青羽根二六、室一〇、一圓半乃至三圓、自炊室代一ケ月六圓乃至一〇圓）

土肥溫泉　靜岡縣田方郡土肥村。

▲前記船原溫泉から約二二粁四、東海バスで一時間（修善寺驛發松崎行定期一日八回）、賃八〇錢。貸切四圓五〇錢。修善寺驛から三三粁五、一時間三五分、乘合一圓三〇錢、貸切六圓半。
沼津から三津・修善寺溫泉經由東海バス省連帶二圓五錢
▲沼津驛から約一粁半の下河原から東京灣汽船で土肥海岸まで一時間半（一日五回發）賃五〇錢、往復八五錢。海岸から溫泉場迄約七百米。
▲下田から下箕作、松崎經由約五八粁五、バス二圓四〇錢、一日七回、貸切一六圓。下賀茂及松崎經由貸切二〇圓。

地は伊豆西海岸に於ける只一の溫泉場として、また海水浴場として知られて居る。前面西方には駿河灣を控へ、背後には達磨山（九八二米）、猫越岳の支脈を負ひ、氣候概して溫暖で、一二月頃梅花馥郁として綻ぶ。海は水清く遠淺で海水浴に適し、避暑避寒地として良い。

溫泉は始め寶永年間に採鑛の目的で山脚を掘鑿した處、忽然熱泉が迸出したものであると云ひ、湧出量豐富で、各旅館に內湯のある外、穴の湯、馬場の古湯、釜ヶ洞の御殿湯等の共同湯がある。穴の湯は昔の金鑛採掘の跡から溫泉の迸出したるものを其儘浴槽としたのである。然し此の地は金山で、溫泉湧出地の下を掘る樣になつて溫泉面が低下したので、電力を以て揚湯して居る。

〔泉質・效能〕泉質は無色透明の鹽類泉で、溫度五五度リウマチス・濕疹・ヒステリー・婦人病・腺病等に效がある。

〔旅館〕明治館ホテル（電二一・一八、室四四、洋室四、㊐二圓）土肥館（電五〇・五五、室三二、㊐二圓）、（以上普通一泊一圓半—三圓）、高砂屋（電四七）、肥の出館（電七〇）、吉村屋（電一〇三）、木口館（電一〇七）、大正館（電三二）、山崎館、小松屋、昭和館、伊豆海館、山城屋、朝野屋（以上一泊一圓半乃至二圓半）

〔附近名所〕▲蒲天崎、土肥金山、土肥神社・屋形海水浴場、清雲寺、安樂寺。
〔名產〕椎茸、山葵、柑橘、枇杷、鰹節、スルメ、鮮魚、乾魚、海苔等。
▲土肥金山は溫泉の南に接する土肥金山會社の經營で、金銀を含有し、年產鑛石約五萬噸（一二〇萬圓）を產し、愛媛縣四坂島の住友製錬場へ送られて居る。此の金鑛は天正の頃から發掘され、金山奉行など置かれ仲々繁榮を見せた所である。

吉奈溫泉　靜岡縣田方郡上狩野村吉奈。

▲修善寺驛の西南約一一粁六、東海バスで四〇分、六〇錢（一日定期一八回の外吉奈口迄十回あり）、貸切二圓二〇錢。
▲沼津驛驛から三津經由バス一圓四五錢、貸切一臺九圓。
▲三島驛からバス一圓二〇錢、貸切一臺六圓。

地は天城山の西北麓、吉野川の清流に跨る山中の溫泉で僅かに東の一方が溪に沿ふて展けて居るのみである。

溫泉は聖武天皇の御宇、僧行基が諸國安脚の途次此地に醫王山善名寺を建立して藥師如來像を安置した處、忽ち佛力によつて尊像の傍に溫泉が涌出したと傳へて居る。昔は義名とも云ひ、伊豆の國守の館があつたので館山とも呼ばれた。此處の善名寺の境內にある樹齡百年の欅の大木は、子のない婦人が夜ひそかに此の大木を抱くと子供が授かると云ふので今でも此の風習が行はれ、古來子寶の湯として婦人の浴客が多い。また德川家康の妾お萬の方は此處に浴して後賴宣を產んだと云ひ、お萬の方腰掛石、子持柿など云ふものがある。

〔泉質・效能〕無色透明の鹽類泉で、ラヂウム、エマナチオンを含有する事伊豆溫泉中第一である。溫度五五度、特に不姙症及婦人病一切によく、リウマチス・胃腸病・神經痛・痔疾等に效がある。〔特色〕療養向。

〔旅館〕さか屋（電古奈四、室五〇、㊐二圓半）、東府屋（電同八、室六〇、㊐二圓半、普通一泊二圓半乃至五圓）、芳泉莊（電同三・二一、貸別莊にて一〇棟あり、一ケ月三〇圓以上）、日英館、朝日屋、すし屋等。

〔名所〕善明寺。夏は吉奈川の川魚釣に、秋は茸狩によい。〔名產〕椎茸。

嵯峨澤溫泉　上狩野村字門野原。修善寺驛の南約一〇粁、自動車二五分、乘合五〇錢（停留所から溫泉場迄徒步約一〇〇米）貸切六人乘二圓三〇錢下田街道湯ヶ島溫泉への途上、狩野川に臨み南に天城の連峯を仰ぎ、夏季は鮎漁に適する溫泉は鹽類泉で、溫度五五度、胃腸病・リウマチス・婦人病等に効がある。湯ヶ島溫泉へ南二粁、附近狩野川に臨んで月ケ瀨鑛泉がある。

〔旅館〕嵯峨澤館（電吉奈一〇、室二六、一泊㊐三圓半）

月ケ瀨鑛泉　靜岡縣田方郡上狩野村。修善寺驛の南方約一〇粁一、下田行又は湯ヶ島行自動車に依れば約二〇分で溫室場の入口である出口村（船原溫泉への岐路）に着く、賃五〇錢。狩野川の川岸にある溫泉で、月ケ瀨溫泉は出口から約一粁半許り遡つた狩野川の中洲にある。泉質は弱鹽類泉で、溫度四三度內外、リウマチス・胃腸病・婦人病・腺病・神經系諸病に効があると云ふ。此處から船原・吉奈・湯ヶ島の諸溫泉へは二粁乃至四粁位で行ける。

〔旅館〕中島一軒（電青羽根一一、室四、一圓半—二圓半）。

湯ヶ島溫泉　靜岡縣田方郡上狩野村。

▲駿豆鐵道修善寺驛の南一二粁九、バス四〇分、六〇錢、（一日一八回）貸切二圓七〇錢。
▲沼津から三津經由バス一圓四五錢、貸切九圓八五錢。
▲三島からバス一圓三〇錢、貸切六圓。
▲下田から北へ約四三粁六、バス一時間五〇分、賃二圓（一日八回）、貸切八圓五〇錢。

地は天城山の西北麓、下田街道に沿ひ、狩野川と猫越川の合流點にある山溪の溫泉場で、新綠や紅葉の美に勝れ、また夏涼冬暖幽邃閑雅の所である。

〔泉質・效能〕溫泉は世古ノ瀧・西平・木立の三ヶ所に

湧出し、何れも無色透明の鹽類泉で、溫度四八度乃至五五度、特に婦人病・創傷・リウマチス・神經痛等に效がある。

〔旅館〕 落合樓（電湯ケ島一四・同長一五、室二七、㊐三圓、普通一泊二圓乃至三圓）、湯川屋（電三〇、室一〇、一圓半乃至四圓）、湯ケ島館（電一七、室一二、同上）、湯本館（西平溫泉、電同二八、室一〇、二圓乃至四圓）、以上何れも内湯及貸切湯の設備がある。外に鈴木屋（電三八）、朝日屋、角屋等がある。

〔附近名所〕 ▲淨蓮の瀧　溫泉場から約二粁二、下田街道から西へ約百米、鉢窪山の西麓を洗ふ狩野川上流湯ケ島新田にある。巾五間餘、高さ一二〇尺餘あり、水量多く壯觀を極む。▲天城登山　下田街道を一二粁許り進んだ天城トンネルを中心として東に廻れば八丁池（天城峠から約六粁、全くの原生林を行く尾根通りで、紅葉の頃は殊に美しい）萬二郎岳に通じ、西に廻れば山頂を迂廻せる平坦な御料地林道に依て猫越峠に通ず。何れも眺望がよい。▲天城山遊覽　天城御料地はもと宮内省の御料場であつたが今農林省の經營に移り國營獵區として一二月一日から翌二月末日迄、毎土曜日及日曜の兩日を期し好獵家の爲に鹿・猪等の卷狩を爲す。

湯ケ野溫泉　靜岡縣賀茂郡上河津村。

▲修善寺驛の南約三六粁七、東海バスで一時間四〇分、片道一圓七五錢、一日八回、貸切一臺七圓。自動車停留所から約數十歩下つた所に溫泉場がある。

▲下田から北へ約二〇粁、バス五〇分、賃九五錢、一日八回（修善寺行定期）、貸切三圓五〇錢。

地は天城山を越えた南伊豆の山間にある溫泉場で、河津川の上流に臨み、清流を挾んで四、五の旅館が並び幾分享樂的の感がある。然し前には一帶に天城山脈高く、後には一段高く下田街道が走り、眺望は無いが土地高燥で山間の湯場の氣分がしみ〴〵味はれる。〔特色〕 行樂向

〔泉質・效能〕 溫泉は無色透明の鹽類泉で溫度三八度、皮膚病・神經諸病・眼疾等に效がある。

〔溫泉旅館〕 江戸屋（電上河津六、室八、㊐二圓二〇錢）、福田屋（電一一、㊐二圓二〇錢）、湯本樓（電二四、㊐二圓二〇錢）、玉屋（以上何れも内湯あり、普通一泊一圓半、二圓半）。

〔附近名所〕 ▲大瀧　高さ九〇尺、巾二四尺、玄武岩の懸崖から直下して居る。▲釜瀧　高さ百尺、巾一八尺。其他初景瀧、三養院の瀧及江川英龍氏反射鹽燒瓦製造の址などがある。

小鍋溫泉　湯ケ野溫泉の西半粁、小鍋川に臨んだ所にあり、泉質は鹽類泉で疝氣、腫物に特効があると云ふ。

〔旅館〕 一階屋一軒。附近には其他梨本、大鱒、横川、北湯ケ野、大瀧、道部、赤間等にも溫泉がある。

峰溫泉　靜岡縣賀茂郡下河津村峯。

▲熱海から伊東、濱橋（乘換）經由東海バスにて三時間一〇分（七一粁二）片道二圓六五錢。

▲駿豆鐵道修善寺驛の南約四〇粁七、湯ケ野溫泉を經て行く。東海バス一時間五〇分、賃一圓九五錢、貸切九圓。湯ケ野溫泉からは東南約四粁、バス一〇分、乘合二〇錢、一日二一回、貸切一圓。

▲下田町から白濱・下河津濱（乘換）を經て約一八粁五、バス約一時間、賃八五錢、貸切四圓。

地は下田街道から河津線に入り約二粁、谷津溫泉場の手前約一粁の河津川に臨んだ所にある。

溫泉は近年掘鑿されたもので、噴騰の高さ約三〇米（百尺）に及び一分間の湧出量約一八二立（十石）、攝氏百度の熱泉で湯烟り高く轟々の音を響かせ、新潟縣の瀕波溫泉以上の壯觀を呈して居る。〔特色〕 療養向。

〔泉質・效能〕 弱鹽類泉で、クロールナトリウムを多量に含有し、神經痛に特效があり、婦人病・外傷等に效がある。

〔旅館〕 玉峰館（電河津濱三一、㊐二圓半）、菊水館（電同一八、㊐二圓半）、なんや、以上普通一泊一圓半乃至五圓。

〔附近名所〕 林際寺址、來の宮神社、笠原城址、お萬ノ方（德川家康の妾）の生家と傳ふる家の大蘇鐵、等。

谷津溫泉　靜岡縣賀茂郡下河津村谷津。

▲駿豆鐵道修善寺驛から前記湯ケ野・峯溫泉を經て約四二粁三、バス二時間、一圓二五錢、貸切九圓。湯ケ野から五粁七、下峯から一粁六。

▲下田から白濱・下河津濱（乘換）を經て東南約一六粁九、バス五五分、八〇錢、一日九回以上、貸切三圓六〇錢。

▲東海道線熱海驛から伊東・熱川・濱橋經由東海バスにて三時間五分（六九粁六）、賃二圓六〇錢（下田行一日一二回以上、濱橋にて乘換）。

地は天嶺山を負ひ、天城の連山三方に繞り、其の間に僅に平地が開け、その中を流れる河津川の清流が間もなく海に落ちようとする右岸に位して居る。海邊は近年伊豆舞子と稱し、青松長く連り、海水浴場として知られて來た。

溫泉は掘鑿すれば隨所に得られる程に豐富で、現在二〇餘の湧出口を有し、字鷲頭には近く二〇米の噴騰泉が穿鑿された。

〔泉質・效能〕 鹽類泉で溫度四九度、保溫性のものは、リウマチス・痔疾・婦人病・胃腸病等に、放溫性のものは眼病・皮膚病・創傷等に效がある。〔特色〕 療養向。

〔旅館〕 石田屋（電河津濱二、㊐二圓半、室一二）、中津屋（電同二七、増田屋（電同六、㊐二圓半、室一一）、まげや（電同一〇、室九、㊐二圓）新河津館（電同一六、㊐二圓、室六）、山田屋（㊐一圓半、室四）、久保田（電同三、室九）等。

▲此の邊は古の河津庄で、曾我兄弟の父、河津三郎祐泰の屋敷址は八幡神社の傍にあり、館の内と稱して居る。八幡神社は祐泰及其子祐成、時宗の靈を祀る。其他大檀樹（樹齢九五〇年、高さ一七間）の神木を有する來宮神社、面白い傳說を有する河童の壺（高さ一尺三寸、胴の周三尺四寸）のある栖足寺、近年發掘した古佛像を有する南禪寺、新町の大蘇鐵（高さ三丈、根の廻り二丈一尺）笹原城址、又は銀砂を敷いた樣な美しい濱のある白濱村等の散策地がある。尙下河津村見高小學校構内には石器時代の住居址がある。

今井濱溫泉　賀茂郡下河津村高見。

▲伊東から四一粁五、自動車一時間四〇分、バス一圓六五錢。

▲下田から一八粁六、バス五〇分、八五錢。

此溫泉は伊豆の東海岸景勝の地に峯溫泉の噴泉を曳いて最近開湯したものである。〔旅館〕 今井莊（電川津濱五三、一泊四、五、六圓、晝一圓—二圓）

河津濱溫泉　下河津村字濱、河津河口の左岸に最近開場された溫泉で、泉質は鹽類泉、溫度四八度、神經痛に効がある。旅館福木屋一軒。

横川溫泉・北湯ケ野溫泉　靜岡縣賀茂郡稻梓村字横川及北湯ケ野。自動車下田から約五〇分、六〇錢。稻生瀧川の一支流賀曾野川と横川の合する所に横川溫泉があり、川を隔てゝ凡百米許り下つた所に北湯ケ野がある。泉質は單純泉で、横川は華氏一八二度、切傷・疝癪・疥癬に、北湯ケ野は眼病・打撲傷に效がある。旅館は横川に千代田（内湯なし、一圓二〇錢位）がある。

河内（カウチ）溫泉　靜岡縣賀茂郡稻生瀧村河内。

▲駿豆鐵道修善寺驛の南五三粁一、東海バスで二時間半、片道二圓三五錢一日九回。貸切一一圓（六人乘）。

▲熱海から伊東—熱川—下田經由東海バスにて三時間四五分（八九粁五）賃三圓三〇錢。

▲下田町から北三粁五、バス一〇分、片道一五錢、往復二七錢、一日九回貸切六人乘片道七〇錢往復一圓五錢、一六人乘一臺片道一圓二〇錢、往復一圓八〇錢。

地は下田街道に沿ふた稻田の中にあり、四方に山巒を繞らし、下田富士、武山（萬象山）等を眺めた景色がよく、靜かな湯治氣分の漲つて居る處と云ふよりは寧ろ下田港の若

い衆の遊樂地と云つた所である。

〔泉質・效能〕溫泉は弱アルカリ性鹽類泉で、溫度四九度、リウマチス・ヒステリー・神經衰弱症・貧血諸症・婦人病等に效く。〔特色〕行樂向。

〔旅館〕金谷樓（電下田三二五番、室一〇、㊐二圓半、千人風呂あり入浴料一〇錢）、松本屋（電下田一六五、室八、野天風呂あり。㊐二圓半）、ヒユツテ黑船別館（電同二五六、室七）普通一泊二圓半、三圓。

〔附近名所〕▲高根山　溫泉場の對岸にある二四三米の山で山上の眺めは伊豆三勝の一に數へられて居る。▲お吉ケ淵　唐人お吉の投身自殺した所と云ふ

蓮臺寺溫泉（レンダイジ）

靜岡縣賀茂郡稻生澤村蓮臺寺。

▲前記河内溫泉から七、八百米、修善寺驛から下田行のバスに依ると河内溫泉場を過ぎて下田富士を間近に見る中の瀨立野橋際に下車、夫より西へ約三百米（此の間バス片道五錢）。修善寺驛から約五五粁、片道二圓四五錢（一日八回）貸切一一圓六〇錢。

▲熱海から伊東、熱川、下田經由東海バスにて三時間四〇分、賃三圓三〇錢、八九粁五

▲下田の西北三粁半、乘合片道一五錢、往復二五錢、貸切八〇錢。

地は稻生澤川の支流を中に翠巒四周を繞る閑寂の地で、田舍の湯治場らしい感じのする所である。

溫泉は一千數百年前、行基菩薩によつて發見せられたと云ふ古い歷史を有し、北側山麓を中心として各所に湧出して居る。〔特色〕行樂向。

〔泉質・効能〕無色透明の硫黃泉で、溫度四九度、皮膚病・リウマチス・神經諸病・性病・婦人病等に效がある。

〔旅館〕會津館（電下田七三、室二〇、一泊㊐二圓半）、掛塚屋（電同一三四、室一五、㊐二圓半）、石橋（電下田一〇六、室二〇、外に洋室一あり、㊐二圓半）、順治樓（電同二〇二、室一一、㊐二圓半）、靜好館（電二〇〇、室八、㊐二圓）、中田屋（電三三八、室一一、㊐二圓半）、新湯（電三〇五、室六、㊐一圓八〇錢）、小川（電三〇四、室七、㊐二圓）、湯端館（電同二四五、室一三、㊐二圓）、三吉屋（電同二〇九、室八、㊐二圓二〇錢）、蓮臺地莊（電一〇五）、岡田（電一五六）。

〔附近名所〕▲國寶大日像　溫泉場の西方小山の上の天神社にある。木造結跏趺座の座像で高さ一米餘（三尺八寸）、七百年前廢寺となつた蓮臺寺の本尊で、神社のある所はその寺の舊址であると云ふ。▲河津鑛山　天神社背後の山を中心にあり大坂久原氏（日本鑛業會社）の經營にかゝる金鑛（含金銀石英）で其の鑛石は茨城縣の日立鑛山其他の製錬場へ送られて居る。

下賀茂溫泉

靜岡縣賀茂郡南中村。

▲下田町から西北へ一一粁四、バス三〇分、五〇錢（一日一四回）、貸切二圓五〇錢。▲松崎から約一五粁、バス約三〇分、一圓三〇錢。

地は下田の南妻良港との中間に當る青野川（手石川とも云ふ）の下流に沿ふてあちらこちらに湧出して居る溫泉の總稱で、前面は雜木林の丘陵が蜿蜒として連り、其の間に小さな平野がなだらかに展け、溫泉旅館は川の西岸の農家に交つて此處に一軒、彼處に二軒と二、三百米を隔てゝ點在する處、見るからに野趣のある溫泉場である。

溫泉は青野川の沿岸至る處に湧出し、殊に下賀茂から加納邊にかけては何所を掘ても湯が非常な勢で噴上げ、掘つた儘では附近の樹木や田畑に湯害を及ぼすので、蓋をして湯の噴騰を止めて居る。現在鑿泉四〇餘ケ所に及び、寶の湯・高島の湯などは噴泉九米の高さに及び、而も溫度が高く湧出量が豐富なので、近年此の溫度の高い湯を鐵管で溫室に

P.135—138
落丁
調査濟 拾年九月廿六日

三島神社（官幣大社）　靜岡縣田方郡三島町。三島驛の北約三〇〇米、三島町の中央にあり、東海道中熱田に次ぐ名神大社で、大國主命の御子事代主命を祀る。もと伊豫の三島の神を遷したもので古來伊豆國一ノ宮として名高く、鎌倉時代以後武家の信仰厚く、源頼朝は源家再興の祈禱に神助を得てから特に信仰して、社殿を造營したりなとした。今の社殿は明治二年に再建された權現造の大建築である。毎年八月一六日の例祭、一月七日の御田植祭及節分祭には參詣者多く大いに賑はふ。

▲光長寺（本門法華宗大本山妙法華寺）三島驛の西約一粁八、金岡村岡宮にあり、自動車の便がある。沼津驛からは二粁二。日蓮宗の一名刹で德永山と號し、代々德川幕府の歸依が厚く伽藍壯麗であつたが明治二三年大災に罹り堂塔の一部を島有に歸したが、其の後稍復興して本堂、三光堂、拜殿、毘沙門堂納骨堂、寶庫、仁王門、客殿、庫裡、土藏、鐘樓堂などがある。

〔旅館〕菱屋（三島町小中島、駿豆三島町驛から三五〇米、電一四六、室一五、二圓—三圓）、水口屋（大中島、電九、同三島廣小路驛から一五〇米、室一四、二圓—三圓）。

沼津市

東京から準急列車で二時間七分（一二六粁二）三等一圓八七錢

市は駿河灣の東北岸に位し、古來東海道の要衝に當り物資の集散が盛である。市附近は氣候溫和で、避暑及避寒の最適地である。人口四四、〇二七（昭和五・一〇）。

沼津市は天正七年（紀元二二三九年）武田氏の將高坂昌宣が城を築いて以來近くは水野氏五萬石の舊城下として榮えて來た所であり、また商業も盛で、市は桃の產地としてまた集散地として、その他伊豆方面から輸出する山葵、椎茸等の取次地として活躍して居る。

〔旅館〕大和館（追手町、驛六〇〇米、電一六八、室二三、㊐三圓）、仙松閣ホテル（千本濱、驛一粁九、電四〇六、普通一泊四圓）、杉本（木町、驛一粁五電三一、三圓—五圓）、桔梗屋（上本町、驛一粁、電五三、二圓半—四圓）、池之端（片端町、八〇〇米、電六五〇、一圓半—三圓）、美家古（追手町、驛前、電三〇四、二圓半—四圓）。

〔附近名所〕▲千本松原　驛の南約二粁、自動車一〇錢、富士を背景とした海岸の景色は世に有名な處で、今は沼津公園となつて居り、一帶の海岸は海水浴の適地である。尙此の海岸の濱邊きである「田子の浦」は赤人の「田子の浦ゆうち出で見れば眞白にぞ富士の高根に雪は降りける」の歌で有名なところで、富士を背景とした絶景の地である（鮎川驛の東半粁）

▲靜浦　驛の東南三粁、三津方面行の自動車の便が頻繁にある。青松白砂の境に沼津御用邸が設けられ、海水浴場として好適の所である。

〔旅館〕保養館（靜浦村志下、電沼津一七四、室八〇、一泊四圓—六圓）

駿河灣遊覽

沼津市御成橋際から特許海底透視船龍宮丸に依り魚族の遊泳する有樣や海底の秘境を探りながら駿河灣内を舟遊するものである。

龍宮丸は我が邦最初の海底透視裝置の特許船で、日光源に依るほか電燈源作用により晝夜は勿論、薄暮又は暗夜にあつても日中と變りなく、むしろ夜中は遮斷光線及海上對照物のなきため海中海底を更に美化透視し得ることが出來るのである。船は一號船（定員五五名）、二號船（定員六〇名）、三號船（定員一〇二名）とあり、江戸趣味の屋形船で、航行中にはラヂオの聽取も出來、簡單な一品料理も出來る。定員五五名。

區間	乘合	貸切	記事
沼津—桃郷—獅子濱—江ノ浦—三浦	—	三三・五〇	一號船
沼津—千本濱—大瀨崎—西浦—三津—江ノ浦—桃郷—沼津	〇・九〇	三三・三〇	〃 乘合ハ自七月一五日至八月末日運航
沼津—大瀨崎—井田—戸田—清水	—	七六・五〇	一號船
伊東—初島—熱海	一・四〇	三五・〇〇	三號船（三時間限度）ヲ增ス毎ニ以上一時間
伊東—初島—熱海往復	一・四〇	五八・五〇	二號船（〃）
		三五・〇〇	三號船（〃）
		五六・五〇	二號船（〃）
		二〇・〇〇	
		二五・〇〇	
		一〇・〇〇	
		二五・〇〇	

▲乘船申込所　ツーリスト・ビューロー（日本旅行協會）本部並びに各地案內所又は龍宮丸伊豆遊覽社（電沼津八九八番）。

伊豆大島遊覽日程案　其一（遊覽券利用東京から三日）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	東京 靈岸島	發後 一〇・〇〇 時	東京灣汽船大島・下田航路船中一泊	東京市營電軍越前堀停留所カラ東京灣汽船發着所ノ靈岸島迄約一〇〇米 ▲靈岸島―大島元村間東京灣汽船大島・下田航路ニテ六時間半、船賃片道二圓、往復三圓六〇錢（三等ノミ、食費ヲ含マズ）。葵丸（一五〇〇噸、特別室使用料一名三圓、二名五圓、三名七圓半、和室六圓八圓一二圓）、菊丸（七五七噸、定員三六四人）、新造船たちばな丸等。 「註」西南ノ風强ク海上波高キ時ハ船ヲ岡田村ニ着ケル事ガアル。三原山ヘハ湯場ヲ經テ約七粁、元村カラ登ルノト略同ジデアル。岡田村・元村間約六粁二、乘合自動車三五錢一日四回、貸切二圓。
第2日	大島 元村	着前 四・三〇	下船元村ニテ朝食ノ上三原山ヘ	▲元村ヘハ艀舟ニヨリ上陸スル。
	元村	發前八時頃	徒歩	▲元村―三原山（神達口）約四粁九、途中御神火茶屋迄約三粁三、徒歩一時間半、驢馬一圓五〇錢。御神火茶屋カラ中央火口丘迄火口原ノ砂漠約一粁六、此ノ間駱駝ガアル、五人乘ニテ一人一圓、此ノ間ロバ五〇錢。
	三原山 御神火茶屋	着前 九・三〇		**三原山**（一四五頁參照）。
	三原山頂	着前二時頃		
	三原山	發 正午頃	徒歩	▲三原山―間伏村間約四粁、徒歩一時間。
	間伏	着後 一・〇〇 發同 時	乘合自動車	▲間伏・差木地・波浮港間六粁八、小型自動車五臺アリ隨時ニ發車スル、所要二〇分、片道四〇錢、貸切二圓半。 「註」三原山カラ波浮港ヘ下ル約八粁（所要二時間位）ノ山道モアルガ案内人ヲ要スル、又三原山カラ差木地ヘ下ル行啓道路モアル、約七粁五、所要二時間、差木地カラ波浮港迄ハ海岸傳ヒノ風景ヨキ道路ヲ約三粁七、乘合自動車ガユク、二〇錢。
	差木地			
	波浮港	着後 一・三〇	宿泊	**波浮港**（一四六頁參照）。
第3日	元村	發後 四・〇〇	同	▲大島カラ伊東經由熱海行東京灣汽船紅梅丸毎日出帆ス。賃金伊東迄一圓二〇錢熱海迄一圓五〇錢。（特別室三圓）
	伊東	着後 五・五〇	同	
	熱海	發後 六・五〇 八・〇三	下船、熱海ニテ一浴、夕食	
	東京	着後 一〇・三〇	東京行列車歸宅	

旅行費用概算　三等　一二圓三八錢

内譯（▲汽船、汽車賃五圓三八錢
（▲波浮一泊料及食事料其他費用トシテ七圓宛ヲ計上ス。

●注意　海上少シ波多キ時ハ熱海ニ寄港セズシテ網代港ニ着船ノ場合ガアル。網代熱海間九粁半、自動車三五分、乘合六〇錢、貸切三圓。
▲伊東溫泉（七七頁參照）、熱海溫泉（一二三頁參照）。
▲熱海―東京二時間二七分（一〇四粁六）三等一圓五八錢。
熱海發終列車ハ九時三九分、東京着一一時三〇分。

大島遊覽日程案　其二（東京灣汽船にて往復一日）

（A案）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	東京 靈岸島	發後 一〇・〇〇	東京灣汽船大島・下田航路船中一泊	▲東京―大島間　六時間半、賃金往復三圓六〇錢。（一四〇頁參照）。 ▲元村―三原山（神達口）約四粁九、ロバ及ラクダノ便アリ（一四五頁參照）。 **三原山**（一四五頁參照）。
	大島 元村	着前 四・三〇	下船、朝食	
	元村	發前 七・〇〇	徒歩	
	三原山	着前 九・〇〇 發前 一〇・〇〇		

日				
2	間伏	着前 二一・〇〇 発前	乗合自動車	▲▲三原山―間伏間　約四粁、下り徒歩約一時間。 ▲間伏・差木地・波浮間　約六粁八、自動車二〇分、乗合四〇錢、隨時發。
	波浮	着前 一二・三〇 発後 一三・三〇	晝食 自動車	**波浮港**（一四六頁參照）。 ▲間伏―アヲイ茶屋間　徒歩約二粁二、三〇分。
	間伏	着後 一三・五〇 発後	下車 徒歩	▲アヲイ茶屋―野增村―元村間　約八粁九、此の間自動車六人乘一臺三圓、乗合三五錢（一日四回）。
	アヲイ茶屋	着後 一・三〇 発後	自動車	「註」波浮發後一・二〇（元村及伊東行）及午前五・〇〇（元村及新島行）ノ東京灣汽船ノ便ガアル。
	元村	着後 二・〇〇		
(B案)				
	湯場	着前 一一・〇〇 発前 一一・一〇	徒歩	▲三原山―湯場　約二粁五。
	元村	着後 一二・三〇	晝食 遊覽	**湯場**（一四六頁參照）。 ▲湯場―元村約六粁。
日	元村	発後 三・〇〇	靈岸島行汽船	B案又ハA案ニヨリ波浮港ニ一泊ノ場合ハ元村ニテ晝食後出帆迄元村及附近見物ノコト。
	東京	着後 九・〇〇	歸宅	▲爲朝ノ碑（海岸カラ數丁）―鐵物陳列所（汽船乘場ノ上方）―其ノ他島特有ノ人情風俗ト詩味豐ナ南歐情緒ヲ味ツテ―午後三時大島元村出帆―夕食（船内ニ食堂アリ一品料理）

旅行費用概算　三等　BA　六七・八〇圓　（内譯　往復汽船賃三・六〇　食事料三回一・五〇　自動車賃及駄賃等二・七〇）
　　（内譯　往復汽船賃三・六〇　食事料三回一・五〇　駄賃　一・〇〇）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	東京	發後 一〇・〇〇	東京灣汽船大島下田行船中一泊	▲東京―大島元村間　六時間（一一七粁）賃二圓。 上記遊覽船ハ毎土曜日ニ限リ横濱寄港（夜十時半發）
第2日	大島	着前 四・〇〇 発前 六・〇〇	乘換 すみれ丸	▲元村―新島間（大島―新島―式根島―下田航路船毎日便）ニヨリ二時間二〇分、賃一圓二〇錢 大島元村及波浮―式根島間一圓五〇錢、新島―式根島間四〇錢（二浬）新島―下田間一圓五〇錢――一四九頁參照――
	新島	着前 八・二〇 発前 一〇・〇〇	下船遊覽 大島下田行	**新島**（一四六頁參照） ▲前濱海岸白砂ノ長汀―爲朝神社（爲朝ノ後裔ト遺物現存）―間々下海岸ノ溫泉入浴―大三神社（眺望絶佳）―抗火石材採掘場―十三社神社―長榮寺（日蓮宗中本山）―部落ヲ圍ム椿ノ林―純白ノ砂丘ガ里餘ニ續ク羽浦海岸等見ルベキ所ガ多イ。
	大島	着後 二・二〇	下船遊覽 宿泊	**式根島**（一四六頁參照）風光松島以上ニテ又海岸ニ溫泉湧出シテ野趣ニ富デ居ル。
第3日	大島	發後 三・〇〇	靈岸島行	
	東京	着後 九・〇〇	歸宅	

旅行費用概算　三等　一三・〇〇圓　（内譯（往復汽船賃　五・〇〇　食事料四回分　三・〇〇　其他雜費　二・〇〇　大島一泊　三・〇〇）

伊豆七島

伊豆七島は伊豆半島の南東、北緯三五度近くから我が委任統治地域であるマリヤナ群島に近い北緯二四度近く迄の間に飛石の如く點々と並ぶ多數の島の總稱で、一に豆南諸島とも云ふ。その主な島々は畧北から南に一列に並んで居る大島・利島・鵜渡根島・三宅島・御藏島・八丈島・青ケ島・鳥島等と、鵜渡根島の南から北東南西の方向にならんで居る新島・式根島・神津島等で、そのうち大島・八丈島・三宅島・新島・御藏島・神津島・利島の七島が最も著大なので古來總じて伊豆七豆の名で呼ばれて居る。之等の島々は何れも深さ四、〇〇〇米の深海に雁行狀に配列して居る海底火山（富士火山帶）の上に噴起した火山島で、前列島は富士岩及橄欖富士岩から成り、島形概ね圓錐狀をなし、屢々活動を逞しうし、現に噴煙を續けてゐるものもある。後列島は主に流紋岩から成り、島形概ね机形を呈してゐる。

伊豆諸島は總面積僅かに二九九平方粁、人口も昭和五年の國勢調査に依れば二九、三四七人に過ぎないが、形地上からも地質上からも、また人文的から見ても甚だ興味の深い所である。環境と交通との交錯した結果である文化景觀は、殆んど島毎に、或は同じ島でも聚落毎に異つたものがあると同時に、島に於てのみ觀られる共通性もまた發見されて興味の盡きないものが多い。

伊豆は豫想以上に古くから開けたものの如くで、現に大島の野增村海岸の洞窟から彌生式土器・石鏃・人骨等先住民族の遺物が發掘されて居る。口碑の傳はる處に依れば、此の島の開祖はすべて三島明神（事代主命）の後裔と云ふ事になつて居る。卽ち大島は三島明神の後、羽分の大后の御腹である二王子を始祖として、八丈島は命の妃の一人である八十八重媛が此の島に渡つて生んだ古寶丸が創始の祖であると傳へられ、八十八重媛と古寶丸の二柱を祀つた優婆夷寶明神社が大賀鄕村にあり、夙に延喜式に列し、現在まで八丈島及屬島の總鎭守として尊崇されて居る。その他利島は命の御子阿豆佐和氣命、新島はダイサムの王子、神津島・御藏島も亦命の開祖であると云ひ傳へられて居る。三宅島は事代主命が渡海して開創し、附近の島々を綏撫したものと傳へられ、式內社が一二座に及び、もとは御島或は宮家島と書いたと云ふ。御藏島は三島明神の御藏の島、神津島は神集ひの島から轉じたと云ふ說がある。

次に伊豆諸島は往古から明治の初年までは一種の流刑殖民地であつたのである。卽ち神龜元年三月（紀元一三八四年）諸配流地の遠近の程を定め、伊豆はその遠流地の一となり、諸島中大島（伊豆の島と稱した）は主なる流罪地となつて居た。流罪者のうちで主な人々は役小角・多治比三宅麿・小野東人・鹽燒王・僧專住・氷上川繼等で、保元の亂後に源爲朝の流配された事は人のよく知る處である。德川時代になつてからは八丈・三宅・新島等が追加され、關ケ原に敗れた西軍の總帥宇喜多秀家が慶長一一年に八丈島に流された。是等流罪者の中には貴族や知識階級が多かつたので、比較的內政の整備した德川時代に於ても、島內の事務は伊豆代官の手を離れて全く地役人・名主・一式引受人等の處理に委ね、島民の自治に放任されて居たのであるから、その間、隔絕した孤島に精神的にも肉體的にも新鮮味を與へたものは彼等流罪者及び漂流者であつたのである。されば內地との交通が著しく便利になつた今日、尙古い言語や習風等が保たれ、島の隔離性を遺憾なく發揮してゐる。

〔氣候〕伊豆諸島は、黑潮の上では溫帶圖の南帶に位して居るのであるが、黑潮に環流されて居るので冬季の氣溫を特に緩和して居る。また南島は概して山海相迫つて空氣の流動劇しく、一日數回晴雨の變化を呈し、年降雨量が著しく多く、八丈島は全國測候所中の首位を占めて居り、風速もまた大である。

	年平均溫度	八月（最高）	最　底	年降雨量
八丈島	一七・八度	二六・〇度	一〇・二（一月）	三、三九九ミリ
父島	二二・五	二七・一	一七・四（二月）	一、五六七ミリ
東京	一三・九	二五・五	一〇・二（一月）	一、五六一ミリ

〔行政〕豆南諸島は古來伊豆國に屬し、德川幕府の時伊豆代官之を管治して居たが、明治元年韮山縣の所管となり、同四年靜岡縣に屬し、同一一年一月東京府の管下となり、大島支廳及八丈島支廳の二管轄に分れて居る。

大島（オホシマ）

▲東京靈岸島から一一七粁（六三浬）、東京灣汽船大島・下田航路純客船で六時間半、賃金片道二圓、往復三圓六〇錢、毎日一往復運航。
▲伊豆下田町から四一粁（二三浬）、同右の船便により二時間、賃金一圓。

大島は伊豆七島中最も內地に接近し、伊豆半島河津の正東一六浬の相模灣上にあり、總面積九三六、四〇一平方米周圍四二粁、東西八粁五、南北は稍長く約一五粁の楕圓形を呈して居る。

地勢は、海拔七五五米の活火山三原山が島の略中央に位して裾野が緩やかに四方に展がつて居るので平地に乏しく山地も西岸は傾斜稍緩漫であるが東岸は急峻をなして山麓直ちに海に沒して居る所が多く、海岸線は至極單調で安全なる錨地としては東南隅にある波浮港のみである。

村落は島の西側に元村・野增、南東側に差木地・波浮、北東側に岡田・泉津の六ヶ村があり、人口七、九〇八（昭和五年一〇）を有して居る。三原山頂の砂漠を除き全島殆んど雜

樹を以て蔽はれて居るので、是等の人々は主に林業・畜產・農業等に從事し、また漁業等を營んで居る。

大島は黑潮に洗はれて居るので氣候は頗る溫和で、低地には椿・蘇・大島櫻・ミツギ等多く、杉などの用材林は稀である。溪流の至つて少い此の島に、地質の關係上井水を得る事また困難であるので水田を全く缺き、畑も一小部分を除く外は伐替畑である。伐替畑とは、開墾して甘藷・里芋・麥等を耕作し數年後地味減耗すれば植樹して雜木林となし、一五—六年前後で伐材して薪炭として、再び開墾する事を循環するものである。椿油や木炭は島の重要產物となつて居り、テングサ・アマノリなども主要產物であるが、乳牛の飼養も今は島の經濟を左右して居る。

家屋は從來茅屋根であつたが、井水の極度に乏しい此の島では、雨水の貯藏に便するため近年は殆んどトタンや瓦屋根に代り、そして防風のため一般に低く且つ石垣等を繞らされて居るのが普通である。次に島人の風俗は、東京との交通がかなり便利になつたので男子の出稼人を多く出して居るが、女子は未だ保守的で、紺絣の筒袖、ソウメン絞りの鉢卷、帶を結ばずに紐の幅廣い前掛を占め、手甲、脚胖、黑足袋に草履ばきと云ふ特種のいでたちで島の乙女が水桶その他の物を頭に載せて歩く姿は隨所に散見せられる處である。

〔土產物〕椿油、乳製品、風俗人形、牛乳煎餅、バター、海產物等。

〔大島の乘合自動車〕

▲元村—岡田村	六粁二	所要三〇分	乘合三五錢	一日四回	貸切二圓
▲元村—野增村	二粁八	一〇分	一五錢 〃	〃	八〇錢
▲元村—アワイ茶屋	八粁九	三〇分	三五錢 〃	〃	三圓
▲波浮港—差木地	三粁七	一〇分	二〇錢 隨時		
▲〃—岡田	六粁八	二〇分	四〇錢 〃	〃	二圓半
●岡田—アワイ茶屋間	砂濱徒歩 二、一八二米				

「里謠」大島ぶし

わたしや大島御神火そだち胸に煙が絕えやせぬ
つゝむ椿は御山を照す殿の御舟は濱照す
わたしや大島一重の櫻八重に咲く氣は更にない

三原山

▲元村—湯場—三原山頂約七粁。湯場迄四粁、上り約一時間半（目下自動車路工事中）湯場から少しく行き俗稱「沙漠」の砂原を過ぎて一三〇米の中央火口丘（約二粁）を上り噴火口迄約一時間半位。
▲別途元村の西、村はづれ八重川から登る神達口がある。元村から外輪山頂御神火茶屋まで約三粁三、驢馬にて一圓半、夫から外輪山の火山灰の急斜面を下り沙漠を過ぎて中央火口丘の火口壁まで一粁六。御神火茶屋から沙漠横斷路駕一人に付一圓（一頭五人乘）驢馬五〇錢。

三原山は大島の中心に位置し、海拔七五五米、典型的複成活火山として知られて居る。其構成は、火口を有する圓錐形の中央火口丘が中心をなし、其周圍に火口原があり之を取卷いて外輪山がある。外輪山は南、西、北の三面に完全な火口壁を有し、二米乃至一二〇米位の絕壁をなし火口原の沙漠（火口原に堆積して居る火山灰を島民は沙漠と呼で居る）によつて內輪山に通じ其の風致頗る雄大なものがある。中央火口丘は沙漠の中央にあり高さ約一三〇米、熔岩及その破片の堆積から成り、戴頭圓錐形を爲して居る。其頂上には直徑約六百メートルに及ぶ第二次の火口があり、其の底は全體として平たく無數の火成岩其の間に橫はり、火口內には更にその殆全部を掩ふ第二次の火口丘があり、赭色の熔岩から成り、常時にはその火口底に下ることが出來る。そして火口底に更に一小丘、卽ち第三次の火口を開き、これをナウマン氏丘と呼び、その火口から現に盛に水蒸氣を噴出して居るのである。噴火の著しいのは應永二三年同二八年、貞享元年及安永六年のもので、歷史に見ゆる最古の記錄は

白鳳一三年のものである。山の西は相模灘を距て伊豆の翠巒、富士の靈峯を望み、西南の波間には利島、新島、三宅島の點綴するを眺め、又北東房總の連山は長く青黛を引いて實に風光が佳い。

元村 西海岸にあり戸數六二五戸、人口二、三三二人（昭和五・一〇調）本島の首位にあり東京府大島支廳、區裁判所出張所、警察署等があり、伊豆七島行政上の要地たると共に島内は勿論東京、伊豆方面及七島間の交通の中心地を爲して居る。北に近い乳ケ崎は潮流常に急驟するので知られ、爲朝の弓を射た所と傳へられ、現に爲朝の記念碑も建てられて居る。その東の風早崎には大島燈臺がある。

〔旅館〕三原館（電元村一三、室二五、㊐二圓半）、柳川館（電一二、室二三、㊐二圓半）、千代屋（電六、室二〇、㊐二圓）、海氣館（電二二、室一一、㊐二圓）三山館（電二七、室一五）、南島館（室六）、宮島館（室四）、以上普通一泊料（組合規定二圓、二圓半、三圓。

〔附近名所〕▲爲朝の碑 元村の北半粁の海岸松原中にある。爲朝は保元元年此の地の流人となつた人である。▲藤倉學園 故中内春吉氏（藤倉電線會社重役）が先天的に惠れざる精神薄弱兒の爲め私財及土地建物を提供し、東京府に寄附して財團法人となし經營して居るものである。

湯場 三原山の中腹、眼下に燈臺附近の海濱を瞰下する風光の地にある元村から約五粁、徒歩一時間半位（馬も行く）湯場は數十の氣孔から噴出する自然の水蒸氣を利用して蒸風呂としたもので、打身、切傷、リウマチス等に效があると云ふ。大島六ケ村組合經營の簡單な宿泊所がある。一泊二圓位。

波浮港 もと三原山の寄生火山の火口で波浮の池と云つたものであるが、元祿一六年の大海嘯に岩壁の一部が缺壞して海に通じ、其の後寛政年間に上總の人秋鼎平六なるものが更に水道を開鑿浚渫して港としたもので、直徑約三〇〇米、規模は大とは云へないが二〇〇噸位の小汽船は出入し得られ、特に漁船の安全な錨地として島の情趣豐かな地である。人口一、四七〇）

〔旅館〕松友館（電波浮一六、室一六）、太々見屋（電一〇、室一〇）、福屋（電一五、室八）、港屋（電二、室一四）、上總屋（電八、室六、別棟にて料理專業）、海漁荘（電五、室四）、花月館（室四）、以上一泊一圓半乃至三圓半。

利島（トシマ） 毎月三回（二の日）東京靈岸島發前八時、大島元村及波浮經由利島着翌日前七時半、神津島行の船便がある。賃金片道三圓一五錢。波浮からは一時間半、賃一圓一〇錢。

摺鉢を覆せた樣に周圍僅かに一〇粁の小火山島で、中央に五〇八米の宮塚山が屹立し、山腹は直ちに海に迫つて斷崖をなし、砂濱を欠くので乘船の發着にすら頗る不便である。

部落は最も緩斜面である北側に位置し、人口三二五（昭五・一〇）、土壤は埴土痩合に厚く、や、肥沃であるが耕地は全部伐替畑である。清水は極めて乏しく雨水を專ら飲料としてゐる事は大島と同樣である。

新島（ニヒシマ） 前記利島經由の船が若郷・木村に寄港する外毎月一二回（東京發四・六・八・十の日便）神津島便及び毎日大島―新島―式根島―下田航路の便がある。

新島は南北に長く、凡そ一二粁、東西約四粁、周圍凡そ二八粁あり、北に宮塚山（四二八米）南に向ひ、大峯（三〇一米）、丹後山（三八三米）等があるが、著しく險阻ではなく、中央部は平坦な熔岩臺地が展がり、西側には前濱の白濱が連なり主邑本村があり、北端に若郷の小部落がある。人口四、四四七（含式根島、昭和五・一〇調）、男子は一般に漁業に從事し、女子は農作と家事を專らにしてゐる。島内には多少の溪流があり、また多數の井戸があつて島としては飲料水が豐富である。間々下海岸の近くに溫泉（鹽類泉）の湧出する處があり、溫泉ホテルがある（着船場から三粁五、バス三〇錢、貸切一圓半。電新島一、室八、一泊二圓―五圓）。

式根島 新島の西南海上二浬に接する小島で、東京からの船便は前記利島經由の二の日便が月三回寄港する外前記大島―新島―式根島―下田の毎日便がある。新島から三〇分、賃四〇錢。

島は東西凡そ一粁六、周圍約六粁あり、最高點は一〇五米で、低平ではあるが小起伏に富み、谷間には民家が點在して居る。人口凡そ七百人。海岸は複雜で變化多彩を極め、その景趣は陸前松島に似て環境規模更に雄大である、また南岸の海岸には到る所に溫泉が湧出して居る。

▲足附溫泉（アシツキ） 板崎濱の岩隙から湧出するもので、干潮時のみ入浴出來、滿潮時には海水に浸されるとの事である。全く自然的な野天溫泉で、泉質は鹽類泉で、効能は皮膚病に効がある。

▲地獄多の湯（ヂゴクナタ） 足附溫泉に隣接し、三方絶壁に圍まれた天然の岩窟の湯で、滿潮時には海水が浴内に浸入する。泉質は鹽類泉で鐵分を含み、胃腸病・婦人病・リウマチス等に効があると云ふ。

三宅島（ミヤケシマ） 毎月一〇回東京靈岸島からの便がある。所要九時間半乃至二二時間、賃金片道四圓四〇錢。神津島からは月三回（八の日便）二時間半、賃金二圓一〇錢。

三宅島は若い火山島で（最近は明治七年に噴出があり、その熔岩流は神着村の大部を被覆した）、雄山（オトコヤマ）（四一八米）を最高とし、周りには緩やかな裾野が續き、火口原である八丁ノ平には矮樹が繁茂して放牛地とされて居る。山腹には常綠樹が多く、村落近くには椿の植樹が多い。村落は何れも海濱にあり、北部の大久保濱に神着・伊豆の兩村、西部の大船戸灣には伊賀谷村、同夕景濱に阿古村、東南岸の船戸濱には坪田村等の部落があるが、相互の連絡が至つて不便であるので、風習も自ら異つたものがある。伊賀谷村の外は殆んど平坦地にあつて各附近に耕地を有して居るが、河流はなく、飲料水も天水を貯藏して用に便じて居る程であるから、田はなく、畑作物は麥・甘藷を主とし、里芋・馬鈴薯等である。人口五、二〇四（昭五・一〇調）

御藏島 毎月三回（一の日）東京靈岸島からの便がある。所要三七時間以上賃金片道五圓。三宅島からは一時間（毎月三の日）、賃二圓一五錢。

御藏島は壯年期に開折されたコニデーの火山島で、八五一米の御山中央に突起し、急傾斜を以つて海に迫り、高い所は五〇〇米に近い海崖をなして居る島内には平清水川・大舟戸川等の溪流があり、また島の西南には白瀧と云ふ飛瀑もあるので飲料水には乏しくないが、急傾斜面のみである事が耕作の便を缺き、西北端に里、東南端に南郷の二小聚落を見るのみである。しかし植土比較的肥沃で、植物の生育が良好な處から島民は主に植林・林業に從事し、中でもツゲは古來最も重要な移出物となつてゐる。人口三八四（昭五・一〇）

言語風俗は三宅島に類似し、島内は一家の如く融和してゐるが、資源に乏しい島内では人口の增加を許さないので、往時は二男以下は終生獨身で暮す規定があつたと云ふ事である。

八丈島

▲東京靈岸島から毎月六回（三・八の日便）東京灣汽船の便がある。所要一六時間乃至一八時間、賃金片道五圓。

▲東京芝浦又は横濱から近海郵船の小笠原航路便が二週又は三週間に一回ある。所要横濱から約一五時間、賃金片道三等五圓、二等八圓七〇錢、一等一二圓五〇錢。

八丈島は東京の西南一七〇浬に位し、伊豆七島の最南端にあり、また七島中最大島で東西九粁五、南北一六粁、面積六九平方粁を有し、屬島小島・青ケ島島島を加へて東京府の八丈島支廳の管轄下にある。地勢は南北から東南に長く、その東の大部分は東山（三原山と稱し七〇〇米九、大賀郷村から六粁、上り二時間）の複式コニデー火山で占め、西部には西山（八丈富士と稱し八五四米三）が聳え、中部は稍溢れて島の形は瓢に似て居る。海岸線は四二粁にも及ぶが海崖急に迫り、出入も乏しいため良港と稱すべきものはないが神港・八重根港・藍ケ江・洞輪沼の四碇泊地があり、定期船は何れも約一粁餘の沖にかゝるを餘儀なくされてゐる。しかし風位によつて四港何れかに寄港するの便がある。

聚落は東山と西山（八丈富士）との間の裾合を主とし北に三根、南に大賀郷の二村があり之を結ぶ幹線には乘合自動車がある。又大賀郷から三原山の第二外輪山を登つて大阪トンネルを抜け、火口原に出ると樫立・中之郷・末吉の三村が續いて居る。

島は北緯三三度二分から九分に位するので四國の室戸岬・九州の佐世保と略緯度を等しくし、且つ黑潮の域内にあるので寒氣を感ずること少く、又降雨は斷續的でその量の多いことは全國測候所中の第一位にある。從つて三原山を源とする數條の溪流があり、小規模ながら水力發電所が設けられ、水田も僅かばかり存在して居る。人口八、四〇一（昭五・一〇調）

〔名所〕▲優婆夷寶明神社 大賀郷村大里に鎭座し、木島創始の神と稱せられる事代主命の妃を祀り、木島及屬島の總鎭守となつて居る。▲宇喜多秀家墓 大賀郷村橋場にある。秀家は關ケ原の戰に敗れて此處に流配された人である。

〔旅館〕大脇館（電八丈島一四）、不二館（電同一一）、（以上大賀郷村）、一泊一圓七〇錢―二圓七〇錢、志摩屋、見晴館（電三根一〇）、東京館（以上三根村）一泊一圓四〇錢―二圓〇錢。

▲大賀郷村―三根村神港間三粁七、乘合三〇錢、貸切一圓半、大賀郷―八重根間一粁七、乘合一五錢。

小笠原島遊覽日程案

（近海郵船會社芝栗丸にて一〇日）

左記日程案は普通航（短航）による日程の一例であるが、更に硫黄島迄も長航することがあり、また時期により發着日取りに多少の變更があるから出發の際は右船繰をよく確めねばならぬ。（硫黄島は鳥島、青ヶ島と共に居住者の數も少く旅館もない）

日程	地名	時刻	記事
第1日	東京 芝浦	發前 一〇・〇〇	▲芝浦（東京港）デハ本船ハ棧橋繫留デ船側マデ車ガ行ク。
	横濱	着 正午 發後 三・〇〇	省線田町驛カラ棧橋迄半粁餘、自動車乘合日ノ出橋（郵船切符發賣所前）下車、賃五錢、夫カラ棧橋マデ徒歩一〇〇米。市電芝橋停留所カラ棧橋迄約三〇〇米。 ▲横濱デハ港内碇泊デ、本船ヘハ税關棧橋迄イギリス波止場（水上警察署横）カラ午後一時、二時、二時半ノ三回近海郵船會社ノ小蒸氣船ガ無料デ連絡シテ居ル。尚外ニ市營發動機通船ガ税關萬國橋畔カラ約三〇分毎ノ便モアル、片道三〇錢。イギリス波止場ヘハ省線櫻木町驛カラ本牧方面行市營バスデ棧橋前下車（料金一〇錢）ソレカラ約一〇〇米。又ハ市電山下町下車、二五〇米。
第2日	八丈島	着 未明	二根—大賀郷—中之郷間 乘合自動車便アリ。
同		發後三時頃	（旅館）大脇館、不二館—以上大賀郷村。 東京館—三根村。一泊三圓位。 八丈島（一四七頁參照）
第3日	航海中（青ヶ島、鳥島寄航ノ場合アリ）		
第4日	父島（二見港）	着 午前	碇泊（船内宿泊可）大村ノ旅館—南陽館、二見館、金子館（三圓半—四圓） 父島（一五一頁參照） （名所）二見港景觀、小笠原支廳、物産陳列博物館、農事試驗所、宮ノ濱、正覺坊養殖場、奥村歸化人部落、旭山（海拔凡三〇〇米）、小笠原神社（大村ノ對岸扇浦ニアリ、島ノ發見者小笠原貞頼ヲ祀ル、島ノ總鎮守）、等。大村—扇浦間發動機船アリ。
第5日	父島（神港） 母島	出帆 着	父島—母島間 三九浬、航行約三時間。 母島 沖港碇泊。（一五二頁參照） （旅館）向陽館、一泊二圓—三圓。

日程	地名	時刻	記事
第6日	母島沖港 父島	發 午後 着 午後	父島碇泊。島内見物。 （土産物）父島母島共通ノモノ……珊瑚細工、桑等貴木細工、鯨鬚細工、貝細工、林投葉細工、龜甲細工、ビロウ團扇、鰹節、鰹詰類、干魚類、果實類、觀賞植物類、糖酎（甘藷酒）等。
第7日	父島（遊覽）		植物採集、獨木舟遊、釣魚、桶眼鏡ニヨル海底觀測等。 植物ニハ採取禁止ノモノアルニヨリ注意ノコト。
第8日	父島	發	（往途青ヶ島又ハ鳥島ニ寄港ノ場合ハ復航ニモ其島ニ寄港スル）
第9日	八丈島	着 午前 發 午後	
第10日	横濱	着 午前	

旅行費用概算

	二等	三等
内譯	四七・八〇圓	三四・〇〇
芝浦—母島—芝浦（往復賃）	二等 三七・八〇	三等 二四・〇〇
各島舟賃、父島二泊料及其他雜費等	〃 一〇・〇〇	〃 一〇・〇〇

大島・下田遊覽船（爽丸（紅梅丸）、椿（たちばな丸））

（毎土曜夜十時三十分横濱港同發）

往航		復航	
東京後	一〇、〇〇	下田發	午 正 一二、〇〇
大島着	前四、〇〇	大島着	後 二、〇〇
發	〃五、〇〇	發	〃 三、〇〇
下田着	〃七、〇〇	東京着	〃 九、〇〇

伊東・熱海・大島間（紅梅丸）

ゆき		かへり	
伊東發	前七、三〇	大島發	後一、四〇
熱海着	〃 八、二〇	波浮着	〃 二、三〇
〃發	〃 八、三〇	〃發	〃 四、〇〇
伊東着	〃 九、二〇	大島着	〃 五、〇〇
〃發	〃 九、三〇	伊東發	〃 六、〇〇
大島着	〃 一一、二〇	熱海着	〃 六、五〇
元村發	〃 一一、三〇	〃發	〃 七、〇〇
大島着	後 〇、三〇	伊東着	〃 七、五〇
波浮發			

大島・新島・式根島・下田航

ゆき		かへり	
波浮發	前五、〇〇	式根島發	前九、二〇
元村着	〃 五、五〇	新島發	〃 九、五〇
〃發	〃 六、〇〇	〃着	〃 一〇、〇〇
大島着	〃 八、二〇	元村發	後 一二、二〇
新島發	〃 八、三〇	〃着	〃 一二、三〇
式根島着	〃 九、〇〇	下田發	〃 二、五〇
		〃着	〃 三、〇〇
すみれ丸（三〇〇噸）就航		元村發	〃 五、二〇
		〃着	〃 五、三〇
		波浮着	〃 六、三〇

小笠原諸島

小笠原諸島は横濱の南方太平洋上五〇〇浬から一、〇〇〇浬に至る卽ち北緯二四度一四分から同二七度四〇分、東經一四一度一六分から同一四二度二六分に亘り南北に稍細長く散在する三〇餘の諸島嶼の總稱で、父島列島・母島列島・聟島列島・硫黄島列島の四列島から成り、東京府の管轄に屬してゐる。全面積約九二平方粁、諸島中住民を有するは父島・母島・弟島・聟島・妹島・嫁島・北硫黄島・中硫黄島・南鳥島などで、その中最も早く開けたのは父島である。人口五、五四三（昭和五・一〇調）、多く農と漁とを業として居る。

氣候は四季とも溫暖で、溫度の最も低い一、二月の候もなほ華氏六〇度位、盛夏の候も海洋の影響をうけて割合に涼しい。

小笠原島は文祿年間豐臣秀吉に仕へた小笠原貞頼が發見したので小笠原島と命名せられたものと傳へられてゐる。

伊豆七島が歷史上古くから知られ、住民もまた甚だ古い傳說を有して居るのに反し、小笠原島がわが版圖に完全に入つたのは極めて新しく、その住民もまたすべて新しい移民である。しかし古くから漂流民の見聞が內地の一部に知られ、人無島、雙人無島、無人島などと呼ばれ、歐米人も亦無人島を轉訛してボニン・アイランドと稱し、その名の如く近世迄くの無人島であつたのである。

小笠原貞頼は信州深志（松本）の城主で、朝鮮役に軍檢使として從ひ、その恩賞として新發見地を賜はることになり、南海を探檢して遂に後醍醐天皇の文祿二年（紀元二二二五三年）此の島を發見したと傳へられて居る。その後寛文一〇年（紀元二三三〇年）にわが漂流民があり、延寶三年（紀元三三三五年）には長崎の住人島谷市左衞門氏が將軍家綱の命により五百石船にて小笠原島に來り、天照・八幡・春日の諸神を觀請した事があつたが、依然として無人島の儘放棄されて居た。その後、文政六年頃（紀元二四八三年）西班牙・英吉利等の捕鯨船又は軍艦等の寄港せるものがあつてから、漸くその存在が人に知られ、天保元年（紀元二四九〇年）に至つて白人五名がカナダ土人男女一七名と共に南洋のシャルリン島に移住する目的で當地通過の際父島の二見港に漂着したのが移住民の最初であつた。嘉永六年には米國水師提督ペルリが日本へ來航の際小笠原島に寄港し、殖民政府を建設し、米本國と同盟規約を締結した事などから端なくも英米兩國間に外交上の紛糾を起し、却つて本島が我國の領土である事が明瞭になつた。時に文久元年であつて、八月には德川幕府も本島の開拓に着手したが種々の事情で翌年中止となつた。明治八年に至り本島開拓を議決し同一一月に四省の役人が明治丸にて渡航し、在留外人を歸順せしめて、始めて我が國の完全な版圖に入り、統治が行はれる樣になり、明治一三年東京府に直轄され、次第に發展して今日に至つたのである。

本島の產業は明治九年八丈島其他から本邦人が移住し、甘藷、アロールト、甘蔗、木藍、珈琲、煙草、印度綿、護謨等熱帶植物の栽培を試みた結果、其の中土地に適した甘藷が主要作物となり、砂糖は年產額約四〇萬圓以上を出してゐる。又バナナ・パパイヤ・マンゴー・レモン・オレンヂ・鳳梨・西瓜等の熱帶植物や椰子類・クロトン・ドラセナ・カラジウム・フリジヤ等の觀賞植物の栽培も盛に行はれ、年額十數萬圓以上を產出し、近年は冬季蔬菜類の栽培も中々盛に行はれてゐる。漁業も亦頗る盛で、捕鯨業は古くから行はれ、正覺坊の養殖は此島獨特のものである。鰹は小笠原節として近頃有名となり、鱶節と共に相當の產額に達し、その他鮪・鰆・鮫・大蝦等大量の漁獲がある。又去る大正一〇年頃から採取され出した珊瑚は其の產額、種類の多きこと、色澤のよき點に於て知られて居る。鳥類には珍奇のもの多く、ボニンメジロ・メグロ・ガビテウ・カラスバト・等、又海鳥類には信天翁、ボースン等多種のものが棲息し學界から羨望せられてゐる。尙本島の山野には內地で見られない大きな棕梠・羊齒類・林投樹・榕樹其の他珍奇な熱帶植物が繁茂し、南國的な情緒を漂し、太平洋の樂園、繪の國、詩の鄕としての麗な天分に惠まれ、行旅者の心情を滿たすに足るものがある。

小笠原諸島への定期航路は近海郵船會社の芝罘丸（一、八二九噸、定員一等二〇、二等一九、三等二〇〇名）が二週又は三週一回東京芝浦棧橋を起點として橫濱・八丈島を經て小笠原父島・母島又は遠く硫黄島等の島々を一巡して東京に歸航して居る。

船賃（芝浦又は橫濱から一等、二等、三等の順）

	円	円	円
（片道）			
八丈島迄	一三・五〇	八・七〇	五・〇〇
青ヶ島迄	二〇・八〇	一四・五〇	八・三〇
鳥島迄	二七・五〇	一九・二〇	一一・〇〇
父島迄	二七・五〇	一九・二〇	一一・〇〇
母島迄	三〇・〇〇	二一・〇〇	一二・〇〇
硫黄島迄	四一・五〇	二九・一〇	一六・七〇

（往復）一、二等に限り歸航路の運賃に對し二割引で發行して居る、有效期間三ヶ月。

（食事）各等共和食付。

（艀賃）右運賃の外本船と各島との間に艀賃を要する。八丈島三〇錢父島一五錢母島三〇錢硫黄島三〇錢（何れも片道）

父島列島

父島列島は父島を主島としてその周圍に布置する兄島・弟島・西島・北島・瓢島・人丸島等の總稱で、父島が最も大きく、兄島・弟島が之に次いで居る。

父島は小笠原群島の中央に位し、母島に對して「北の島」とも呼んで居る。島は東西五粁、南北八粁、周圍約五三粁あり、その山容水態は全く內地とは趣を異にして居る。島の最高所は旭山で海拔二六八米あり、その他船見山三日月山、中央山、時雨山等の諸峰が聳立して斷崖海に迫つて居る。島の西北は深く彎入して二見港をなし、豆南諸島唯一の良港として交通上及び軍事上極めて重要の地となつて居り、島の大部分の聚落は此の灣に臨んで居る。人口二、七三〇。

二見灣は東西二粁、南北は最も廣い所で凡三粁許りあり、灣口を西に開いて他の三方に峯巒を繞らし季節風を略完全に防いで居るので波浪靜かであり、また海深も四〇米內外あつて大船の碇泊も可能である。聚落は大部分此の灣に臨み、北岸には大村・清瀨・奧村があり、東岸に屏風浦・境浦、南岸に扇浦・洲崎の部落がある。大村は小笠原群島の主都で、小笠原支廳・稅務署・警察署及び父島要港司令部がある。以前は少數の歸化人の部落があつたが、明治一五年島廳を扇浦から移してから殷盛になつた。此の邊の海濱は一帶に黃砂で、イエロー・ビーチの名がある。清瀨村は回流して居る溪流の清冽な處から此の名があり、嘉永六年ペルリ提督の碇泊した所である。奧村は二見港の灣頭、海軍無線電信所の麓下にあり、歸化人の部落として知られて居る。歸化人は現在約八〇名許りあり、多くは昔ながらの漁業にたづさはり、言語はブロークンの英語に邦語を交へてゐる。扇浦は島の舊邑で大村と二見港を隔て、相對し、文久年間幕吏の設けた島役所の遺蹟があり、後丘に內務卿大久保利通の開拓碑及び島の發見者である小笠原貞頼を祀る小笠原神社があり島の總鎭守となつて居る島の北岸、大村の背中合せの地宮の浦の小砂濱は延寶年間幕吏島谷氏が始めて大神宮を勸請した遺跡で此の名がある。濱は海峽を挾んで兄島に對し、海峽の最狹部は僅かに五〇〇米に過ぎず、最深所も五〇米程で、潮流が急驟して舟操を困難にして居る。最高峯旭山は文久年間幕吏の乘船した咸臨丸着港の日國旗を頂上に揭揚したのが此の名の起因であると云ふ。

▲兄島　樹木よく繁茂して居るが四周は海蝕高く、開墾の餘地もないので現在無人島である、その北方近くに橫はる弟島は四面壁立して船の碇泊には不便であるが、平地多く、地味も至つて膏肥で飮料とする溪流もあるので、島の西

部黒濱の急坂上に小部落がある。人口三七。

▲南鳥島（マルカス島）父島から七二五浬の北緯二四度一四分、東經一五四度の位置にある周圍約一五粁の小島で、明治二九年水谷新六氏がグランパス島探檢の目的で發見した島である。島は高さ僅かに五米の平坦な隆起珊瑚礁の島で、燐鑛の採掘や島毛の採集が行はれ、また近海では鰹漁があり、近年は椰子の栽培が開始されて居る。人口三二人（昭五・一〇）。

母島列島

父島の南約三五浬に横はる母島を主島としてその南方に東西に並ぶ姪島・妹島・姉島及び平島・向島等から成る群島の總稱で、母島以外の諸島は何れも小島で矮樹雜草を見るのみで泉水はなく、すべて無人島である。

母島　もと南島、コッフイン島、ベリー島などと呼ばれた島で東西二乃至四粁、南北に長く約一四粁、周圍約四〇粁あり、小笠原群島中最大の島である。

海拔四六三米の乳房山を最高峯とする山岳が重疊して平地は極めて少いが地味比較的肥沃であるので耕地は父島よりも廣く、山頂近くまで開拓されて居る。海岸は斷崖が多く船の近づく事の出來ぬ所が多いが、西側南寄りに沖港がある。しかし港内は淺く船を入るゝに足らず、且つ西南の風の日には汽船の碇泊は至難であるが、此の灣頭に主邑沖村があり、旅館もある。沖村の南の評議平は本島最大の甘藷栽培地で、明治初年英人に同伴した廣東人の住居した事から南京の地名が殘り、そこの南京濱は今上陛下の行幸後は御幸濱と改稱され、附近からは有孔虫の化石であると云ふ貨幣石が容易に採取する事が出來、その大きさの點で世界に知られて居る。人口一、七三一（昭五・一〇）。

聟島（ムコシマ）列島

父島の北約二〇浬から北に點在して居る群島中最北部に位するもので、聟島を中心として嫁島・嫁島・北の島が散在して居る。

名があり、地味肥えて居るも淡水を缺いて居る。此處の小花濱から採取される金砂、鶯砂等は、無人岩の風化した輝石の斑晶が海波にあらはれたもので、東京方面に移出されて座敷や床の間の壁に塗られて居る。人口五三（昭五・一〇）、（嫁島人口八人、同上）。

聟島の東南にある嫁島は信天翁の群棲地となつて居り、更に南の嫁島の附近は昭和元年に珊瑚の大密林を發見された所である。また聟島の北六粁の北の島は大小の岩礁群で、信天翁の産卵地として禁獵區になつて居る。

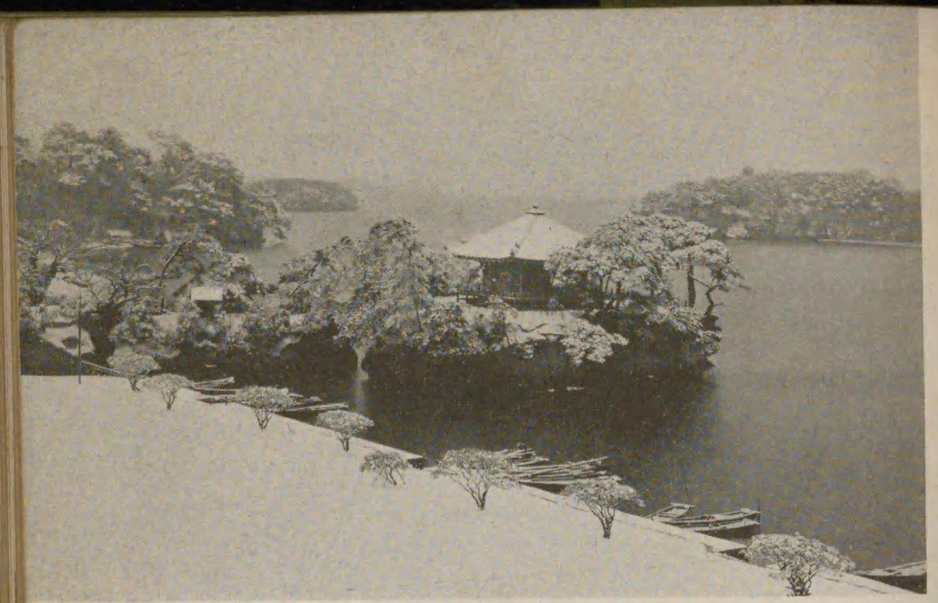
硫黄列島

母島の南西八八浬位から南に散在する島嶼で、北・中・南の三島から成り、何れも新期の火山島である事から火山列島とも呼ばれて居る。此の島は西紀一七八四年レゾリユーション號によつて發見され、ホルカイ三島と呼ばれ、スペイン領となつて居る地圖などもあり所屬不明の儘永く無人島となつて居たが明治二〇年汽船明治丸にて高崎東京府知事等の捜査の結果漸く世人の注意を惹き、同二四年小笠原に屬してわが版圖に入つた所である。

北硫黄島　南に鳥ケ峯（八〇二米）、北に青の峯（五二三米）が高く聳え、平地は全くないが東側の緩斜面に明治三一年開拓された石野村がある。人口一二四（昭和五・一〇）。

中硫黄島　單に黄硫島とも稱し、豆南諸島中でも最も興味の深い島の一つである。島は擂鉢山及元山の二火山から成り、東海岸には奇巖亂立して奇觀を呈して居る。擂鉢山は又パイプ山の名があり、島の西南端にある海拔一六七米の標式的幼年期のコニデーで、噴火口は直徑約二〇〇米、深さ六〇米許りの擂鉢狀を呈し、西南の一線が稍崩壞して居るがその名に相應しい殆んど完全な圓形を呈して居る。元山は北部にある一一五米の山で、現に二個所から盛に硫氣を噴出して居る。耕地や聚落は殆んど此の元山の地域に限られ、羨流が全くないので飲料水は天水により凝灰岩をけづつて大きな水槽を造つてある。人口一、〇二八（昭五・一〇）。硫黄採取及古柯栽培などに從事して居る。

南硫黄島　海拔九七〇米に及ぶ圓錐形の海中火山で、鐵角たる海蝕をめからし、奇觀である事も尽きないので今日完全無人島になつて居る。



松島と金華山

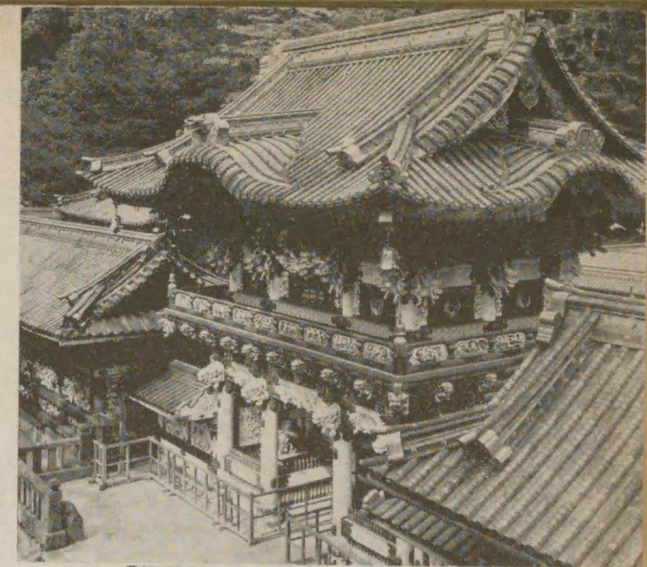
上、雪の松島

下、金華山の鹿

聟島（ケーター島）　大山・小富士山等あるも比較的平低で平島の別

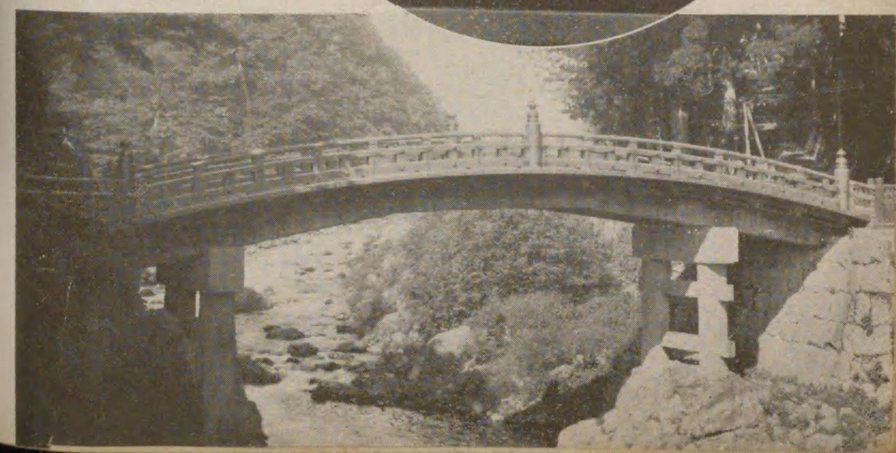
日光

男體山頂より中禪寺湖を俯瞰す

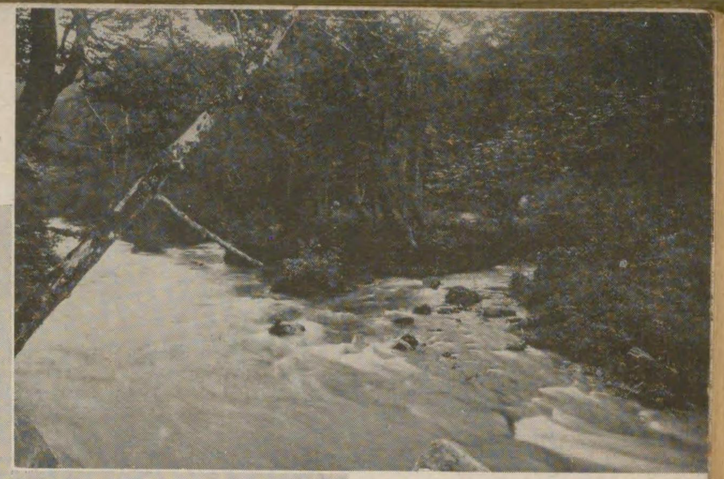


右上、東照宮陽明門
右中、傳左甚五郎作、眠り猫
右下、神橋

上、男體山頂より中禪寺湖を見下す
中、明智平展望臺より華嚴瀧と中禪寺湖の遠望
下、奥日光尾瀬原の白樺



地名	發着時刻	記事	備考
（イ）上野驛	發前 八・二〇	日光行準急行列車三月—一一月運轉	（イ）上野—日光間二時間二七分（一四六粁四）、三等二圓一三錢
（イ）日光驛	着前 一〇・四七 發前 一〇・五〇	下車 馬返行バス	「註」上記準急行列車ハ三月カラ一一月迄運轉（急行料不要）、和食堂車アリ。季節ニヨリ上野發前八時、日光着一〇時二七分ノ不定期臨時準急行列車運轉ス。
（ロ）雷門驛	發前 七・五五	東武鐵道日光行特別急行電車	（ロ）淺草雷門カラ日光迄東武鐵道會社ノ特別急行電車デ二時間一八分（一三五粁五）、普通賃片道二圓一三錢（三等ノミ）、季節ニヨリ往復割引乘車券發賣ス。
（ロ）東武日光驛	着前 一〇・一三 發前 一〇・一六	下車 馬返行バス	（註）上記特別急行ハ三月カラ一一月マデ運轉。急行ハ前五時カラ後八時マデ一時間毎ニ毎時〇分ニ發車ス、所要二時間四四分、其他季節ニヨリ不定期特急數回運轉ス
馬返	着前 イ一一・一五 ロ一〇・四〇		▲日光—馬返間一〇粁一、自動車二五分、乘合五〇錢、電車三五分（九粁七）四〇錢（一六二頁參照）。
馬返	發前	ケーブルカー又ハ自動車	▲馬返—中宮祠間七粁九、自動車及ケーブルカーノ二途アル。一、ケーブルカー及自動車連絡一三分、片道八〇錢往復一圓三〇錢。
明智平		（ケーブルカー）	二、自動車二〇分、片道一圓、往復一圓五〇錢（一六二頁參照）。省線及東武電車ト連帶券往復日光—中宮祠間二圓二〇錢。
又ハ大平		（自動車）	▲馬返カラ一粁ノ大谷川ニ架ケラレタ幸橋邊ニ至レバ男體燈岩ノ二百米ニ及ブ斷崖屏風岩ガ右方ニ見エ、幸橋カラ西北ニ進ムコト二百米デ桑橋ヲ渡リ大谷川ヲ離レテ更ニ西進二百米デ支流ノ深瀑ニ架スル深瀑橋ヲ渡ル迄ハ山水ノ景勝スベキモノガアル。此處カラ道ハジツグザツグノ坂路トナリ約六粁許リデ頂上大平ニ出ル。馬返カラ二粁餘ノ劍ケ峯茶屋カラハ高サ三〇米巾五米ノ方等瀧（左方）、巾一米高サ三六米ノ般若瀧（右方）ノ二瀑ガ丹青山ト劍ケ峯ノ間ニ懸ルヲ眺メ、紅葉ノ頃ハ稀ニ見ル勝地デアル。
中宮祠	着前	晝食、遊覽	大平ニ至レバ氣分俄ニ一轉、白樺ノ美林ノ下ヲ約一粁許リ行ケバ中禪寺湖畔ニ至リ途中左方木下關カラ華嚴瀧ノ鑑鑑ノ響ガ傳ツテ來ル。



十和田湖

上、奥入瀬（おいらせ）の溪流

下、十和田湖六方岩の絶壁

中宮祠	發後一時頃	ケーブルカー又は自動車又ハ電車	
馬返	發後一時半頃	自動車又ハ電車	
西參道	着後二時頃	東照宮參拜	
（イ）日光驛	發後 四・一五	上野行準急行列車三月―一一月運轉季節ニヨリ日光發後六時ノ不定期準急行列車ガアル（上野着八時一九分）	
（イ）赤羽驛	着後 六・二〇		
上野驛	着後 六・三三	歸宅	
（ロ）東武日光驛	發後 四・一五	東武鐵道淺草行急行電車三月―一一月毎日	
（ロ）淺草雷門驛	着後 六・二六	歸宅	

中禪寺湖、中宮祠、中禪寺（一六二頁參照）。

▲馬返―西參道間七粁二、自動車二〇分、乘合三〇錢、電車三〇分、三〇錢。

▲神橋―日光驛一粁九、自動車電車共ニ一〇錢宛。

東照宮（一五九頁參照）。

「參考」電車乘降場カラ各名所ニ至ル粁程

東照宮	神橋カラ約半粁	
二荒山神社	同	約八〇〇米
三代靈廟	同	同
輪王寺	同	約三〇〇米
慈眼大師堂	同	約九〇〇米
瀧尾神社	同	約一粁六
律院	同	約六五〇米
霧降瀧	同	約四粁
寂釋迦堂	田母澤前	
光瀧	田母澤カラ二粁餘	
羽黑瀧	同	約二粁七
含滿淵	花石町カラ約四百米	
大日堂	同	約五五〇米
裏見瀧	荒澤カラ約二粁	
清瀧觀音	觀音前	
般若瀧	馬返カラ約一粁六	
方等嚴瀧	同	約八粁半
華嚴瀧	同	約一八粁
中禪寺湖	同	約三二粁
湯元溫泉	同	

旅行費用概算

（イ）二等	二二・七二圓	內譯（上野―日光―中宮祠間汽車自動車往復賃、拜觀料（備考欄參照）及ビ食事料雜費トシテ概算ニ等二圓三等一圓ヲ計上ス
（ロ）三等	八・四六	內譯（東武電車往復四圓二六錢（季節ニヨツテハ往復割引券ガ發賣サレル）中宮祠往復自動車賃、拜觀料及食事料（イト同ジ）ヲ計上ス

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發前 八・二〇	日光行準急行列車	▲上野―日光間準急行列車（三月―一一月運轉、和食堂車付）ニテ二時間半、三等片道二圓一三錢。「註」一、晝食ハ少シ早目ナレドモ列車食堂ニテシタタメルコト。二、雷門カラ東武電車ニテ二時間一八分、二圓一三錢（一五三頁參照）三、遊覽券所持者ハ省線電車環狀線內ノ何レノ驛デモ乘降出來ル。
	日光驛	着前 一〇・四七	下車	
		發前	自動車又ハ電車	
	神橋	着前	東照宮參拜 一五九頁參照	
	西參道	發後 一三・五五	自動車又ハ電車	▲日光驛―神橋間一粁九、自動車、電車共ニ一〇錢。▲西參道―馬返間七粁五、自動車二〇分、三〇錢、電車三〇分三〇錢。
	馬返	着後 一・二二	自動車又ハケーブルカー	▲馬返―中宮祠間七粁九、自動車二〇分、賃一圓（一六二頁參照）「註」馬返―中禪寺間ケーブルカー及連絡自動車ノ便モアル
		發後 一・三〇		
	中宮祠	着後 一・五〇	遊覽	
	中宮祠	發後 四・三〇	自動車	
	湯元溫泉	着後 五・〇五	宿泊	
	湯元溫泉	發前 七・〇〇	徒歩	

參考

▲中宮祠カラ中禪寺湖ニ舟ヲ浮ベテ上野島ヲ右ニ眺メ、對岸ノ八丁出島ノ入江足尾新道口（絡逢○○米）ニ達スル、此處カラ道ハ下リ、深瀧ニカカツテ約一二粁デ間藤町ニ出デ日本一ノ銅山、古河鑛業會社ノ足尾銅山ニ着ク。足尾本山ニ着イテ渡良瀨川ノ橋ヲ渡レバ製錬所ガアル。

銅山ハ慶長年間ノ發見デ、モト德川幕府ガ直轄シ、日光、芝、上野ノ諸廟築造ノ材料ニ供シ、マタ江戸城ノ屋根葺用ニ使用シタモノデアル。明治一〇年古河家ニ鑛業權ガ移リ、現ニ坑夫三、六〇〇人ヲ使役シ、年產ノ粗銅一二、〇〇〇瓲、價格一、〇〇〇萬圓、別ニ粗製亞砒酸一二〇萬瓩其ノ他ヲ產出シテ居ル。鑛床ハ小瀧、木山間ノ備前楯山ニアリ、鑛脈ノ延長ハ普通六〇米乃至六〇〇米デ、鑛幅ハ三〇糎乃至四米、鑛質ハ石英銅鑛脈ト綠泥銅鑛脈ノ二種デ相絡ンデ一脈ヲナスコトガ多イ。

▲足尾線終點間藤カラ桐生マデ汽車約二時間半（四四粁一）、桐生カラ小山廻リ上野迄三時間（一二九粁九、間藤―上野三等二圓四五錢）、桐生カラ高崎廻リ上野迄三時間（一四〇粁二、間藤―上野三等二圓五七錢）。

▲**湯元溫泉**―金精峠間上り五粁餘、徒歩一時間半。

▲**金精峠**―菅沼二粁七、下り三五分（菅沼湖尻迄五粁餘アリ一時間半）

中禪寺湖、**中宮祠**、**中禪寺**（一六一頁參照）。

▲**中宮祠**―日光湯元溫泉間一三粁六、自動車三五分、賃七〇錢。

日光湯元溫泉（一六四頁參照）。

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第2日	金精峠	着前 八・三〇		
	菅沼	着前	温泉ホテル ニテ 晝食	
	丸沼			
	同	發後 二・〇〇	自動車	
	須賀川	發後 三・〇〇	自動車乘換	
	追貝	發後	自動車乘換	
	沼田驛	發後 四・四六	上野行列車	
	澁川驛	發後 五・一三		
	上野驛	着後 八・〇六	歸宅	

旅行費用概算

二等 二一・〇八圓
三等 一六・二一

内譯（○遊覽券＝乘物賃全部ニテ二等一一圓〇八錢、三等七圓二一錢ト湯元一泊料二等五圓、三等四圓
○食事料、日光廟參拜料及其他費用トシテ五圓宛ヲ計上）

▲岱、湖畔ニ第一山の家及菅沼森林休泊所ガアル、一泊五〇錢）

▲菅沼湖尻カラ八丁ノ瀧ヲ下リ丸沼北岸ノ丸沼温泉ホテル迄約二粁半、徒歩四〇分位。

丸沼（一六六頁參照）。

▲丸沼温泉ホテル—須賀川約一九粁、自動車五〇分、乘合七〇錢、一日三回。

▲須賀川—追貝約八粁、自動車二〇分、乘合三五錢。

▲追貝—沼田驛間約二〇粁、自動車一時間、乘合八〇錢。

▲沼田—澁川—上野間三時間一六分（一四二粁八）三等二圓八錢

「註」

一、沼田發後五・五一ノ上野行急行列車ガアル、上野着後八・三〇。

二、澁川ニテ下車、伊香保ニ一泊ノ上繰名ニ遊ブモヨイ、二二一頁參照。

日光・裏日光（鬼怒川峡谷）遊覽日程案（東京から四日）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野	發前 八・二〇	日光行準急行列車	▲上野—日光間二時間半、三等二圓一三錢。雷門カラ東武電車ノ便アリ、一五三頁參照。
	日光	着前 一〇・四七 發前 一〇・五〇	自動車	**東照宮參拜**（一五九頁參照）。
	神橋畔	着前 一〇・五五	東照宮參拜	▲西參道—馬返間七粁二、自動車二〇分、三〇錢、電車三〇分三〇錢。
日	西參道	發後 一二・五五		
	中宮祠	着後 一・五〇 發後 四・三〇	下車、遊覽 湯元行乘合	
	湯元溫泉	着後 五・〇五	宿泊	
第2日	湯元	發前八時頃	徒歩	
	川俣溫泉	着後 三時頃	宿泊	▲川俣—黑部—川治間約三二粁、徒歩所要八—九時間（乘物ナシ）途中黑部村ニ山本屋旅館アリ、一泊一圓半—二圓。 ▲日光湯元カラ翌ノ湖、刈込湖、金田峠（二、〇二四米）、西澤金山（一、四六〇米）、チ經テ川俣温泉迄約一六粁、徒歩六時間位。 川俣温泉旅館　清湧館（一泊一圓二〇錢乃至四圓）
第3日	川俣溫泉（カハマタ） 黑部（カハヂ）村 川治溫泉	發前（早朝） 着夕刻	徒歩 宿泊 又ハ鬼怒川温泉迄行ツテ宿泊スルモ可	▲川治温泉旅館—近江屋（一泊二圓—五圓） **川治温泉**（一六五頁參照）。 ▲川治カラ新藤原驛（下野電鐵）迄八粁、自動車二五分乘合片道五〇錢、往復八〇錢（一日七回）、貸切二圓（鬼怒川温泉迄二圓）。 ▲藤原—鬼怒川温泉間二粁六、電車八分、賃七錢。 **鬼怒川温泉**（一六五頁參照）。 ▲鬼怒川温泉—今市驛間自動車三〇分（一六粁一）乘合片道三五錢、貸切三圓半（六人乘）、電車ナレバ四〇分、賃三四錢（一三粁六）。 電車下野今市驛ハ東武電車ノ驛ト共同デアルガ、省線今市驛トハ約七〇〇米距ツテ居ル、乘合自動車一〇錢、徒歩約一〇分。 ▲下野今市カラ淺草雷門行東武電車デ二時間一五分、賃二圓四錢。 ▲今市—上野間二時間〇九分（一三九粁八）三等二圓四錢。
4日	川治溫泉	發前	自動車	▲馬返—中宮祠間（A）ケーブル自動車連絡一三分、八〇錢（B）自動車二〇分、一圓。 華嚴瀧、中禪寺湖、中宮祠、戰場ヶ原等（一六四頁參照）。 ▲中宮祠—湯元間一三粁六、自動車三五分、乘合七〇錢（一六四頁參照）。 湯本旅館—南間ホテル、板屋（一六四頁參照）。
第	新藤原	發前 一一・〇〇	自動車又ハ電車	
	鬼怒川溫泉	着前	一浴、晝食	
	同	發後 三・三〇	自動車又ハ電車	
日	今市驛	發後 四・二三	上野行列車	
	上野驛	着後 六・三三	又ハ東武電車	

旅行費用概算

二等 三一・九四圓
三等 二二・七七

内譯（上野—日光—湯元間、川治—今市—上野間汽車及自動車賃、（備考欄參照）及宿館三泊料二等一二圓、三等九圓、食事料、
東照宮拜觀料其他費用トシテ二等八圓、三等六圓ヲ計上ス。）

日光　栃木縣上都賀郡。

日光は天然美と人工美とを同時に稱讃し得る勝區として其名海外に迄知られ近時國立公園候補地の一に指定された勝景地である。日光の一區は、男體山を中心として、所謂日光山彙の峯巒が蒼々と連り、其間に溪流あり、飛瀑あり、湖沼あり、叢原あり、溫泉あり之に加ふるに人工美の精華を誇る東照宮の殿閣が、老杉の間に隱見し、自然の秀麗と人工の精華と相俟つて雙美の盛名を恣にし、古來「日光を見ぬ内は結構と云ふ可らず」の俚諺はよく此間の事實を物語つて居るものである。

そも〳〵日光の地域たるや、山あれば湖あり、湖あれば瀧あり、山水の交錯趣りなきもの、これ何れも火山活動の賜である。第三紀末に前白根山から溫泉ケ岳に亘る斜長流紋岩の山々を噴出し、次で第四紀の頃第二次第三次の活動により月山（一、二八七米）・女峯（一、四六四米）・赤薙山（一、〇一〇米）・小眞名子（一、三二三米）・大眞名子（一、三七五米）・男體山（一、四八四米）・太郎山（二、三六八米）・山王帽子（一、〇七三米）・三ツ岳（一、九四五米）・白根山（一、五七八米）等の一大火山群を構成した。此の大火山群は東は高原火山を介して那須火山に、西は赤城の雄峯を隔て、榛名火山に至るまで、關東平野の一境を畫く一大火山帶の中央に位し、其規模に於ても、峯巒の高さに於ても、夫等のうち最も雄たるものである。但し之等の諸火山は何れも既に活動を終り、有史以來活動の歷史あるものは白根火山の中央火口丘奥白根だけである。

▲日光山は元來「ふたらひ」で、佛徒がこれを補陀洛（フダラ）に附會し、紀元一四二七年（稱德天皇、神護景雲元年）勝道上人が始めて此山を開いて此處に四本龍寺の伽藍を造つた一千二百年來の靈地である。のち「ふたら山」卽ち二荒山は日光山と改稱され、寺は滿願寺と變り、更に輪王寺と改められた。また勝道上人が一山の鎭守として勸請したと云ふ二荒山神社があり、日光山とは廣く此の輪王寺と二荒山神社との境内に當て居る。其の境内に德川二代將軍が家康の靈廟を造營し、三代將軍が改築を施したのが今日現存する東照宮である。依て日光廟は在來の佛利及神社の境内に割込んで營まれたもので始めから獨立して造營されたものではなく、その後大猷院の廟が嵌込まれ、大小數百に上る建物が複雜した關係を持つて居る。

日光町

日光をして今日最も人口に膾炙せしめたものは、山水湖瀑の秀麗よりは寧ろ赤薙火山の南麓、恒例山に鎭座まします東照宮の壯麗無類の建築美であつて、古來日光を見ずして結構を說く勿れと云はしめた程である。日光の町は實に此の東照宮の鳥居前町として發達したもので、日光驛の前から日光街道を挾んで神橋前迄旅館商舖等軒を連ね長く東西に連つて居る。之卽ち日光東町、一名出町で、之に對して東照宮の西南に西町、一名入町が、大谷川の北の段丘地帶に御用邸を廻つて住宅區域が發達して居る。海拔約五三〇米。

〔日光の旅館〕小西別館（驛から一粁半、電日光二番、五番、室四七、一泊四、五、六、八圓）、小西本館（驛一粁四、電二・三、室二三、團體收容二百人、一泊三、四、五、七圓、團體宿泊二圓—三圓、㊋四圓）、神山（驛半粁餘、電八、室五一、團體收容三百人、一泊三、四、六、七圓、團體宿泊一圓半—二圓、㊋三圓）、神橋館（驛一粁半、電一三八、室二〇、團體收容百人、一泊二、三、四、五圓、團體宿泊一圓半—二圓）、上州屋（驛一粁半、電一五五、室三一、團體收容一五〇、宿泊料同上）、古橋（電四、室二一）、山光館（電七八、室一八）、紙半（電三三四、室二四）、井桁樓（電三四）、金谷ホテル（驛から一粁半、電一番、七番、純洋式。風呂無一人室二五、三食付一二圓—一六圓、同二人室二二、三食付二二圓—二七圓。風呂付一人室八、三食付一六圓—一八圓。同二人室一五、三食付二六圓—三五圓。食事料朝二圓、晝三圓、夕三圓半、㊋バスなし一〇圓、バス付一三圓。

東照宮の杉並木

東照宮附近から今市に至る日光街道の二里五丁五七間（樹數二、九九五本）、今市から菊澤に至る例幣使街道の三里一九丁一二間（樹數四、五三七本）、今市御成街道から大澤に至る御成街道（樹數九、三九一本）、今市から大桑迄の會津街道三五丁四四間（樹數一、四八一本）、總延長九里一四丁三〇間、樹數一八、四〇四本を算する並木道で、今から二七〇餘年前寛永の初年頃に松平右衞門大夫正綱が、東照宮造營の際二四年の苦辛を以て植樹將造したもので、天下無比と云はれて居る。

日光自動車會社賃金表（八・六調）

營業所　栃木縣日光町（電三六三）

區間	哩程	貸切片道	貸切往復	乘合片道	乘合往復
省日光驛—神橋	一・二	一・〇〇	一・〇〇		
〃馬返	六・三	三・五〇	七・〇〇		
〃中禪寺	一九・三	一三・〇〇	二五・〇〇	※二・〇〇	※四・〇〇
〃湯元	一四・八	一〇・〇〇	二〇・〇〇		
〃天怒川	一一・〇	八・〇〇	一五・〇〇		
〃鬼怒川	四・七	三・〇〇	五・〇〇		
〃鹽原	四・〇	三・〇〇	五・〇〇		
〃降籠	四・〇	三・〇〇	五・〇〇		
〃裏見瀧	五・〇	三・〇〇	五・〇〇		
〃今市	二・〇	二・〇〇	四・〇〇		
〃宇都宮	六・五	四・〇〇	七・〇〇		
馬返—中禪寺	八・五	五・〇〇	一〇・〇〇	※二・五	※四・〇〇
中禪寺返—湯元					

※印賃金（日光—中禪寺）は省線及東武電車連帶の場合の賃金である。

神橋

日光橋の二〇米程上流の大谷川に架せられた長さ一五間二尺、幅四間の朱塗の靈橋で、平素は柵を以て鎖され、祭典に參向せらる、勅使や供進使が渡御あるのみで、古は山菅の蛇橋とも云つた。翠林の下に朱塗金珠が碧水に映ずる樣は繪其儘の美さで、日光の美は此處から始つて居る。此處から長坂を上つて大手通の正面は東照宮、右は輪王寺である。

▲山菅の蛇橋とは今から千百六十餘年前、稱德天皇の天平神護二年三月（紀元一四二六年）、輪王寺の開山勝道上人が始めて登山する時蛇が橋となつて上人を渡したと云ふ傳說から此の名があつた。神橋のほとりに蛇王權現の祠があり「橋渡しの神」として參詣者が多い。

▲神橋の手前左側に板垣退助伯の銅像がある。維新の際東照宮の兵燹に罹るを同伯が防ぎ止めたのを記念する爲昭和四年一一月有志の建立したもの。

輪王寺

神護景雲元年（紀元一四二七年）勝道上人の開山。始めは四本龍寺と稱し比叡山、東叡山と共に、天台の三本山と稱され、文保二年後醍醐天皇の第十四皇子仁親法親王が第二十九座主にならせられてから宮家の御門跡となり、後、後水尾院の院賞を拜して輪王寺と號するに至つた。今三佛堂・相輪塔・護法堂・常行堂・法華堂及慈眼堂などがあり、德川三代將軍の靈を祠る大猷院も此の寺に屬して居る。此の寺には多くの寶物があり、その一部は東照宮寶物殿及中禪寺の寶物館に陳列してある。

▲三佛堂は往時の金堂で本坊輪王寺門跡及一山十五ケ院の總本堂で慶安元年の造營に係り間口十八間奥行十四間、重層入母屋造、銅瓦本葺當山第一の大建築である。

東照宮

（別格官幣社）栃木縣上都賀郡日光町恒例山。

▲省線日光驛から神橋まで一粁九二、自動車五分、乘合一〇錢（馬返行）、貸切五〇錢、電車一二分、賃一〇錢、約三〇分毎に運轉。

▲東武日光驛から神橋まで一粁七。自動車乘合一〇錢（電車着毎）、貸切五〇錢。▲神橋から東照宮迄坂路約半粁（徒步）。

贈正一位太政大臣德川家康の靈を祀る。日光山は下野の名僧勝道上人の開山する處で、元和二年四月一七日、家康駿府に薨ずるや、其夜久能山に殯し、翌三年二月東照大權現の神號を授けられ、同年三月更に正一位を贈られ、此の月將軍秀忠遺命により久能山から靈柩を移して社殿を造營せられた。現存せる社殿は家康神君に對する御孝心深き三代將軍家光が御手許金二千七百餘萬圓（現今に換算）を以て、當時の名工巨匠を一山に集め寛永一三年（紀元二、二九六年、昭和一〇年から二九九年前）美事に改築せられたもので、御社殿、參道は申す迄もなく彫刻・繪畫に至る迄家光將軍の御孝心の表現である。境内九〇、九四三平方米、桃山時代の後を受けた德川時代の建築の完全な、所謂權現造の模範的建築物である。社殿は全部朱塗の極彩色で、金銀珠玉を鏤め、精

巧な彫刻を施したもので、一度其前に立てば三百諸侯を脚下に跪かせ二百五十年に亙る平和な御代を建築し現代文化の礎を築いた家康公の神德を偲ぶ事が出來る。いま社殿全部は國寶に指定されて居る。

造營に關しては主として松平右門大夫正綱、秋元但馬守泰朝の兩人が奉行として其經營に當り、從事した工匠は大棟梁甲良豐後宗廣で、其子宗次、その孫宗賀も當時幼少であつたが參與して居る。甲良宗廣は所謂建仁寺流の巨匠で、此建築の考案設計は皆宗廣の頭腦から出たものである。

日光建築は主として次の諸點に考慮が拂れて居る。先づ第一に狹少な神域の中に、社殿の配置を字餘曲折せしめて建築物相互の調和をもとめ、全體的にも部分的にも奥ゆかしい感じが與へられて居る。第二には老樹が自然の儘に保存せられ、自然の秀麗と人工の精華と良く調和せられて居る。第三には社殿の構造を耐久、耐火、耐寒、耐濕たらしめると共に、裝飾に全力を傾け、當時のあらゆる工藝美術の粹が集められて居る。

次に社殿配置、建築の特徴即ち鐘樓・鼓樓・藥師堂・五重塔の如き佛寺に屬する建築物と、鳥居・神庫・御水屋・拜殿・本殿等神社的建築物とが巧みに織込まれて居ろ事で之等の社殿は五重の塔を含めて總面積僅かに二、七二八方米（八坪）、東京淺草觀音の二倍、東京ステーションの三分の一、一部の建物としての奈良の大佛よりも小さく、其規模の寫外にも小なる事である。有名な島明門の如きは僅か二七方米（八坪餘）の小建築ではあるが、造神宮技師大江工學士の計算によれば、今日の金に換算して概算一坪約一五萬圓、他の建物も一坪二萬五千圓、總工費二千七百萬圓の巨額にのぼつて居ると云ふ事で、規模は小さくとも之によつて如何に立派であるかと云ふ事がうかがはれる。

▲石鳥居　後水尾帝の御宸筆「東照大權現」の額を掲げてある。元和四年黑田長政の寄進せるものと云ふ。高さ約八米、柱徑一米餘の花崗石で造られた明神式の鳥居で、東照宮第一の入口をなし、此鳥居を起點として社殿を連ね、奥社に至る參道が延長一粁以上に及び飛石敷、切石敷などを施して居る。此大鳥居をくぐれば左に辟柄塗の五重塔が老杉の間巍然として映帶して居る。▲五重塔　三間四方、九輪頂上迄約三二米（十丈五尺）方位に合せて十二支の彫刻がある。慶安三年（一二月（紀元二三一〇）酒井忠勝の獻造せる塔は、文化一二年六月紀元二四七五）雷火の爲め烏有に歸し、文政元年酒井家にて再建せるものである。

▲表門　三間二面總朱塗極彩色の八脚門で、內裏に金色の狛狗（コマイヌ）が左右に跪り、門の左右には彫塀が廻されて居り、右には三つの神庫がある。▲三神庫　上、中、下の順に並び、皆校倉造りで總朱塗、花鳥草木の極彩色が施され、上神庫の切妻の下には、二つの象の彫刻があり、狩野探幽の下繪で恰も生けるが如くである。▲厩　境內只一つの素木造りで、有名な三猿―見ざる―聞かざる、言はざる―の彫刻がある。▲厩の西北に御水屋があり、其の左に輪藏、又、石段の下右手に伊達政宗奉納南蠻鐵の燈籠などがある。石段を上つた左右に、石柵の一本と一つ石で彫つた飛越の獅子があり、鐘樓、鼓樓が兩側に建つて居り、又朝鮮から奉納の鐘と琉球から獻納の燭臺及鼓樓の下には和鼎から獻備の廻り燈籠と釣燈籠がある。鐘樓の西には▲藥師堂がある。本地堂とも云ひ、家康の本地佛藥師如來を安置した堂で間口十一間三尺奥行七間三尺、入母屋造總朱塗大堂宇で內陣の天井には有名な鳴龍がある、長さ約一五米。狩野安信筆の墨繪で、其の頭下に立つて手を拍てば、不思議にも銀鈴の如き音響が聞ゆるので此の名がある。

▲陽明門　其の結構、人をして思はず瞠若たらしめ、日暮るる迄見るも飽く事を知らぬ處から又の名を「日暮の門」とも云ふ。陽明門とは禁裏一二御門の一なる門名を賜はつたものである。其の結構は桁行三間五尺四寸、梁間二尺四寸屋根入母屋造、四方軒唐破風造、二重扇垂、銅瓦本葺の樓門で、額は後水尾天皇の御宸筆である。柱は皆欅丸柱の白塗で、雲紋の地彫を施し、目貫龍、千人唐子の智惠遊・飛出の獅子・木目の虎などの彫刻で滿され、中通り天井には八方睨・四方睨の龍、兩脇四隅の天井には天人舞樂の繪がある。此の內四方睨の龍は狩野永眞の筆、其の他は狩野探幽の筆になる。其他桐に鳳凰の彫刻・蟠龍・花鳥・聖賢君子の像などありて仔細に觀賞せば日暮るる知らぬのである。門に續いて袖塀及長さ一二〇間に達する廻廊があり、正面には唐木造りの壯麗な▲唐門がある。極彩色の透彫に滿されて居る八七間の玉垣が門の左右かつ木殿及拜殿を圍み、銅を張つた五級の階段は直ちに拜殿に通じて居る。

▲拜殿　結構更に壯麗である。入母屋造りで、銅瓦本葺、唐破風造りにして向拜あり、羽目は牡丹唐草の透彫、緣廻勾欄は蠟色塗、金物は全部鍍金又は鍍金の七寶である。內部は三室に分れ、中央は五間四面の大廣間、向つて左に法華堂と淨土堂の二間、右に緣觀音堂の二間がある。

格天井は格間毎に岩繪雲鶴に極彩色の百種の鶴を畫き、柱は總金箔、み極彩色の金襴卷・長押の彫刻・台輪の上に掲げた土佐光起の三六歌仙の扁額、襖戶の金泥地に畫かれた竹に麒麟、狂獅子の探幽守信の筆等善美を盡してある。左右着座の間は、天井は二重折上造り、大羽目には紫檀、黑檀の唐木材を用ひ、彫刻、蒔繪を施してある。中央の間正面の三間には御簾を垂れ金幣三個をたて、御簾の上には神鏡を掲げてある。拜殿と石の間にある四本の柱は墨黑の卷柱で有名なものである。石の間は拜殿の後に續き一段低くなり、本殿が連接して居る。▲本殿　は石の間を隔てて拜殿に隣り、幣殿、內陣、內內陣に分れ、其の結構の美は云ふ迄もないが、一般の拜觀を許さぬ。▲東廻廊潛門には、左甚五郎作の眠猫の彫刻があり、そこから約二五〇米、二百餘階の石段を上つて奥社に詣でる。拜殿の後に總唐鋼の高さ七尺の鑄板の門があり、石の玉垣を廻らした中に、英傑家康公の墳墓、多寶塔がある。丸鋼の直徑四尺、高さ一丈一尺餘り、老杉天を摩し、神威嚴然たるものがある。

【例祭】　六月一日で、翌二日には神輿渡御の行列があり、（武者其他約五百名）があり、人〻、又一〇月一七日を秋季祭と稱し、同樣の行列（武者其他約千祭と稱し、武道大會等の備物がある。

【東照宮參拜・拜觀時刻】　自四月至九月前七時から後四時迄、自一〇月至三月前八時から後四時迄。

【社寺獻撰料】　東照宮・二荒山神社及輪王寺並に東照宮寶物を參拜、拜觀せんとするものは次の獻饌料を奉納すること。一人一圓（圓體五〇人以上一人に付九〇錢、一〇〇人以上一人に付八〇錢）學生圓體五〇錢、小學生圓體二五錢）。案內料六〇錢（圓體の場合は九〇錢）

二荒山神社（フタラ）

（國幣中社）東照宮の西約二〇〇米、恒列山西麓古杉の茂つた所にあり、大己貴命・田心姫命・味耜高彦根命を祀る。大同三年（紀元一四六八）勝道上人の山中開創に當つて、二荒山神社を鎭祭せられたのが始めで、下野一の宮としてその壯嚴一山に鳴つたものである。朱閣翠林の調和が美しく、今の社殿は元和五年（紀元二二七九）に德川秀忠が造營したもので、拜殿と本殿は國寶となつて居ろ。奥社は男體山頂に中宮祠は中禪寺湖畔に鎭座して居る。例祭は四月一三日―四月一七日。

▲四本龍寺跡　本宮の後にあり、境內約一二七四坪、中に六間四方の四柱造觀音堂と舞柄塗の三重塔がある。▲常行堂　二荒山神社の南方にある。慈覺大師の創建で、今の堂宇は江戶時代の再建である。▲慈眼堂　常行堂と法華堂との間から坂を登つた丘上にあり天海僧正の靈廟である。

大猷院（ヤイウヰン）靈廟

德川三代將軍家光公の御靈屋である。慶安四年に工を起し、三年を經て承應二年（二三一三年）に竣工した四天門・鐘樓・鼓樓・夜叉門・拜殿本殿等結構善美を盡し、東照宮と共に其殿堂の美を以て聞え、何れも國寶に指定されて居る。

▲寶物館　三百年祭記念に建築したるもので、東照宮、二荒山神社及輪王寺の寶物が陳列されてある刀劍六口、東照宮緣起五卷は國寶に指定されて居る。

▲田母澤御用邸（木町通り）▲含滿ケ淵、御用邸脇の道を左に入り、大谷川を渡つて數百米、大谷川の溪流美を爲す所である。

霧降瀧

神橋から右に折れて登り、稻荷川の釣橋を渡れば左手丘陵の老杉中に「興雲津院」がある。背後に屹立する外山には日光山鬼門鎭護の毘沙門天を祠つてある。梅林で名高い高照庵の庭を廻つて上れば「小倉の春曉」として日光八景に數へられて居る小倉山公園があり、小遊園地をなして眺望がよい此處を左に廻り二、三の小高低を經ると觀瀑臺に着く。神橋から此處までダラ〳〵登りの四粁餘り、自動車が通ずる。賃切片道三圓半、往復五圓。霧降瀧は裏見・華嚴と共に日光三瀑と云はれ、途中一階段あつて水勢霧散するので此の名があり、紅葉の名所となつて居る。その上流の丁字瀧から玉簾瀧へは更に二粁餘あり、全體として半日の旅である。

裏見の瀧

馬返に至る途中、荒澤停留所から約二粁の荒澤川の上流にある。日光驛から五粁餘（一里一三丁）瀧へ半粁の所迄自動車が行く、賃切往復五圓。往時は瀑水の裏側から其の壯觀を見る事が出來たので其の名があつたが、明治五年九月の大暴風雨のため瀧口の岩壁を陷落して舊時の奇觀を失つた。然し、多少濡れることを厭はぬば、裏面から瀧を見ることが出來る。

華嚴瀧

中禪寺湖の吐口大尻から東方約五〇〇米にあり、石英斑岩の浸蝕面を掩ふ男體熔岩に懸て居る。直下すること約一〇〇米、幅は上部で約一〇米瀧壺は深さ二〇米、水色は淡碧色を呈し、岩壁の前に直下して極めて美觀を呈して居る。大平臺の瀧見茶屋傍からエレベーターで瀧壺前に降りれば正面二〇米程距て瀧全體を仰ぎ見ることが出來る。エレベーターは二四人乘二臺あり、所要五（秒、賃往復四〇錢。徒歩なれば急坂を下り、白雲瀧を經て五郎兵茶屋に至る約一粁の道がある。瀧の懸る岩壁は厚さ約五〇米の男體熔岩で、石

英斑岩の上に横つて居る。熔岩の下端は集塊岩狀をなし、中禪寺湖から來る地下水は此處にしぼられて主瀑の兩側に數條の玉簾を懸け、岩燕が瀑前に群をなして飛翔して居る。瀑水は冬季は涸れて主瀑は消滅し（五月半迄）、僅に地下水から來る數條の小瀑を見るのみである。

中禪寺湖

栃木縣上都賀郡日光町。

▲日光驛から馬返まで一〇粁一。

一、日光自動車で二〇分、乘合片道五〇錢、往復九〇錢（前五・四五から午後五・四五迄省線及東武電車に接續運轉してゐる）、貸切三圓。

二、電車で約三五分、賃片道四〇錢往復七五錢（凡三〇分毎に運轉。九粁七）

▲馬返から中宮祠まで八粁（舊道は五粁餘）

一、ケーブルカーで明智平迄八分、（一粁二）、運賃片道五〇錢往復八〇錢（前七・一〇から午後七・四〇まで三〇分毎に運轉）、明智平から中宮祠迄日光登山鐵道會社專用自動車路により五分（二粁二）賃片道三〇錢往復五〇錢（エレベーターに接續運轉）

▲空中ケーブルカー　明智平―展望臺間二分、片道一五錢、往復二〇錢。

二、日光自動車により二〇分（八粁）、乘合片道一圓、往復一圓五〇錢（一日一二回往復、冬期は運轉中止）、尙省線主要驛から中宮祠迄連帶乘車券を發賣して居る。日光・中宮祠間片道一圓三〇錢（普通賃一圓五〇錢）往復二圓二〇錢。貸切日光驛から片道八圓往復一五圓、但し馬返・中宮祠間は上り下りの時刻に制限がある。

中禪寺湖は日光驛の西一八粁、男體山の南麓にあり、一に幸の湖と云ふ。今を距る千二百年の昔、勝道上人が男體山に登り發見したと傳へらるゝ湖で、湖面海拔一、二七一米の幽邃境に碧水を湛へて居る。東西六粁半、南北一粁八面積一二平方粁三九、南岸からは八丁出島の半島が突出し、其東に上野島がある。湖盆は西に淺く、東に深い。そして最深點は東部の南方に偏し上野島の東方にあり一七二米に及び、華嚴の瀧の高さよりも更に七二米深い。かゝる高度にありながら、面積深度共に斯く大なるは本邦の他に見ない處である。

湖盆は石英斑岩と花崗岩から成り、其地盤は地質時代に浸蝕されて大なる窪地を作つたもので、もと遙に東方に及んで居たが、男體山の熔岩流が此窪地を橫斷して流れを堰き止め、此處に湖水を形成するに至つたものである。湖盆を涵養する水は廣大な受水區域から注入するものを主とするもので、冬季降雪期には著しく其の水位を低くする。排水は大尻川から流れ、その懸垂するものは華嚴の瀧で、以下大谷川となり鬼怒川に合して利根川に注いで居るが、冬季は水位が低いので、大尻川は河床を露はし、排水は全く止み、華嚴の瀧は數ケ月間主瀑に一滴の水をも見ないが、華嚴瀧の落下する懸崖からは數條の細瀑が玉簾の如く垂れて居る。之は中禪寺湖の水が異つた二つの熔岩層の間を流れ出づるもので、湖水は表面と地下の二つの排水口を有して居るのである。湖の水溫は表面で月別最高が八月の平均二三度附近、最低が一月の平均四度位、凡そ一〇〇米以深は一年を通じて四度、冬季は風波激しき爲湖面の氷結する事少い。水は極めて清澄で深度一八米附近まで明に透視し得られ、また水色も極めて美麗で、三號から四號附近の藍色を呈して居る。

排水口が華嚴の瀧となり魚類の沂上を妨げ、古來魚類を產しなかつたが、明治六年以來魚類を移殖し、一四年には鰉魚・赤腹魚（ザコ）・エビ・鱒等を、其後米國の紅鱒・ホロイトフィッシュを放流し、三九年からは帝室林野局に於て養鱒を計畫し、湖畔菖蒲ケ濱に孵化場を設け、漸次繁殖して漁獲が多くなつて來た。湖畔には一般に樹木が繁茂し、また紅樹多く、五月中旬花開き、秋は紅葉が美しい。

中禪寺湖舟遊モーターボート乘船賃金表

航路	定員迄	團體二五人以上	所要時間
二荒山―歌ケ濱間往復	一・六〇	一・六〇	一・〇〇
同三角廻り往復	二・〇〇	二・〇〇	二・五〇
二荒山―歌ケ濱―大尻足尾新道往復	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇
同口行	四・〇〇	四・〇〇	四・〇〇
名所廻り二荒山・寺ケ崎・歌ケ濱・上野島	三・五〇	三・五〇	三・五〇
千手ケ濱往復	六・〇〇	五・五〇	一・〇〇
同行	九・〇〇	八・五〇	三・〇〇
名所廻り菖蒲ケ濱往復	五・五〇	五・〇〇	一・〇〇
同迂回	七・〇〇	六・〇〇	二・〇〇
湖水一週	一〇・〇〇	一〇・〇〇	三・五〇
元口菖蒲ケ濱往復	三・〇〇	三・〇〇	一・〇〇
湯ノ湖行	三・五〇	三・五〇	一・〇〇
大名所廻り二荒山・歌ケ濱・寺ケ崎・上野島・白岩・赤岩・菖蒲ケ濱	九・〇〇	八・〇〇	三・五〇
一時間貸切	六・〇〇	七・〇〇	二・〇〇

客待二〇分以上一時間以內賃金の五割增

使用船　一五人乘乃至三五人乘モーター船一一隻あり、一時に二五〇名迄乘船出來る。

二荒山神社中宮

男體山の麓、中禪寺湖の北岸風光明媚の勝地にある。日光二荒山神社の別宮で、木殿拜殿共に江戶時代の建築である。木殿の右側に勝道上人開山の碑があり、此の碑の傍に男體山表登山口がある。【中禪寺】中宮祠から大尻橋を渡つて一粁許り、幸の湖の東岸勝景の地にある。延曆年間勝道上人の創建と傳へる天台宗の梵刹で、もと中宮の西隣にあつたが明治年三五年今の地に移したものである。木尊千手觀音像は勝道上人自ら桂の立木を以て造られたと傳へ、俗に立木觀音と呼び、高約五米半（一丈八尺）國寶に指定され、阪東十八番の札所になつて居る。▲歌が濱は中禪寺前の湖畔で、勝道上人が丸木舟を造り、此處に來て苦行せられた時、天人下りて歌謠せられたので歌ケ濱と呼ぶと云ふ。

男體山

中禪寺湖の東北に優美な火山性の裾野を引き、湖面を拔くこと一二一三米、海拔二、四八四米の圓錐形の偉大なる山容を空に聳え、其西に幾ゆる白根山と共に湖面に美しい山影を投じて居る。關東の名山として知られ、また日光諸山の重鎭で、二七方粁の面積を占むる標式的のコニデーで、山頂には直徑約八〇〇米の半圓形の火口がある。火口はカルデラをなし、深き二〇〇乃至三〇〇米あり、火山灰、砂、礫其他火山岩屑が堆積して居る。火山の外側は四方に規則正しき傾斜をなし、頂上に近い處は三〇度以上に及び、下るに從つて緩傾斜となつて居る。

登山路は凡そ四つあるが、中宮祠から登るのが最便利である。開山期は五月五日から一〇月二五日迄で、登山者は山の維持費として一人一〇錢の納金を要する（團體には割引あり）、七月一七日から八月七日迄は山頂に電話を設ける外、途中所々に賣店、給水所等が出來る。古來登山者は嚴重なる潔齋をなして參拜したもので、今にその遺風が殘て居る。毎年八月一日から一週間行はれる登拜祭が夫れで、表參道から登るものは中宮祠の社前に於て、また裏山の志津から登るものは出張の神官から登るものは必ず祓を受けなければ登山を許されない事になつて居る。先づ中宮祠社務所に祈禱料として一人金五〇錢を納め、社殿に參拜すると、登山路の門を開けて呉れる。道は頂上へ殆んど直線的で相當急に感ずる。中宮祠から頂上迄約七粁、約三時間半を要する。三合目と五合目に休憩小舍があり、此の間は針葉樹に白樺の混じた美しい林で五合目から上は岩石と木の根が露出して少しく道が惡くなる。途中には水の湧出して居る所がないから登山口で準備する必要がある。頂上に二荒山神社があり大己貴命を祀り、その西に太郎山神社があり味耜高彥根命を祀り、八合目瀧尾神社に田心姫命を祀つて居る。此の三社を總稱して奧社と云ふ。

山頂の眺望は頗る廣濶で、白根山を始め奧日光及奧上州の重疊たる山峯を眺め、脚下には中禪寺湖の靑碧を俯瞰し、遠く富士、秩父、關東平野などの眺望が勝れて居る。頂上から道を北にとり、大眞名子山との鞍部へ下ると志津小舍に出る。約六粁、一時間位。小舍から東南にうりゆう坂、深笹の河原を經、裏見の瀧を見て清瀧へも日光町へも下りられる。また志津小舍に一泊すれば樂に興味ある男體裏山の山旅が出來る。（略圖參照）

〔中禪寺湖畔の旅館〕　蔦屋（電中宮祠五、室四七、一泊三、四、

五、六圓、團體宿泊一圓半―二圓半、米屋（電一、室一八、團體收容一二〇人、㊐五圓）、伊藤屋（電七及三三、室二七、團體收容二百人、㊐三圓半）、和泉屋（電三、室三二、團體收容一七〇人）以上一泊三、四、五、六圓、團體一泊一圓半乃至三圓。レーキサイドホテル（電二、洋式、三食付一人室七圓―一四圓、二人室一四圓―二八圓、食事料朝一圓半、晝二圓半、夕三圓、㊐八圓）。

日光湯元温泉　栃木縣上都賀郡日光町湯元。

▲中宮祠から戰場ケ原を經て一三粁六、自動車で三五分、貸切四圓、乘合一人七〇錢。前八・三〇―後六・三〇、一日一往復。

地は海拔約一、五五〇米、西に白根山、北に溫泉岳、東に三ツ岳の峯巒を繞らし、南の一方開けて湯の湖の青藍に面し遙に男體山の偉大な山容が仰がれる。溫泉は湯の平を略南北に貫いた一線に沿うて湧出し、裸湯・河原湯・緞子の湯・中の湯・御所湯・瀧湯・姥湯・笹湯・荒湯・自在湯蓼の湯・鶴の湯等と稱され、緞子の湯は明礬を多量に含む硫黃泉で溫度五五度、眼病に特效があり、其他の湯は何れも硫黃泉で四〇度乃至六五度、胃腸病・皮膚病・リウマチス・花柳病・婦人病に效がある。

〔旅館〕南間ホテル（電日光湯元二番、和室四五、一泊三圓―八圓、洋室三圓、㊐五圓）、板屋（電同三、室二七、一泊三圓―六圓、㊐四圓）、釜屋（電同五、室二二、一泊二圓―五圓）、渡邊（室七、一泊二圓―五圓）、米屋（室七、二圓―五圓）、宮川（電同七）、湯の家（電同六）。

戰場ケ原・湯の湖　中宮祠から西に、さく〳〵とする燒石積や木下蔭を行き湖畔を進めば約四粁で、菖蒲ケ濱があり、此處に帝室林野局日光出張所附屬の「鱒の養殖場」がある。此處から北に二粁半許り、龍頭の瀧を經て、坂を登れば「戰場ケ原」に出る。原は海拔一、四〇六米、廣さ八・八三七平方粁の平原で、附近一帶花菖蒲とあやめが大群落をなして美しく、また九七〇餘種の高山植物がお花畑をなして居る。昔、二荒神、赤城の神と戰つて勝ち、戰勝の宴を此處に催して唄ひ且つ踊つたと云ふので斯く呼に至つたと云ふ傳說がある。原の一部に淺く水を湛へた關迦沼（あかぬま）がある。男體火山の一熔岩が湯川の上流を堰き止めて造つたもので、熔岩に躍つた水が龍頭の瀧の壯觀を生み、沼の埋れた廣野が戰場ケ原である。原の眞中に三本松があり、道は此處で二つに岐れ、右は西澤金山へ通じ、左は湯元道となり、二粁許り進んだ所に、左湯瀧道の木標がある。「湯瀧」は木道から岐れて半粁程の所にあり、湯の湖の水が直下すること一三〇米の大瀧で、三名瀧に比肩する名瀑である。「湯の湖」は所謂閉塞湖で、石英質岩を基底とする溪谷が、太郎山の熔岩流に堰き止められて出來たもので、前白根山の東麓、峯巒重疊の中、海拔一、五四三米の處に水位を保つて居る。湖は南北凡一粁、面積〇・二五方粁で、あまり大きくないが東岸に兎島半島の翠巒を浮べ、其風景は寧ろ中禪寺湖に勝つて居る。湖底は概して淺く、最深一三米半で、排水口の西北僅かの所にある。水溫は夏季中禪寺湖よりも幾分高く、水は黃色を帶びた綠色で九號乃至十號である。排水口は南端にあり、岩石に堰かれて二つに分れ後合して湯瀧となつて居る。湖中に鱒、鯉、鮒多く產し、遊客の食膳を賑して居る。冬期は約半米位の厚さに結氷し好スケート場となり又湖畔數ケ所にはスキー好適のスロープがある。積雪平均一米位。湯の湖を左に見て進めば湖の北岸に日光湯元溫泉がある。

湯の湖の鱒釣は湯元溫泉の入口にある林野局出張所で許可を受ける。期間六月一日から九月一五日迄、料金半日二圓、一日三圓。鱒釣船は半日一圓、一日二圓。湖上遊覽ボート一時間五〇錢。

日光湯元溫泉から白根山は一日行程としてよく、又金精峠を越えて奥上州の菅沼、丸沼へは一二粁、噴泉塔八丁の湯を經て川俣溫泉迄は二〇粁である。

川俣溫泉　栃木縣鹽谷郡栗山村川俣。海拔一〇二六米、日光湯元溫泉から金田峠を越して約一六粁、徒步六時間位。地は鬼怒川水源に近い峽谷で男體、帝釋等の峻嶺に取圍まれ、溫泉旅館は鬼怒の溪流に臨む仙鄕にある。溫泉は瀧の湯（五一度）地藏湯（五四度）とあり、クロールナトリウム含有泉で婦人病一切、ヒステリー・神經痛・リウマチス・外傷性諸障害等に效がある。

附近に八丁の湯・噴泉塔・鬼怒沼の絶景地等があり、その探勝には普通此處を根據地として居る。

川俣溫泉から鬼怒川の溪流に沿うて川治溫泉、藤原、鬼怒川溫泉に至る四〇餘粁に亘る裏日光一帶、卽ち鬼怒川峽谷は四山の山紫水明なること、春は新綠に野州花、夏は釣魚に舟遊、秋は觀楓に、冬は狩獵にと都人士一泊の清遊には實に絕好の地である。殊に此の間の紅葉は日本一と云はれる。紅葉期一〇月上旬から一一月上旬迄。

八丁の湯　川俣溫泉から鬼怒川上流を溯つて右岸の林道を約三粁で夫婦淵があり、此處で左岸に渡ると急に二〇〇米許り手白山からの尾根に登り手白澤の落合に下つてまた本流に出て川原を行くと八丁の湯がある。川俣溫泉から約一〇粁。此處に野天の浴槽が一つあり、營林署建設の小舍があり、キヤムプなどに適して居る。

鬼怒沼　八丁の湯から約四粁半、鬼怒沼山頂から約六〇〇米許り下にある。沼は南北に狹長な美しい濕原をなし、小さな一二箇餘の沼池が點在して居る。高山原始湖で、鬼怒川の源をなして居る。鬼怒沼山（海拔二、一四一米）頂上は木立で眺望がないので、普通登山者は此處を頂上として居る。

湯澤の噴泉塔　日光湯元の北二〇粁、川俣溫泉への途中、西澤金山から岐れて八丁の湯への途中、湯澤の溪谷にある。金山から七粁。西澤の溪谷には溫泉が處々に湧出して硫黃が沈澱して居る。噴泉塔は圓錐形をなし、本流左岸の縣崖に四個、左岸に注ぐ支流の吐口に近く二個ある。前者は出來ぬが、後者は出來る。前者四個の噴泉塔中最大のものは底部直徑約一米、高さ六〇糎位、現に頂上の噴孔から溫泉が溢流し、塔は生長しつゝある。他の三個は夫よりも著しく小さく、溫泉は噴出して居ない。支流にある二個の噴泉塔中大なるものは底部の直徑及高さ共に約三〇糎、頂上に大小二個の噴口があり大孔は熱湯の飛沫を二米餘の高さに、小孔は小球を六〇糎の高さに飛沫せしめて居る。之等の噴泉塔は主として炭酸カルシウムから成り、少量の硫黃及硅酸を混じ、內部は堅實な叢石であるが新しい外部は柔かで容易に粉末となる。之等の物質を沈澱せしめる溫泉は無色透明で、硫化水素臭あり、微鹹味を帶びてアルカリ性反應を呈し、溫度攝氏九四度ある。いま天然紀念物に指定。

川治溫泉　栃木縣鹽谷郡藤原村川治。東武電車今市驛から下野電鐵で新藤原驛まで二八分（一六粁二）、四一錢、それから溫泉近くの高原迄約八粁、自動車二五分、乘合片道五〇錢往復八〇錢（前七・一五―后六・一五迄七回）、貸切五人乘二圓。省線今市驛から貸切自動車五〇分、五圓。鬼怒川溫泉から約一一粁、貸切二圓。

地は日光・高原兩山の間に介在する小盆地で、西方鬼怒沼に發する鬼怒川と、北方會津境に發する男鹿川の落合ふ地點にありて、岩石と水流の奇に富み所謂山紫水明の鄕である。溫泉は仙巖岳の下河岸の岩間から湧出するものを其儘浴槽に湛へる原始的の溫泉で、無色透明の弱アルカリ性泉、溫度五五度、玉の如く美しい創傷・眼病・胃腸病・脚氣・リウマチス・痔疾・婦人病等に效がある。

▲此處から高原山の中腹を越せば約一四粁（徒步三時間―四時間）で鹽原の新湯へ出られる、また會津街道を北へ約一二〇粁で會津若松市へ出る。五人乘貸切二五圓位。

〔旅館〕川治溫泉ホテル（一泊二圓―五圓）

湯西川溫泉　栃木縣鹽谷郡栗山村、下野電車新藤原驛から會津街道を北に約一二粁程進み、關門（此處に伴久旅館の出迎場がある）から左折、湯西川に沿ふこと約一六粁許りの所にある。新藤原驛から高原（川治溫泉附近）迄乘合五〇錢（川治の項參照）、高原から關門迄三粁餘（此處迄貸切がゆく）關門から湯西川迄人夫一圓、馱馬一圓、籠四圓。

地は湯西川の沿岸、海拔一千米の所にあり、全く夏を知らぬ別天地である。十戶許りの部落をなし、湯は川の兩岸に五ケ所程湧出して居るが旅館に內湯がない。泉質は無色透明の鹽類泉で溫度四九度、花柳病に特效があると云ひ、皮膚病・痔疾・リウマチス等にも效がある。

〔旅館〕伴久湯西川館（和室五二、一泊一圓半、二圓、二圓半、外に洋室六あり、室代二圓、自炊式室料諸道具附一室貸切一日四〇錢乃至一圓半、同入込座敷は二〇錢以上、寢具料一夜一五錢乃至六〇錢、但し九月から三月迄の閑散期には以上の五割引。館內には罐詰類及飲料水の販賣所があり、ラヂオ・テニスコート・ピンポン臺・大弓場・釣魚等の娛樂設備がある）、蟲田、金井、清水、金又等、一泊一圓半、二圓、二圓半。尙此處から山道約一五粁で前記川俣溫泉へ、約二〇粁で噴泉塔に出られる。

鬼怒川溫泉　栃木縣鹽谷郡藤原村。今市（東武電車下今市驛）から下野電鐵で二二分、三四錢。電車驛カラ二〇〇米、又は省線今市驛から一六粁、自動車三五分、乘合三五錢、貸切三圓半。

もと下瀧温泉と稱した所で、温泉場附近は鬼怒溪谷中最も風景美に富だ所で、湯の瀧の勝がある。川治温泉から川に沿ふて至る途中は春は野州花、秋は紅葉の美あり、また虹見の瀧・兎跳・五光岩・岩削橋・夫婦瀧等の勝がある。又舟遊び・釣魚・茸狩の快もある。温泉は湧出量豐富で何れも斷崖の下、岩間から湧出し、之を其儘岩窟に湛へたものや、川の眞中へ設けた千人風呂もあり、各旅館ではモーターで百尺崖上に引揚げて内湯として居る。泉質は弱黄類泉で無色透明、溫度五五度、外傷性諸傷害・胃腸病・神經痛に特效あり、リウマチス・婦人病等にも效がある。

〔旅館〕鬼怒川溫泉ホテル（電藤原二五・二六、優雅な日本間九〇バス付洋間六室、舞臺付大宴會室、大食堂、グリル、娯樂室、家族風呂、溫泉プール、全館溫水暖房等の設備が完備して居る。日本室二食付三圓―六圓、洋室八圓乃至二二圓、晝食料一圓―三圓、一品料理も調理す、㊐和五圓洋八圓）麻屋（電藤原一一・一二、室四〇、㊐二圓半）、大瀧館（電同二〇、室二七）鬼怒川館（電同六・一〇、室三〇）、星野館（電同一三、室二二）（電三一、室三七）、大出館（電五、室二五）以上一泊二圓―五圓。山水閣

白根山

日光湯元溫泉から西へ金精峠への道を約八百米程行き白根山道の追分を左折して白根瀑に沿ふて約二粁は緩かな登りである。瀑の行詰る所で右手の尾根に移り、前白根山へ登る。此の道は木の根の露出した可なり急な道で、湯元から約二時間で外山と前白根（二、三七七米）の鞍部に出る。そこから尾根を西に僅か進むと西方目の前に中央火口丘奥白根の岩峰が聳え、脚下には五色沼が光つて居る。此處は外輪山の東壁で、湖畔に下れば夏も往々雪が殘り、高山植物が御花畠を造つて居る。五色沼は前白根の西麓、海拔二、一七四米の高所にある。火口原湖である五色沼と白根山を右に見て一旦西南の尾根を下り岳薤や、はんの木の林を下つて草原に出て、そこから頂上迄殆んど一直線に岩骨を踏んで登る。湯元から奥白根頂上迄約八粁、三時間乃至四時間で上る。白根山は男體山の西北、群馬・栃木二縣の境上に位する二重式火山で、最北部第一の高山として知られて居る。最高點二、五七七米六、其頂上には中央火口と云ふべき窪みがなく、數個の爆烈火口があり、且つ東西の大きな割目が山を殆ど南北に二分して居る。その西側のお釜は物凄い程嶮しい斷崖で圍まれ、奇岩亂立し、其の間を草木で飾つて居る。此のお釜は明治五年の大爆發の址で、明治二六年にも再び遠近に灰を降らしめたがその後は烈しい活動を見ない。頂上には日光二荒山神社末社白根山神社の小祠及社務所があり、七月一七日から八月二〇日迄は乞ふて一泊する事も出來る。山頂の展望は雄大で、東に中禪寺を俯瞰し、湖の北に男體の全山容を眺め、戰場ケ原を麓にめぐらし、日光火山群の山々が一目に入り、淺間・蓼名・赤城の諸山をも指撮され、眼下に關東平野が際限なく廣がつて居る。頂上から西北に下つて血の池地獄、遠鳥居を經て白根溫泉迄約一〇粁。尚血の池地獄で右へ折れれば笑窪を經て菅沼、丸沼へ出る。

菅沼、丸沼、片品川

日光湯元溫泉から西北に行き金精峠を越して菅沼に出で、其南岸に沿ふて一粁程ゆけば湖尻は八丁の瀧となり、更に丸沼、大尻沼（湖面海拔一四〇二米最長徑一粁）の二つになつて深く彎み、夫等の畔には千古の姿が保たれ新綠及紅葉の景趣に富んで居る。是等の沼は何れも白根山の西北麓に位し、その熔岩の爲に溪流が堰き止められて出來たものである。金精峠は湯元溫泉から五粁餘、徒歩一時間半位。湯元から西北に進んで約一五分許り、白根山への分れ道迄は平坦であるが、それから漸次坂路となる。頂上近くは稍急であるが、それ以外は左程の坂ではない。標高二、〇二四米の峠に金精（男性）神社がある。峠から菅沼迄二粁七、徒歩三五分位、此の内二粁程が下り坂である。菅沼は湖面海拔一、七一九米、その形は二個の三角形と一個の長方形とを連絡した如く最長徑一、七五〇米、湖岸線は屈曲多く延長一四粁に及んで居る。水深七五米、湖周に綠樹繁茂し風景がよい。湖尻近くに菅沼森林休泊所（一泊五〇錢）がある。此處から半粁許り進み、更に二粁餘、約四〇分許り、所謂八丁瀧道の急坂を下ればやがて丸沼北岸の丸沼溫泉ホテルに着くのである。

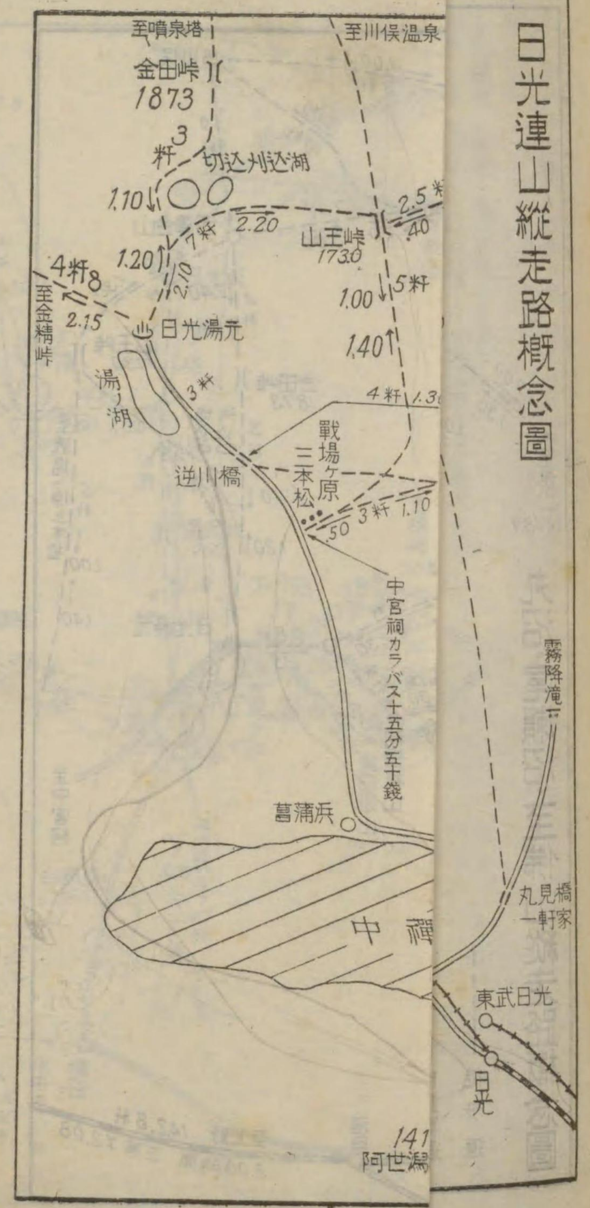
丸沼は、陸測の地圖では、湖面海拔一、四〇三米（菅沼との差三一六米）最長徑六〇〇米となつて居るが、最近發電所用ダムが丸沼の湖尻に設けられたので、水面は約二一米許り高くなり、從つて湖面積も幾倍せられ、湖畔の大木亦湖底に沒し去られ、一種荒涼たる感を抱かしめるものがある。

七瀧は赤薙女峰で圍んだ一大爆裂火口壁に懸り、猫荷川となつてゐる。近來この谷に入り込む人があつて雲龍峽など呼んでゐる。路は險はい河床を進むので何ケ所かザイルを使ふ箇所ある。クレッテライに自信のない人は入らぬ方がよい。

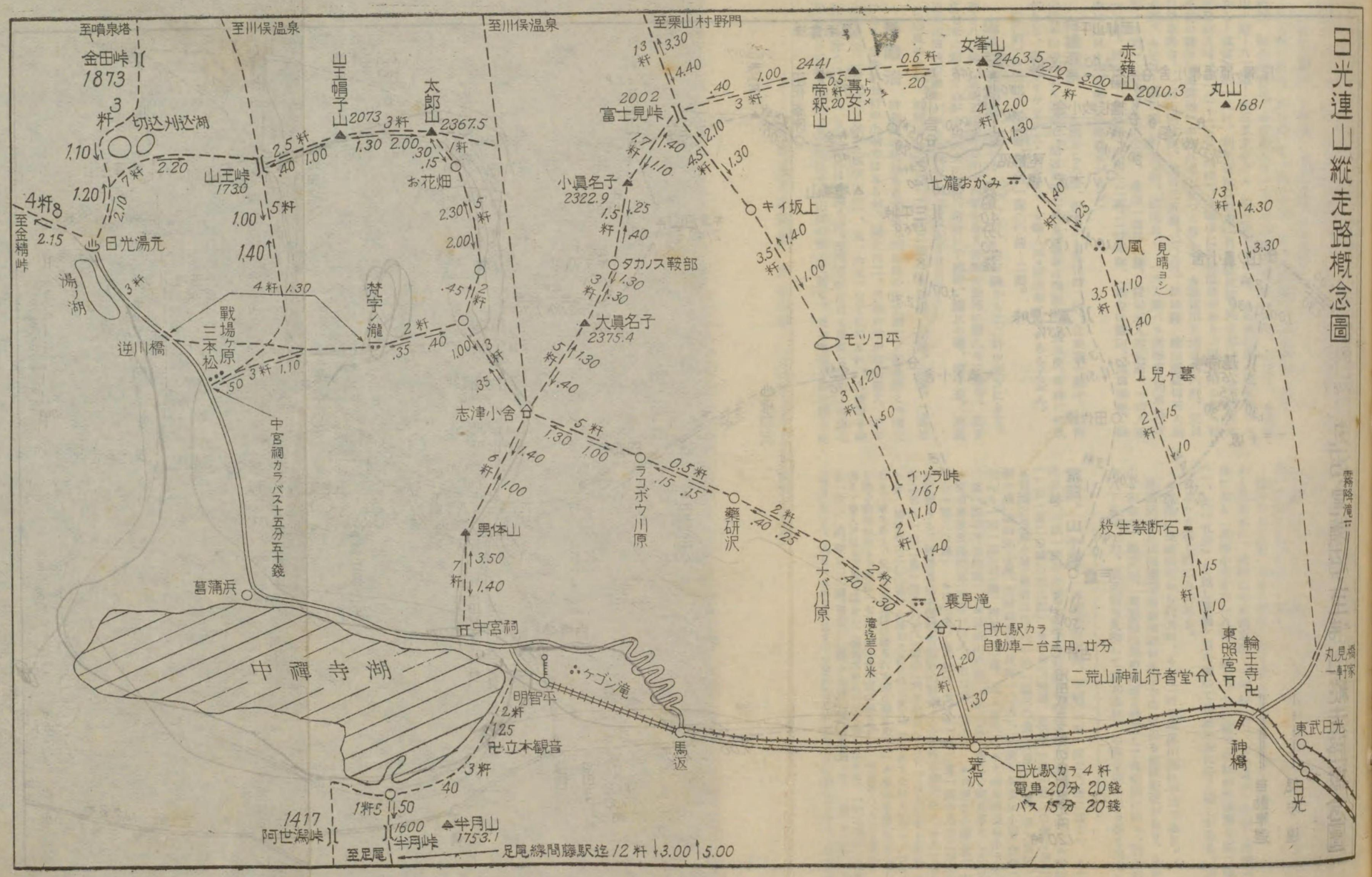
登山案内人

日光町役場内觀光課宛に豫め申込む必要がある。さもないと案内人の數が少いから時間を空費するか或は案内人を得られぬ事となるかも知れぬ。

案内料は一人一日一圓七〇錢（冬は五〇錢程）で夏は五貫目、冬は三貫目まで客の荷を脊負ふ。足代と食事宿泊料は客持である。鬼怒川は馬丁付で一日三圓。



日光連山縱走路概念圖



七瀧は赤薙女峰で圍んだ一大爆裂火口壁に懸り、稻荷川となつてゐる。近來この谷に入り込む人があつて雲龍峽など呼んでゐる。路は險はい河床を進むので何ケ所かザイルを使ふ箇所ある。クレツテライに自信のない人は入らぬ方がよい。

登山案内人

日光町役場内觀光課宛に豫め申込む必要がある。さもないと案内人の數が少いから時間を空費するか或は案内人を得られぬ事となるかも知れぬ。

案内料は一人一日一圓七〇錢（冬は五〇錢潛）で夏は五貫目、冬は三貫目まで客の荷を脊負ふ。足代と食事宿泊料は客持である。馬は馬丁付で一日三圓。

白根山　日光湯元温泉から西へ金精峠への道を約八百米程行き白根山道の追分を左折して白根瀑に沿ふて約二粁は緩かな登りである。瀑の行詰る所で右手の尾根に移り、前白根山へ登る。此の道は木の根の露出した可なり急な道で、湯元から約二時間で外山と前白根（二、三七七米）の鞍部に出る。そこから尾根を西に僅か進むと西方目の前に中央火口丘奥白根の岩峰が聳え、脚下には五色沼が光つて居る。此處は外輪山の東壁で、湖畔に下れば夏も往々雪が殘り、高山植物が御花畠を造つて居る。五色沼は前白根の西麓、海拔二、一七四米の高所にある。火口原湖である五色沼と白根山を右に見て一旦西南の尾根を下り岳樺や、はんの木の林を下つて草原に出て、そこから頂上迄殆んど一直線に岩骨を踏んで登る。湯元から奥白根頂上迄約八粁、三時間乃至四時間で上る。白根山は男體山の西北、群馬・栃木二縣の境上に位する二重式火山で、關東迄は平坦であるが、それから漸次坂路となる。頂上近くは稍急であるが、それ以外は左程の坂ではない。標高二、〇二四米の峰に金精（男性）神社がある。峰から菅沼迄二粁七、徒歩三五分位、此の内二粁程が下り坂である。菅沼は湖面海拔一、七一九米、その形は二個の三角形と一個の長方形とを連絡した如く最長徑一、七五〇米、湖岸線は屈曲多く延長一四粁に及んで居る。水深七五米、湖周に緣樹繁茂し風景がよい。湖尻近くに菅沼森林休泊所（一泊五〇錢）がある。此處から半粁許り進み、更に二粁餘、約四〇分許り、所謂八丁瀰道の急坂を下ればやがて丸沼北岸の丸沼温泉ホテルに着くのである。

丸沼は、陸測の地圖では、湖面海拔一、四〇三米（菅沼との差三一六米）最長徑六〇〇米となつて居るが、最近發電所用ダムが丸沼の湖尻に設けられたので、水面は約二一米許り高くなり、從つて湖面積も幾倍せられ、湖畔の大木水湖底に沒し去られ、一種悲壯な感を抱かしめるものがある。

丸沼・尾瀬沼・至佛山縱走路概念圖

【丸沼温泉ホテル】（群馬縣利根郡片品村）温泉入浴隨時、室數和一〇、洋三室一泊二食付一圓半、二圓半、四圓、又は室代和室一圓—二圓、洋室八圓、食事は食堂にて好みのものが出來る。定食七〇錢、其他丼物及一品料理等、㊐三圓半

【日光湯元—丸沼—沼田間の交通】

日光湯元温泉—金精峠 上り約五粁餘、徒歩一時間半。▲金精峠—清水 二粁餘、徒歩三五分。▲菅沼入口清水—菅沼山の家 約一粁半、二〇分。▲菅沼山の家—八丁瀧—丸沼温泉ホテル 約三粁、七〇分。▲丸沼北岸の温泉ホテルから—須賀川約一九粁、利根運輸自動車一日三回往復、乘合七〇錢、五〇分（丸沼發前九時、後一二・二五、四時）、（途中に自根温泉があり、須賀川の約一粁手前の鎌田は尾瀬沼への岐れ道となつて居る）。▲須賀川—追貝約八粁、追貝自動車商會、一日七回往復、乘合三五錢、二〇分。沼田驛—鎌田間貸切五人乘

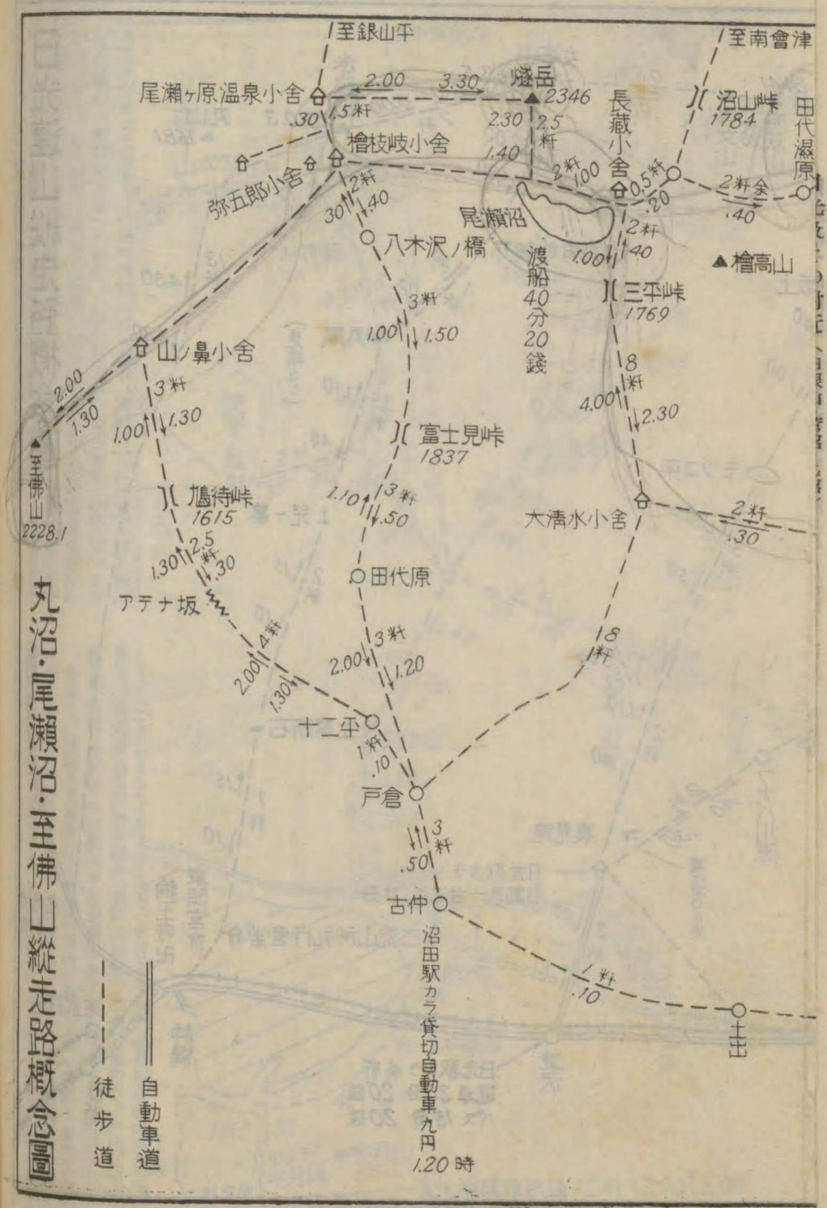
圓と温原と森林美は、關東に於ける特異な山岳美として登山者の愛好の地であり、植物景觀及生態學上見るべきものが多いと云ふ。

湖の東岸に長藏小舎がある（標高一、六六五米）、三〇人の收容力があり、小舎番常住し冬期も使用出來、物資も供給する。一泊一圓三〇錢、辨當二〇錢

沼田驛—追貝—須賀川—鎌田約三〇粁、自動車乘合一圓二五錢、貸切五人乘七圓、此間片品川に沿つて瀕る。

鎌田から土出、古仲の部落を經て約八粁で戸倉に着く（案内人あり）、此處から道を右に、荷鞍山の東麓を經て三平峠（一、七六九米）を越し尾瀬沼の東岸に出る（長藏小舎まで一八粁）道と、左に進で荷鞍山の西麓を經て鳩待峠（一、六一五米）を越し尾瀬ヶ原を廻つて長藏小舎に行く道とがある。後者は前者よりも遠く約二八粁ある。

▲燧岳は長藏小舎から約五粁、うち二粁の沼尻川迄は平坦である。



丸沼・尾瀬沼・至佛山縱走路概念圖

〔丸沼温泉ホテル〕（群馬縣利根郡片品村）温泉入浴隨時、室數和一〇、洋三室一泊二食付一圓半、二圓半、四圓、又は室代和室一圓—二圓、洋室八圓、食事は食堂にて好みのものが出來る。定食七〇錢、其他丼物及一品料理等、㊐三圓半

【日光湯元—丸沼—沼田間の交通】

日光湯元温泉—金精峠　上り約五粁餘、徒歩一時間半。▲金精峠—清水　二粁餘、徒歩三五分。▲菅沼入口清水—菅沼山の家　約一粁半、二〇分。▲菅沼山の家—八丁瀧—丸沼温泉ホテル　約三粁、七〇分。▲丸沼北岸の温泉ホテルから—須賀川約一九粁、利根運輸自動車一日三回往復、乗合七〇錢、五〇分（丸沼發前九時、後一二・二五、四時）、（途中に自根温泉があり、須賀川の約一粁手前の鎌田は尾瀬沼への岐れ道となつて居る）。▲須賀川—追貝約八粁、追貝自動車商會、一日七回往復、乗合三五錢、二〇分。沼田驛—鎌田間貸切五人乗七圓。▲追貝—沼田驛　約二〇粁、道路良く、一六人乗バス運轉す（列車毎）所要一時間一〇分、片道八〇錢、往復一圓四〇錢、貸切五人乗五圓、一四人乗一二圓。沼田驛—丸沼間　貸切一二圓、二時間餘、（乗合は鎌田、追貝乗換、途中に追貝の吹割瀧、白根温泉がある）

白根温泉

丸沼から八粁、沼田から東北四〇粁、自動車一圓半。白根山塊の山中にある温泉で、閑寂の趣である。温泉は鹽類泉で五五度、胃病に特效があり、腦病・リウマチス・ヒステリー・婦人病・痔疾等に效があると云ふ。

〔旅館〕白根館、星田館、一泊一圓二〇錢—二圓。

追貝の吹割瀑

鎌田から一〇粁、沼田驛から二〇粁の東方にある。乘合八〇錢、貸切五圓、片品川の河床をなす岩盤の裂隙に懸れる奇瀑で、高さは七米に過ぎないが巾二六米に及び、附近に千歳橋、鱒止の瀧、獅子岩、屏風岩等追貝峽の眺めが次々に迎接して呉れる。

〔追貝の旅館〕清瀧閣（電追貝二一、㊐二圓）、大島屋、柏屋、淀屋、二圓位

尾瀬沼

群馬縣の北部をなす奥上州山塊の山上湖で、福島縣との境上にあり、周圍約五粁の小湖ではあるが、湖北に二、三四六米の燧岳聳え、その他檜高山（一、九三二米）・皿伏山（一、九一六米）などに包まれ、人煙遠き神秘境を作つて居る。又此處には長徑八粁、短徑五粁に亘る尾瀬ヶ原の大濕原を持ちその西に至佛山、東に奥日光の山脈が聳えて居る。此の尾瀬ヶ原を繞る山

日光及その附近、東北沿線（白根温泉・追貝吹割瀧・尾瀬沼・燧岳）

岳と濕原と森林美は、關東に於ける特異な山岳美として登山者の愛好の地であり、植物景觀及生態學上見るべきものが多いと云ふ。

湖の東岸に長蔵小舎がある（標高一、六六五米）、三〇人の收容力があり、小舎番常住し冬期も使用出來、物資も供給する。一泊一圓三〇錢、辨當二〇錢

沼田驛—追貝—須賀川—鎌田約三〇粁、自動車乘合一圓二五錢、貸切五人乗七圓、此間片品川に沿つて溯る。

鎌田から土出、古仲の部落を經て約八粁で戸倉に着く（案内人あり）、此處から道を右に、荷鞍山の東麓を經て三平峠（一、七六九米）を越し尾瀬沼の東岸に出る（長蔵小舎まで一八粁）道と、左に進で荷鞍山の西麓を經て鳩待峠（一、六一五米）を越し尾瀬ヶ原を廻つて長蔵小舎に行く道とがある。後者は前者よりも遠く約二八粁ある。

▲燧岳は長蔵小舎から約五粁、うち二粁の沼尻川迄は平坦である。

尾瀬沼から北に進で南會津郡の坂下方面に出る沼田街道があり、また荷腰山、赤安山、黑岩山、鬼怒沼山等の尾根を縱走して鬼怒沼に降り、約八粁下流の八丁湯に一泊、噴泉塔を見物して湯元温泉、中禪寺湖に出る事も出來る。

旅館、山小屋

▲鎌田梅田屋、千明（一泊一圓半乃至二圓半）▲土出千代田館（一泊一圓半乃至二圓半）三松館（一泊一圓二〇錢乃至二圓）▲古仲大竹（一泊一圓二〇錢乃至二圓）▲戸倉玉城屋、萬屋（一泊一圓二〇錢乃至二圓）▲尾瀬ヶ原（尾瀬沼長蔵小屋（收容三〇人、一泊一圓三〇錢、辨當二〇錢、番人常住）▲尾瀬ヶ原（彌四郎小屋、檜枝岐小屋（收容一〇人、尾瀬ヶ原温泉小屋（收容二〇人何れも一泊一圓三〇錢、辨當二〇錢、番人常住）▲丸沼丸沼温泉ホテル（一泊二食一圓半乃至四圓）▲菅沼山の家（一泊二食一圓二〇錢食事なし五〇錢）▲根羽瀧根羽瀧温泉（收容一〇人一泊二食一圓半）▲大清水小屋（收容一五人一泊一圓二〇錢）▲日光瀧ノ湯（收容二〇人一泊二食一圓半乃至二圓半）冬期も營業する、經營者栃木縣鹽谷郡栗山村大字川俣根本辰之助　▲八丁ノ湯（收容二五人一泊二食一圓半乃至二圓半）六月初旬から十一月上旬まで營業▲唐瀧の宿（海拔約二二〇〇米、女峰の八合目位に當る、風のあてないよいキャンプサイトである。水もある、又現に三人位は寢られる假小屋もある。）▲志津小屋（大黒石子と男體の間の鞍部に在る。海拔一七八五米。水の便は頗るよい。收容百人。六月上旬から九月下旬まで番人が居る。馬も通ふし、掘風呂があつて入浴も出來る。一泊毛布付五〇錢、貸毛布一枚二〇錢、朝食二〇錢、晝食三〇錢、夕食四〇錢、辨當握り飯二〇錢）▲男體山頂小屋（收容二〇人、八月一日から七日までの登拜祭中は二荒山神社職員が居る、飲水は無い）

日程	地名	発着時刻	記事
第1日	上野驛	發後 一・三〇	青森行準急行列車
	西那須野驛	着後 四・四一 發後 四・四五	自動車ニテ鹽原温泉へ
	鹽原	着後 五・三〇	福渡戸又ハ鹽ノ湯ニ一泊
第2日	鹽原温泉	發後 一三・二〇	自動車
	西那須野驛	着後 一・〇五 發後 一・二五	上野行準急行
	上野驛	着後 四・一四	歸宅

旅行費用概算

二等 一八・四四圓
三等 一一・一二

内譯（上野―西那須野―鹽ノ湯間汽車自動車往復〈備考欄參照〉及旅館一泊料二等五圓、三等三圓、食事料其他雜費ヲ計上ス）

備考

▲上野―西那須野間　三時間一一分（一四八粁一）、三等片道二圓一六錢。

▲西那須野驛カラ鹽原ヘ約二〇粁餘、自動車四五分、乘合片道一圓、往復一圓八〇錢（關東自動車會社西那須野營業所電話五番）（前七時カラ後六・五五迄九回發、二〇人乘十數臺アリ一回ノ團體輸送力二五〇名乃至五〇〇名位デアル）貸切七圓。

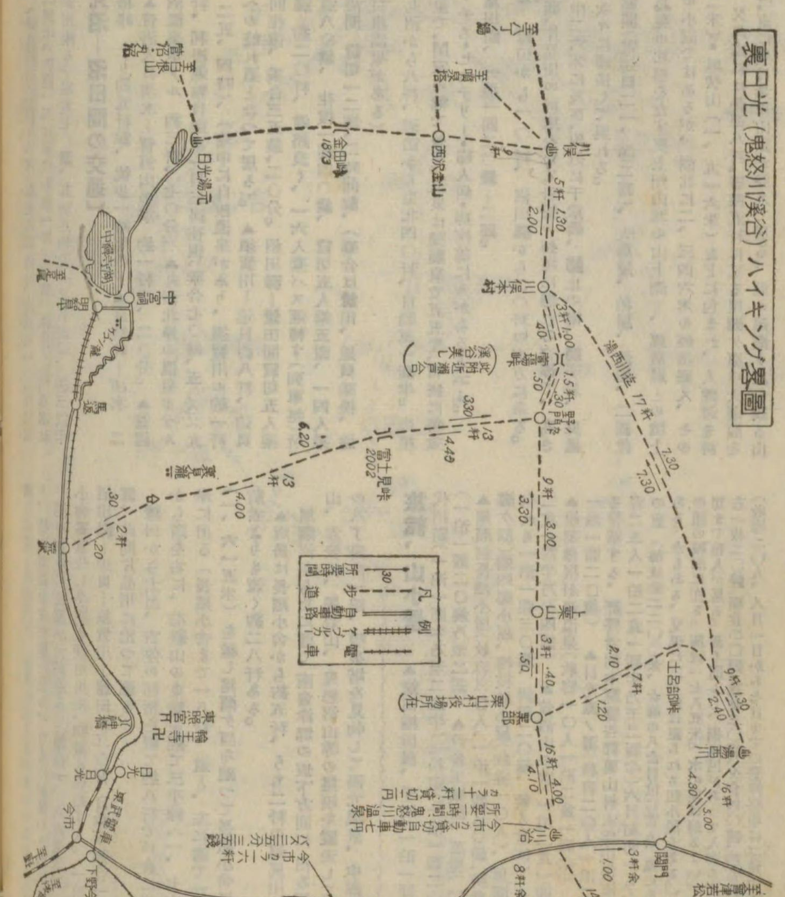
福渡戸（一七〇頁）、**鹽ノ湯**（一七一頁參照）。

出發前適宜鹽原温泉郷探勝

（參考）

【高原山】（海拔一、七九五米）那須野ノ西ニ火山性ノ優美ナ裾野ヲ流シテ、西日光諸山ト對シ、其間ニ鬼怒峽谷ヲ抱キ、北ハ日留賀岳、男鹿岳ヲ經テ那須岳ニ山ハ嶺ヲ連ネ、東山麓ニハ鹽原温泉郷ヲ抱イテ居ル。登山ニハ新湯カラ西ヘ喬木帶ヲ約四粁登ルト高原嶺ニ出ル。ソコカラ右ヘ折レテ約三粁デ山頂に達ス。山頂ハ鷄鳥山ト釋迦ケ岳ノ二峯ニ岐レ東南ハ關東平野ガ展ケ、西カラ南ヘハ鬼怒峽谷ヲ隔テヽ間近ニ日光赤薙山ヲ望ミ西北ニハ明神岳、荒海山ナドヲ望ンデ其奥ニ栗山郷ノ山々ガ連リ、北ニハ那須岳ガ眺メラレル。山頂カラ道ヲ西ニトリ約七粁半下レバ川治温泉ニ出、途中カラ左折シテ會津街道ニ出レバ鬼怒川温泉ヘ出ラレル。此高原山越ハ紅葉期ニ特ニ良ク、樂ナ興味アル山旅デアル。

裏日光（鬼怒川渓谷）ハイキング略圖



鹽原温泉郷

栃木縣鹽谷郡鹽原町。

那須野ケ原の西の涯に聳ゆる高原火山（一七九五米）と、其北方の彌太郎山（一三九一米）との間を隔てる谷の奥、箒川の沿岸に散在する一大温泉郷で、西の箱根と竝稱せらるゝ東北屈指の温泉地である。箒川は溪深く、水清く、奇岩絶壁到る所に見らるゝ山水郷で、紅葉山人の言葉の如く『道あれば水あり、水あれば必ず橋あり、全溪にして三十橋、山あれば巖あり、巖あれば必ず禪あり、全禪にして七十禪、池あれば泉あり、泉あれば必ず熱あり、全村にして四十五湯、尙數ふれば十二勝、十六名所、七不思議、たれか一々探り得べき』別して回廊橋あたりから峽底はるかに瞰下し、白雲洞潜れば、安山岩脈の柱狀節理に奇觀を呈する布瀧及材木岩を過ぎるあたり、箒川一帶の溪谷美と、春の野州花、秋の紅葉の美觀（一〇月中旬から一一月中旬迄）は都人士を惹きつけるに大きな力を有つて居る。

温泉は大網・福渡戸（フクワタ）・鹽釜・畑下戸（ハタオリ）・門前（モンゼン）・古町（フルマチ）の箒川沿ひの外、鹽の湯・須巻・新湯（アラユ）・元湯を古來鹽原十湯と稱へて居たが、近年袖ケ澤が新に展けて一湯となつて居る。泉質は新湯の硫黄泉を除く外、多く鹽類泉に屬し、含有物の多少に依て其效能にも幾分の差異はあるが、凡そ胃腸病・婦人病・リウマチス等に效がある。

西那須野驛から會津東街道を西北に進み、關屋村を過ぎると間もなく那須野が盡きて箒川の峽谷に入り、入勝橋邊から鹽原の景初まり、穴平橋・松生橋・石安戸橋・猿岩橋・境橋を渡り、九回瀧を過ぐれば、大網温泉に至る。此のあたりの對岸に聳える根本山は、春は野州花、秋は紅葉が甚だよい。大網から更に進めば河中に稚兒ケ淵を見、寒凄橋を過ぎると、白雲洞といふトンネルがある。此の邊りが鹽原の絶景の一と稱されて居る。トンネルを抜けると左に布瀧、右に柱狀節理の發達した石英粗面岩の材木岩が見える。此處から右に二百米許り細徑を登ると龍化瀧がある。瀧は三段から成り、鹽原踏瀑中壯觀を呈するもの一つである。材木岩から尙進めば福渡戸の温泉場に入り、此處を過ぎると前方に天狗岩が高くそゝり立つて居る。石英粗面岩の斷崖百米、岩上に赤松を頂いて鹽原絶勝の一に數へる。其上流河中に七ツ岩の奇勝がある。更に進めば鹽釜温泉場に入り、道の右方、高尾塀に接して一大化石を見る。之は第二紀の化石で、此の地一帶も亦第三紀末葉迄は一面の海に被はれた地域である事を示して居るものである。鹽湧橋を渡り鹽原川を左に見て其谷を上れば鹽の湯がある。此の附近は秋季紅葉の絶景を示す所である。鹽釜から箒川の本流に沿ふて溯れば、谷は稍廣くなり畑下戸、門前の二温泉を過ぎ、蓬萊橋を渡る。橋の上からは左方に七絃瀧を美しく眺め、古町を過ぎて左に小徑を進めば、源三窟の石灰洞がある。

福渡戸・鹽釜・畑下戸と、愈〻此温泉郷の中心地に來ると、谷は漸く適當に濶け、湯宿は何れも清流に臨んで眺望がよい。古町以西は太古の鹽原湖底であつて、田圃漸く濶け、兩側幾階の段丘がいかにも山間盆地の情景を濃かにする。此處まで來れば、今まで常に青巒谷を壓し、息詰まるやうな峽谷美を感じて來た身も、いかにも開放せられた樣な美の賞味の餘裕を得る事が出來るのである。

大網　西那須野驛から一七粁半、自動車四〇分、乘合八〇錢。

温泉は鹽原街道から急坂一〇〇米を下つた箒川畔の岩間に湧き石間の湯、河原の湯の二つあり、天然浴槽に浸り乍ら魚止の瀧が仰がれる。石間の湯は特に皮膚病、花柳病に效くと云ふ。

〔旅館〕大網館一戸（電話鹽原三八番、室三八、一圓五〇錢―三圓）

福渡戸（フクワタ）　大網から三粁。西那須野驛から二〇粁半、自動車四五分。地は海拔三四〇米、東北に裏山白倉山の青巒を負ひ、西南に前山を仰ぎ、箒川の清流に臨んで人家連り鹽原温泉の中心地で御用邸もその東端に設けられてある。旅館の内湯は鹽釜から曳湯して居るが、此處の溪崖から湧くものは淡の湯、冷の湯、岩の湯、不動の湯、裸の湯などがある。裸の湯は含鐵炭酸泉で子持湯とも云ひ、浴槽内に子抱き石と云ふのがある。

〔旅館〕滿壽屋（電話鹽原一番、一〇〇番、室六四、普通一泊料二圓乃至六圓、圓醴一圓半位から、㊁四圓、和泉屋（電同五・二五、室五三、㊁三圓半）磯屋（電同九、室六五、㊁二圓半）、松屋（電同三・一〇二、室四四、㊁三圓半）叶屋（電同一五、室二七）、丸屋（電同二、室二三）、坂日屋（電四〇、室一五）、牧野屋（電一一四、室一四）、以上普通一泊二圓乃至五圓、圓醴一圓半位から。

鹽釜　福渡戸から九〇〇米、西那須野驛から二一粁四、自動車五〇分。

古町方面と鹽の湯方面との分岐點で、道路に沿ふて土産物を賣る店や、茶店飲食店などが並んで居る。旅館は只二軒であるが此處に郵便局がある。箒川に帶して白倉山を負ひ、温泉は川の南岸に湧出し、北岸にある高下の器と稱し

博奕に特效があると云ふ。南岸にある熱の湯は福渡戸の旅館の内湯に現かれて居る。有名な遊女高雄の塚は郵便局の後方にある。

〔旅館〕橋本屋（電鹽原一一五、室數一〇、普通一泊一圓半乃至二圓半）。

鹽ノ湯　鹽釜から鹽湧橋を渡り鹽股川沿ひに一粁四。

西に前黑山を望み、東南に桝形山を負ひ、恰も巒の底にある樣な感じの所。旅館は鹽股川に臨んで幽邃の境を占め、紅葉の美觀最も勝色ありと云はれて居る。温泉は川岸の岩洞中に湧き冷の湯、中の湯、岩の湯などの名があり、天然の浴槽をなして居るので百餘段の階段を下つて行く。鹽股川に沿ふて上ること凡そ四粁の間には咆吼瀧・霹靂瀧・雷霆瀧・素練瀧・雄飛瀧等あり何れも鹽原七名瀑中に數へられて居る。

〔旅館〕明賀屋（電鹽原八番、一〇八番、室九四、外に洋室二、㊁四圓）、玉屋（電同七・七〇番、室七八、㊁三圓半）、柏屋（電同四、室四〇）、普通一泊料二圓乃至五圓。

袖ケ澤　鹽釜から畑下戸に至る途中から左に遊園橋を渡つて約一粁餘、箒川の清流に臨み畑下戸、門前、古町の全景を一眸に收むる風光の地にある。温泉旅館は鹽原遊園地株式會社の經營になる霞上館があり（電三三番、室一七、一圓半―三圓）、萬人風呂と稱する二つの大浴槽を設けてある。此處から山道を三〇〇米許り行けば須巻へ出る。

畑下戸（ハタオリ）　鹽釜から約三〇〇米、箒川の曲流せる所の低地にあり、浴舍は本道から見下される樣になつて居る。温泉は元の湯、鳥の湯、絡の湯、冷の湯とあり、附近に名所「普門が淵」がある。

普門は一に富門とも書き、專舟の畫法をよくした隱れた巨匠であつた。今鹽原妙雲寺に慈する涅槃の巨幅は此人の筆であると云ふ。普門ケ淵は寶永四年の昔、泥醉した普門が足踏み辷らし、深淵に陷ちて死んだ處である。普門の父はもと京都の公卿侍であつたが、主家の侍女と共に來りて此地に寺小屋を營み角兵衛、阿秋、普門の三子を擧げたのであつた。阿秋は鹽名を後世に聽せた三浦屋の名妓高尾太夫である。

〔旅館〕紙屋（電鹽原一二、室三〇、一泊二圓―五圓）、清寥樓（電同二三、室三四、一泊同上）、大和屋（電三五、室一八、一泊一圓―四圓）、塗屋（一圓半、二圓）、井桁屋（室九、一圓、一圓半）、伊勢屋（同上）。

門前　畑下戸から約一粁、蓬萊橋を渡つて、古町と連り、鹽原物資の集散地をなし、諸温泉中最も人家の密集した所で、町役場・温泉組合・小學校等がある。小松内府重盛の姨妙雲尼の開基と傳へる甘露山妙雲寺がある。温泉は中の湯、寺の湯、河原湯とある。

〔旅館〕宮田屋（電鹽原一〇、室數二四、普通二泊二圓―五圓、㊁三圓半）、坂本屋（電同五八、室一五、一圓半―五圓）、福田屋（電同四六、室一五、一圓半―四圓）、常盤屋（電五九、室一五、八〇錢―三圓）、山口屋（一圓、一圓半）、青木屋（同上）。

古町　門前の西端蓬萊橋を渡つた所、海拔四二〇米、東北に大久保狹間の連峯、西南に含下、喜十六の峯巒を繞らし、箒川の町の東を洗つて居る温泉は不動湯、旭の湯、中の湯、角の湯、御所の湯等がある。

〔旅館〕米屋（電鹽原一九、室四八、二圓―六圓、千人風呂あり）、上會津屋（電同一三、室三五、二圓―五圓）、中會津屋（電同二〇、室二六、二圓―五圓）、楓川樓ホテル（電同六、室二八、二圓―五圓）、萬屋（室九、一圓―三圓）、角屋（室五、八〇錢―一圓半）、桝田屋（室五、一圓半、二圓）。

須巻　畑下戸又は門前から箒川に架けられた假橋を渡つて約六〇米、喜十六山の半腹木立の中にある。此處の名物團子は茅の串に刺して木の葉の上に乘せて出すなど、野趣に富んで居るものである。

〔旅館〕須巻樓一戸（電話鹽原一一、室三三、一泊二圓乃至五圓）。

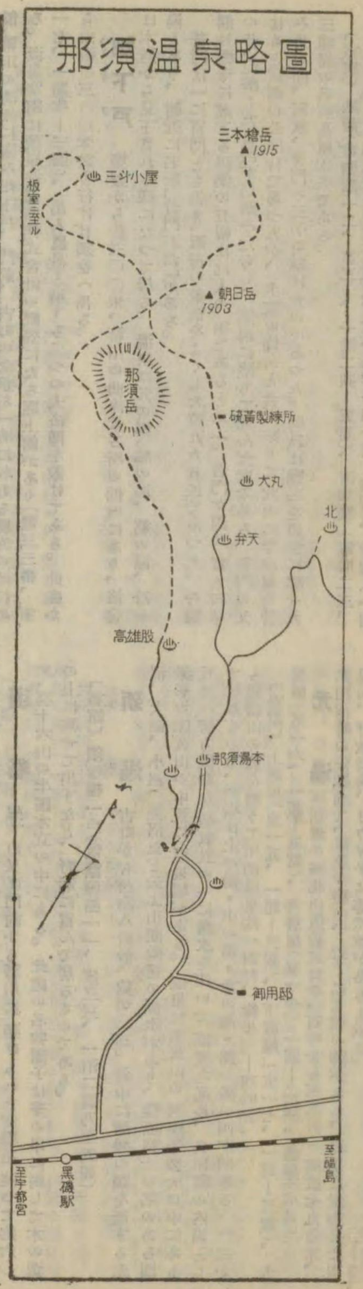
新湯（アラユ）　古町から西南八粁餘、貸切三圓。途中に鯽鰻の類を產する赤沼、大沼、菱沼など云ふ山間幽邃の湖水があり、鹽原富士の名のある圓錐形の硫黄山の中腹に温泉場がある。温泉は硫黄山の西腹爆裂火口中にある五箇の勞力微弱な噴氣孔の一に溪水を注いで温度を高め、各旅館の内湯として居るもので、浴場は上の湯・中の湯・寺の湯・絡の湯の四ケ所ある。此處から鷄頂山の麓を縫うて川治温泉迄一四粁、徒歩三―四時間。

〔旅館〕上藤屋（室一五、一圓―三圓）、下藤屋（室一七、一圓―三圓）、大黑屋（室一六、一圓―三圓）、君島屋（室一一、一圓―二圓）、龜屋（室八）。

元湯　新湯の西北山道約三粁半、古町から西八粁、海拔七九〇米、赤川河畔の猫額地で、紅葉の勝地、近くに七瀧の勝がある、温泉は炭酸泉で胃腸病、呼吸器病、リウマチス等に效があると云ふ。

〔旅館〕惠比須屋（室一八）、元泉館（室一八）、湯本館（室一〇）、一圓―二圓

那須温泉廻り日程案（東京から二日）



日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一・三〇	青森行準急行列車	▲上野―黒磯間 三時間二七分（一五九粁六）三等片道二圓三〇錢
	黒磯驛	着後 四・五七 發後 五・〇〇	下車 乘合自動車	▲黒磯驛カラ新那須温泉へ西北一六粁、自動車三〇分、乘合九〇錢、貸切五圓。同湯本温泉へ西北一七粁、自動車四〇分、乘合片道一圓、往復一圓八〇錢、貸切五人乘五圓（乘合自動車湯本發着所カラ旅館へ一〇〇米餘アル）。
	那須湯本	着後 五・四〇	新那須又ハ湯本宿泊	
第2日	那須	發後	出發前迄適宜那須諸温泉探勝。	
	黒磯驛	發後 一・三	上野行準急列車	
	上野驛	着後 四・一四	歸宅	

旅行費用概算

	三等	二等
内譯	一〇八・五〇圓	一一〇・九〇〇

（上野―黒磯―湯本間汽車自動車往復賃三等二圓三〇錢、二等五圓三〇錢、食事料金二圓、宿料一泊分トシテ二等二圓ヲ計上ス）

那須温泉

栃木縣那須郡那須村。

那須嶽の東南麓、那須曠野一帶に散布する温泉郷で、天平の昔、那須の郡司狩野三郎行廣に見出されてから千有餘年、古來有名な温泉場で、ものゝふの矢なみつくろふこての上に、霰たばしる那須の篠原に鎌倉右大臣實朝の名歌など、其昔貴紳の遊々此地に來浴せられしと傳へられて居る。古來湯本・北・辨天・大丸（オホマル）・三斗小舎・高雄股・板室な那須七湯と云つて居たが、近年八幡・旭・新那須・飯盛など新に展け、特に那須御用邸が設けられてから一層面目を改めた樣である。那須岳の雄姿な望み、那珂川の清流帶の如く山の裾な繞り、一望漢々たる曠野の景は、蓋し天下稀に見る大自然の景である。之に加ふるに、九尾の狐に絡る傳説な有する殺生石あり、那須與一に因緣深き温泉神社あり、また、晩春滴る如き翠綠の間に色取々に咲き競ふゝじ、見渡す限り萬山錦と變る秋の紅葉の夕暮の時雨に一しほ色增す風情もあり、浴泉・觀賞・登山・等々、旅行者の心を惹くべき多くの力を有つて居る。

那須火山群は、北日本中軸火山帶の盟主として、之な那須火山帶と稱せられる程の名火山で、栃木縣の北部に聳え、茶臼岳その中央に座し南に月山、黒尾谷岳、北に朝日岳、三本槍岳あり總じて那須の五峯と稱せられ、東方に美しい裾野な曳いて居る。五岳のうちで最初に活動な始めたものは、その最北の二峯卽ち三本槍及昆沙門岳な双峯とする三本槍火山及旭火山である。之等は何れも一個の成層火山で、山上處々に爆裂火口な生じ、尖峯群立して居る。之と前後して南月山及黒谷山な頂く南月山火山が生じたが、これまたその西南側の爆裂火口によつて双峯に分るゝに至つた。此の南北二火山の間には巨大なる那須迸裂火口あり、約八平方粁の面積な占め、東南に開き、那須諸温泉中板室と三斗小屋な除く外は皆この火口中に存して居る。茶臼岳は此の大火口の西北端に偏倚して噴出したもので、今日湯川の谷底等に見らるゝ火山泥流な生じ、續いて二回の熔岩流出によつて現在の主峯茶臼山な生ずるに至つた。然しこの熔岩は遠く其の末な擴ぐるに至らず、その末端は急斜面ななして終り、特に第二回目のものは主として、火口の眞上に膨れ上つたまゝ、宛然鍋な覆せた形態な呈し、鐘狀火山ななすに至つたもので、その南にある高湯山は海拔一、九一七米あり那須岳の最高點である。その後頂上東側及西山腹に特に噴煙の多い爆裂火口な生じ、此の噴氣中からは盛に硫黄な昇華するのでその硫黄な採取して居る。（採取された硫黄は主として群馬縣岩鼻の火藥製造工廠に送る。年産額一千噸）之等の光景な見學のため頂上な究めるには、湯本の宿な朝發して山道五粁半、正午頃には容易に山頂に達しうる。先づ北進して温泉神社に至り次に賽の河原に下り、殺生石の傍な過ぎ、岩塊の多い坂道な登る。それより辨天瀑な右に見て高原な西北に進み辨天大丸の二温泉な右に見て、傾斜の加はる山道な廻れば、硫黄製煉所に至る。此處は海拔一、四八〇米、東方の展望が廣い。之より明鬱瀑な左に見て茶臼朝日兩山の鞍部（一、七二五米）に達する。此處な分水界と稱し、夏季茶店が出る。茶臼岳に登るには此處から南進し、朝日岳に登るには左に取りて急峻な岩角な攀る。三本槍岳は朝日岳の登り口な右に見て北進する。何れも山上の展望は廣い。

新那須温泉　此の温泉は大正一二年大丸温泉から引湯したもので、交通の至便と眺望の佳きとな以て急激の發展な見、今日では湯本に次ぐ温泉場となつて居る。地は海拔七五〇米、背後に那須の噴煙な望み、前面には茫々たる那須野ヶ原の大曠原な俯瞰して居る。温泉は無色透明の鹽類泉で、温度五五度乃至七五度、胃腸病・婦人病に效く。

〔旅館〕　山樂（電一三・三八、室六四、普通一泊三圓、四圓、五圓六圓、㊐四圓）、靜觀樓（電一七、室一六、三圓乃至五圓）。

湯本温泉　新那須から約一粁登る。那須諸湯の物資集散地で、諸般の設備もよく整ひ、那須温泉と云へば主として此の湯本な指すのである。地は海拔約一千米、那須岳は北一帶に繞り西南は遠く開けて眼界頗る宏濶、殊に一〇月中旬からの紅葉の大觀は高原特有の眺めである。温泉は無色透明の酸性硫黄泉で、温度七六度、俗に天然六〇六號の稱があり花柳病・皮膚病・腦病・神經諸病・眼病・リウマチス等に效がある。

此處には草津と同じく時間湯の浴法があり温泉街から約半粁程離れた湯川の溪にある鹿の湯が泉源で、各旅館の内湯は何れも之から曳いたもので、此の泉源へ行くのな「元湯通ひ」と呼んで居る。湯たゞれな治す爲には別に喜樂湯

と云ふのがある。附近には日蓮上人に因緣深き曉初庵、つゝじの名所の東公園、温泉神社、殺生石などの勝地がある。

〔旅館〕小松屋（電話那須二番から八番迄、室一六五、㊐三圓）、松川屋（電同九、一〇、一一、室一六五、㊐三圓）、清水屋（電同一二三、二四、室五七）、松屋（電同一二五、二六、室三〇）、立花屋（電同一八、室四九）、常盤屋（電同一六、室三七）、河内屋（電同三六、室五一）、和泉屋（電同三五、室三八）、中藤屋（電同一二、室三四）、若松屋（電同三五、室三七）、室井屋（電同六五、室二八）、荒木屋（電三〇、室三）、以上普通一泊料一圓半乃至二圓半、特別四圓乃至六圓。

〔附近名所〕▲殺生石　湯本の北二百米許り、那須岳の噴生火山御殿山の東麓、湯川の溪谷に面する處にある、石は黝色を呈する輝石安山岩の大塊で、此の附近南北一二米東西八米の間に盛にガスを噴出する硫氣孔の表面に横つて居るものである。その爲附近の岩石は著しくガスに作用されて分解し、灰白色を生じ、且つ玉蔥の皮の如く剝脫し或は全く分解して土砂となつたものもある。此處には硫烟が昇騰して居ないが、硫化水素の臭氣が粉々として居る。噴出のガスの性質及種類は明でないが、小禽獸や昆蟲類が瓦斯に中つて石の四邊に死んで居るので、古來この石に毒ありとせられ、今も四邊に柵を設けて近よるを禁じ、芭蕉翁の句碑「飛ぶものは雲ばかりなり石の上」が建つて居る。

八幡温泉　湯本から殺生石の傍を過ぎて二粁、那須高原の中央にあり、展望那須諸温泉中第一、特に附近一帶は晩春つゝじに掩はれる。温泉は大丸から引湯したものである。〔旅館〕五十嵐館（室數一七、一泊一圓半—三圓）。

北温泉　湯本から八幡を經て北四粁半、余笹川に枕み、那須第一の紅葉郷である。温泉は目の湯・天狗の湯・相の湯とあり弱鹽類泉で湧出量豐富、温泉プールなど設けられ、中には見上るばかり高い懸崖から湯瀧になつて居るものもある。泉温五五度乃至六五度、小兒病・不姙症に特効があると云ひ、リウマチス・胃腸病・腺病・ヒステリー・眼病などにも効く。〔旅館〕旭屋（室數七〇）。八幡から二粁餘、北温泉への途中から左折する。泉質は鐵泉で、北温泉旅館と同一館主の經營で、自炊が主である。冬季休業す。

旭温泉

辨天温泉　旭から約一粁、湯本から西北三粁半、温泉は無色透明の炭酸泉と含鐵酸泉の二種あり、湧出量頗る豐富で到る所に湧出し、内湯の外プール、湯瀧もある。此の湯は又「仕上の湯」とも云ひ、湯本温泉の湯爛を大概一週間位で治すと云ふ。夏は避暑、冬はスキーによい。胃腸病・貧血・ヒステリー等に効がある。〔旅館〕小林屋（電一五番、室數四五、一泊一圓半—三圓半）

大丸温泉　湯本から西北四粁、辨天から北六百米、北温泉へ一粁六、那須獄の中腹白土川の岸に枕む。湯は溪流の斷崖から湧出し泉量の豐富なことは驚く許りで、内湯に引かれた殘餘は皆溪流に灌がれ、其の量の多きと高温の爲め入浴に適する川と化し、盛夏の頃、枝を交えた蒼樹の下に、自然の浴槽に憩る氣持のよさは到底他に求められない。泉質は鹽類泉で五〇度乃至七五度。腎腸病に特效がある。〔旅館〕大丸（電一四番、室三四、一泊一圓半—三圓半）

湯本から西北十二粁、高林村三斗小舍。那須最奥、最高（海拔一四〇五米）の温泉で茶臼岳と朝日岳の分水界を越して行く。牛の背によるも米三斗以上の重量品を運搬する事出來ぬので此の名があると云ふ。地勢開濶展望頗る壯快、氣候冷涼で六月上旬頃櫻の花開く。此附近は明治戊辰の役に官軍兩軍が殊死して戰つた古戰場で、此處から福島縣の甲子温泉へは一六粁、那須岳の頂上へは二粁である。泉質は鹽類泉で温度四八度、花柳病に特効があると云ふ。〔旅館〕大黑屋（室數一九）、煙草屋支店（室一一）一泊一圓半以上。

三斗小舍温泉

高雄股温泉　湯本から西北二粁、那須獄登山の裏道に當り、海拔一千百米。東南は展けて那須野ケ原の眺めがよい。温泉は硫黃泉で、四三度、皮膚病、腦病に効くと云ふ。〔旅館〕葭屋（室數六、一泊一圓半以上）。

飯盛温泉　湯本から約五粁、最近開拓された温泉で、風光の美が勝れて居る。旅館は飯盛館一戶（室二、主として自炊制で、冬季は營業を中止する）

郭公温泉　湯本から六粁、大丸から一粁、那須岳旅館一戶（室四、一圓半以上）

坂室温泉　高林村板室字鹽躍。黑磯驛の西北二〇粁半、自動車五〇分、乘合一圓三〇錢、冬期三回、夏期七回、貸切六圓半。

那須の一峯黑谷山と男鹿岳との裾合、那珂川上流の谷合にあり、他の温泉と離れて一墺をなし、交通路も別となつて居る。地は湯川の溪流に沿つて居り、那珂川に合流する邊の景色は紅葉の頃最もよい。温泉は鹽類泉で温度三九度、夏季の外は加熱するが、リウマチス・神經諸病・中風に特効あると云はれ、婦人病、胃腸病にも効くと云ふ。

〔旅館〕大黑屋（室三七）、加登屋（室三二）、二井屋（室二二）、米屋（室數一九）、江戶屋（室一一）、一泊一圓半乃至四圓、晝食付は五〇錢乃至一圓增。

宇都宮市　上野から急行四時間（二二三粁）、三等二圓九七錢。

栃木縣の中央に位し、田川に跨つて居る。平野の眞中にあるとは云ふものの北に八幡山の丘陵を負ふので市全體が緩かな傾斜をなして居る。もと戶田氏一二萬石の城下で古來奥羽に通ずる要路であつた。今縣治の中心で、人口八一、三八八（昭五・一〇調）、附近に歩兵第一四師團司令部が置かれ、米・麥・製麵・干瓢・石材・木片織を產し、殊に干瓢は地方代表の名產で年額二百萬圓に及ぶ。

宇都宮は宇都宮宗圓の築城した處である。宗圓は藤原房前の裔、道兼の曾孫であるが、叡山に入つて得度し、石山寺の坐主であつたが、前九年の役源義家に從つて奥州に下り、宇都宮に於て朝敵調伏の祈禱をなし、凱治まつてのちその功により下野國守護職となり（康平五年）弟兼仲の子宗綱の代から宇都宮氏を稱するに至つた。子孫二七代に傳へて關東の豪族であつたが國綱の時慶長二年豐臣秀吉のために沒收せられ、淺野長政代つて本城に治し、のち蒲生秀行一二萬石に封ぜられて大いに城郭を修築して市街を拓いた。爾後奥平氏（慶長六年）、本多氏（元和五年）、阿部氏（元祿一〇年）、松平氏（寬永二年）の諸氏を經て安永三年六月戶田忠寬の城下となり明治維新に及び、戊辰の役兵燹に罹つて廢城となつた。

〔旅館〕白木屋本店（傳馬町、驛一粁、電二一三二、室一七、二圓—三圓半）、白木屋支店（川向町、驛前、電二一二六、室二五、同上）、丸井屋（小袋町、驛半粁、電二四八九、室二五、二圓—三圓）、藤江屋（驛前、電二六一九、室二四、一圓半—三圓）、清水屋（驛前、室二五、電二八〇五、同上）。

〔遊覽順路〕驛—清巖寺—二荒山神社—縣廳—蒲生神社—八幡山公園—大谷觀音—驛。以上、貸切自動車にて二時間半位。▲貸切自動車一時間二圓、半日（五時間）八圓。▲乘合自動車　驛—新石町—軍道間運轉、一〇錢、凡一五分毎。▲タクシー市内五〇錢均一。

〔名所〕▲二荒山神社（國幣中社）　驛の西一粁七、市内馬場町臼ケ峯と稱する丘上、杉森のうちにあり乘合自動車の便がある、六分、一〇錢。豐城入彥命を祀る古社で、下野國一ノ宮として鎌倉時代に尊府の崇敬厚かつた處である。境内公園となり眺望よく、櫻樹が多い。毎年一月一五日と一二月一五日の春渡祭、冬渡祭には神輿の渡御があり賑はひ、五月一五日には圓舞祭があり地方農民が社前で田植踊を演ずる。一〇月二一日には大祭を行ひ、その附祭として一〇月二八日、一九日の南日には古式の流鏑馬神事が催される。▲蒲生神社（縣社）驛の西北約二粁、市の北端八幡山の中腹にあり、蒲生君平を祀る。君平は宇都宮の人で有名な勤王家、寬政三奇人の一人で、文化一〇年江戶に歿し、谷中臨江寺に葬れた。▲宇都宮城址　二荒山神社の南半粁餘、釣天井の傳說のある處で今は市の公園となつて居る。▲八幡山公園　市の北端にある丘陵で頂上の見晴がよい

大谷觀音　驛の西北約八粁四、河内郡城山村大谷にあり、自動車一五分、片道二五錢（七時—五時迄一時間毎）、貸切五人乘一圓半、往復二圓。宇都宮附近第一の名勝地で、丘陵の岩窟内に十體の佛像を半肉彫で現はして居る。西に面する壁面には千手觀音の立像があり、高さ約四米、相好圓滿、衣紋の線が頗る暢達にして且つ雄健で平安朝時代の作風を現はした堂々たる石佛で、天開山大谷寺觀音堂（天台宗、弘法大師の開基と傳へられてゐる）の本尊になつて居る。中にも大谷石佛はその大なるものに屬し指定の史蹟である。

尙附近には屏風岩、天狗投石などの巍峨として岩石並列し洞窟も多く風景奇絕、野州妙義と呼ばれて居る。つゝじ及紅葉の季節は更に美觀を呈する。〔料亭〕磐水館（室一一）。

須賀川の牡丹　福島縣岩瀨郡須賀川町。東北本線須賀川驛の東南約三粁三（毎年五月一〇日頃から同月末日迄の開園期間中には各列車毎に乘合自動車がある、往復三〇錢。貸切は一圓）。

牡丹園は柳沼氏の個人經營で、今を距る約二〇〇年前の明和年間に植えられたものと云ふ。園内の老樹六〇〇若木を合せて三、〇〇〇株を越え、その種類も二〇〇種以上を算へると云ふ事である。その古いものは幹の周り七寸、高さ一丈に及び一株の花よく三〇〇を付けるものがある。見頃は五月二〇日前後。入園料一〇錢。

〔旅館〕虎屋（電須賀川一五、驛一粁五、一泊二圓、三圓、料理兼業、旅館前迄乘合の便あり）、八木屋（電同三九、驛前）。

郡山市　上野から急行四時間（二二三粁）、三等二圓九七錢。

福島縣の中央、安積平野の東部に位し、陸羽街道の要衝を占め、磐越東線、同西線の分岐點をなし、近くは水郡線の基點となつて居る。福島縣下第一の商工業地で人口五一、三六七（昭五・一〇）、附近に有名な安積開墾地がある。市内の繁華區は柳内で、大町通は商業の中心をなして居る。

此の地は阿武隈低地帯南半中央部の彎曲盆地底に位し、その西方には廣く平野の發達を見るが、用水の不足に禍せられて昔から不毛の地とされ、二本松藩の一屬領としてその產業の見るべきものがなかつたが、明治六年安場縣令が開墾組合「開成社」を創立して荒野の開墾を企て、次いで明治一二年政府自ら六〇〇萬圓の巨費を投じて開拓に從事し、同一五年長き四八粁、遠く猪苗代湖の水を曳く安積疏水を完成して五〇平方粁に灌漑し得るに至つたので、此處に米產の豐庫開け、次いで東部電力會社が此の水の落差を利用して沼上發電所を起してその電力を郡山に送り、製糸紡績製藥等諸種の工業を起すに及んだので農產工業二重の收穫を與へたので市況頓に活潑となり、日露戰爭前には人口一萬二千にも足らず、白河は勿論須賀川にさへ及ばなかつたものが、現在五萬一千を越え、既に福島・若松を凌いで縣下第一に位するに至つた。工場の主なるものは東邦製鑛工場（高南）、仙臺鐵道局工場（小田原町）、日本紡績工場（麓山町）、片倉製糸岩代製糸場（原田）、名古屋紡績郡山工場（長者町）、小口組製糸所（田中）、橋本製糸所（清水臺）、地方專賣局（大槻）等で其他農事試驗場（神明町）、商工會議所、公開堂等がある。

〔旅館〕木村屋（電一七、驛前、二圓—三圓半）、布袋館（電四五、驛前、二圓—三圓）、太田屋本店（電五六、驛三五〇米、二圓半—三圓半）、太田屋支店（電三〇三、驛前）、太田屋別館（電五三九、驛半粁、二圓半—三圓半）、和久屋（電一一〇、驛半粁、二圓半—六圓）、內山（電四〇五、驛前、二圓半均一）。

〔名物〕安積豆（砂糖豆）、花いかだ（煎餅）、花かつみ（手巾）。

〔廻遊順路〕驛—麓山公園（驛の西約一粁）—公會堂—開成山公園（西二粁九自動車三〇錢花の名所、競馬場）—安積神社（縣社、驛の西半粁）—大町—北町—柳內—驛。以上貸切自動車にて約二時間、料金四圓。自動車半日貸切一〇圓。

福島市

上野から準急行列車で六時間餘（二六九粁二）、三等三圓四七錢。急行列車で五時間。

福島縣の東北部、福島盆地の中部、阿武隈河岸に位し、交通の要衝に當り、福島縣行政金融の中心をなして居る。福島盆地は阿武隈構造谷底中、更に一段陷沒した部分であつて、其の表面は四圍の山地から流されて來た壤土に厚く被覆せられ、信夫・伊達二郡に屬する所謂信達平野をなし良田廣く開け、且つ河岸の砂地には桑園到る處に繁り、養蠶業の盛な點でも全國屈指の地位を占め、近年はまた梨・櫻桃等の果實もなか〳〵多く產出されて居る。

市は實にこの盆地を中心として發達した町で、もと信夫（しのぶ）と云ひ、信夫國造の始めた處である。然し古來大藩の成立を見ず、伊達、蒲生等の爭奪の巷となり、德川の末には羽藩板倉氏三萬石の城下をなし明治維新に及んだが、その位置東北交通の要衝に當つて居たため、諸雄の爭奪の的となつたものであらう。廢藩の後は此處に縣廳を置かれ、地方行政の中心となり、加ふるに養蠶業の急激な勃興は、生絲、繭の取引を盛ならしめ、東北有數の商業都市たらしむるに至つた。卽ち明治一三年、東北最初の銀行が出來、東北唯一の日本銀行支店、六縣唯一の高等商業學校のあるのも此處である。今や漸くその勢力を郡山市に奪はれんとして居るが、尙、福島羽二重・共同生絲・山十組製絲・日本紡績・福島生絲・鐘ケ淵紡績・日本絹撚等の工場があり、人口また五二、五二九（八・一〇・一調）を有し若松及び郡山と鼎立の姿を保つて居る。

市の北郊には信夫山あり、南東に阿武隈川の流れを隔た辨天山と共に、福島市の風致を濃かにし、また吾妻火山群の諸峯は平野の西遙かに雄然と聳え、一切經山の南東斜面から煙を噴くのを見ることもある。河原左大臣の歌に因んだ傳說で名高い信夫文字摺も市の東北四粁餘の山麓にあり、信夫草の模樣を染出した絹ハンカチは福島土產の第一とされて居る。

〔土產物〕梨、櫻桃、信夫文字摺（絹手巾）。

〔旅館〕福島ホテル（榮町、驛二〇〇米、電八九〇、室三五、一泊三圓）、辰巳屋（榮町、驛前、電三〇九・三一六、室二五、三圓）、藤金本店（中町驛四〇〇米、電二〇四、室一八、二圓半）、藤金支店（榮町、驛二〇〇米、電二〇三、室二〇、二圓）、福島館（榮町、驛前、電六二六、室一五、二圓）、平松館（榮町、二五〇米、電一一八・一〇〇一、室二三、二圓半）、芳晴館（榮町、三〇〇米、電六三、室一二、二圓）、島屋（榮町、二五〇米、電一〇八、室二八、一圓八〇錢）、大平館（置賜町、四〇〇米、電五五三、室一四、二圓）、西屋（六町、四〇〇米、電二四、室二〇、二圓）、其他。

〔遊覽順路〕黑岩遊覽空道—辨天山公園—紅葉山公園—中央公園—麓山神社—岩谷觀音堂—信夫文字摺—福島公園—辨天山公園—驛。以上貸切自動車にて約三時間位。▲貸切自動車六圓。市內五〇錢均一。

〔名所〕▲信夫山　驛の北約一粁半、自動車五〇錢、市の北方に屹立し、海拔二七三米、石英粗面岩から成る。驛前から福島電車で岩谷觀音前下車（約一五分）、西に進めば直ちに山の東麓に達する。此處に岩谷觀音があり、江戸時代の三三觀音その他の磨崖佛がある。此處から山麓に沿ふて、約一粁西に進めば山の中腹に信夫公園があり、福島市街を一眸の裡に收め、吾妻火山、阿武隈の流れを望んで風景がよい。これより更に北へ登ると寺山の東面に藥王寺があり、その東北谷山の絕頂に信達二郡の總社羽黑神社がある。▲文知摺石　驛の東北約六粁、自動車一五分、乘合二〇錢、貸切一圓二〇錢。電車文知摺通停留所の東方約二粁半、岡山村山口の觀音寺境內にある。石は大なる花崗岩で、もと山腹にあつたのであるが、源融（ミナモトノトホル）と虎女のロマンス以來、麥の青葉を以て石面を摺ると相思の人の面影が見られると云ふので、それ等徒輩のため、近傍の麥圃は被害甚大、農夫等困じて一夜石を下へ突き落したのだと云ふ。今柵を廻らしてある。源融（河原左大臣）は貞觀六年中納言を拜し、陸奥出羽按察使を兼た人で、奥州探勝の途すがら山口の里（文知摺觀音のある所）に足を止め、村長の娘虎女と假の契を結んだのであつた。百人一首で有名な河原左大臣の戀歌「みちのくの忍ぶもじすり誰故に、みだれそめにし我ならなくに」は遙に己を慕ふ虎女に贈て慰めた歌と傳へて居る。文知摺石は此の歌によつて名高く、傍に芭蕉翁の句碑がある。こゝから丘を登ると觀音堂の前、亭々と聳ゆる老杉の下に、明治初年に建てられた河原左大臣の歌碑がある。また丘上には五智如來を安置する多寶塔がある。

靈山（リヤウザン）

福島から電車で掛田（二〇粁、一時間一二分）または伊達驛前から電車で掛田（一二粁、四〇分）に至り、それより靈山神社を經由するものを表參道とする。掛田から神社まで東北約六粁、自動車二〇分、乘合二五錢（一日五回）貸切一圓半。福島驛から貸切五人乘片道五圓、往復八圓。福島から三二粁六、自動車一時間、乘合一圓（一日五回）、貸切片道六圓、往復一〇圓。靈山神社は靈山支城の一なる古屋館（コヤダテ）の山上（伊達郡靈山村大石）にあり、明治一四年の創建で北畠親房、顯家、顯信、守親の四公の靈を祀るもので、明治一八年四月別格官幣社に列す。例祭四月二二日、秋季大祭一〇月一〇日。北畠顯家は建武中興の際、陸奥守に任ぜられ、義良親王（ノリナガシンノウ）を奉じて多賀の國府に下向して奥羽の鎭撫に當つたが、足利尊氏の叛くに及び因緣結して國府に止まる事能はず、延元二年伊達行朝及靈山寺の衆徒を賴んでこの山に移り居館を構へて居た。靈山神社から表參道を南へ下り、祓川の溪谷に沿ふて登ること約六粁で靈山の山頂に達する。

靈山は片麻岩、花崗岩等から成る阿武隈高原の東北部に聳ゆる玄武岩質の奇峯で、その頂上はむしろ高原狀をなすが、西の斜面は火山集塊岩の奇峯によつて絕壁をなし、妙義三山にも准らふべき奇勝を連ね、福島盆地を縱貫する東北本線の車窓から遠望しても直ちにそれと認め得られる。山頂の集塊岩は甚だしく風化浸蝕を受けて所謂奇岩怪石をなし、稚兒ケ岩、神樂岩、慈覺大師學問岩、物見、獼猴、五百羅漢、蟻戸渡、突拔岩等々。眺望また甚だ大で史に、景に、訪ふべき所尠くない。山は海拔八五〇米。貞觀年中慈覺大師がこの山を開いて靈山寺を建立したと傳へ、靈山寺建立の時勸請された日枝神社の遺址があり、こゝに日枝の小祠がある。その小祠の東に當つて靈山寺址と推測せられて居る所があり、また小祠から南方に進めば國司館址と傳ふる遺址がある。こゝに靈山城の碑があり、また小祠から南方に進めば國司館址と傳ふる遺址がある。こゝに靈山城の碑があり、「顯家公木丸蹟」の標柱が建つて居る。

飯坂溫泉　湯野溫泉

福島縣信夫郡飯坂町。

福島縣伊達郡湯野村。

飯坂と湯野とは摺上川を挾んで兩者相對し、十綱橋を以て連絡し、交通緩闊は兩者同一である。

▲福島驛から九粁八、自動車で二五分、乘合三〇錢（前七時半—後七時迄三〇分毎）、五人乘貸切一圓五〇錢。電車（飯坂西線）で三〇分、賃一八錢、三〇分毎。

▲伊達驛から四粁四、自動車一五分、乘合二〇錢（列車ごと）、五人乘貸切一圓。電車（飯坂東線）で一五分、賃一四錢、三〇分毎。

飯坂溫泉は海拔一二〇米餘、緩傾斜の高原、信達平野の西北隅に位し、三方は丘陵に圍まれ、只東南に遠く田圃が展け、その東北側を繞つて南に流るゝ摺上川の淸流を隔て東岸の湯野と相對し、十綱橋によつて相結ばれて居る。浴樓は概ねこの深峽の岸に臨んで軒を列れ、或はその支流赤川の谷に臨んで特殊の景觀をなして居る。

溫泉は約百ケ所の泉源を有し、多く鹽類泉に屬し何れも

無色透明で、溫度は五〇度乃至六〇度、リウマチス・婦人病・胃腸病・骨折・痔疾等、殊に鯖湖・透達の二湯は婦人病に效くと云ふ。〔特色〕療養並に行樂向。

湯野溫泉は摺上川を挾んで飯坂に對し、十綱橋によつて交通して居る。家の造りから泉質・效能等全く飯坂と同一である。

飯坂の溫泉は透達湯、鯖湖湯を中心とする湯澤と、十綱橋畔の波來湯筋、瀧野湯筋、赤川筋と、川上約二粁の郊外にある天王寺溫泉とに區別せられ、湯野溫泉は十綱橋畔の湯野と外に摺上川の上流約二粁の穴原とに分れて居る。此湯泉郷のうち瀧野湯筋と、湯野の浴樓は摺上川の岸畔から上へ上へと寸地を求めて建て列ね、清流に影を映じて一の畫景を形成して居る。これを對岸から望むと何れも三層四層の高樓であるが更に表通りから見れば、普通の平屋又は二階建である。それで往來の方から入つて行くと先づ四階に入り夫から三階二階へと下りる樣に出來て居る。瀧の湯筋や赤川筋の旅館は都人士向の代表的旅館許りで「遊樂の巷」の感があり、赤川湯は川を挾んで五、六軒の旅館が塊り合ひ、谷には朱塗の橋が架けられ、四邊の翠色に照應して繪の如き情緒を漂らせ、また萬人風呂などがある。しかし鯖湖湯、透達湯の二つの共同湯を中心とする一區は湯治客ばかりで賑はひ、いかにも田舍の湯宿といふ感じを與へる。穴原と天王寺は川を挾んで相對し、小倉山の翠を負ふて風光美しく、夏季此處に涼を求めて來るものが少くない。此處から摺上川の上流六粁許り、白鬼、瀧野のあたりは溪流の美特に勝色を呈して居る。

〔旅館〕（瀧野湯筋）花水館（電飯坂三・一一二・一一三、室二六。㊁五圓）、角屋（電同六、室二〇、㊁四圓半—六圓）。（赤川筋）泉州閣（電同九、室一七、一泊同上、貸切湯あり）、赤川屋（電同一〇、室一五、㊁三圓半、普通一泊同上、）、金瀧（電同八、室二一、一泊同上）、其他。

〔湯野〕稻荷屋（電飯坂三六・一三六、㊁三圓半、貸切湯あり、普通一泊三圓均一）、龜屋（電同一三五、一泊三圓）、湯野屋（電五一、二圓半—三圓半）、泉屋（電三七、一圓七〇錢、二圓半）、橋本館（電二七、二圓半、三圓）、新松葉屋（電一一六、同上）、綿屋（電一一七、二圓—三圓）、東館（電七四、二圓、二圓半）、清水館（電一六一、一圓半—二圓半）、信夫屋（電一三七、二圓—三圓）、清瀧館（電七三、二圓）。〔穴原〕泉屋（二圓半、二圓）、吉川屋（一圓半—三圓）、惠比須屋（一圓—二圓）。〔天王寺〕立花屋（㊁食付二圓—三圓）、おきなや（同上）。〔湯澤〕中村屋（二圓）、油屋（一圓二〇錢—二圓）、堀江屋（同上）。〔波來湯筋〕田村屋（二圓）、立屋（一圓三〇錢）、蔦屋（同上）、平野屋（一圓半）（以上何れも內湯あり）其他。ますや（㊁三圓半）。

〔名所〕▲大鳥城址 十綱橋の西約一粁半、館山にありいま鵬（おうとり）公園となつて居る丸山々上の平地で、平泉の藤原氏全盛の當時、その將佐藤基治が信達の二郡を領して築城した所と云ふ。かの有名な佐藤繼信、忠信の兄弟は此の基治の子等であつて、父に代つて義經の部下に加はつたのである。然るに義經西征の途中、繼信は屋島に斃れ、忠信はその後吉野に於て主人に代り、義經二度目の東下りの時には二人共其行に欠けて居た。また基治もやがて頼朝の軍を迎へて、今の金谷川附近に戰死したのであつた。今飯坂の醫王寺には基治父子の墓及義經由緣の寶物がある。▲醫王寺（新義眞言宗）飯坂の醫王寺には基治父子の墓及義經由緣の寶物がある。▲醫王寺（新義眞言宗）飯坂の南約二粁福島電車西線醫王寺前停留所の西約半粁、平野村鯖野にあり。佐藤氏の菩提所で、基治夫妻及繼信、忠信の墓がある。▲西根神社 十綱橋の東約半粁、湯野村にあり。〔名物〕飯坂納豆、十綱織、家寶餅、文字摺。

藏王山 羽前、陸前、磐城の三ケ國に跨る古來の靈山で、熊野岳（海拔一八四一米）から弧線を描き、東南の刈田岳（一、七五九米）に至る環狀を外輪山とし、更に五色岳（一、六七四米）を中央火口丘とする二重火山藏王岳と、其南方に接して口を開いた大爆裂口を有する屏風嶽（一、八一七米）及馬の神山（一、五八五米）、後烏帽子山（一、六六六米）一帶の南藏王火山とからなつて居る。五色岳の西腹には御釜と稱する火口湖がある。直徑約三〇〇米の圓形をなし、中に綠絲色の溫泉を湛へ、時々その水を奔騰させまた泥土を噴出することがある。

藏王山麓には山形縣にも宮城縣にも一大溫泉郷が形成されて居る。其の麓にあるものは遠刈田、青根、新湯、鎌先、小原、秋保の溫泉があり、西麓即ち山形縣側にあるものは赤湯、上の山、藏王高湯等である。

藏王山麓一帶は好スキー場として喜ばれて居る。雪質も良く、スキー季節は一二月下旬から三月下旬迄で、初心者よりは山岳スキーに適し、遠刈田、義々溫泉を根據として藏王山へのスキー登山に興が多い。

〔登路〕東北本線白石驛及大河原驛からと、奥羽本線山形、金井驛及上の山からの二方面がある。登山期七月—九月。

「白石・大河原口」白石驛から西北二二粁（自動車五〇分、乘合七〇錢）、大河原驛から西二二粁五、（自動車四五分、乘合七〇錢）で遠刈田溫泉に達し遠刈田溫泉から刈田岳頂上迄一三粁、登り六時間下り三時間位、比較的容易である。途中約九粁の所に新道小舍（義々溫泉から約一粁）があり、登山期中は小舍番が居て、橋錢とか登山料などを徵して居る。此處から約一粁で賽の河原に出る。そこからは藏王の連山が一眸の裡に集る。

「山形・金井口」金井驛から東一一粁（自動車五〇分、八〇錢）、山形驛から一六粁（自動車五〇分、八〇錢）で藏王高湯溫泉に達し（二一四頁參照）、高湯から熊野岳まで七粁、熊野岳から刈田岳迄は稍平坦な道で一粁餘ある。上り三時間下り二時間。

「上の山口」上の山から刈田岳まで二一粁、途中九粁の永野迄自動車が行く貸切二圓半、永野には案內人が居る、案內料二圓。永野から頂上迄は約一二粁稍急で上り四時間、下り二時間半位を要する。

山頂熊野岳に石室があり、刈田岳には刈田嶽神社がある。山頂の眺望は類る雄大で、東には阿武隈川の下流が見下され、海上には遙かに松島、金華山を望み、仙臺の市街は手に取る樣に見える。西は山形盆地に山形市、上の山溫泉などを俯瞰し、北に月山、鳥海山などが望まれる。

鎌先溫泉 宮城縣刈田郡福岡村。東北本線白石驛から西約八粁一、自動車二〇分、乘合三〇錢（一日六回）、貸切五人乘一圓半。

上野—白石間準急行にて約六時間二〇分（三〇三粁三）、三等三圓八三錢。

地は翠巒四圍、閑寂の境で、昔から奥羽の藥湯と云はれ、効能が卓越して居るので有名である。溫泉は炭酸鹽類泉で、四九度、腺病、神經痛、リウマチス特に創傷に卓効があると云ふ。

〔旅館〕一條（室七五）、木村屋（室四〇）、最上屋（室四八）、鈴木屋（室三二）一泊二圓位。

小原溫泉 刈田郡小原村、同上白石驛から西南約九粁一、自動車三〇分、乘合四〇錢（一日五回）、五人乘貸切二圓。

地は白石川の清流に臨んで景色がよい。溫泉は鹽類泉で五四度、神經痛・婦人病・特に眼病に効くと云ふ。

〔旅館〕桂屋、泉屋、枕流閣。

附近に大正一三年分湯した鎌倉溫泉がある。旅館 內城屋、高橋屋。

遠刈田溫泉 刈田郡宮村、同上白石驛から二二粁、自動車五〇分、乘合七〇錢（一日八回）、貸切五人乘三圓半。別途東北本線大河原驛から自動車四五分、七〇錢（二一粁五）、或は仙南溫泉軌道により一時間四〇分、賃五〇錢。

地は藏王山の東麓に位し、東南に青麻山を望む海拔三三〇米、松川の左岸にある。四境翠巒を繞らす閑靜な一區ではあるが脂粉の香も相當漂つて居る。溫泉は鹽類泉及炭酸泉で四三度內外、腦病・胃腸病・リウマチス等に効がある。

〔旅館〕我妻、遠藤、村上、佐藤、三浦屋、大小室、中野。

青根溫泉 柴田郡川崎村、同上白石驛から西北二九粁、自動車一時間二〇分、乘合一圓（一日四回各急行列車に接續）、貸切五圓、遠刈田溫泉から約六粁、自動車一五分、三〇錢。同上大河原驛から二八粁、自動車一時間五分、賃一圓（一日七回）貸切五圓。

山形から笹谷峠を經て四〇粁、自動車通ず。

地は花房山の中腹海拔五〇〇米、西に藏王山を負ひ、東南は遠く開けて仙臺附近から松島、金華山までも見渡され、眺望の雄大な事我國溫泉中稀に見る處である。溫泉はアルカリ性鹽類泉で四九度、神經諸病・胃腸病・婦人病・眼病に効くと云ふ。

〔旅館〕青樹閣（丹野七兵衛、電話青根局呼出、室六一、一泊二圓半、自炊一日一圓、㊁二圓半）、不忘閣（佐藤仁右衛門、室六一、一泊二圓、自炊一圓㊁二圓半）、不忘館（室三〇、二圓）、名號館（室三〇、一泊二圓。

藏王山へは此處から一二粁あり、その登山根據地となつて居る。

峨々溫泉 柴田郡川崎村、遠刈田から西北上り八粁一、駄馬二圓、籠二圓。

地は海拔約八〇〇米、藏王山中の仙境にあり濁川に沿ふて居る。溫泉はアルカリ性鹽類泉で胃腸病、婦人病、皮膚病に効がある。

此處から藏王山頂まで七粁一、上り三時間、下り一時間半位。登山案內料一圓。

〔旅館〕竹內（室四〇、一泊一圓半、自炊一日五〇錢以上）。

松島
大谷村
利府村
石巻湾
野村
櫻渡戸
白坂山
姉取
雷ケ森山
瓦焼場
浜田
岩井島
賀
吉津
離島
塩釜神社
塩釜町
玉川
網尻
牛生
要害
多賀城村
八幡
宮八幡
高砂村
高砂神社
飯野川
女川
石巻
北上川
田代島
網地島
金華山
鮎川

藏王山及仙山交通路圖
山形市
上山町
蔵王高湯
蔵王山
熊野岳
刈田岳
五色沼
南面白山
二口峠
笹谷峠
有耶無耶温泉
作並
今宿
仙台
仙台市
青葉山
宮城
城
北上川
名取川
広瀬川
凡例
温泉
自動車道路
其他の遊覽路

松島

松島町　大谷村　利府村　七ヶ濱村　多賀城村　高砂村　塩釜町　松島湾　石巻湾　塩釜湾　野蒜村　小野村　浦村　宮戸村

松島群島　九島　五大堂　瑞巌寺　富山　新富山　松島公園　雄島　伊勢島　桂島　柏木島　寒風澤島　仁王島　馬放島　離島　多聞山　代ヶ崎浜　君ヶ岡　毛無島　月浜　大浜　室浜　宮戸島　東名　大塚　古浦　手樽　高城　新橋　櫻渡戸　白坂山　沸取山　番ヶ森山　瓦焼場　浜田　岩井島　吉津　濱賀　塩釜神社　玉川　網尻　牛生　要害　東宮浜　明神社　八幡宮　八幡　菖蒲田濱　松ヶ浜　望崎　賞島　御殿崎　鴻ヶ島　高砂神社　亀岡　野蒜　鷗山　中下　浜市　蛇島崎　丸山崎　錢神　館ヶ崎　大上崎　石浜崎　月浜島　船入島　唐戸島　上波島　木ノ島　寺山　花淵浜

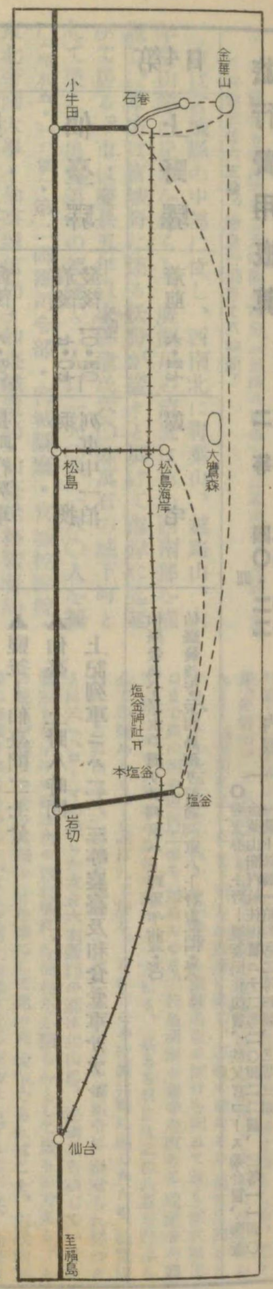
松島海岸附近略圖

新富山　瑞巌寺　円通院　五大堂　雄島　松島公園　松島海岸　至仙台　至東京

仙台附近略圖

至青森　至石巻　至中新田　至新庄　至福島　至東京　至仙台　至盛岡　至山形　至秋田　至大船渡　至釜石　至宮城野　至塩釜　至石巻　至鳴瀬川　至北上川　至女川　至荒浜　至名取川　至阿武隈川　至白石川　至大河原　至亘理　至福島　至郡山　至米沢　至山形　至新庄　至秋田　至盛岡

松島及金華山遊覽日程案（遊覽券利用東京から四日）



日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一〇・二〇	本線廻リ青森行 準急行列車 車中一泊	▲上野—福島—仙臺八時間三七分（三四八粁五）、三等四圓二五錢。 「註」上記列車ニハ二、三等寢臺及和食堂車ガアル。 ▲仙臺—鹽釜間汽車二九分（一五粁一） 「註」仙臺—本鹽釜間宮城電鐵（三〇分、二五錢）ノ便アルモ、クーポンノ契約コース外ニナツテキル。
第2日	仙臺驛	着前 六・五七 發前 八・〇五	乘換	**鹽釜**（一八五頁）、**松島**（一八六頁參照）。 ▲鹽釜—大鷹森—松島間（秩父宮コース）汽船ニテ約四時間、賃六一錢（但七月—九月ノ休日ニ限リ一回發）、貸切モーター船八圓。（一八八頁參照）。
	鹽釜驛	着前 八・三四	鹽釜行列車 鹽釜神社參拜後松島へ	
日	松島	着後	松島遊覽 宿泊	松島ノ旅館、白鷗館、觀月樓、東洋館。

第3日	松島海岸驛	發前	宮城電鐵
	鹽釜港	發前 八・〇〇	石巻合同汽船
	金華山	着正午 一三・〇〇	表廻リチナス
	金華山	發後 三・〇〇	汽船
日	鹽釜	着後 六・三〇 發後 六・四〇	下船 長町行列車
	仙臺驛	着後 七・〇七 發後 一〇・五〇	乘換 列車中一泊
第4日	上野驛	着前 六・四七	歸宅

▲松島—鹽釜間　宮城電鐵ニテ一四分、賃二五錢（但クーポン契約ナシ）

「註」前七時發八時鹽釜着ノ松島灣汽船ノ便アルモ不定期ニテ五人以上ノ乘客アル場合ニ限リ運航ス

▲鹽釜—金華山間　石巻合同汽船ニテ四時間（二六浬）普通賃片道三等一圓五〇錢、二等二圓二五錢、就航船二四噸乃至八三噸（第一金華山丸）船。

金華山（一八八頁參照）。

▲金華山宿泊ノ場合ハ黄金山神社應接所ニ獻膳料ヲ納メ、宿泊スルコトヲ申込ミ、案内人ヲ頼ンデ燈臺見物ニ行ク。燈臺ハ島ノ東南端ニアリ往復四時間位ヲ要ス。翌朝新禱ノ後裏廻リノお山めぐりヲスル、全行程二〇粁、所要五時間位。

▲金華山—鹽釜間石巻合同汽船デ三時間半（毎日）、二六浬、三等一圓五〇錢、二等二圓二五錢。

▲鹽釜—仙臺間二七分

▲仙臺—上野八時間

上記列車ニハ二、三等寢臺及和食堂車ガアル

仙臺發後八・五〇水戸廻リノ列車ハ上野着午前六・五〇

仙臺發後七・三五福島廻リ普通列車ハ上野着前四・五六

旅行費用概算　三等　四〇・二二圓　二四・〇二

内譯
○遊覽券＝上野—鹽釜間往復賃、秩父宮コース乘合賃、鹽釜—金華山間汽船往復賃ニテ二等二〇圓二二錢、三等一一圓〇〇錢ト松島一泊料（夜具代）二等四圓、三等三圓、食事料其他費用トシテ概算七圓ヲ計上ス

仙臺市

上野から急行列車で六時間三四分（三四八粁五）、三等四圓二五錢、急行料三等六五錢。準急行列車で八時間。

市は宮城縣の中部に位し、西南北に青葉山、越路山、大年寺山等の丘陵を繞らし、廣瀨川の清流は市の西南部を灌漑し、東方は宮城野に連る沃野が廣々と展けて海岸に迄延びて居る。市は慶長五年以來伊達氏六〇餘萬石の城下町として築えた奥州第一の都會で、人口一九〇、一八〇人を擁し（昭和五・一〇・一）、第二師團司令部・宮城縣廳・宮城控訴院・東北帝國大學・仙臺遞信局・仙臺鐵道局・仙臺稅務監督局・仙臺地方專賣局・仙臺鑛山監督局・その他高等の學校を置かれ、また商工業盛んに行はれ、縣治の中心となつて居る。

伊達氏が此處に築城する以前は宮城野に續く荒涼たる原野で國分莊と呼ばれて居た。鎌倉時代の初め千葉介平常胤の五男五郎胤道、宮城郡國分莊を領し青葉城を築き、國分を姓として子孫相續したが、能登守盛氏に至り嗣なく、天正五年伊達政宗の叔父（伊達晴宗の五男）彦九郎盛重を養嗣子としたが政宗と不和を生じ、戰ひ敗れて盛重は羽後秋田に奔つた。政宗は天正一九年以來玉造郡岩出山城に居たが、慶長五年（紀元二二六〇年）青葉城を修築し（同七年竣工）初めて府城と爲した。そして古來城の邊に千體の佛があつたので千體城と號したが後千代と改め、のち三度改めて仙臺とした。その後市街は漸次擴張されたが、この最初の配置は大體に於て現今まで維持され芭蕉の辻を中心として四方に連つて居る。

伊達政宗は實に仙臺の開祖であり、また東北の雄であつた。かれの生地は米澤盆地の一角であつたが、長く池中のものたるを欲せず、弱冠にして仙臺の山信達の野を席卷し、磐梯山下に芦名氏を滅して會津を收め（天正一六年、二二歳の年）、田村を助けて中通地方に勢を張り、早くも東北地方に大をなすに至つたのは政宗尚少壯の頃である。只憾むらくは地の利を得ず、梟雄豐臣の早くも天下に號するに會し、その鋒鋒を北方に避くるに至りつゝも、尚大崎の沃野を脚下にその領五八萬石、二〇餘郡に達したのである。青葉城は天嶮廣瀨川を外濠とし、天險青葉山を本丸とし、その一側を龍の口の深峽に護らしめ、經ケ峯、愛宕山、大年寺山等に社寺を設けて事ある時の分派堡とし、また彼の開いた——追波川に注いだ北上川を仙臺灣に通じ、石巻の港をその河口に開いたのも、その北上川の下流から松島灣と廣瀨名取の河口を列ねて遠く阿武隈川口まで貞山堀の運河工事を始めたのも、松島灣頭の舊寺を改めて瑞巌寺を建て、桃山式の大建築の豪華を誇つた一方にも、事ある日には之に兵馬を貯ふる企てを祕めたものと云はれて居る。されどその位置北奥に偏したため、鷹翼國内に張ろに由なく、關南の雄志また遂に德川幕府の鎖國令に禍せられ終つたとは云へ、ローマに使した支倉六右衞門の墓は北山に、海國兵を談じて一世を驚めた林子平の碑は市の西北隅に、今尚何をか語らんとして居るのである。その政宗が雌伏の後の雄飛の計を胸にして開いた城下であればこそ、近代的產業に特筆すべきもの少く、また交通上何等自然の要衝たらざるに不拘、仙臺は今に至るまで東北第一の大都市として政治學藝の中心をなし、その石巻は今尚榮え、貞山堀は今も水運を助け、彼の定めた街區は今も仙臺の郊外に及んで居る。寛永三年從三位權中納言に任ぜられ、寛永一三年五月二六日（紀元二二九六年）薨ず。年七二歳。

〔產業〕英雄政宗は軍事にその非凡なる偉力を發揮すると同時に、產業にもまた心を用ひ、大崎平野を開發して米產を增し、優秀な職人を諸國に求めて織物、染物、漆器、指物、埋木細工、酒、醬油、味噌等の生產に力を盡したので仙臺平、八橋織、清酒、味噌等世に知られて居る。▲仙臺平は政宗が京都から召した織工兩國屋八右衞門が工夫して織出したもので、八右衞門織と稱して居たが、世に廣く行はれるに及んで、他地方で仙臺平と名づけるに至つたものである。その品位の高雅と地質の强いので名高い袴地用の絹織物である。▲八橋織は元祿頃の伊達風俗に由來するもので、織模樣は七五三の方形を組合せて之に松島の風景などを織出した極めて優美な絹物で、特に婦人用のものに供されて居る。▲埋木細工は古くは名取川から出たものであるが、今は市西の長倉山及越路山から掘出す。脂氣があつて特殊の色澤と品位があるので盆、茶托などに愛用されて居る。

〔旅館〕針久本店（國分町、驛一粁半、室二五、電二〇五番、一泊㊐

三圓、針久支店（驛前、電二〇六番、室二六、一泊㊐三圓）、針久別館（驛前、電一三六七、室一二、一泊㊐五圓）、芭蕉館（南町三七、電三〇三番、驛一粁、室二四、一泊㊐三圓）、瀨戸館（電六六番、國分町、一粁二、室二二、二圓半—五圓）、陸奥別館青木ホテル（電五一八番、驛前、和室二二、一泊㊐三圓）、仙臺ホテル（電二一四番、驛前、改築のため十年八月迄休業）、奥田（電三五二、驛前、室二五、一泊㊐三圓）、中村（電一〇六六、南町通、驛三〇〇米、室一四、一泊㊐三圓）、大泉本店（電六八、國分町、驛一粁半、室一一、一泊㊐三圓）、境屋（電六、南町、驛八七〇米、和室一五、洋五、二圓半—三圓、洋風呂あり）、及川（電九八二、東一番町、驛約六五〇米、室二二、二圓—五圓）、菊平（電一九、國分町、驛一粁七、室三〇二圓—三圓半）。

〔名物〕 埋木細工、堤人形、鯛味噌、九重（菓子）、鮪、八橋織、仙臺平。

【遊覽順路】 ○小廻り驛—榴ヶ岡公園—孝勝寺政岡の墓—東北帝國大學—瑞鳳殿—櫻ヶ岡公園—公會堂—仙臺城址—縣廳—商品陳列所—芭蕉の辻—驛。以上貸切自動車で一時間位、料金三圓。

○大廻り 驛—東照宮—榴ヶ岡公園—孝勝寺政岡の墓—東北帝國大學—瑞鳳殿—櫻ヶ岡公園—公會堂—仙臺城址—大崎八幡神社—林子平墓—青葉神社—支倉常長墓—縣廳—商品陳列所—芭蕉の辻—驛。以上貸切自動車で四時間位、料金五人乘八圓。

【遊覽自動車】 仙臺驛前（毎日前一〇時及後二時ノ二回）發—榴ヶ岡公園—孝勝寺政岡之墓—瑞鳳殿・瑞鳳寺—青葉城址—櫻ヶ岡公園—林子平之墓—青葉神社—支倉六右衛門之墓—縣廳前—芭蕉の辻—驛。以上一巡約一五粁、乘車見物約一時間半、下車見物六ケ所、約一時間半、料金八〇錢、外に觀覽料二〇錢を要す。

〔交通機關〕 ▲電車▼ 市内循環三分毎、賃五錢均一。▲乘合自動車▼ 仙臺驛前を基點として同主要路線に運轉し、一區五錢宛。▲タクシー▼ 舊市街五〇錢新市域八〇錢郡部一哩に付三〇錢、▲貸切自動車▼ 一時間三圓半日一〇圓一日二〇圓。

〔名所〕 ▲榴ヶ岡公園（ツツジ） 驛の東方一粁二、電車五錢、乘合自動車五錢（八分毎）。市街區の東端にあり、宮城野原に臨む小丘で、東公園とも云ふ。往時はつゝじの名所として顯はれ、元祿八年藩主伊達綱村が生母三澤初子の冥福を祈る爲に此地に釋迦堂を建立し、其南に馬場を開いて櫻を植ゑ、四民遊興の地としたもので、今樹齡二五〇年に及ぶ枝垂櫻が數十株あり花時には盛觀を極め、大正一三年名勝地に指定された。園の東方に當る地は昔の宮城野で、萩、女郎花などの生ひ茂つた處で古歌にも詠ぜられて居るが、今は第二師團の練兵場になつて坦々たる芝生の原となり、飛行場をも兼ねて昔時を偲ぶよすがもない。▲孝勝寺政岡の墓 驛の東約一粁半、宮城電鐵櫻ヶ岡停留場の西南、市内東九番町、日蓮宗孝勝寺の後にある。政岡は伊達第三代綱宗の側室、四代綱村（幼名龜千代）の生母で（戲曲伽羅千代萩で名高い乳母政岡）本名三澤初子と云ひ、伊達騷動の紛擾中に能く幼主を守護養育した。綱村は報恩のため孝勝寺に廟を造り、その冥福の爲につゝじが岡に釋迦堂を立てたが、廟は明治二年撤廢され、一二年現在の墓標が立てられたのである。▲東北帝國大學 市内片平町。もと二高構内に明治四四年理科大學が建てられたのが創りで、今は理、工、醫、法文の四學部と金屬材料研究所を備へて居る。金屬材料研究所は鐵鋼研究の世界的權威本多光太郎博士の努力の結晶として生れたもので、多數の學者が各種金屬材料の研究に從事して居る。醫學部は附屬病院と共に北四番町にある。▲瑞鳳殿 驛の西南約二粁四、乘合自動車五錢。城山續きの經ヶ峯の頂上にあつて、鬱蒼たる老杉に圍まれ、結構の美、小日光と稱せられて居る。藩祖伊達政宗の靈廟で、寛永一四年の建立である。奥院壇上には衣冠束帶を着けた政宗の木像を安置し、右側欄内には政宗に殉死した家臣一五人、陪臣五人の石塔があり、また向側には二代忠宗（感仙殿）、三代綱宗（善應殿）の廟があり、丘の中腹には瑞鳳寺がある。他の歷代藩主は多くは驛の南方約四粁半の市外大年寺山に葬られて居る。▲櫻ヶ岡公園 驛の西二粁、電車五錢、乘合自動車五

錢（一〇分毎）西公園とも云ひ、廣瀨川に臨み、青葉山に對す。縣社櫻岡八幡及市公會堂がある。▲青葉城址 驛の西南約二粁半。市電大町一丁目に下車、大橋を渡ると城門の前に出る。自然の天險によつて築城したもので前面には廣瀨川を控へ、後方には山を背負ひ遙に宮城野を一眸の下に收め、頗る要害の地を占めて居る。この城は初め千葉氏が居館を營み青葉城と呼んだが、慶長年間政宗ここに築城して以來伊達氏の本城となつた。維新後廢城となり、本丸址及その北麓一帶は今公園となり、二の丸址には第二師團司令部が置かれ、追手門はその北門となり、政宗が後水尾天皇から賜つた菊稠の御紋章は燦爛として仰がれる。▲縣廳 勾當臺通り。▲商品陳列所 （同上）。▲芭蕉の辻 驛の西一粁、乘合五錢（四分毎）辻の四隅にはもと城の櫓に似た白壁の二階建があつて異彩を放つて居たが、明治二三年頃から順次火災等で失はれ、今は只西北の一隅（共濟生命）にのみ昔の面影を止めて居る。此辻は古來市の中心と謳められ舊藩時代には天和二年の忠孝の札、切支丹禁制の札、貞享五年の捨馬禁制の札が掲示され、今里程元標が殘つて居る。此處から南北に通ずる陸羽街道筋は古來の商業地であり、東西に通ずる大町通りは現今商業の中心地で、その街道の裏側にあたる東一番町は娯樂機關備り年中雜沓して居る。▲東照宮 驛の北方二粁餘、德川家康を祀り、承應三年伊達二代忠宗が造營せるものである。縣社。例祭四月一七日。▲大崎八幡神社 縣社、驛の西北約三粁四、市内八幡町の老杉の茂つた丘の上にある。乘合自動車一〇錢、二〇分（一〇分毎）。社殿は藩主伊達政宗が應長九年に造營を初め同一二年（紀元二二六七年）落成した所謂權現造の最古のもので、桃山式の特長を遺憾なく發揮せられ、近畿地方のそれに比して却つて勝れた部分のある華麗豪奢な建築で、松島の瑞巖寺と共に東北地方に於ける桃山式建築の双美と稱され、今特別保護建造物に指定されて居る。▲林子平墓 驛の西北約四粁半、市電大學病院前下車。伊勞堂下寶洞宗龍雲院境内にある。子平は名を友直と云ひ、憂國の先覺者として蒲生君平、高山彦九郎と並稱され、寛政三奇人の一人で、深く海防の事を憂へ、海内を周遊して地理を觀察し、長崎に遊んで海外の事情を聞ひ、三國通覽、海國兵談等を著したが幕府は之を以て無根の事を誇張して賣名を圖るものとなし、寛政四年仙臺に禁錮して版木を没收した。子平は「親もなし妻もなし子もなし版木なし金もなければ死にたくもなし」と詠じて自ら六無齋と號し、翌五年幽閉中に歿した。明治一五年特旨を以て正五位を贈らる。石塔には「六無齋友直居士 寛政五癸丑歲六月廿一日 行年五十六歲」と刻んである。▲青葉神社（縣社、驛から三粁、バス五錢、一五分。市内通町にある。藩祖政宗を祀る例祭一〇月一九日。▲支倉六右衛門常長墓 驛の西北三粁三、バス一五分、五錢。市内通町光明寺境内にある。支倉常長は伊達政宗の家臣で、慶長一八年九月（紀元二二七三年）その使節として師父ソテロと共にイスパニア及ローマへ派遣された。その一行は日本人一五〇人、南蠻人四〇人と云はれて居る。途中ルソン、メキシコを經てイスパニアの首府マドリードに入り、國王フイリップ三世に謁見して政宗の書簡及贈物を奉呈し、翌年一〇月初めて羅馬に達し、法王パウロ五世に謁して政宗の書簡及贈物を奉呈し、滯留すること數年、市民權を授けられた。かくて出發後八年を經て元和六年法王の書簡贈物などを齎し具さに南歐の狀勢を報告した人である。その贈物の多くと市民證書は今尙伊達家に保存されて居る。

【青葉山】 驛の西約三粁、櫻ヶ岡公園から西に向ひ廣瀨川に架かる一一三米の長橋を渡り、第二師團司令部の正門を左に望みながら左に折れて登る。山は海拔一二三米、直下に廣瀨の清流を隔て、仙臺全市を眺め、また東方平野を越えて仙臺灣が見える。春は櫻花、秋は南蠻寺の口漧にかけての紅葉がよい。山上城址には戰利品陳列の威揚館がある。【陸奥國分寺址】 驛の東約三粁、市内木の下町、宮城野練兵場の南にある。宮城電鐵陸前原町驛の東一粁。舊址には藥師堂、白山神社があり、藥師堂は特別保護建造物に指定されて居る。

鹽釜町

宮城縣宮城郡

▲仙臺驛前から宮城電鐵で本鹽釜迄三〇分（一五粁六）、賃二五錢、毎分毎。▲省線で岩切經由仙臺から二八分（一五粁一）、三等二五錢、上野から三等普通賃四圓三八錢。

▲仙臺驛前から乘合自動車で三五分（一六粁二）、賃二五錢（前五時四五分から午後一〇時まで一五分毎）、五人乘貸切二圓半。

▲仙臺驛前から乘合自動車で三五分（一六粁二）、賃二五錢（前五時四五分から午後一〇時まで一五分毎）、五人乘貸切二圓半。

鹽釜町は松島灣の一支鹽釜灣に臨む港市で、船舶の出入多く、物資の集散盛に行はれ、特に鮮魚の市場としては全國屈指の地位を占めて居る。

鹽釜は仙臺の門戸たるの地に位して居るが、その灣内は比較的水淺くして只單に漁船の出入と、石卷又は萩に寄港した汽船から仙臺に送る荷を中繼する傳馬船の發着所として命脈を保つて居るに過ぎなかつたが、鐵道鹽釜線の開通を見るに及び一層其位置重大となり、殊に昭和八年三月六〇〇萬圓の巨

費を投じて大規模の築港計畫完成し、灣内を浚渫して數千噸の巨船の出入を容易ならしめ、入江を埋たて岸壁を築き、また丘陵を崩して新市街を開き、昭和九年一月開港場に指定された。加ふるに宮城電鐵及仙鹽自道車道路の完成は更に港と仙臺市の關係を密接にしたので鹽釜町は目下盛に發展を續け、今やフロニ四、六一ゝを數へ、輸出入貨物の如きも十年前に比し數倍に達する活況を呈し、青森を凌いで將に東北地方に於ける最大關門として重要な商港となりつゝある。

〔名物〕安産餅、牡蠣（松島灣内に養殖さるゝもので年額七萬圓を產す）、しほがま（菓子）。

〔鹽釜町旅館〕鹽釜ホテル（電一八、室二〇）、太田屋（電二七、室二〇）、ゑびや（電三五、室一一）、千年屋（電四七、室五）、筑前屋（電二六二、室九）、以上何れも一泊料一圓乃至三圓、團體一泊一圓三〇錢—二圓半。

鹽釜神社（國幣中社）省線鹽釜驛から表坂迄約九〇〇米、貸切五〇錢。同裏坂迄約半粁、緩かな石段を登る。表參道の鳥居際から直ちに二五四段の急な石段を登り詰た所に樓門があり、更に唐門を入ると正面に本宮があり、右手には別宮がある。本宮には武甕槌命（左宮）、經津主命（右宮）を祀り別宮には鹽土老翁神と志波津彦神を祀り、兩社を併せて奥州一の宮、正一位鹽釜大明神と稱する。古來武門の崇敬厚く、又航海の神及安產の神として一般に信仰されて居る。社殿は元祿八年（紀元二三五五）仙臺藩主伊達綱村が造營を始め寶永元年（紀元二三六四年）伊達吉村の時に竣成したもので、境内には老杉繁茂し櫻樹花卉多く、東方には昔千賀浦と呼んだ鹽釜灣を望み極めて風致に富で居る。例祭七月一〇日、三月一〇日（帆平祭）、四月二五日花祭。

松　島（内務大臣指定の名勝）

▲鹽釜から松島へ。

（A）海上五浬三、松島灣汽船定期一時間毎に出帆す、所要一時間、賃金一等六〇錢、二等四五錢、三等二五錢。和船二時間、一艘三圓半（五人迄）、モーターボート四〇分、一艘三圓半（一〇人迄）。

（B）宮城電車で一四分（七粁六）、三〇分毎（冬期は一時間毎）に運轉す、賃二五錢（仙臺—松島五〇錢）。

▲省線松島驛（松島海岸）松島電車一二分（三粁七）、賃二〇錢、自動車一三分（三粁七）乘合二〇錢（毎列車）、貸切一圓。

松島は松島灣の内外に恭布せる百餘の島嶼及灣岸の勝景で、古來日本三景の一として普く世に知られた名勝である殊に灣の東側宮戸島の最高點大鷹森、灣の東南側花淵半島上の多聞山、灣の北側富山の頂上、灣の西北側扇谷の奥の山上等から眺めた松島の景は、古來松島の四大觀として其名聲を辱しめぬものである。只憾むらくは灣内次第に水淺くなり、特に干潮時等に於ては其景を減ずること少くないから、松島の眞價を窺はんとせば宜しく滿潮に乘じて灣内を廻り、之等四大觀の景を賞するに如くはないのである。

松島灣は其地形上からは仙臺地方の靑葉山、八木山一帶と同じやうな高臺が、河流の侵蝕によつて樹枝狀の谷に貫かれ、それが多くの斷層と地磐の撓曲とに因つて沈降し、ここに海水を迎へて内海となり、谷は其儘深灣となり、峯巒は海上に突出して長岬となり、島嶼となつて、百餘島を灣内に浮ぶるに至つたものであると云ふ。島は地質上第三紀層の凝灰岩から出來たものが多く、一般に甚だ低く、殆ど同じ高さを保ち、海波の浸蝕作用によつて奇形を呈し、海波は更に島脚に石門を穿ち、斷崖を產み、或は蓬萊島の如く黃白段々の縞を示し或は各層その浸蝕の程度を異にして仁王島の如き奇觀を造つて居るものもある。加ふるに島上に島腹松を戴いて碧潭に映じ、岩壁に彫さして風景の美をなして居る。

【松島の四大觀】

何れも高所から俯瞰するに便宜な地點を撰んだもので北に富山、東に大鷹森、南に多聞山、西に扇谷があり之を松島の四大觀と稱し、中でも富山と大鷹森が最も勝れて居る。

▲大鷹森の壯觀　鹽釜から七浬、和船四時間、料金往復五圓、モータボート二時間、料金往復九圓半。松島海岸から四浬、和船二時間、往復五圓、モータボート五〇分、料金往復八圓。松島灣の瓦島宮戸島（總面積約七方粁三、戸數凡二〇〇戸、人口一、三五四餘を有す、殊生郡宮戸村）の中央にある海拔一〇六米の高峰で、其の頂上からは遠く富山、松島海岸、扇谷等の峰續きを眺つきり見渡し、眼下には百餘の島々嶼が近遠に點々の風致を見せ、太平洋上には牡鹿半島、金華山など蒼色にボーツト水平線上に霞んで見ゆる其の絶景は四大景觀中の隨一で、大鷹森に登つて始めて松島の眞の美を究むる事が出來る。故に松島遊覽日程中此の大鷹森遊覽は忘るべからざるコースの一つである。また北里覆部落の丘上には貝塚があり、石器時代の人骨、約二〇體と多數の遺物を發見した著名な遺蹟である。

▲富山の壯觀　松島海岸から約八粁、松島驛からは約五粁半。宮城電鐵富山停留所から約四〇〇米。停留場から山道にかゝれば深い木立の間に大仰寺の白壁が見え、其處に「頂上迄三丁二〇間」と書いた木標が見える。海拔一一七米の頂上に奥州三觀音の一として名高い富山觀音堂がある。其の前に立てば松島灣の一大盆景が展開せられ、其の風光明媚なる事眞に壯觀の名に背かぬ。少し降りたる所に名刹大仰寺がある。

▲多門山の美觀　鹽釜から東へ海上二浬、和船往復三圓半、モーターボート往復五圓。代ケ崎の突端に聳ゆる小丘で、船着場から約五粁餘登つて頂上に達す。徒歩容易。山中悉く松林、北は斷崖數千仞、山上には毘沙門堂があり、松林の間から扇谷、富山、大鷹森の諸勝を眺むるの美觀は此の山特有の眺めである。

▲扇谷の幽觀　鹽釜から海上四浬、和船往復三圓半。扇谷の停留場から五、六百米の坂を登れば山頂に出る。松島海岸から陸路一粁半餘海路一浬。宮城電鐵濱田停留場から一粁六。此處から見た松島は、西北敵はれ東西開き多聞山、材木島、桂島、大鷹森、小町島、都島等の島々恰も扇面の繪の樣に見え、眼界は狹いが躍つた勝景を見せて居る。

〔名所〕▲五大堂　松島海岸の埠頭のある廣場の東端から二つの短い橋が架つて陸地に連つて居る最端の老松生ひ茂る五大堂島にある。橋は「すかし橋」と云つて角材を梯子の樣に並べた丈で板が張つてない。堂は舊く大同年間に坂上田村麻呂が毘沙門を安置したのを、慈覺大師が五大明王に改め、慶長九年（紀元二二六四年）に至つて伊達政宗更に其外側を被ふ堂を造つて今日に至つて居る。三間三面單層屋根寶形造木瓦葺で、明治三四年特別保護建造物に指定された。▲觀瀾亭　瑞巖寺の東南百餘歩を距る海岸の小丘觀月崎にある。伊達政宗が豐臣秀吉から伏見桃山城の一宇を賜はり江戸藩邸に移したのを、二代忠宗此地に移して月見の御殿と云つたもので、數寄を凝した建築で、灣内の眺がよい。▲瑞巖寺　五大堂の西北約半粁。もと圓福寺と號し鎌倉時代法身禪師の開山で、奥州著名の禪林であつたが、後荒廢したのを伊達政宗が再興に志し、良材を遠州熊野山に求め、天下の名工一三〇人を集めて慶長一〇年四月工を起し、翌一四年四月（一二六九年）竣工した大伽藍で、寺號も此時改められて伊達家の菩提寺となつたものである。建築樣式は方丈・庫裏の制を採り、桃山式の粹を發揮した豪宕潤達を極めたもので、本堂（方丈）は桁行一三間、梁間九間、單層本瓦葺の大字をなし全く書院の形式になり、内部中央の間には甲冑を着けた政宗二二歳の像が安置され、壁襖は狩野永德、長谷川等胤その他當時の名工の筆になつた所謂金碧畫で華麗を極めて居る。明治天皇東北御巡幸の際には當寺が行在所となり、此處の上段の間を御在所とされた。今伽藍主要の建築物は擧げて特別保護建造物となつて居る。

寺は老杉鬱蒼たる内にあり、門内にある法身窟は又無相窟とも云ふ。最明寺時頼が雲水となつて諸國を巡歷して此の窟に着き、初めて法身禪師に遇つて其高德を知り、鎌倉に歸つてから兵を遣はして天台宗徒を追放し（淳和天皇の天長五年慈覺大師が勅宣によりて建立したと云ふ天台の亘刹松島寺）禪宗（臨濟宗妙心寺派）に改めて圓福寺と號し法身禪師（常陸の產で眞壁平四郎と云ふ）を開山とし、政宗改築の時再び瑞巖寺と改められた。

▲雄島　松島海岸の南端にあつて渡月橋を以て海岸に連つて居る。昔は僧徒修行の地で、島中には大小の碑が建つて居るが、中でも南端にある頼賢碑が最も名高い。頼賢は妙寛庵主として德の高かつた人で、碑は老師を慕へる弟子が鎌倉時代に建てたもので、支那式六角の瑞堂内にあり、碑文は當時書道の大家であつた僧寧一山の自撰自書である。▲松島遊園……入園料大人一〇錢小人五錢、仙臺から往復乘車券所持者は無料。宮城電鐵會社の經營で海岸に清楚なる劇場・食堂・浴室を設け、入浴無料、常設活動寫眞無料・食堂定食（和五〇錢、▲桂島　鹽釜から東へ四浬、松島海岸から南へ二浬。四月から九月迄定期船寄港す。鹽釜から二七錢、四一錢、五四錢。松島から一九錢、三〇錢、四〇錢。桂島は海水浴場として名高く、附近には雨降石・三度森・松崎神社等の景勝地がある。旅館　桂島ホテル、海水館。▲新富山　松島電鐵停留所から一〇〇米。五大堂から北へ七〇〇米の丘陵で、松島四大觀に亞ぐ眺望の佳い所である。遠く桂島や大鷹森邊まで指摘する事が出來、頂上には金毘羅神社がある。▲不老山　松島海岸の東方海上約一〇粁、宮城電鐵東北須磨驛附近砂濱に點在する小丘で、松島勝景の一に數へられ、南の海岸は浪が靜かで海水浴場としても名高い。

松島遊覽コースと賃金

一、直航コース（普通定期船による第一航路）

鹽釜―松島　所要一時間、賃片道二五錢、往復四五錢。モーターボート貸切片道五圓、往復八圓。

二、外廻りコース（特別仕立の島廻り航路で第二航路と稱す）

鹽釜灣の左岸沿ひに代ケ崎迄海峽を太平洋に出で、地藏島・神の双子島・鍋島を過ぎ馬放島を迂廻し桂島・仁王島・金島・胴腦島・雀島・材木島の間を縫航し桂島附近を航通して扇谷の直下在城島附近の群島を廻り乍ら松島棧橋に着く。所要約二時間半。汽船にて一人四七錢。モーター船貸切六圓五〇錢。

三、秩父宮コース（特別航路第三航路）

鹽釜―代々崎水道―地藏島燈臺―前島―高遠島―沖高遠島―大言小言―裏桂島―石濱水道―寒風澤水道―寺崎―大鷹森―ツク島―丸山崎―松島灣内をS字型に松島着。所要約四時間、汽船にて六一錢、毎年七月から九月迄の間日曜及祭日に限り一回定期運航す。モーター船貸切八圓。

四、鹽釜―桂島（約四〇分、片道二三錢、往復四二錢）、桂島―松島（約三〇分、片道一九錢、往復三〇錢）毎年七月一〇日から九月一〇月迄運航す。

「註」右に示したモーター船の料金は各十人迄を限度とし、以上一人を增す毎に一割增とす（三〇人乘）、一日貸切一五圓、半日一〇圓。

○松島海岸の旅館　パークホテル（純洋式、毎年四月から一〇月末迄營業、一人室七、室代二圓牛―六圓、二人室七、室代四圓―一五圓、他に風呂付一室宛あり、食事代朝一圓牛、晝二圓、夕二圓半、電三五）、觀月樓（電一九、一泊㊐三圓）、松島ホテル（電九、一泊、㊐四圓）、白鷗樓（電五五、一泊㊐四圓）、東洋館（電三、一泊㊐三圓）、海濱ホテル（電三三、一泊三圓―五圓）。

金華山

▲石巻から石巻合同汽船で二時間（一八粁九）、三等片道一圓五〇錢往復二圓八〇錢（一日一往復）。

▲宮城電鐵石巻驛前から山鳥渡迄自動車で二時間半（五八粁）、前九時・後二時の二回發、賃片道一圓八〇錢、往復二圓八〇錢、貸切五人乘一臺一五圓。山鳥渡は金華山社務所直營の蓬萊丸にて八分、二粁半、賃二〇錢、隨時發。

▲鹽釜から石巻合同汽船で石巻經由四時間（四九粁）、三等一圓五〇錢、二等二圓二五錢、一日一往復運轉。

金華山は牡鹿半島の東端凡一粁、山鳥の渡を距ること約二粁の太平洋上に祕められた靈山で、東西四粁、南北五粁全山花崗岩から成り、海拔四四五米の金華山が寶珠狀をなして巍然として聳え、山中には赤松・もみ・ぶな・けやき等が千古の姿其儘に鬱蒼と茂り、麓は狂瀾に激して岩壁その方狀節理に沿うて發達し、千疊敷等の壯觀を現はして居る。此處に有名な黃金山神社かあり、全島その神域として野猿木に鳴き五五〇餘の神鹿人に戲れて居る。また東海の蓬萊島と謂ふべきであらう。

金華山はもと陸奥の山と稱して居たが天平勝寶元年（紀元一四〇九年）初めて黃金を產し朝廷に獻じ、これより黃金花咲く金華山と名を改めたと云ふ。もとは島で穿いた草鞋は金泥が附着して居ると云ふので、必ず脫かしたものであると云ふ。

▲黃金山神社（縣社）島の西南なる棧橋から、鹿の徘徊する參道を約一粁、金華山の中腹にある。今の社殿は明治年間の再建で、金山毘古命、金山比賣命を祀る。參拜人の多くは祈願を重じ、各自所願の祈願を依頼し、お札を受けて歸る祭典は五月の初巳と九月二五日に執行され、殊に十二年目毎には「巳の年の神事」が行はれる。

▲お山巡りには表廻りと裏廻りの二つがある。表廻り―黃金山神社―滑石神社―清水石―鞍掛石―烏帽子岩―座禪石―孔雀ケ池を經て富蒲平に達する。これより海拔四四五米の山頂に至れば大海祇神社の祠があり、太平洋上の眺望實に雄大で、その眺望絕佳の地點を無双峰と云ふ。約二粁、往復二時間。裏廻りは無双峰の傍の急坂を下り―朝日岩―夜光石―黃金石―天狗の三刀石―三日月石―天柱石―御鉾石―胎内潛り―開山上人座禪石―山形石―影向石―陰陽石―坂を下り密林の間を進み、芍藥園に至り、之より海岸に出て―千疊敷―千人鹽―天狗澤―金波越―銀波越―御船澤―大平―裟婆掛松―御籠岩―御路地崎―宮ケ崎―黃金崎―大函卿（島の東端にあたり、斷岩切るが如く壯觀を極める）―小函卿―掛鳳石―太鼓石―七福神石（以上の三石を三福對と稱す）―饗の河原から再び山口に入り朴の木林を經て―阿彌陀峰―山神社―愛宕神社―黃金山神社。全行程約二〇粁、所要五時間半。

▲宿泊料には左の區別があつて、それを別めた人は祈願を受けて參拜に進む

神符、神饌の授與を受け、日歸りなれば晝食、宿泊する人は別に料金なくして醒、翌朝の食事をとらして貰ひ、社務所に一泊させて貰ふ。（島内に旅館がないから便宜宿泊又は食事をさせて貰つた場合はそれ相應の謝禮をせねばならぬ）。

▲大々祈膳　七圓以上（祈願、神符（名入板札及神號表裝物一幅）神饌、食事宿泊。

▲大祈膳　五圓以上　同　同（板札）。同　同。

▲中祈膳　三圓以上　同　同（同）。同　同。

▲祈膳　二圓以上　同　同（紙札）。同　同。ほかに日歸りの者に限り加膳　一圓　同　同（同）晝食。

石巻市

宮城電鐵で仙臺から一時間四〇分（五〇粁五）、一圓三〇錢（展望車は四〇錢增）、松島海岸から五〇分（二七粁三）八八錢（同二〇錢增）、凡そ一時間毎に運轉。地は北上川に跨りもと併寺水門と呼ばれ、鎌倉時代の始め葛西氏が居城を此處に構へて居た。其後伊達政宗が領するに及で、河村孫兵衞に命じ、もとの北上川本流追波川の肩口、鹿又村から一二粁の間に新河を開鑿し（寛永一―三）、その河口に開港（萬治年間）したのが創りである。そして其豐富なる米を江戸に送るための門戸となせる一方、遠く北上川を遡つて盛岡附近迄達する舟運の便を利し、他方貞山堀を介して阿武隈川迄連絡し、以て奥州二大藩の江戸に對する商業的門戸として殷賑を極め、其繁榮殆ど仙臺を凌ぐものがあつた。維新以來鐵道の發達に伴ひ襄運に向つたが、尙三陸水產業の中心として榮え、昭和八年市政を布いて（八年末推計人口三萬五千）宮城縣下第二の都市となつて居る。されど之を昔日の繁榮には比すべくもないが、漁船の出入に於ては東北第一に位し、鰹節・鮪節などの節類・竹輪蒲鉾・その他の製造業が盛である。葛西氏の祖は清重と云ひ、頼朝奥州征伐の後、奥州二州の鎭撫の爲特に東北に殘された名族であつて、南北朝の代には奥州の國司北畠顯家に屬し、此處の日和山に義を唱へた。のち高清の代に至り足利尊氏に屬し奥州探題となり、日和山に居城を構へ、久しく此處に居たが後佐沼に移つた。

〔石巻の旅館〕千葉茜（電二六）、驛約一粁、室一九、㊐三圓）、福島屋（電五二、驛九〇〇米、室二〇、㊐三圓）、俠屋（電二一九、室八、㊐三圓）（以上普通一泊二圓半―三圓牛）、阿部新（電一二、室一一、普通一泊二圓、―三圓、㊐三圓）、中村屋（電五五六）、佐藤屋（電二四六）、千石屋（電四一〇）松葉屋（電三一〇）。（以上普通一泊一圓七〇錢―二圓七〇錢）。

〔名所〕▲日和山（葛西城址　驛の南約一粁、城址は海拔百餘米の高地にあり今公園となつて脚下に市街を瞰下し、遠く牡鹿の山々から、仙臺灣を一望の裡に收め、風光がよい。市營の迎賓閣及鄕社鹿島御兒神社がある。

一の關町

岩手縣西磐井郡、仙臺から普通列車で二時間一三分（九二粁九）、三等一圓四二錢。盛岡から二時間一〇分（九〇粁三）、三等一圓四〇錢。地は舊仙臺藩の支封田村氏二萬七千石の城下、古の磐井で、陸中の咽喉に當り歷史上有名な地である。北上川及その支流磐井川に因つて出來た廣い沖積原を控へ、その中心市場として陸中南部最大の市邑をなし、商工業が榮えて居る。人口一〇、四一二（昭和五・一〇調）。

北上川は一の關より以北、長く北上縱谷底の第三紀層を穿ち、その兩側に廣い沖積層を發達せしめつ、南下し來り、この町の東方狐禪寺附近から東に折れ、北上山地の堅固な古生層を穿ち、深く峽谷を造つて宮城縣に流れ去つて居るので、北上川通ひの舟は狐禪寺迄は通つて居る。然しその上流平野の流れは廣いが淺くして、北上中流部の米產地には舟を通ずる事が出來ぬので、鐵道開通前は、北上通ひの舟樯による仙臺灣との聯絡は、此處で行はれたので、一の關はその名の通り陸中第一の關門であつたのである。而して今はまた大船渡線の分岐點として氣仙沼方面との交通の衝に當つて居る。

〔旅館〕清水屋（電一四四番、二圓半―三圓牛）、石橋ホテル（電七番、二圓半―四圓、洋室七圓以上、㊐三圓）、勢登屋（電九番）、（一圓二〇―二圓）。

古城平泉

岩手縣西磐井郡平泉村。

上野から普通列車で一一時間（四四八粁六）、三等五圓一二錢、一の關から一二分（七粁二）、三等一三錢。

平泉は東北第一の史蹟地で、今から八百有餘年前、藤原清衡・基衡・秀衡の治府「平泉館」のあつた所である。

〔平泉の旅館〕及川、對山館、一泊八〇錢乃至二圓。

平泉館址は今の平泉驛の傍、高館の南にあり東西三〇〇米、南北三〇〇米許り、今田圃となつて農家數軒あり、官道を挾んで居る。平泉驛を出て右に一本町を北に進むと人家の後に小高い一つの草叢がある。それが藤原三代の館址、

即ち伽羅御殿の御所址で、そこから道を少し曲ると右手に小高い山が見える。之が高館で、義經の居た判官館の址である。昔は今の北上川が遙か東の山際を繞つて、平泉の町は此の館の東方に廣がつて居たが、今は河道の變遷のため高館の麓に河が迫り、その東側は斷崖になつて流れに臨み、眺望も勝れて居る。此處は兄頼朝と仲を違へた義經が遙々落のびて暫くの間平和な日を送つたのであつたが、やがて沒落に會して自殺を遂げた所と云はれ、山の頂に義經堂と云ふ小祠がある。

奥州の豪族藤原清衡は、初め陸奥六郡を領し、江刺郡豐田館（今の岩谷堂町字豐田）にあつたが、改めて陸奥の押領使を拜し、嘉保元年（紀元一七五四年）平泉に居館を營みて移り、之を奥御館と稱し、基衡、秀衡の子孫相繼ぎて之に住して居た。柳御所は平泉館の北に在り清衡、基衡の居所で、義經も亦暫く之に居たと云ふ。伽羅御所は秀衡の構へたものである。

白河の關以北縱横凡そ一百里の、黄金花咲く陸奥を占領すること九〇餘年、其碩盛に北上山地の溪流から出た澁山の砂金と、北上平原の沃野に饒る農產とを羅して、其富王室に超ゆと稱され、春の朝には、東稻山に雲かとばかり咲き亂れたる櫻花を眺め、秋の夕には北上川に映る月影を掬して、伽羅の御殿に舞樂を奏する寵臣幾千、上國の戰場は覇を稱して榮華に耽る夢を破り得なかつた。

されど秀衡歿後統を繼ぎたる泰衡は、懷に入りたる（文治三年春三月）英雄義經を殺して（文治五年四月晦日の夜、義經三一歳）鎌倉に和を乞ふたのであつた。が、頼朝は時機到れりとなし、自ら奥州征討の將として一千の精鋭を率ゐて大旆を白河に飜した。その勢は秋風に黄木の露拂ふが如く、先づ伊達の大木戸破れ、多賀の國府に關守なく、津久毛橋扼しかね、義臣すぐつて城に籠りよく防ぎたれど、伽羅の御所に紅焰漲ると見るまに、三代の綺羅一朝にして焦土と變つた。時に文治五年九月（一八四九年）、藤原秀衡父祖三代の治府であつた平泉の榮耀も、憶へば春の短か夜の夢であつた。

國破れて山河あり、城春にして草青むと、今は只金鶏山にのみ其昔を偲ぶ一寒村となり、八百年の古歳、寂寞として秋風長へに吹いて、落葉まばらに散るところ、此の地を訪ふ旅人の涙を新にするであらう。

中尊寺 岩手縣西磐井郡平泉村大字中尊寺、衣川の南岸關山の上にあり。平泉驛から西北約一粁六、達中約一粁の坂上迄自動車が昇く、賃金一〇錢。

寺は關山と號し、仁明天皇嘉祥三年（一五一〇年）釋圓仁奥州を跋渉して一宇を建立し、慈覺大師を開基として弘台壽院と號したに始まる。後下野大慈寺の僧榮信來住し、土民の信仰を得、清和天皇貞觀元年中尊寺と改めた。堀河天皇寛治二年（一七四八年）清衡當寺を經營し、堂塔僧坊三百餘宇、天仁二年（一七六九年）功竣るに及びて、鎭護國家の靈場として勅願所となした。（清衡の中尊寺建立願文によると、前九年及後三年の兩役に死んだ敵味方の菩提を弔ふ爲と云ふが、當時王室を凌ぐ富を擁したと云はる、清衡が、爲して成らざる事なかつた際に、永年憧がれて居た都の文化をこの一廓に移さんとして造營されたものの一つで、今殘つて居る金色堂、經藏を見ただけでも如何にそれが上方文化の模倣であるか〻判る）。のち基衡秀衡相尋で堂塔僧坊を增建し、一時寺塔四〇餘宇、坊舍三百餘宇に及び、伽羅堂宇光彩赫輝として、海内屈指の靈場となつた。文治五年、平泉の泰衡沒落の後は頼朝から寺社領を安堵し、爾來幕府奥州總奉行等の保護もあつたが、昔日の如く盛んならず、加ふるに建武四年（一九九七年）野火の餘焰にて樓門金堂以下諸堂宇大半灰燼となり、僅かに經藏、金色堂を殘すのみとなつた。天正年中豐臣秀吉七ケ村の朱印地を給ふ。のち伊達政宗の領地となるや、寛永初年後水尾天皇勅して金色堂の破損を修理せしめた。其後衆徒寺社の荒廢を歎き、伊達氏の庇護により、協力して舊趾遺礎につきて小祀堂宇を建立したが、舊時の十分一にも及ばなかつたと云ふ。今の本堂は明治年間の改築にかゝる。天台宗に屬し、寛文以後東叡山の末寺であつたが今は延暦寺の末寺となつて居る。

▲金色堂 藤原三代の榮華を今に傳ふる唯一の建物であるが鎌倉時代に之を保護する覆堂が設けられ、今日外から見えるものは之であるが、之とてまた名建築で、今は金色堂と共に特別保護建造物となつて居る。中に覆はれた金色堂は俗に光堂と云はれ天仁二年（一七六九年）工を起し、天治元年（一七八四年）竣成まで前後一六年の永き歳月を費して藤原清衡が己が遺骸を藏めんがため生前に造つた葬堂である。堂は方三間單層にして屋根は寶形造である。中の間は七尺二寸、兩脚の間五尺五寸、柱の高さは一丈九寸、内外上下、四面悉く螺布を以て覆はれ、黑漆を以て厚く漆り、其の上更に金箔を貼り内部は鏤柱彫梁悉く螺鈿珠玉を飾つてある。中央一間を内陣とし、他を外陣として居る。内陣には中央及左右に須彌壇があり、中壇の四隅には七寶莊嚴丹青の柱を立て、柱毎に一一光佛を置し、壇上には何れも阿彌陀、觀音、勢至、多門、持國二天、六地藏等定朝作の一一軀を安置し、中央の須彌壇の下には清衡の遺骸、左には基衡、右には秀衡の遺骸が木乃伊となつて金色の棺に藏めてあつたが今は中央壇下に三つの棺を並べて居る。覆堂は一六四年後の正應元年（一九四八年）鎌倉將軍惟康親王が平貞時及宣時に命じて金色堂を保護せんが爲に造立せしめたものである。明治九年七月 明治天皇御東巡の折、綸旨を賜はり三〇年、特別保護建造物に指定された。堂の右に「五月雨の降り殘してや光堂」の芭蕉の句碑がある。▲經藏 金色堂の背後にあり天仁元年（一七六八年）藤原清衡の建立したものである。元は二階建の瓦葺であつたが、建武四年の野火に上層を燒失し、其殘る所を修理して現在に至つたものである。堂は三間四面六尺六寸間で屋根は寶形造、内陣の柱及天井は寛永の修繕に新にされ、屋根は明治二六年に茅葺を改めて今の棧瓦葺とした、しかし四壁其他は創建當時のもので、繼綱彩色、蓮華文など僅かながら存して居る。内陣には八角須彌壇（國寶）が置かれ、壇上に文殊菩薩を安置し、前には繪盤（國寶）があり、尚佛前の灯臺、卓、擎架は何れも國寶である。その形狀の優美にして高雅な螺鈿の裝飾は、鎌倉時代の趣味をよく現はして居る。内陣の左右及後の三方に八段の經架を設け、藤原三代寄贈に係る一切經五千七百卷が黑漆の經筥二六〇合に納められて居る。その筥には經卷の題目及帙數等が螺鈿で表はされて居る。清衡の納めたものは紺紙に金銀泥一行交りの書寫で、比叡山自在坊蓮光の奉行にて、一千の僧侶八ケ年を費して書上げたものと云はれ、今二〇卷を藏して居る。基衡の納めたものは紺紙金泥で今六百餘卷を藏して居る。また經架の下にある唐櫃には秀衡の納めたものと傳ふる黄紙宋版の一切經があり、今九〇卷を殘し、三種とも國寶になつて居る。宋版を除く他の經卷は表紙に金泥で寶相華の模樣を描き、見返には佛菩薩・山・水・月・雲・木草・水鳥・孔雀・象・多寶塔・船などを金泥或は銀泥の線で畫き、山その他はぼかしを用ひて居り、世に中尊寺經として名高い。

▲辨財天堂 金色堂の西北にあり、「最勝王經十界寶塔曼荼羅」が十幅陳列されて居る。藤原末期の繪畫の一遺品として貴重なもので、國寶となつて居る。

【中尊寺拜觀料】 普通六〇錢、二五人以上四八錢、五〇人以上三九錢、百人以上三〇錢、軍人學生三〇錢、中等學校百人以上一四錢。

峯藥師堂・寶庫・金色堂・經藏・辨天堂・繪畫館・辨慶堂など叮嚀に說明して呉れる。諸堂拜觀時限は三月から一〇月迄前七時—後五時、一一月から二月迄前八時—後四時。

衣川柵址 平泉驛から六粁。

年を經し糸の亂れの苦しさに　（貞任）
衣の館は綻びにけり　（義家）

毛越寺（指定の史蹟） 驛から牛粁餘、バス五錢。中尊と同樣嘉祥三年慈覺大師の開基に係り、金剛王院醫王山と號した。本尊は大師自作の藥師如來、清和天皇の貞觀一一年「北門鎭護の御願寺」たるべしとの勅諚を受けた。長治年間堀河天皇の勅願によつて、清衡に堂塔興造の勅命下り、次で基衡主として建立にかゝり、秀衡の代に至りて堂塔四〇禪房五百餘宇全く完成した。更に周圍には總社・日吉・白山・祇園・北野・稻荷等、當時都で信仰の盛であつた神を勸請して鎭守となし、その宏壯なる規模は遙に中尊寺を凌駕した。平泉第一の大伽藍で、奥州藤原氏の富榮を示して餘りあつたが、爾後次第に衰微を重ね、嘉祿二年（一八八六年）の野火に罹り、さしも巨大な伽藍も悉く烏有に歸し、今は僅かにその遺址を有し、史蹟に指定されて居る。今の毛越寺は明治三二年に建てたもの。寶物拜觀料二〇錢。夏草やつはものどもの夢の跡（芭蕉）

達谷窟 平泉驛から西五粁、自動車二〇分、窟は丘陵の一側をなす凝灰岩の絶壁中に穿たれたもので、高三丈、廣九間、奥行七間程あり、その昔盜賊高丸・惡路王等の據つた岩窟であつた。延暦二〇年、坂上田村麿が桓武天皇の勅命を奉じて東夷征伐の際、盜賊等は將軍の勢を望み見て逃走した。田村麿は追擊して止まず神樂岡にかこんで誅し、更に達谷窟に攻寄せ、遂に賊徒を全滅せしめ、田村麿は平賊祈願の奉賽として、山城鞍馬寺に模して前面九間舞臺造の堂を此の窟内に建て、慈覺大師の作に係る多聞天百八體を安置して祈願所とした。窟の左方の岩壁には高さ四丈餘の磨崖佛の磨滅して僅に殘影を止て居るものがある、之は源義家が安部貞任を征伐した後、戰死者の遺骸を埋め、岩面に弓弭を以て巨大な大日如來の像を描き、石工に刻ませたものと傳へて居る。

嚴美溪（指定の名勝） 達谷窟から約三粁。平泉驛から達谷窟經由八粁自動車四〇分、乘合四〇錢（列車毎）貸切二圓半。一の關驛から九粁餘、乘合三〇錢（列車毎）貸切二圓。五串の溪とも云はれ、磐井川の流れが栗駒火山の基底を作る一の玻璃質熔岩に懸つて、急流飛瀑をなしたもので、その飛瀑が次第に上流に退いたため、跡には深い峡谷を生じ、約一粁に亘る奇岩怪石は流れに

そゝり立ち、水心にわだかまり、流れは白龍銀蛇の如く躍るかと見れば、一躍深潭碧淵に潟き、その兩岸の岩壁に映じて清爽極まりなき景觀を生じ「東北の寢覺の床」の稱があるその上岸には松を茂らし、伊達政宗の移植したと云ふ貞山櫻があり、また峽上に天工橋を架して一層その景を加へて居る。

猊鼻溪（ゲイヒケイ） 一の關から大船渡線で四〇分（二一粁三、三等片道三五錢）陸中松川驛から北三粁半、途中長坂迄二粁六、自動車通ず、乘合二〇錢（列車毎）、北上山地の一部を造る非常に厚い石灰岩が西に向て殆ど直立した中を、松川の上流砂鐵川の流れが迂餘曲折して穿つた延長二粁餘の峽谷で、兩岸の岩壁削るが如く、高さ一〇〇米を超え、屏風の如く廣く平に突つ立つた岩壁あり、それが岐れて天をも摩する亘菊のやうに形を變じた部分あり、洞窟あり、溪流懸り流れは亘岩の底に瀑で深淵をなし、曰く鏡明岩、凌雲岩、毘沙門窟、吐雲峯、壯夫岩（岩中第一の眺めである）、少婦岩、小飛泉、大飛泉、馬蠶岩、曲屏岩、步臂岩等々。岩壁の壯大、鐵壁の怪、まさに天下の偉觀で、指定の名勝になつて居る。長坂から舟で往復約一時間、賃三〇錢（隨時）、春は藤、山吹、秋は紅葉の美殊に勝れ、夏は清風を樂しむことが出來る。

峽の東に濾る所に、大岩壁上絕えず細流を迸出して居る鐘乳石の怪突起がある。その狀よく猊の鼻の如きを以て猊鼻の名稱が生れたのである。

〔旅館〕（岩手縣東磐井郡長坂村）鈴木、かぢや一泊一圓以上。

氣仙沼町 大船渡線の主要驛で一の關から二時間半（六二粁、三等片道九七錢）。前に氣仙沼灣を控へ、この附近の漁業の中心地で、鮮魚貝類（年額九九七萬圓）、節類、干魚、海苔（以上年額二三一萬圓）、繊維類（二五六萬圓）、燒竹輪及蒲鉾（年額二三三萬圓）及佃煮、乾鮑などの業が盛である。人口一五二四五（昭五・一〇）。

氣仙沼灣は南北約八粁、其東側に大島横はり、波穏かで景勝に富んで居る。特に灣口岩井崎から姥ケ磯には石灰岩の奇礁浪に激して潮を噴き、大島の龜仙、或はその東北唐桑半島の早馬山から大島瀬戸等の眺望等は實に一幅の名畫である。

〔旅館〕日野屋（電氣仙沼六一、驛二粁六、室二三）、松軒（電一〇三、驛二粁六、敷島（電一六一、驛二粁）、村傳（電六六、驛一粁五）、佐藤本店（電二二六、驛一粁）（以上一泊一圓半、二圓、三圓、四圓、五圓）、菅原（電一一六、驛一粁二）、勝日館（電三三八、佐藤別館（電三七〇、驛半粁）（以上一圓半—三圓位）。

▲明神崎　氣仙沼驛の東約三粁、自動車一〇錢。八幡太郎義家が奥州征伐の折、戰勝を祈るため建てたと云ふ五十鈴神社があり、境内の眺めがよい。又明神崎の西端が内海に面した所に「管絃窟」（おなりゐな）がある。鐘乳洞が海水に浸蝕されて出來たもので、潮水の干滿に際して岩に激して微妙な音響を發するのでこの名がある。窟内には石乳が垂れて自然の柱梁となり、人物や鳥獸の像が彫られてある。

小原木の大理石 氣仙沼町の東北山路一三粁、唐桑村小原木の海岸に沿ひ約一粁に亙る雪白結晶の大理石で、白地に黑の紋條をなし碧波綠樹と相映じて美觀を呈して居る。

水澤町 岩手縣膽澤郡、仙臺から普通列車で三時間一〇分（一一六粁三）、三等一圓七四錢。

人口一萬三千餘の町であるが、町の南端、公園の一部にある萬國緯度觀測所を以て知られて居る。

〔旅館〕岩井屋（電水澤四七、驛一粁）、勇屋（電六一、驛前）、一泊一圓半—二圓半。

緯度觀測所 水澤驛の西南一粁半、乘合自動車三〇錢（列車毎）、貸切五〇錢。北緯三九度八分四秒、東經一四一度七分五二秒、海拔六二米にある。此處は地球廻轉軸の位置の變化を知るため緯度の變化の量を恒星觀測によつて調べて居る天文臺で、此の事業のため列國が共同的に設けた世界の三觀測所の一つである。その觀測は西曆一九〇〇年から始まつて今日迄繼續し、夏季は午后九時から翌午前三時まで、冬季は午后七時から翌日午前一時までの間に於て天頂に近く通過する六等星位の小さな星の子午線通過の際の赤緯を測るものである。最初の二二年間は觀測簿をドイツのポツダムにある萬國測地學協會中央局に集めて計算し極動道を算出して居たが、一九二二年以降は此の觀測所が萬國天文同盟會緯度變化委員會の中央局となつてイタリヤのカルロフオルテイ及米國のユキヤの二緯度觀測所の觀測簿を毎月集めて計算して居る。理學博士木村榮氏がZ項を發見して世界的に名聲を博したのも此の天文臺に於てゞある。

駒形神社（國幣小社） 水澤驛の西南約一粁、自動車五分。

〔高野最安藤宅〕同約六〇〇米何れも乘合あり、三〇錢。

花卷温泉 岩手縣稗貫郡湯本村花卷。

▲東北本線花卷驛から花卷温泉電氣鐵道で二〇分（七粁四、賃三三錢）。

▲上野から花卷迄約一二時間（四九六粁三）、三等五圓五二錢。

▲青森から花卷迄急行四時間（二四〇粁一）、三等三圓一六錢。

▲仙臺から花卷迄三時間半（一四七粁八）、三等二圓一四錢。

地は臺川に臨み西北方に萬壽山・羽山・堂ケ澤山・小櫻山等の翠巒を繞らし東南は花卷方面に向つて展け、北上の沃野、北上の山系が見渡される。

温泉は大正一二年に西方約一粁半距つた臺温泉から引いたもので、近代的施設が遺憾なく備はり、また旅館も浴客の好みに應じて自由に選擇出來る樣に棟を異にして多數の等級がつくられて居るから、各自が氣安く滯在し得る樣になつて居る。

泉質は無色透明鹽類泉で溫度六〇度、神經系統病・胃腸病・皮膚病・婦人病に效がある。特色は行樂向。

〔旅館〕松雲閣（電三六・二九・三四、洋室六、室代一人五圓、七圓、二人八圓、一二圓、和室次の間付二九、一泊二食付四圓半、五圓半、六圓、別館六圓、一二圓、㊁四圓半、㊁三圓半、千秋閣（電三二、三五、室五二、一泊三圓半均一、㊁三圓二〇錢）、花盛館（電二三、二五、室四八、一泊二食付二圓半均一、自炊室料一人五〇錢、附屬食堂定食和朝三〇錢、晝五〇錢夕六〇錢、洋一泊二〇錢から）、蓬萊館（電二一、手輕な自炊旅館で貸室四〇あり、室代一人三五錢）、貸別莊（十三棟あり甲は八疊以下三室、乙は六疊以下二室、何れも内湯及電話付家庭向で七、八、九の三ケ月は一日貸切甲五圓半、乙四圓、其他の月は甲四圓乙三圓。申込は松雲閣へ）、紅葉館（電二九、大小宴會用二室及客室四あり、一泊二食付五圓半、七圓）。

附近には釜淵の瀧、緒ケ瀨の瀧があり、また約二、七〇〇アールノ遊園地や、園内の運動場と、運動器具、娯樂場にもあらゆる文化設備が取入れてあり、動物園等もある。また此地方の民謠に合せた舞の田植踊、金山踊及鹿踊などは、地方色の横溢したものである。

花卷スキー場 温泉場の裏手、堂ケ澤山を整理して造つたスキー場で面積約一一九〇平方米あり、五度乃至三〇度の緩急斜面を有して居る。殊に夜間の練習にも事缺かぬ爲め一面に照明裝置を施して居る。休憩所及シャンツエの設備もある。積雪は一米位で、一二月末から三月初旬まで充れる。

温泉事務所内に花卷温泉スキー協會があり貸スキーの設備がある、一日三〇錢、半日二〇錢。

臺温泉 花卷温泉から西一粁三、自動車三〇錢。裨貫郡湯本村。地は海拔四八〇米、花卷温泉の近代的遊樂地なるに反し全く一變した靜寂な山の湯治氣分の漂ふて居る療養向の温泉である。湯の湧出量豐富で泉質もまた多種あり附近温泉中隨一である。〔旅館〕阿部、金矢ホテル、樂知館、臺陽館、一泊二圓半以上、自炊一日二五錢乃至五〇錢。

盛岡市

▲上野から急行列車で約一〇時間（五三一粁七）、三等五圓七八錢。

▲仙臺から急行列車で三時間餘（一八三粁二）、三等二圓五六錢。

▲青森から急行列車で三時間半（二〇四粁七）、三等二圓七八錢。

市は北上川と中津川の合流點に位し、交通は河谷を利用して八方に道路を通じて要衝に當り、鐵道は東北本線のほか橋場線、山田線を分岐して居る。

此の地は慶長の初め南部利直の築城によつて開けた城市で、爾來南部氏二〇萬石の城下として明治維新に及んだ。爾後縣廳を置かれ、市外厨川村には騎兵第三旅團の司令部があり、高等農林、岩手醫專その他の學校官署も少くなく、盛岡電燈會社、川口荷札株式會社、吉岡鐵工場、福田鐵工場、照亦鐵瓶工場、縣是製糸工場、東北衡器株式會社等の工場があり、商工業が盛んである。此の地は鐵器、木綿織、木工品等で、特に南部鐵瓶の名高く、牛馬產物の主なるものは市が亦盛である。人口六八、四三七（昭八・一一）。

〔旅館〕高興、陸奥館、三島屋、齋藤、近江屋、（回答未着）

〔名所〕 盛岡城址　驛の東約一粁半、市の中央内丸の丘上にある。慶長年間南部利直の築城したもので、今公園となり、園中には南部家の始祖光行及中興信直を祀つた縣社櫻山神社がある。▲石割櫻　驛の東一粁半、地方裁判所の構内にあり、巨大な花崗岩の割目に根を下した白彼岸櫻で、指定の天然紀念物となつて居る。▲高松池　驛の北三粁、上田にあり、池畔には櫻樹が多く、岩手山が背景をなして風致を添へて居る。▲大慈寺　驛の東南二粁餘、市内東中野にあり、その境内には原敬の墓がある。

▲二歳駒の糶市　市内新馬町で毎年九月中旬に開かれるもので、その出場の馬數は約二千に達しその價格も二〇萬圓以上に及び連日雜沓する。

▲樺火　盆の八月一五日を中にする三夜に市内各戸に薪を束ね、これに樺皮を捲いて夕刻一齊に點火して魂迎魂送りをするもので、燈籠流しと共に古來有名である。

岩手山

盛岡市の西北二四粁にあり、海拔二〇四一米の休火山で、東方から望めばその容姿富士に似て居るので岩手富士、南部富士などゝも云はれて居る。しかし西方には二、三小峯が連亙して多少形の美を損じて居るため南部の片富士とも云はれる。西北は秋田駒ケ岳山脈に連り、東南に平原を纏ら し、小岩井牧場その他の牧場地は所謂南部馬を育てて居る。

此の山は東西の新舊二つの圓錐火山の重合したもので、西岩手は東岩手よりも古く、東西三村南北約二粁の大地獄の楕圓形火口の底に低い中央火口丘があり、更にその内部に御苗代と稱する火口原湖と、火口湖釜がある。最も外側の大地獄大火口壁は侵蝕をうけて絶壁の大輪壁を生じて外輪山をなし、南壁を鬼ケ城山、北壁を屏風岳と云ひ、鬼ケ城山の最高地點を姥ケ岳と呼び海拔一、七〇六米ある。その北西壁は燒切澤の火口瀨に刻まれ、松川の一支流をなし、瀨が多い。東岩手山は前記の鬼ケ城と屏風岳が互に近づいて東方に閉合する邊に噴出した二重式火山で、頂上の火口をお鉢と呼び直徑七〇〇米の圓形をなし、火口壁の最高點は藥師岳と呼ばれ、岩手山の最高點をなして居る。此の火口には更に妙高ケ岳と稱する小中央火口丘があり、その西方に偏せる火口を御室と呼び深さ一八〇米に達し、内壁は懸崖をなして居る。

〔登山路〕 櫻澤口、網張口、鬼石口、平笠口の四路あり、その中櫻澤口を表口と稱し普通登山者は此の口から登つて網張口へ降りる。

東北本線雫石驛（盛岡から二一粁九）から柳澤まで約一〇粁、自動車がある。柳澤には縣社岩手山神社があり、社務所へ宿泊出來る。

柳澤から山頂まで約一四粁で凡そ五時間を要する。

山頂から望むと、東南には北上川と北上平野、盛岡市等が俯瞰され、北上山脈の連嶺が眺められる、南は脚下に小岩井農場が開け、遠く栗駒山を望み、西は葛根田川の溪流を隔てゝ乳頭山、秋田駒ケ岳が間近に眺められる。

此の山は東南側には殆んど森林は無いが、西南には青森トド松、樺等の原生林があり、山腹にはブナ林があり、面目を異にして居る。

頂上附近には駒草（アヘリ）が多く、イワテハタザオ（十字科）等も多い。

山頂から道を西に網張溫泉に下れば約一二粁あり、此の間林相の美に勝れてゐる。殊に支脈鬼ケ城の岩壁が鋭く鋸齒狀に聳ゆるのは一偉觀である。網張溫泉から小岩井まで約一八粁、緩かな下り道で全部徒歩による。

蕪島（カブシマ）

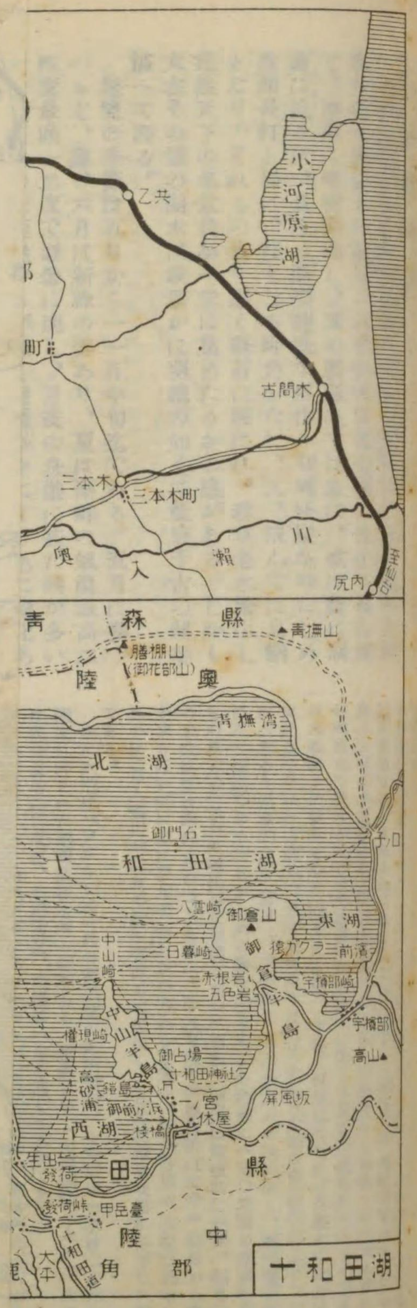
▲岩手縣八戸市鮫港の海上一粁。

周圍一粁許りの小島で、全島蕪菁が繁茂するので此の名があり、指定の天然紀念物「うみねこ」の蕃殖地として著名である。うみねこは鷗の一種で、冬季は北方の海に棲んで居るが、春から秋にかけて此の島に來て產卵し、ひなを育て、島一帶に幾萬羽と亂舞してゐる樣は天下の美觀である。里人は「辨財天の御使ひ」なりとして決して害を加へず、舊三月三日には盛大な嚴島神社が催される。

〔旅館〕 石田屋、橋本館、鷗鳴館、蕪島溫泉。

種差海岸（クネサシ）

八戸線種差驛（尼内から一九粁六、五〇分）附近は一帶に壯觀極りなき大洋的景觀を展開して居るので最近著名になつた處である。從來東北の海岸の勝地と云へば松島か男鹿半島に限られて居たが、種差はこれらと全然趣を異にし規模も遙かに雄大である。それに東北特有のノンビリした牧場と鈍重な感じのする岩石の配置は非常に面白く、又海岸には鈴蘭や美しい植物があり、とこれが太平洋とよく調和し、全體的に日本離れのした大陸的な大きな景色である。



盛岡附近（岩手山・蕪島・種差海岸）

〔名所〕盛岡城址　驛の東約一粁半、市の中央内丸の丘上にある。慶長年間南部利直の築城したもので、今公園となり、園中には南部家の始祖光行及中興信直を祀つた縣社櫻山神社がある。▲石割櫻　驛の東一粁半、地方裁判所の構内にあり、巨大な花崗岩の割目に根を下した白彼岸櫻で、指定の天然紀念物となつて居る。▲高松池　驛の北三粁、上田にあり、池畔には櫻樹が多く、岩手山が背景をなして風致を添へて居る。▲大慈寺　驛の東南二粁餘、市内東中野にあり、その境内には原敬の墓がある。

▲二歳駒の糶市　市内新馬町で毎年九月中旬に開かれるもので、その出場の馬數は約二千に達しその價格も二〇萬圓以上に及び連日雜沓する。

▲樣火　盆の八月一五日を中にする三夜に市内各戸に薪を束ね、これに樺皮を捲いて夕刻一齊に點火して魂迎魂送りをするもので、燈籠流しと共に古來有名である。

岩手山

盛岡市の西北二四粁にあり、海拔二〇四一米の休火山で、東方から望めばその容姿富士に似て居るので岩手富士、南部富士などゝも云はれて居る。しかし西方には二、三小峯が連亙して多少形の美を損じて居るため南部の片富士とも云はれる。西北は秋田駒ケ岳山脈に連り、東南に平原を繞らし、小岩井牧場その他の牧場地は所謂南部馬を育てて居る。

此の山は東西の新旊二つの圓錐火山の重合したもので、西岩手は東岩手よりも古く、東西三粁南北約二粁の大地獄の楕圓形火口の底に低い中央火口丘があり、更にその内部に御苗代と稱する火口原湖と、火口湖釜がある。最も外側の大地獄大火口壁は侵蝕をうけて絶壁の大輪壁を生じて外輪山をなし、南壁を鬼ケ城山、北壁を屏風岳と云ひ、鬼ケ城山の最高地點を姥ケ岳と呼び海拔一、七〇六米ある。その北西壁は燒切澤の火口瀨に刻まれ、松川の一支流をなし、瀦が多い。東岩手山は前記の鬼ケ城と屏風岳が互に近づいて東方に閉合する邊に噴出した二重式火山で、頂上の火口をお鉢と呼び直徑七〇〇米の圓形をなし、火口壁の最高點は藥師岳と呼ばれ、岩手山の最高點をなして居る。此の火口には更に妙高ケ岳と稱する小中央火口丘があり、その西方に偏せる火口を御室と呼び深さ一八〇米に達し、内壁は懸崖をなして居る。

〔登山路〕柳澤口、網張口、鬼石口、平笠口の四路あり、その中柳澤口を表口と稱し普通登山者は此の口から登つて網張口へ降りる。東北本線瀧澤驛（盛岡から一一粁九）から柳澤まで約一〇粁、自動車がある。柳澤には縣社岩手山神社があり、社務所へ宿泊出來る。柳澤から山頂まで約一四粁で凡そ五時間を要する。山頂から望むと、東南には北上川と北上平野、盛岡市等が俯瞰され、北上山脈の連嶺が眺められる、南は麓下に小岩井農場が開け、遠く栗駒山を望み、西は葛根田川の溪流を隔て、乳頭山、秋田駒ケ岳が間近に眺められる。

此の山は東南側には殆んど森林は無いが、西南には青森トド松、樺等の原生林があり、山腹にはブナ林があり、面目を異にして居る。

頂上附近には駒草が多く、イワテハタザオ（十字科）等も多い。

山頂から道を西に網張温泉に下れば約一二粁あり、此の間林相の美に勝れてゐる。殊に支脈鬼ケ城の岩壁が鋸く鋸齒狀に聳ゆるのは一偉觀である。網張温泉から小岩井まで約一八粁、緩かな下り道で全部徒歩による。

蕪島

岩手縣八戸市鮫港の海上一粁。

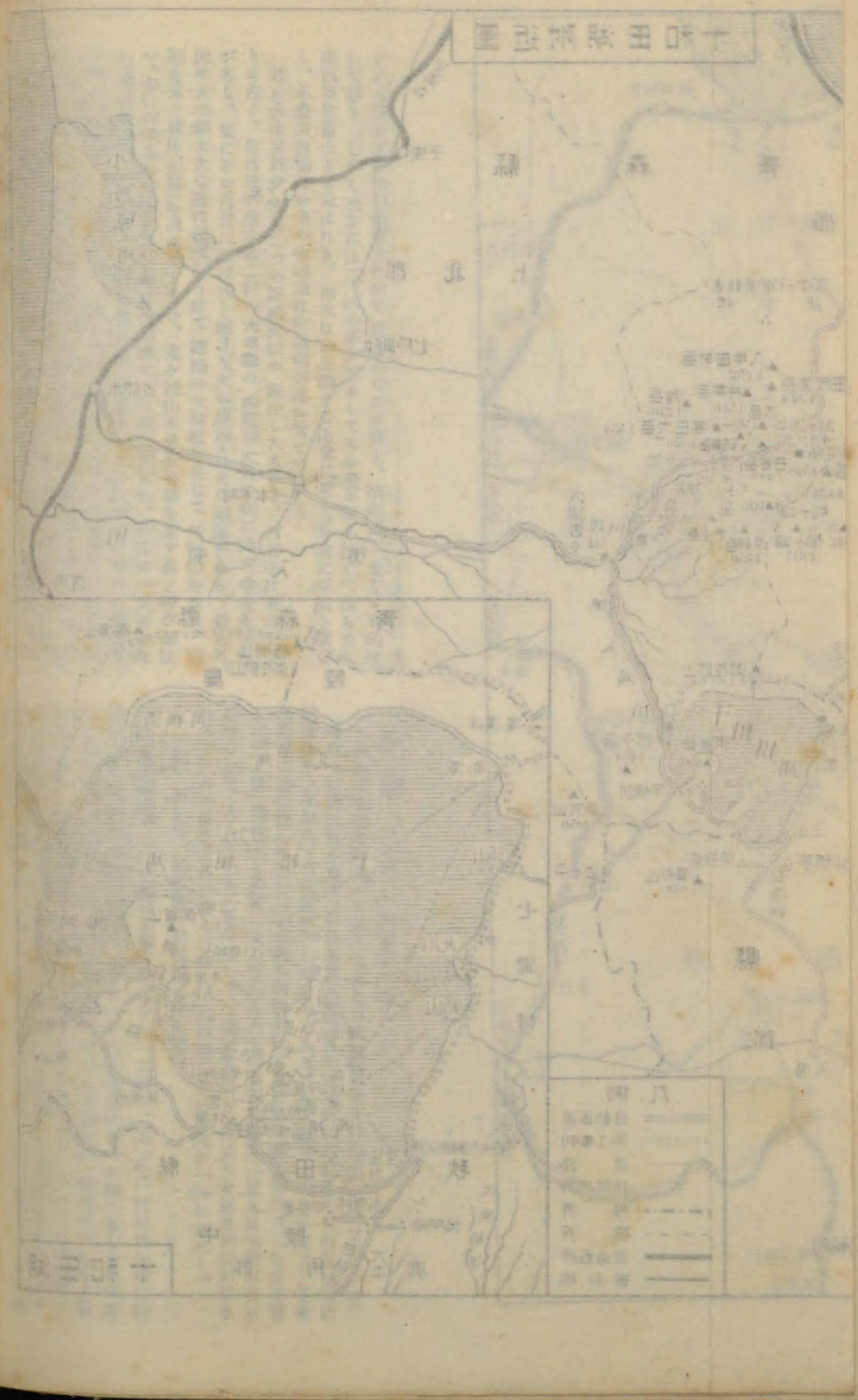
▲東北本線尼内驛から分岐する八戸線鮫驛（一一粁八、一九錢）の北一粁。

周圍一粁許りの小島で、全島蕪青が繁茂するので此の名があり、指定の天然紀念物「うみねこ」の蕃殖地として著名である。うみねこは鷗の一種で、冬季は北方の海に棲んで居るが、春から秋にかけて此の島に來て產卵し、ひなを育て、島一帶に幾萬羽と亂舞してゐる樣は天下の美觀である。里人は「辨財天の御使ひ」なりとして決して害を加へず、舊三月三日には盛大な厳島神社が催される。此の地はまた汐干狩も行はれ、八戸港一帶の風光が一時にされる。

〔旅館〕石田屋、橋本館、鷗鳴館、蕪島溫泉。

種差海岸

八戸線種差驛（尼内から一九粁六、五〇分）附近は一帶に壯觀極りなき大洋的景觀を展開して居るので最近著名になつた處である。從來東北の海岸の勝地と云へば松島か男鹿半島に限られて居たが、種差はこれらと全然趣を異にし規模も遙かに雄大である。それに東北特有のノンビリした牧場とあり、これが太平洋とよく調和し、全體的に日本離れのした大陸的な大きな景色である。



十和田湖

十和田湖は青森縣陸奥國上北郡十和田村、秋田縣陸中國鹿角郡七滝村とに跨り、八甲田火山郡の南に位する高山湖で、四周に峰巒圍繞し、其の脈延びては急に、或は緩に湖邊に迫る所、見上る斷崖絶壁を形作り奇峭怪巖を峙たしめ曲浦長汀と展け、稜々たる岬角をなし、又、飛んでは島嶼となり、それらの島々悉く蘇苔に粧はれ、珍草老木繁生し宛然天下の名盆栽を一堂に集めたるかの感がある。しかも太古その儘の湖水は波穏かに明鏡の如くに藍碧千古の祕を湛へて居る。

遊覽の季節は五月から一一月中旬迄である。五月は櫻、つゝじ、藤、六月は新綠の美あり、夏は湖畔の氣溫最高二四度最低一二度で避暑に適し、月夜の舟遊に甚だ興が多い秋山は滿山の紅葉燃ゆるが如く樹種多きにより色に變化あり其美觀多く類を見ぬ。殊に一〇月中旬がよい。其他の季節は雪解のため道路惡く、交通機關も旅館も閉止する。

十和田湖の成因は複雜な形の二重式「カルデラ」であると云ふ。卽ち第一次のカルデラは稍四角張た圓形で、東西約一〇粁、南北約八粁あり、その南岸には牛の角の如く二つの牛島が突出して居る。この二つの牛島は第一次カルデラの中に噴出した一つの中央火口丘であつて、その中に抱く瀦が第二次カルデラであると云ふ。湖上の勝景は此の中央火口丘たる兩牛島から生み出されるもので、その西のものを中山牛島と呼び、其形細くして長く、最高湖面一五〇米位、小さな山の波狀をなして起伏し、つゝじが岡、神苑山、鳳鳴山、駐月山等の諸峯連り何れも姫小松赤松等繁生して居る。西側には多數の岩島が之に附屬して最も幽雅の境で、小舟に乘り其間を廻遊する事が出來る。東の牛島は御倉牛島と呼び太くして短いけれども御倉山といふ圓頂丘が附着して長さと高さを增して居る。兩牛島の中湖に向ふ側は高い崖をなして水中に下り、島は殆どない。

御倉山（湖面より高きこと二八九米）は第二次中央火口丘であつて、中湖陷落以後に噴出したものらしいと云はれて居る。湖は面積七八方粁、全國第一一位の大湖で、湖岸線は大體に於て單調であるが、南岸から御倉、中山の二牛島が突出して居るので、その延長は四六粁二に達して居る。湖は此の二つの牛島のため四つに區分せられ、南牛は東湖、中湖、西湖に分たれ、自餘の中部以北は北湖と呼ばれて居る。最深點は兩牛島に抱かれた中湖の南に偏して存し、三四八米あり田澤湖（四二五米）、支笏湖（三六〇米八）の次に位し、我國第三位に在る深湖である。しかし此の瀦を出ると、その北西に一三〇米程の深區を見るのみで、其他の區域は可なり淺くなつて居る。湖面は海拔四〇一米、然も此の水位は昔は遙に高かつたと云ふ。卽ち東湖の宇樽部附近に今の湖岸から數十米も高い所に湖成段丘が明に認められると云ふ、是が今日の水位迄低下したのは、奥入瀨川が北方の壁を突破して流出し、且其河床の次第に低下した爲である。

次に水色は「フオーレル」氏の第三號の藍色湖で、その澄切た水は二〇米の深度に卸された透明度板を明に認めらるゝ程美しい（田澤湖は三九米）。水溫は表面夏季二二度三、冬季零度、深層は一年を通じて五度である。

十和田湖にはもと魚類が棲で居なかつたが、明治三六年、和井内貞行氏が北海道支笏湖原產のかばちえつぽと云ふ小さな鱒の卵を取寄せ、人工孵化によつてその稚魚五萬尾を放流したのが始りで、兩後年々數萬尾の稚魚を放流し、和井内鱒と名付け、年產百萬尾以上に及で居る。鱒釣は和井内ホテルに申込めばよい。和井内姫鱒は六月一〇日頃から七月末迄は素人にも良く釣れる。八月以後は鱒釣に經驗ある人にのみ釣れる。鮒釣は七、八月で和井内ホテル棧橋でよく釣れる。

湖畔を繞る翠巒は皆低く、特に聳えたものはない。北方の騰棚山（一、〇一一米）、東方の御子岳（一、〇五三米）、西方の白地山（一、〇三四米）等は湖水に近い高地で、之等は何れも密林に包まれ、かつら・いたやかえで・とちのき・ほう・きはた・さわぐるみ・ぶな・みづなら・さわしば・つのはしばみ・はりぎり・なゝかまど・こみねかえで・やまうるし・しゆりざくら・うわずみざくら・みやまかますみ・いぬがや等多く、秋季は紅葉の美觀を呈する。

【湖景鳥瞰臺】 ▲御子岳、子の口、宇樽部間にあり、湖面より高きこ

と六五米あり、松倉瀑又は宇樽部から二時間位で頂上に達する。湖景島嶮第一の展望臺である。▲中湖展望道　休屋からも宇樽部からも一時間位で頂上に達し、婦女子にも登ることが出來、中湖の幽潭を脚下に俯して眺めがよい。頂上三ケ所の展望臺を一巡するには更に約一時間を要する。

【湖上遊覽】　二、三人乘から四、五〇人乘迄の遊覽船が數十隻あり、一時に四、五百人の觀光も出來る。普通の遊覽には子の口から御倉、中山の二半島を巡航し、休屋に立寄り生出に至る。或はその逆に行く。

子の口—宇樽部　三〇錢、二〇分。
宇樽部—休　屋　一圓二〇錢、一時間一〇分。
休　屋—生　出　二〇錢、二〇分（三粁）。
子の口—休　屋（遊覽船）　一圓二〇錢、一時間半約一六粁五
〃　〃　（直　航）　七〇錢、四〇分約一〇粁）
〃　（貸切船）　自七圓至二〇圓。
子の口—休　屋—子の口　一圓九〇錢、二時間五〇分。
子の口—休屋—生出—子の口　一圓九〇錢、三時間。
生出・休屋—子の口—生出　一圓九〇錢、三時間。

子の口から船に乘て西南に向ひ、右に青撫山、御花部山（勝棚山）、左に御子岳、高山を眺め、東湖を一直線に横切つて御倉半島の北端に近づき（子の口から三粁）半島の西岸に沿ふて中湖に行く。半島の北岸には直立の絶壁があり姫小松、赤松其他の樹木が生ひ茂り、初夏の新綠、仲秋には紅黃とりどりの霜葉が美しい。半島の西北端を八雲崎と云ひ、一粁半で西側の突端日暮崎に達する。此處には水面から直立する火山岩の上に赤松が茂り、其下には平坦な岩礁がある。船を繫いで岩上に立てば中湖を大觀することが出來る。此處から對岸中山半島の千鶴ケ崎迄は直徑約二粁ある。日暮崎から中湖の湖岸に沿ふて進めば比翼松、神代の浦を經て鴨眼崎に至る。ここには赭色の岩の間に御室と云ふ洞窟がある。その次には赤色の酸化鐵を多く含む集塊岩から成る赤根岩がある。そのあたり高く見上ぐれば千丈幕岩が長く連り、下には黃・茶・紫・赤、黑等の色を呈する火山礫岩、火山灰の五層が見える。之を色割岩又は五色岩と名づける。更に鳥帽子岩・鼎風岩等火山岩の節理により上部の崩壞した餘岩なることを見て、千本松に至る。日暮崎から二粁半。これより一直線に西に進み、中湖の西岸、中山半島の御占場に至る。此間二粁。途中湖中の最も深いあたりを過ぎる。御占場の背後には大樹の鬱蒼たる陰に巨岩が重なり合ふて絶壁を作り鐵の梯子がかけられてあり、其上に十和田神社がある。御占場から西北に向ひ、中山半島の東岸に沿うて進めば水際に近いあたりは赤紫色を呈する集塊岩が多く、其水に接する所は波浪に浸蝕されて凹み、そこに波が入つて岩に打ちかゝるとその音が反響して美しい音が聞える。薬平岩、千代の浦、小町岩、千代ケ崎をすぎて千鶴ケ崎に至る。御占場から一粁半、中湖の火口壁は此處で終る。

千鶴ケ崎から中山半島の北岸を進み赭色の集塊岩から成り、赤松を載くローソク岩を見、更に西北千島ケ浦に至れば、半島のくびれて船中から西湖の水面を望み得られる處がある。此處を見越と云ふ。これより北進して北端中山崎に至る。千鶴ケ崎から二粁。此處から西南に轟じ西湖に入り、中山半島の西岸に沿ふて南進する。見越を左に見て、夕暮松を眺め、葭野地と稱して蘆の生えて居る水の淺い處をすぎる。それより更に權現崎、グミ島、比翼松を經て六方石を望み、尾上松に至る。中山崎から二粁半。尾上松は湖中隨一の佳景で、半島の高い所には姫小松生ひ茂り、湖岸には赤松が疎生し水際にはどうだんつゝじが岩にからんで居る。尾上松から東南に向ひ瓢簞崎、高砂浦、蓬萊島をすぎ自籠の入江に入る。入口には鎧島、兜島があり、入江の中には巨大な岩石が直立して居る。鐵の梯子を登つて上に至れば平な處があり、そこは十和田傳說で名高い南祖坊が入定した處であると云ふ。更に進んで柱狀節理の火山岩から成る惠比壽大黑島を過ぎて休屋に着く。尾上松から一粁半。

休屋には南北一粁半に亘る砂濱があり、之を御前ケ濱と云ふ。その背後には奥行一粁の平地が横はり、南部に神田川が流れて居る。この川を境として南は秋田縣である。砂濱の中程に棧橋があり、其處に上陸して北方に向ひ表參道の森林の中を三百米程進むと一の峻坂あり、少し登れば十和田神社がある。神社には日本武尊を祀る。又神社の右方の岩石の累々たる細徑を登れば小さな堂宇があつて南祖坊の石像を安置す。更に登ると中湖を見おろす斷崖絶壁の上に出る、下を見れば千古の鬱を包んだ碧潭微動だもせず妖艶のやうに物凄く樹間に閃めく。そこに鐵の梯子が斷崖に掛つて湖邊に下りる。此處を十和田第一の靈場「御占場」といひ、白紙に小銭を貼せるか、觀世銭を遣つて、水面に形べて吉凶を占ふ面白い習慣がある。

【十和田神話】

十和田湖又は田瀬湖の樣に神秘な湖などには夢の樣な淡い傳說が纏るものである。十和田湖にも次の樣な面白い傳說がある。その昔、鹿角郡柴内と云ふ所に久内と云ふ人があり、その娘お花と呼ぶ類ひ稀な美しい乙女と、日本海に臨む寒風山の彼方に住む大蛇の化身であつた立派な殿方風の男との間に生れた八郎太郎と云ふ筋骨衆に優れた若者があつた。

或時八郎太郎は二人の友と一緒に鹿角の北方に當る「言分山」にマダの樹皮を採りに登つたのであつた。そして或日炊事用の溪水を汲みに瀑に下つた所手桶の中に尺に餘る岩魚が三尾も飛び込んだ。早速燒いて食した處、得も云はれぬ美味だつたので友の分迄平げて了つた。ところが間もなく烈しき渴を覺え、汲んで來た桶の水では足らず、遂に谷川に下り七日七夜の間鯨飲した。不圖水鏡に映じた自分の姿が龍身に化して居るのを見て今更の如く吃驚したが、已が身は龍神の血を享けて此の世に生れて來た事を豫て老婆から聞かされて居たので、その因果をさとり、人知れず恩ひ染めて居た田鶴子と云ふ可憐な乙女の事も思ひあきらめなければならなかつた。そこで今は之迄と、山を削り水を堰き止めて一大湖を作つてその主となり、常に水中に棲んで居た。

その後幾百千年を經て、南祖坊と云ふ出家が、陸中三戸郡十賀村に熊野權現の申し子として生れた。父は清和天皇の貞觀年中讃に遇つて其處に流浪の末を送つた綾小路關白藤原是眞卿の子で、是行卿と云つた。南祖坊は幼少にして聰明無類、永福寺の月體和尚の許に得度して雲水修行に普く諸國の靈場を巡錫して歩いたが、中にも紀州熊野の權現には參籠すること數十回に及んだ。或時千歳死を免れん事を祈つて居たが、滿願三七日目の日、神靈が南祖坊の夢に現はれ「山麓にある金の鞋を履いて諸國の靈場聖地を巡錫せよ、然らば其功德により此世に於て最も美しい山と湖を見出すであらう。即ちその鞋の緒の切れた處を住家とすれば永生が遂げられる」と告げられた。そこで南祖坊は山を下つてその草鞋を履いて東奔西走多年に及び鬚髮に霜を混へる頃、飄然と故郷永福寺に歸り、今は空しく一基の墓石と化して居る師の坊や兩親の菩提を弔ひ、附近の人々が大蛇が棲で居るとて怖れて近寄らぬ八甲田山、乘鞍岳、言分山などをさして登り、そこで見た世にも美しい大湖の畔に出るため、今の奥入瀨木流に出で、一夜を明かすべく一つの岩窟へと立寄つた。處が其處には前の世に背の君として南祖坊に仕へたと云ふ花も羞ふ美女が居て、春怨連綿として

坊に訴へたので、流石南祖坊も幾十年の間修業怠道を妨げる惡魔として五蘊の奥に秘めてあつた愛慾の念が春の双葉の如く心の奥に芽ぐみ來るのであつたが、忽ち瞬時も忘れ得なかつた熊野權現靈示の事を思ひ出して、夜の明くるをも待たず、跡を追ふ彼女を振り捨てゝ山頂の美しい湖畔に來た時草鞋の緒が切斷した。南祖坊は神のお告の永住の地は此處であつた事を知り休屋附近の目木武尊を祀つた小さな御堂に笈を卸し、守護神熊野權現を此處に勸請し、湖畔に聳ゆる巨岩（今の自籠の岩）の上で七日七夜の行を修して諸天に祈りを捧げ、愈々入定して此の湖の主となるべく丘を越えて今のお占ひ場の所に來り、身を龍神に代へて湖水に飛び込んだ。しかるに既に久しき以前に湖の主となつて住で居る八郎太郎が南祖坊を拒んだので、此處に大格闘が起り、七日七夜鎬を削つて爭つたが、何時果つるとも見えなかつた。南祖坊思ふに、我がために此の樣に永らく天地を騷がしては諸天の神々に對して誠に恐懼に堪へず、今は止むなく佛の慈悲に御縋りするより外なしとて法華經の一卷を取出し、之を頭上高く捧げしに、アラ不思議や、經卷の文字幾萬幾千、一字々々悉く箭となりて飛出し、八郎太郎の五體寸隙の殘る所なく刺して滲傷を負はしめた。八郎太郎は天下無双の勇者ではあつたが、惜むべし無學であつたので、有難い法華經には抗すべくもなく力盡きて敗走した。湖岸の五色岩や蠟燭岩その他の赤いのは八郎太郎の流した血に染た爲であると云ふ。八郎太郎は十和田湖を立退いて鹿角郡に入り、米代川を堰止めて郡下一圓を大湖に化せんと計畫したが、鹿角四十三箇所鎭守の神々は大評定の結果不謹成を決議して、月山の頂上から大石を散々に投ぜられたので此處をもホウ〜の態で逃げ去り、漸く寒風山の蔭に大湖を造つて安住の地を得たのであつた。八郎潟は其の名に因で付けられたのである。現今古川と毛馬内の境の陣場に石塊が累々として居るのは月山から投下した時の石であると傳へ、大湯温泉場附近の「集屋」「集り宮堂」は神々の大評定を開いた跡であると云ふ。斯くて南祖坊は希望通り十和田湖の主となつたと云ふ。中山半島にある熊野神社、南祖坊の堂は此の傳說に基いて建てられたものである。また今の松倉岬は、南祖坊の前の世の妻と稱する女性が、坊の後を慕ふて奥入瀨の岩窟から漸く十和田湖畔にたどり着いた時には、南祖坊は已に湖の主となつて了つた後なので、彼女は失望の餘り聲も涙も盡き果て、其儘湖邊の岩と化したものであると云ふ。岩上に建つ小祠は彼女をあはれんで祠つたものである。

以上の傳說に因んで、十和田湖には明治の初年頃迄忌み言葉として參詣者も土地の人も絕對に口に出さぬ風習があつた。若し之を犯せば湖神の怒に觸れ大風雨が起るものと信じられて居た。それは南祖坊の神城となつてからは、一切八郎太郎を連想させる樣な言葉を用ひるのは畏多いと云ふ敬虔な信仰心の發露からであるが、今の觀光客は其の樣な忌み言葉のある事を知るものさへ稀である。卽ちその忌み言葉とは「蛇、八、柴、赤、舟」等で、八は八郎太郎の八に當るので、之に普通する「お鉢」の事を「ワツパ」、數の八を「ヤツツ」と云ひ、蛇の事をは「長蟲」（八郎太郎が十和田湖の主であつた時代、蛇は彼の最も愛した腹心の臣下であつたから）柴を「小木」（八郎太郎の故郷が柴内であるから）、と云ひ、赤は八郎太郎が敗走した時、血を流して湖水を濁した色であり、舟は神聖な湖水に浮べる事は勿體ないと云ふので、湖畔の人々は木横（キツツイ）と呼んだのである。

さて八郎太郎は八郎潟に漸く安住の地を見出したものの、過ぎ來し方の幸福な日を思ひ出すにつけ、己が人知れず二世を契つた田鶴子の事が思ひ出されるので近縣を隈なく探り歩いた處、田鶴子は程近い仙北郡の田澤湖に主となつてわびしく孤閨を守つて居るのであつた。そこで八郎太郎は田澤湖を訪れ此處に幾百年振りかに再び相擁する事を得たので、其後南祖坊に對する復讐の事などは忘れ果て、日夜田鶴子の許にばかり訪れ、自分の棲家である八郎潟をば大方留守にして居るので、八郎潟はだん〳〵淺くなり、反對に田澤湖は年毎に深くなると云ふ事である。

田澤湖に流する「木根尻鱒」は、八郎太郎がとぼして行つた松明の燃え差しが湖中に投げ捨てられたものから生れたものであると云ふ。鱒の軀は木根尻（薪の燃えさしの方言）に似て半分黑くなつて居る。

八郎太郎が田澤湖を訪れる樣になつてからは土地の人々は近年まで一切鐵類を湖水に入る、事を嚴禁し、舟も一本の釘をも使用しない獨木舟を浮べて居た。之は八郎太郎の敵である南祖坊の履いて居た草鞋が鐵であつたので「坊主憎くければ袈裟まで」の譬から、八郎太郎の心を察して彼等二柱の湖神の安らかな夢路を亂すまいとする心遣からであると云ふ事である。

探勝行路

一、古間木口　古間木驛―湖畔子の口間、五二粁九

▲古間木驛―三本木町間　一四粁九、自動車三〇分、乘合五〇錢、貸切三圓。
十和田鐵道で四〇分、賃四二錢。
▲三本木町―燒山間　二四粁、自動車五〇分、乘合一圓二〇錢、貸切六圓。
▲燒山―子の口間　一四粁、自動車四五分、省營バス四二錢（一日二回のみ）
貸切三圓五〇錢、徒步四時間。
▲古間木―子の口間　自動車二時間二〇分、乘合二圓二〇錢、貸切一二圓五〇錢。

東北本線古間木驛から奥入瀨渓流を經て子の口に達する行路である。此の口は所謂十和田湖の風光の半は奥入瀨にあると迄云はる、渓流美を探勝し乍らゆくので、由來十和田探勝の表口であり、諸行路中の第一にあげられて居る

三本木町　三本木野の中央に位し、安政年間南部藩士新渡戸傳氏（新渡戸博士の祖父）の經營した新開地の市街で、今は此處に軍馬補充部の支部が置かれ、商業が盛である。人口一一、二九八人（昭五・一〇）。
（旅館）世界公園館（電三〇）、安野（電三本木五六、一泊二圓半―五圓、㊐三圓）。

燒　山　曠野と深林との分岐點で、奥入瀨渓流の入口である。又八甲田越行路の岐れ路ともなつて居り四粁で鷲温泉に達する。

尙燒山の四粁手前右手の丘に亭々枝を張つた銀杏の大樹がある。此處は善正寺跡と稱する所で、銀杏は南祖坊手植のものと云はれ、地上一米に於ける周圍一三米もあり、天然記念物に指定されて居る。

奥入瀨の渓流美　燒山から子の口に至る奥入瀨川の渓流約一四粁の仙境を賞するもので、之を幽谷の仙境（燒山―馬門岩五粁餘の間）激湍楓樹（馬門岩―裸渡の橋一粁七の間）澤山大澤（裸渡の橋―栃棚二粁半の間）懸崖瀑布（栃棚―銚子の口三粁餘の間）林泉奇石（銚子の口―子の口一粁三の間）の五大景に大別して居る。十和田の美は只湖上に止るのみではなく、東方の裂罅を求めて湖水の迸る處は有名な奥入瀨の渓流となり、水分嶺の間隙を辿つて岩に迸られ、懸崖に縮められ、奔つて瀨となり

溢へては潭となり、懸つては瀑となり、又渓中の岩石の水上に露はる、所、皆奇木を以て飾られて居る景は眞に天下の絕景で、十和田湖の靜的な美に對して、動的な美を展開し、千變萬化の妙を盡して行く人の目を飽くまで樂しまして居る。

燒山橋を渡つて對岸に馬川の落口を望み、南（右）に折れると右に柴明渓が眺められる（以前は絕勝筆紙に盡し難い處であつたが、大正六年の洪水のため一夜に空しく頽れ、現存の廢骸を礎した）。樋、ぶな、栗、楢、楓等の濶葉樹林の中を過ぎると惣遷橋を渡る。之から上流は殆ど支流がなく、河水は常に同水位を保ち、此處に特殊の植物景を見せて居る。「三亂の流」（河中にある岩石の爲に水が三分して流れる處）の勝を賞で、柴明渓から約一粁、右の林間に「石ケド」の窟がある。（ケドとは小舍の方言。厚さ三、四尺方四間許りの一大磐石が斜に傾き、天然の石窟をなして、廣さ數人を容る、。昔、鬼神のお松と云ふ兇賊此の窟に巢ひ、附近に出沒して旅人を惱ました處であると云ふ）之より尙進めば對岸に屏風岩の奇勝が迎へ、之と斜に向き合つて左に馬門岩がそそり立て居る。馬門岩から五粁餘。兩岸の懸崖數十丈相對立し、岩壁双方より迫り、樹梢相交る下に渓流淙々と流る、處、馬門岩の奇勝で昔時から往還の人の休憩所となつてゐる。此處は奥入瀨の中樞で、景愈幽邃に展開して行く。駒止橋を渡て左岸に出で、裸渡橋に至る約一粁六、七分の間、水中岩石多く、而も奇木珍草其上に戲れ、宛然小松のやうであるから八十島と云ひ、或は楓樹が多いので楓谷とも云ふ。阿修羅の流、七瀨、抱返りの淵等の奇勝は此内にあり奥入瀨隨一の勝區である。

裸渡橋を渡ると道は右岸に變る。川を渡ること玆に五回。燒山橋からは再び渓流を右に見て進む。舊時は道路此處で盡き、旅人は脫衣して川を涉つたもので、裸渡りの奇觀が生じた。橋から數百步にして雲井橋に達す。左に一飛瀑雲井瀧があり、これから約四粁の間大小十數瀑を見る。次で右方對岸に白布の瀧が絕壁中腹の空洞から落下して居る。やがて河中の奔流白く泡立つ白銀の流れ、瀑流數百間、旋回瀧流して巴狀を畫く巴ケ淵を見、對岸に白絲瀧、不老瀧左に姫瀧、友白髮瀧、姉妹瀧を眺め、進で奥入瀨の全流一大瀑布となつて落るのを見る。之を銚子の瀧又は大瀧と云ふ。瀧は高さ二丈、巾一五間、海洋から奥入瀨川を遡る鱒は此處で前進を阻まれ、瀧壺に近いあたりでは長さ五〇糎に及ぶ大魚が釣れる。瀧を過ぎて惡瀨橋を渡り暫くにして湖岸に達し天淵橋を渡つて子の口（排水口の左岸）に着く。銚子瀧から一粁三。

二、毛馬内口　毛馬内驛―湖畔生出間三二粁

▲奥羽本線大館驛―毛馬内驛間花輪線約一時間五分（二九粁二）、賃四七錢（三等のみ）
▲毛馬内驛―大湯　七粁五、自動車二〇分、乘合四〇錢、貸切一圓五〇錢（毛馬内驛・毛馬内町間約二粁、乘合一〇錢）
▲大湯―生出間　二二粁、自動車一時間一〇分、乘合一圓三〇錢、貸切七圓。
▲毛馬内驛―生出間　二九粁五　〃　一時間半、〃　一圓七〇錢、貸切八圓。
▲〃―休屋間　〃　約二時間、〃　九圓。

【大湯溫泉】　米代川の一支流大湯川の畔に湧出する溫泉場で、毛馬内から十和田湖に入る遊覽者の休憩地とされて居る。湯はアルカリ性鹽類泉で、四九度―七六度位、胃腸病・婦人病・皮膚病・リウマチス等に效がある。
（旅館）千葉茜（室一七、一泊同上、㊐三圓、電同八）、大湯ホテル（室一五、普通一泊二圓―三圓、㊐三圓、電大湯七番）、高島（電一九）、龜屋（電一〇）中村（電一四）、仙臺屋（電三六）、岩の湯（電二九）、丸井（電六）、一泊一圓乃至二圓。

●發荷峠　大湯から先は徐々に上り道となり、中瀧の部落を經て峠にかゝり約四粁で發荷峠に達す。

發荷峠は海拔六四七米、全山濶葉樹に覆はれ紅葉によいが、此處から俯瞰する湖景の美は一入で、殊に、右「白樺林道」二粁の甲岳臺、左「羽衣林道」一粁弱の柴明亭は展望所として好箇の位置を占め、眼下に中山、御倉の兩半島が並び、湖をかこむ山々はなだらかな尾根の線は、山水美の壯大さを增して居る汗知らずにて十和田湖の全景を見得る所は今の處此の峠のみである。

此處から湖畔發荷迄は急坂約二粁を下る、徒步。

毛馬内口からの探勝者は此處の見返りの茶屋から電話を以て休屋の旅館又は遊覽船の豫約をすることが出來る。

峠を越しつゝら折なる坂道を下ること四粁で湖畔生出に出る。

三、八甲田越口　青森―湖畔子の口間六四粁、省營バス運轉。

青森驛から省營バスに乘換へ、酸ケ湯を經て八甲田連峯を越え、蔦温泉から燒山に出て奥入瀬溪流口に合するのが此のルートで沿道の景が佳い。

▲青森—酸ケ湯間　三〇粁、一時間半、九〇錢（一日三回、貸切一〇圓。

▲酸ケ湯—蔦温泉間　一五粁、一時間、四五錢（二回）。

▲蔦温泉—燒山間　五粁、一八分、一五錢（二回）。

▲燒山—子ノ口間　一四粁、四五分、四二錢（二回）。

▲青森驛—スカ湯—蔦—子の口間　六四粁、一圓九二錢（二回）。

▲子ノ口—宇樽部—休屋　一二粁、三四分、三六錢、省バス二回。

青森から一二粁で雲谷峠にかゝる。峠は海拔三五五米あり八甲田山の廣い裾野の中にあり附近一帶は放牧地で、牛馬が自然の儘に遊で居り、反顧する北方に視野は展け、青森灣の遠景を望む事が出來る。

酸ケ湯温泉　は古來「三日一週り」の溫泉として知られ、美しい樹林に圍まる、海拔約九二〇米の八甲田山の主峯酸ケ湯嶽（大嶽）の西南山腹にあり、附近一帶はスキーの好スロープがある。積雪は一二月から四月まで二米に及び、雪質もよい。又附近には東北大學高山植物研究所、地獄沼などがある。溫泉は酸性硫黄泉で五〇乃至六〇度、熱の湯、冷の湯、四分六分の湯、鹿の湯等あり、リウマチス・婦人病・麻痺・痔疾・胃腸病・皮膚病に特效がある。

〔旅館〕萬千閣一軒六棟、室一〇〇、五〇〇人を收容す。一泊二食付二圓半。自炊客室料一日四〇錢乃至八〇錢、食費三〇錢内外、布團料一日二〇錢—五〇錢、湯錢一日一〇錢等、㊐二圓半。

八甲田山　酸ケ湯から頂上迄凡四粁で往復三時間半位。小岳との鞍部迄は小さな唐檜や白樺の林が美しく續いて四粁許り緩やかな登りで、鞍部から餅缺清水を經、林の茂みをくぐつて急な岩谷を過ぎ偃松地帶に入り、夫から半粁許り登れば頂上である。山頂の眺望は雄大で、青森灣から下北半島の悉しい山容を見せて居る。

八甲田は前岳（海拔一二五二米）、田茂萢（一三二四米）、赤倉（一五四八米）井戸（一五五〇米）、大岳（一五八五米）、小岳（一四七六米）、高田大岳（一五五一米）、雛岳（一二四〇米）等の個々の獨立した八峯の休火山群から成る那須火山帶中の雄峯なるもので、東は三本木平野を隔てゝ太平洋に、西は津輕平野を隔てゝ日本海に、北は青森平野及陸奥灣を望で居る。その中大岳（酸ケ湯岳）は最も高く、東方に偏して圓形の火口があり、直徑約一四〇米、深さ約五〇米に及で居る。

蔦温泉　青森縣上北郡十和田村字蔦、文士大町桂月によりて名を知られた所で海拔約五百米、八甲田山と十和田湖との中心地を占め、此の大風景地帶を探勝するには最もよい足溜である。溫泉は無色透明の鹽類泉で湧出量に富み、溫度四八度、外傷性障害、リウマチス・皮膚病・神經衰弱・婦人病・中風等に效がある。

〔旅館〕小笠原（蔦旅館）（室三六、一泊㊐二圓半、普通一圓半乃至三圓、晝食六〇錢乃至一圓半。自炊、室代一日三〇錢—五〇錢。

ここの溫泉は保養向で自炊旅籠双方の客を歡迎し、自炊客の爲には旅館で副食物を販賣し、また伺式もある。

〔附近名所〕溫泉の北約半粁の所に蔦沼があり、翠巒を繞らして水深く又清澄で極めて神秘的である。舟を浮べいわなを釣る事が出來る。又附近四粁以内には月沼、鏡沼、長沼など所謂蔦十沼があり、何れも密林に閉され神秘の水を湛へて秋葉の頃は實に美しい。

四、黒石口　黒石線黒石驛—十和田湖畔瀧の澤間　三五粁

▲黒石驛—板留間　一〇粁、自動車四〇分、乘合三五錢、貸切二圓。

▲黒石—瀧の澤峠間　自動車二時間半、貸切一四圓。

▲奥羽本線川部驛—黒石間（黒石線）汽車一一分（六粁六）、三等一一錢。

津輕平野の東南部に位して居る黒石町の街を出はづれ、右に津輕富士と呼ばれる岩木山の秀峯を眺め乍らゆくと、左右の山脚が次第に挾まり、道は前方の奥深い谷間に向つて伸びる。板留溫泉まで一〇粁の間は乘合自動車の便があるがそれよりは徒歩による。板留溫泉から南に向ひ、淺瀬石川に沿ふて上り、九粁で西の方大鰐から來る道と合する。それより東に向ひ進むこと五粁で平六の部落に入り、更に東南に折れゆくこと四粁で湯川溫泉に達する。此處から五粁で瀧の澤峠に至り、始めて湖水を望み、そこから二粁半東南に下ると湖畔瀧の澤に着く。瀧の澤峠は海拔六四九米、發荷峠と共に展望に勝れて居り、途中の沿道には溫湯・板留・二庄内・沖浦・溫川・切明・青荷等の諸溫泉がある。

瀧の澤には黒石館と云ふ旅館が一軒あり、此處から舟で湖の西岸を巡り生出を過て休屋子の口方面へ向ふのであるが、瀧の澤から二粁程先の緑山には紅仙閣と云ふ旅館があるから此處を足溜りにしてもよい。

（と云ふ。〔旅館〕溫川館、一泊一圓—二圓、自炊制あり室料は各人の任意。

▲切明溫泉（同上竹館村切明）前記沖浦から約一四粁の淺石川畔にあり、泉質效能は沖浦と同じ。

五、三戸口　三戸—湖畔字樽部間四四粁

▲三戸—迷ケ平間　四〇粁、自動車二時間半、貸切一〇圓。

▲迷ケ平—宇樽部間　四粁、自動車一時間、貸切五圓。

東北本線三戸驛からの經路で、近年自動車道路が出來てから漸く利用されて來たところである。道々牛馬放牧の原始的風景に接する事が出來る。

高原迷ケ平から湖畔宇樽部への四粁の間は、道は山腹を廻るが一方は深い溪間になつて居り、しかも溪谷は萬古斧鉞を入れぬ楓、楡、樅、撫など十和田特有の潤葉樹に埋められて居るので、秋の眺めは一入である。

六、五戸口

▲東北本線尻内驛—五戸間　五戸電鐵にて三二分（一二粁四）、三九錢又は乘合自動車にて五〇錢、四〇分（一六粁八）。

▲五戸—宇樽部（十和田湖南畔）間　約三八粁九、自動車二時間半、一日二回貸片道一圓五〇錢、貸切九圓。

「註」五戸から三本木町迄約一四粁の間五戸電車に接續してバスの便がある所要三〇分、四〇錢、貸切二圓半。

貸切自動車（尻内から五人乘一臺）、宇樽部又は子ノ口迄一〇圓、毛馬内迄一五圓、大鰐迄二五圓。

十和田遊覽日程案　其一

（遊覽券利用（東京から四日）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 七・〇〇	常磐線經由青森行二、三等急行列車車中一泊	▲上野—水戸—古間木間急行一一時間二三分（六六一粁七）三等六圓七四錢（上記列車ニハ二、三等寢臺及和食堂車ガアル）

「註」一、上記列車（第二〇三列車）ハ遊覽好期デアル五月一日カラ一〇月末日マ

日程	地名	発着時刻	記事
第2日	古間木驛	着前六・二三 発前六・三〇	下車、乘換 乘合自動車
	子ノ口	着前九・〇〇 発前一一・〇〇	下車、朝食 遊覽船
	十和田湖		
	休屋（ヤスミヤ）	着後一二・三〇 発後	第一九五頁參照 下船、晝食 自動車
	生出（オイデ）	着後 発後	自動車
	大湯溫泉	着後	下車、宿泊
第3日	大湯	発前八・〇〇	乘合自動車
	毛馬内驛	着前八・四〇 発前一〇・〇〇	下車 花輪線大館行
	大館驛	着前一一・一六 発後一・五三	乘換 米澤行列車
	秋田驛	着後五・二〇	下車見物 上野行列車
第4日	上野驛	着前七・五〇	歸宅

旅行費用概算

三等 三〇・七〇圓

内譯（○遊覽券＝（乘物賃二等二九圓二六錢、三等一六圓七七錢ト大湯一泊三圓○急行料一回分及饗盛二夜分二等一一圓、三等四圓、食事料其他費用トシテ概算七圓ヅヽヲ計上ス）

デ古間驛ニ停車スル（前六・三三着）

二、上記列車デ青森ニ行キ（前七・四五着）省營バスニテ八甲田越ナスノモ良ク、沿道ノ景ガ實ニヨイ。上野―青森三等七圓二六錢、青森―子ノ口間省營バス三時間五〇分、一圓九二錢。

▲古間木―三本木―燒山―子ノ口間五三粁、自動車三時間半、乘合二圓二〇錢。（第一九八頁參照）。

▲子の口―休屋間湖上遊覽船一時間半（一六粁五）賃一圓二〇錢

「註」直航船ハ約一時間（一〇粁）、賃七〇錢。貸切一〇人乘七圓位カラ定員ニヨリ三〇圓位迄アル。

（休屋ノ旅館）太鷄世界公園館、其他（二〇四頁參照）。

▲休屋―出生―大湯間自動車八〇分（二六粁）乘合一圓五〇錢、貸切八圓

（大湯ノ旅館）千葉茲、大湯ホテル其他（一九九頁參照）。

▲大湯―毛馬内驛間自動車二〇分（七粁五）乘合四〇錢貸切二圓半

▲毛馬内驛―大館間（花輪線）一時間二〇分（二九粁二）賃四七錢。

（並等車のみ）（毛馬内カラ上野迄福島經由三等七圓〇四錢

〃 〃 上越線經由三等七圓一五錢

▲大館―秋田―福島―上野間（六七五粁）賃三等六圓三八錢、上記列車ニハ二、三等寢臺及和食堂車ガアル。

「註」秋田發後三時上越線經由上野着前六・三〇ノ列車モアル。

日程	地名	発着時刻	記事
第1日	上野驛	発後一・三〇	青森行急行
	福島驛	着後 発後七・四〇	下車、電車 又ハ乘合自動車
	飯坂溫泉	着後	宿泊（一七七頁參照）
第2日	飯坂溫泉	発前	自動車又ハ電車
	伊達驛	発前九・〇七 着後二・〇一	青森行列車
	平泉驛	発後三・五三 着後五・一五	平泉古慮見物 尻内行列車
	花巻驛	発後五・二二 着後五・四四	電車ニ乘換 花巻溫泉行
	花巻溫泉		宿泊（一九三頁參照）
第3日	花巻溫泉	発前七・五三	電車
	花巻驛	着後八・三九 発後	青森行列車
	古間木（フルマギ）驛	着後一・一〇 発後	下車 自動車
	三本木	発後 着後	自動車 徒歩
	燒山	発後	（一日二回省營バス、ガアル、一五錢）

備考

▲上野―福島準急六時間一〇分（二六九粁二）、三等三圓四七錢。

▲福島驛前―飯坂溫泉間乘合自動車デ二五分（九粁八）片道三〇錢（一日九回）、貸切五人乘一圓半。

▲福島―飯坂間福島電車飯坂西線デ三〇分（九粁六）賃一八錢、三〇分毎。

▲飯坂溫泉―伊達驛間三粁三、自動車一五分、乘合二〇錢（毎列車）貸切（五人乘一圓。電車一五分、賃一三錢、三〇分毎ニ發。

▲伊達―平泉間普通列車デ五時間（一七〇粁二）

▲平泉驛カラ中尊寺迄西北約一粁六、坂下（一粁）迄自動車ガ行ク、所要一〇分、乘合一〇錢（列車毎）

中尊寺（第一九〇頁參照）

驛カラ中尊寺、毛越寺廻リ驛迄（見物時間ヲ含メテ約三時間）、

▲平泉―花巻驛間汽車一時間二二分（六八粁八）

▲花巻驛カラ花巻溫泉マデ花巻溫泉電氣鐵道デ二二分（七粁四）片道三三錢。

▲花巻―古間木間四時間三一分（一六五粁四）。上野―古間木間三等普通賃六圓七四錢（六六一粁七）。

▲古間木―燒山（三八粁九）自動車一時間二〇分乘合一圓六〇錢

▲燒山―蔦溫泉間五粁、徒歩約一時間半。

燒山橋ノ北詰ヲ西ニ向ヒ奥入瀨川ヲ左ニシテ進ム。間モナク右ニ折レ岩石ノ累々タル蔦川ニ沿フテ上リ、右ニ穴吹ヲ見、左ニ昇天橋ヲ渡ツテ密林ノ中ニ入ル。ブナ

日			
	蔦温泉	着後四時過	宿泊（二〇〇頁參照）

ノ互木多ク十和田山中第一ト稱スルモノガ路傍ノ右側ニアリ、いたや、かえで又甚ダ多ク秋季ハトリ〳〵ノ色ヲ示ス。漸ク平坦ニ出デ、樹木ノマバラナ處、右方ニヤヤ離レテ大町桂月ノ墓ガアリ、此處カラ間モナク蔦温泉ニ着ク。

▲蔦温泉—燒山—子ノ口間省營バス一時間（一九粁）、五七錢。

▲燒山—子ノ口間一四粁、此區間ハ所謂「オイラセ」ノ溪流美デ、之ヲ賞スル爲自動車ハ徐行シテ進ム、所要一時間、乘合六〇錢。然シ眞ニソノ美ヲ探ラントスルモノハ徒歩ニヨル。緩カナ爪先上リノ道デ恰モ幽邃ナ公園ヲ行クガ如ク、道々撮影シ乍ラ緩歩スルモ四、五時間デ足ル。

【子ノ口】ハ十和田湖ノ水落チテ奥入瀨川ノ溪流トナル所。燒山ニ蔦川ヲ合セテ流ル、事七〇粁、太平洋ニ注イデ居ル。三木木カラ乘合一圓七〇錢、古間木カラ貸切一二圓半。

▲子ノ口—休屋間湖上遊覽船直航一時間（約一〇粁）乘合七〇錢、遊覽船一時間半、（一六粁半）乘合一圓二〇錢、貸切一〇人乘七圓、定員ニヨリ三〇圓位迄。

（陸路）湖岸ニ沿フテ南下シ、途中五色濱、御盥石、松倉之鼻等ノ名勝ヲ賞シテ行程約四粁、字樽部ノ部落（旅館東湖館ガアル、室數一二、一泊二圓—三圓、㊐二圓半）ニ至リ、夫カラ約一粁ニシテ屏風坂（登路一粁半、降路一粁三）ヲ過ギレバ伏屋ニ至ル。

子ノ口—字樽部—休屋一二粁、省營バス三六錢、一日二回。

〔休屋ノ旅館〕太陽（電三、室二五、普通一泊四圓、五圓、㊐四圓）、世界公園館（電十和田一三、室二〇、普通一泊二圓—三圓、㊐三圓）、十和田觀光館（電四、室九、三圓、三圓半、㊐三圓）、一ノ宮十和田館（電一一、室七、二圓二圓半）、世界公園館別館大湖（電七、室一〇、二圓、三圓）。

▲休屋—生出間湖上三粁、モーターボート二〇分、料金二〇錢

（陸路）休屋から發荷マデ約三粁、夫カラ生出迄一粁、省營バス一二錢、三回發。

〔生出ノ旅館〕和井内ホテル（電十和田一二、一泊二圓—五圓、㊐三圓）

第4日			
	燒山橋	發前 九・五九	
	奥入瀨溪谷		
	子ノ口	着前 一〇・四四 發前 一二・〇〇	遊覽船
	十和田湖		遊覽
	休屋又ハ生出	着後	宿泊

第5日			
	生出	發	
	發荷峠		
	大湯溫泉	着後	宿泊

▲生出—大湯間二二粁、自動車一時間一〇分、乘合一圓三〇錢

貸切七圓。（六月—一〇月）。

生出カラ常ニ林ノ中カラ湖水ヲ眺メ乍ラ西南ニ進ミ、右ニ轉ジ火山灰ノ堆積シタ所ヲ斜ニ東南ニ登レバ約四粁デ發荷峠ニ着ク。此處ハ海拔六四七米、湖面ヨリ高キコト二四六米、ぶなノ大樹ガ疎生シ、其間カラ十和田湖ノ大觀ガ出來ル。汗知ラズニテ十和田湖ノ全景ヲ見得ル處ハ今ノ處此ノ峠ノミデアル。

大湯溫泉（一九九頁參照）

▲大湯—毛馬内町—毛馬内驛七粁五、自動車二〇分、乘合四〇錢、貸切二圓半（毛馬内町カラ驛迄ハ約二粁、乘合二〇錢）

▲毛馬内—大館間（花輪線三等車ノミ）デ一時間二〇分（二九粁二）

▲大館—秋田間二時間三七分（一〇四粁二）

秋田市内見物（第二二〇頁參照）。

▲秋田—福島—上野間急行一四時間三〇分（五七〇粁八）（二、三等寢臺及和食堂車アリ）（毛馬内—上野間三等七圓〇四錢）

▲生出—鍛山間三粁、鍛山—鍛山峠間上リ三粁、鍛山峠—小坂町間一四粁。コノ邊ハカナリ峻路ガアルカラ案内者ヲ要スル。鍛山峠ハ海拔八六〇米アリ、湖上ノ眺望ハ發荷峠ヨリ遙カニ優レテ居ル。ソシテ此峠カラノ眺望ヲ恣ニセントスルナラバ、此處デ交叉シテ居ル峯廻リノ林道ヲ北ニ二、三百米程行クガヨイ。

【小坂鑛山】人口一三、八〇六（昭和五・一〇調）ヲ有シ藤田鑛業會社經營ノ鑛山町トシテ著名デアル。小坂鑛山ハ文久元年ノ發見ニ係リ、初メハ銀山デアツタガ明治三三年カラ銅山ニ變ツタ。花岡鑛山ハ小坂鑛道ノ一終點（大館町ノ北）花岡驛ソノ所在地ニアル藤田鑛業會社經營ノ銅山デ、明治一九年ノ發見デアルガ、其後試錐ノ結果續々新鑛床ヲ發見シ、前途有望ト云ハレテ居ル。採掘サレタ鑛石ハ其儘小坂製鐵所ニ移サレ、小坂鑛山銅鑛ノ七割ヲ供給シテ居ル。小坂ハソノ大規模ナ露天掘ト、壯大ナ製鍊所トヲ以テ代表サレテ居ル。

第6日			
	大湯溫泉	發前 八・〇〇	自動車
	毛馬内驛	發前 八・四〇	大館行列車
	大館驛	着前 一〇・〇〇 發前 一一・一六	乘換 米澤行列車
	秋田驛	着後 一・五三 發後 五・一〇	下車秋田市見物 上野行車中一泊

第7日			
	上野驛	着前 七・五〇	歸宅

旅行費用概算

	二等	三等
内譯	六五・〇〇圓	四四・〇〇一

遊覽券（▲鐵道＝東京―三本木間、毛馬内―東京間。花巻―溫泉間往復。▲自動車＝福島―飯坂―伊達間、平泉―中尊寺間往復、三本木―橫山間、蔦溫泉―子ノ口間、生出―毛馬内間。▲渡船＝子ノ口―休屋―生出間、以上乘物全部ニテ二等三〇圓三四錢、三等一七圓九三錢。▲旅館券＝飯坂（㊁五圓、三圓牛、花巻（㊁五圓牛、四圓牛）、蔦溫泉（二圓牛）、休屋（㊁四圓）、大湯（㊁三圓）ノ五泊ヲ含ム。以上二等二〇圓、三等一七圓牛）

	二等	三等
車中寢臺料	四・五〇（下段一回）三等 一・五〇	二等 五〇・五〇 三等 三五・五一
食事料其他概算	〃 一〇・〇〇	〃 七・〇〇

青森及その附近

恐山（オソレサン）

青森縣下北半島にある標高七〇〇米餘の火山で、山頂の火口甚だ大きく、火口壁には起伏が多い。その東南の突起を屏風山と稱し、その南に北國山、その西に小壽、大壽、丸山と續き、更にその外側には二つの寄生火山がある。東南のものを釜臥岳（七八四米）、西北のものを朝比奈岳（八八〇米）と云ひ、何れも火口を缺いた圓頂岳である。

恐山の火口内には恐山湖と云ふ、直形二粁弱の圓形をなす火口源湖がある。湖水はその東北端で火口壁を破り、「三途の川」の河口瀨となつて落下し、下流を正津川と呼んでゐる。

火口内には火山活動の名殘を留め數多の硫黄噴氣孔があり、殊に湖の北岸に著しく、恐山溫泉もある。その噴氣孔は麓屋地獄、鹽屋地獄、八幡地獄、金堀地獄、修羅王地獄などと稱され、その修羅王地獄はもと一定時間を置いて間、歇的に溫泉と水蒸氣とを噴出したものである。

〔登路〕大湊線田名部驛から頂上迄約一六粁、安政年間に建てた里程表が一丁毎に現存して居るので便利がよい。また處々に清水が湧出して居る。登るにつれて靑森縣の誇りとするヒバの美林があり、谷間にはホウ、ナラ、赤松なども繁つて居る。田名部から約六粁で、大湊からの道と合する處に休み場があり、そこからは南に陸奥灣、東北に太平洋が見え、田名部町一帶の山野が脚下に展開して珍らしい展望美を有して居る。更に針葉樹と闊葉樹の混淆林を分けてゆけばやがて火口壁の頂に達する。火口壁の内面に通ずる湯坂道を北に下つて樹木の間から恐山湖の碧色の水面を始めて見る時は、神祕的な山靈に接する感じが深い。更に下つて樹木の盡きた處に湖面が展開する。湖水の吐口をなす三途川を渡つて湖畔北岸にある【恐山溫泉】に達する。田名部驛から此處まで一二粁、自動車が通ずる。所要四〇分、賃一圓二〇錢。溫泉は酸性硫黄泉で七二度、リウマチス・婦人病・皮膚病等に効くと云ふ。地は内通寺の地藏堂靈堂内にあり、古瀧の湯・新瀧の湯・藥師の湯・冬拔の湯・花染の湯などがあり、別に湖畔に新浴場恐山ホテルがある（一泊二圓―二圓五〇錢）、自炊室料食賃一日一圓一〇錢位）、寺内には數百人を宿泊させる事が出來る（一泊一圓六〇錢位）。

▲恐山地藏堂　前記恐山湖北岸菩提寺にあり、毎年七月一八日から一週間の緣日に地藏尊を祈れば死者の苦難を救ふと信ぜられ、血盆經を誦し、或はこれを紙に包んで血の池に投ずる風習が今に行はれて居る。平安時代には越中立中の地獄が廣く信仰されて居たが、近世になつてから此の恐山が地獄の所在地として信仰される樣になつた。

【下北半島の海岸】下北半島の西半部ち斧の頭に當る部分は沿岸一帶に海拔二〇乃至四〇米の海蝕階段が發達し、斷崖をもつて海に臨んで居る所が多い。たゞ田名部町附近に於ては比較的廣く平野をなして居る。此の低地を過ぎて正津川を渡れば大畑があり、大畑川を溯れば藥研溫泉に達し、また北岸に沿ふてゆけば下風呂溫泉があり、更に進めば本州の最北端大間崎に達する。尙大間崎から半島の西岸を辿れば佛ケ浦の奇勝がある。

田名部、大湊から恐山の南にかけての一帶と、大間崎を中心とする一圓は要塞地帶であるから旅行者は撮影等に注意を要する。

●藥研溫泉（下北郡大畑村）大湊線田名部驛から西北二七粁五、途中大畑まで一五粁七は乘合がゆく、一時間、賃一圓。此處から溫泉まで山道八粁、營林署のトロリーに便乘出來る。地は朝比奈岳の北麓、大畑川の上流にあり、浴槽は恰も藥研の樣な岩の間にあるので此の名がある。泉質は鹽類泉で四八度、脂肪過多症・慢性便祕・肝臟肥大・婦人病等に効くと云ふ。

〔旅館〕古畑屋、牧、一泊一圓三〇錢―一圓七〇錢。

●下風呂溫泉（下北郡風間浦村）同上田名部驛から西北三〇粁一、自動車二時間、乘合二圓。地は津輕海峽に面した海岸を占め、遙かに北海道南端の翠微を美しく眺められ、函館迄汽船・モーターボートの便もある。湯は外湯のみで大湯（鹽類泉）と新湯（硫黄泉）とあり何れも七二度、リウマチス・皮膚病・婦人病等に効がある。〔旅館〕角長、丸木、森脇、一泊一圓五〇錢―二圓五〇錢。尙此處から下北半島の北端大間崎へは約一八粁あり、一日の行樂によい。田名部驛・大間崎間四八粁、自動車四時間、乘合三圓。

●佛ケ浦の奇勝　下北半島の北端大間崎から南へ牛首崎に至間ちは第三紀又は火山岩の險崖で一部分には古生層が露出してゐる。中でも佐井村福浦岬の南にある佛ケ浦は最も有名な奇勝地である。凝灰岩の絶壁二、三百米に及び海底二〇乃至四〇米の深綠海岸に接し、之等の絶壁は浸蝕を受けて種々の奇形を呈し、觀音岩・十三佛・地藏岩・如來の甎岩・天龍岩・片岩・五百羅漢・蓬萊岩・香爐岩・燭臺岩・蠟燭岩等の名を附した奇岩が起伏して居る。

田名部驛から佐井迄五八粁九、自動車五時間、乘合四圓。夫から徒歩二〇粁。

淺虫溫泉

青森縣東津輕郡野内村、東北本線淺虫驛附近。青森から一五粁八、自動車四〇分、乘合四〇錢（一日一三回）、貸切五人乘三圓半。

地は東南西の三方岡陸を連ね、西北は青森灣の青波に臨み、海上指呼の間に湯ノ島・鴎島・裸島など大小の島嶼が散在してその島めぐりも面白い。四季の風光もよく、夏は涼しく冬は此の地方としては比較的暖かい。海水は清透で海水浴にも適して居る。又此處は内地と北海道を來往する人々が疲れを休めるに都合のよい場所にあるので脂粉の香が湯街に濃かに漂つてゐるのも此處の特色である。

湯は無色透明の鹽類泉で泉溫七三度、消化器病・リウマチス・皮膚病・神經諸病・婦人病等に効がある。

〔旅館〕東奥館（電淺虫二・一四、驛四五米、室二七、普通一泊四圓、五圓、六圓、㊁四圓）、南部館（電一八・五〇、驛一五七米、室二七、二圓半、三圓、四圓）、北見館（電一、驛八七米、室一四、二圓半、三圓、仙波館（電一〇・一一〇、驛二四五米、室二一、普通一泊三圓、四圓、五圓、㊁三圓）、椿館（電三、驛半粁、室七、二圓、二圓半）、清遊館（電五六、驛三〇九米、室一八、三圓）、勝美屋（電六一・一一三、驛二五〇米、室一六、二圓半、三圓）、泉遊館、觀光ホテル、第二清遊館等。

▲水族館　淺虫驛の北約一粁、裸島の近くにある東北帝大理學部附屬の臨海實驗所構内にあり、一般の觀覽に供してゐる。大人一〇錢、前八時―後六時。

〔島めぐり船賃〕モーターボート（一〇人迄）湯の島二圓半、裸島二圓半、鴎島五圓全島廻遊八圓。▲和船（四人迄）湯ノ島一・三〇、裸島一・四〇、鴎島一・七〇、同島二・五〇。▲貸ボート一時間四〇錢。

靑森市

青森縣廳所在地。

上野から急行列車で一二時間四五分（七三六粁四）、三等七圓二六錢。

地は本州最北の都會で、北は靑森灣に臨み東は横川の流れを帶び、市街は東西に長く南北に狹く、海灣に沿つて長く連續して居る。東北、奥羽兩線鐵道の終點に當り、また北海道に聯絡する要點を占める東北唯一の開港市場であるため商業が盛んで、また工業も行はれて居る。人口九〇、六七九（昭九・三）

靑森はもと、一漁村に過ぎなかつたが、寛文年間津輕氏の臣森山彌七郎が始めて埠頭を築き港を開き、その經營宜しきを得たため忽ち繁盛な商業地とな

り、明治四年には青森縣廳を此處に置くや縣治の中心となり、更に北海道が開拓されて北門の重要性を加へるに及び、盛々惠まれた都市として發達した處である。

〔旅館〕 かぎや（安方町、驛前、電三六・三七六、室一九、一泊二圓、二圓半、三圓）、鹽谷本店（濱町、驛一粁半、電五四、室二二、一泊同上）、鹽谷支店（安方町、驛一六〇米、電五五、室一六、同上）、陸奥館本店（新町、驛八七〇米、電七三〇、室三二、同上）、陸奥館支店（古川町、驛一一〇米、電五三九、室二〇、一泊一圓半、二圓、二圓半）、其他。

〔遊覽順路〕 驛—新町—縣廳—善知鳥神社（ウトウ）—松木屋呉服店—大町—濱町—聖德公園—公會堂—堤橋—合浦（ガッポ）公園—國道通—驛。

以上自動車にて一時間位、貸切二圓五〇圓。バス利用二時間半位、徒歩四時間位。

〔市營バス〕 青森驛前から合浦公園、堤橋、沖館、筒井、八重田方面に六分乃至三〇分毎に運轉してゐる。料金一〇錢均一。貸切自動車一時間二圓半の割、半日一〇圓。

〔名所〕 ▲善知鳥神社（縣社） 驛の東約九五〇米、バス一〇錢。市内安方町にあり市杵島姫命、多岐津姫命、多紀理姫命を祀る。南部氏及津輕氏の崇敬厚かつた處である。▲合浦公園 驛の東約四粁、バス一〇錢、二〇分、六分毎。東北本線浪打驛の北半粁にあり青森灣に臨み、園内には相生松、樂松等の老松がある。

〔名物〕 林檎、飴、津輕簞、あけび蔓細工。

〔娯樂場〕 ▲劇場 歌舞伎座（鹽町、驛二粁一）、遊樂座（濱町、驛一粁七）、▲映畫館 青森館（浦町、驛二粁半）、文藝館（鹽町、驛二粁）、電氣館（長島町、驛半粁）（以上何れもバスの便あり）常設館（驛前）。

【筏武多（ネブタ）祭】 東北各地に見る夏の七夕祭の一種で、その代表的なものである。即ち毎七月の一日から六日に至る（祭は四、五、六日）間盛場を練り歩き、はれる津輕地方特有の行事でネブタと稱する大きな張子の人物・鳥獸・惡魔・武人などの姿を作り、色彩を施し、之を屋臺に乘せ、中に數百挺の蠟燭を點じ、或は車に乘せ或は昇いで廻る。之に附添ふ男女數百人は一團となつて花笠を被り、美しく着飾り、または假裝して笛、太鼓に調子を合せて市中を練り歩き、一市の男女悉く狂する如くである。そして七日の朝之を堤川に流すのである。傳說によれば坂上田村麻呂が東征の時、これを行ひ、その雄の面白さに敵をおびきよせて、その首級を擒にしたのに始まると云ひ、また蝦夷を追ひ或は疫病を拂つた事に始まると云ひ傳へ、その起りについては種々の異說がある。弘前市のネブタも同樣に盛大なもので、三、四百のネブタが列をなして見物人雜沓を極める。

【青函連絡】 青森・函館間を連絡するため鐵道省の經營する航路があり、日々三往復の運航を行つて居る。その距離は約一六一粁あり四時間半を要する。驛との間には長いプラットフォームがあり、その尖端には明るくて氣持ちのよい待合所があつて寒さにふるふ夜中でも暖かい飲食物を提供して呉れ、また風吹かぬ通路を直ちに船に乘り換へる事が出來る樣現代の設備が整ひ、また浮動棧橋によつて貨車を其儘船腹に積込み得る樣になつて居る。

（就航船と定員）

船名	總噸數	定員 一等	定員 二等	定員 三等
津輕丸	三、四八四噸六五	三九	二〇〇	七五一
松前丸	三、四二九噸七五	三九	二〇〇	七五一
翔鳳丸	三、四六〇噸八〇	三九	二〇八	六四八
飛鸞丸	三、四五九噸五三	三九	二〇八	六四八

以上四船とも最大速力各一七浬あり、右收容力の外に一五噸貨車二五輛を積載する事が出來る。

船内食事料（和食）上等五〇錢、並等二〇錢、親子丼四〇錢。（洋食）朝食七五錢、晝食一圓、夕食一圓。

奥羽線に沿ふて

上、弘前ねぶた祭のねぶた
中、山寺の眺望
下、もんぺ姿の東北美人

【吾妻山】

阿武隈平原の西、福島市の西に聳ゆる山群で、東西にその山脈を走らせて福島・山形の縣境に跨り、東西の二大山群から成つて居る。火山地質學的に見れば、西吾妻火山群は極めて古く、東吾妻火山群は今尚活氣を呈する新火山である。東吾妻火山群は一切經山（一、九四八米九）を盟主としてその北に聳ゆる家形山（一、八八〇米）との間に直徑三九〇米の五色沼の火口湖を擁し、一切經山の南には明治二六年爆烈した大穴と稱する火口があり、現に盛に噴煙して硫黄が採取されて居る。一切經山の東南には吾妻富士（一、七〇四米六）と稱する秀峯があつて福島からの眺望最も美しい。山頂には徑五〇〇米の摺鉢火口がある。また一切經山の西南に狹長な鎌沼を距て、鈍圓錐形の東吾妻山（一、九七四米七）、吾妻富士の南に高山（一、八〇四米八）が聳えて居る。西吾妻火山群はその西北に蟠り、西吾妻山（一、〇二四米）を盟主として、西大顛（一、九八一米八）、東大顛（一、九二七米九）、などの高峯がある。が之等は一の連峯をなして特に突起した部分がなく、置賜方面から仰望する時は一大臥牛狀を呈して居る。之等の諸峯を奥羽線延坂方面から望むときは板谷峠の南方を劃し、東吾妻吾妻富士・一切經山・東大顛・中吾妻・西吾妻・西大顛等の高峯を東から西へ連ねて居る。

一切經山の山頂は概ね砂礫帶であるが、其の他の山々は多く山頂まで栂、トド松等の疎林に蔽はれてゐる。山腹には白布高湯・新高湯・吾妻溫泉等の諸溫泉北に面して散在し、西吾妻、東吾妻の西群連鎖點に源を發して居る松川の溪流には姥湯・滑川の溫泉があり、その山峽は溪水瀑布となつて深山に懸り山氣峽谷に滿ちて暑さを知らぬ仙境をなして居るので避暑の浴客頗る多く、秋葉滿山を飾る美觀は、羽鳥第一の壯景と稱せられて居る。

眺望は頗る廣く、一切經山に立てば眼下に吾妻富士を眺め、神祕の湖沼に影をうつす東吾妻から南に峯を連ねて安達太郎山、東は阿武隈川から福島の市街を見下し、北には栗子峠の山々に重なる藏王山を望み、また北から西へかけては裏磐梯の檜原三湖から遠く飯豐山の雄姿を望み、南はピラミツト形の磐梯山から猪苗代湖、若松平等の眺望がよい。

また附近には仙臺鐵道局經營の桶沼ヒユツテ（自六月二〇日至九月二〇日、自一二月二〇日至四月二〇日閉所、沼三〇錢休憩一〇錢、食事朝二〇錢晝二五錢夕三五錢、一切經及吾妻小富士ノ山麓にあり、定員三〇人、ぬる湯から六粁、高湯から一一粁、沼尻方面幕の湯へ五粁、板谷方面家形山小舍へ五粁）、其他硫黄製錬所の小屋、谷地の平の小舍及家形山東山腹に青木の小舍がある。登山者の休憩小屋で、冬期スキー登山にはよい根據地となる。夏期はこの一切經山から西吾妻山への縱走は限笹や森林で困難であるが、冬はスキーで一日に往復が出來、到る處好スロープを持つて居る。

〔登山口〕左の數口あり、何れの登路も皆途中に山の湯宿があり優劣はない吾妻山一帶は冬期積雪多く、特に五色溫泉を中心とした附近一帶は我國有數のスキー地で、スキー登山は主に五色溫泉を根據地とする。

所謂福島方面からの吾妻登山は吾妻富士・一切經山・家形山等への登山を云ふのであるが米澤方面からの白布高湯口、會津方面からの小野川口もある。

○福島口　福島からぬる湯を經て登る吾妻富士まで約二六粁、上り九時間。福島驛からぬる湯まで約二〇粁、途中の相澤まで一二粁自動車がある。乘合四〇錢（三五分、一日數回。福島驛—ぬる湯間貸切七圓（但雨天の日は出ぬ）。相澤—ぬる湯間坂路八粁。荷負一圓、馱馬二圓。別途庭坂驛からぬる湯までは一三粁である。貸切六圓。ぬる湯から吾妻富士まで約四粁五（上り二時間、下りは一時間半）一切經山迄は約六粁である。（上り三時間半、下りは二時間位）強力案内料一圓半。○庭坂口　奥羽本線庭坂驛から高湯を經て登る。高湯まで約一〇粁、途中姥堂を經て五粁餘、砥石山まで自動車がある。高湯から天然紀念物に指定されて居る八重白山石楠花の自生地を經て一切經山の北にある火口湖五色沼迄約八粁、それから一切經山頂へも約二〇分で達する。高湯から上り六時間下り三時間位。○板谷口　奥羽本線板谷驛から五色溫泉を經て登る。家形山まで約一二粁、上り約四時間。○土湯口　福島・金谷川から土湯或は野地溫泉を經て登る。此の登路は他の方面よりも景趣が勝れて居る。青森トドマツ洞葉場の森林帶を通り、烏子平には特有の高山植物がある。○米澤口　米澤驛から白布高湯迄約一八粁、それから西吾妻まで約六粁あり（上り三時間半位）右すれば西大顛を經て小野川口に下り、左すれば權現岩・人形石・東大顛を經て湯川溫泉に達し峠驛に出る。○峠口　峠驛から滑川溫泉を經て東大顛迄約一一粁、上り四時間位。○小野川口　磐越西線川桁驛から川上溫泉に至り森林鐵道に依つて小野川部落迄約一二粁、それから中澤を登つて八

粁、西大巓にて米口に合す。

信夫高湯溫泉　福島縣信夫郡庭坂村。奥羽本線庭坂驛から西一〇粁、蛯堂及先達山を經て自動車、賃六〇錢、所要三〇分。

地は吾妻山の中腹、海拔七五〇米、三方展けて福島市から信達平野を一望に收める高燥の地で、避暑に適する。溫泉は硫黄泉で泉量豐富、泉溫五〇度、リウマチス、皮膚病、脚氣、神經諸病に特効があると云ふ。

〔旅館〕玉子湯（室四〇）、信夫屋（室二三）、安達屋（室二八）、吾妻屋（室四〇）一泊一圓二〇錢以上。主として伺式で賄料四〇錢以上、夜具代三〇錢以上

ぬる湯溫泉　信夫郡水保村櫻木、同上庭坂驛の西南約一三粁（交通は前記吾妻登山福島口の項參照）又は前記高溫から六粁。

地は吾妻山の南腹、海拔九〇〇米、三面に山岳重疊し、一方開いて信達の沃野が眼下に連り、高燥閑寂の別境をなして居るが、特に紅葉の美しさは浴客に喜ばれる處である。また春のツ、ジ、晩春の石楠花も美事である。夏は二七度を上らぬ涼しさで避暑に適する。

溫泉は酸性泉で泉溫四〇度内外、眼病・腺病・痔疾等に効く。

〔旅館〕二階堂一軒（室五〇）、一泊一圓二〇錢以上、主として伺ひ式で、自炊室代一日四〇錢、湯錢五錢、夜具一組二〇錢。

▲庭坂驛附近は福島縣に於ける梨果の名産地で、早生赤、長十郎の二種を多く産し、本場梨と稱されて品質優良である。驛から發送する梨は年産約五百萬個千五百噸の多きに達する。

五色溫泉　山形縣南置賜郡山上村、奥羽本線板谷驛から四粁、籠一圓三〇錢。途中二粁は道路平坦である。

上野―板谷間急行六時間（二九一粁）三等三圓七〇錢。

地は吾妻山の北側、不忘山の中腹海拔約八四〇米の高地にあり北は板谷峠の峻嶮と相對し、南は吾妻の高峯に連り、東は信達の平野を望み風光に富んで居る。古來子供の出來る湯として知られて居るが近年はスキーの根據地として、より有名である。

溫泉はアルカリ性炭酸泉で泉溫五〇度内外、婦人病に特効があると云はれ、瀧疹、貧血症等にも効があると云ふ。

〔旅館〕泉川（室一三〇、一泊四）二圓

▲新五色溫泉（前記板谷驛から約四粁あり、五色溫泉に至る路を約一粁手前で右へ折れてゆく。地は五色溫泉の西約牛粁を隔つた不忘山の山腹に位し、眼界は狹いが東に信達平野、西に米澤の曠野を瞰下する事が出來る。湯はアルカリ性炭酸泉で泉溫五〇度内外、泉量豐富で五色と共に子供の出來る湯として喜ばれ、婦人病に効くと云ふ。

〔旅館〕佐藤館（室四五）、金子屋（室五二）、一泊一圓半位。

▲五色溫泉スキー場　明治四三年横濱のアルペンスキークラブ員ウエンクラークラツツアーなどの開發にかゝる古い歴史を有するスキー場で、尊賢が瑠想的で且つ五色溫泉を中心とする吾妻山は山岳スキーの練習には最も良い處である。

一日行程のスキー登山には鉢森山（一、〇〇三米）、高倉山（一、四六九米）などがあり熟達した人々は吾妻火山群を廻る幾つもの興味深いコースがある。溫泉から西へ八粁の家形山中腹には立派なスキー小屋があり、此處を根據とすれば家形山・一切經山・吾妻富士・東大巓・西吾妻・櫛森山等へ往復が出來吾妻山麓の信夫高湯、微溫湯、土湯などへの山越も出來る。五色溫泉には設備完全な六華倶樂部がある。

滑川溫泉（ナメカハ）　南置賜郡山上村、峠驛から西南三粁七、籠籠の便がある、一圓六〇錢。地は海拔約九〇〇米、高倉山の西北麓、吾妻山に源を發する松川の上流山峽の地にあり、人煙全く遠き仙郷で避暑によく、秋の紅葉は殊に美觀である。旅館福島屋は縣堆上にあつて溪流に臨み、只一軒ではあるが規模大きく數百人を收容する事が出來る。室數七一、一泊一圓半―三圓。溫泉は炭酸泉で五五度、胃腸病・脚氣・リウマチス等に効がある。

蛯湯溫泉（カバユ）　同上山上村、峠驛から西南約八粁、前記滑川を經てゆく。峠驛から山籠四圓。

地は海拔約一二〇〇米、藥師森山の南麓吾妻山の北谷にあり、風光明媚で、その卓越した景勝は南置賜諸溫泉中の首位に推されて居る。附近は奇岩怪石に富み、秋葉の美がまた勝れて居る。溫泉は炭酸泉で五三度、胃腸病・皮膚病・リウマチス・婦人病等に効くと云ふ。

〔旅館〕升形屋、室一一、一泊一圓半、二圓半。

上野から急行七時間四三分（三、一二粁）、三等六八錢。
福島から普通二時間五分（四三粁）、三等七四錢。
山形から普通一時間四三分（四七粁）、三等六六錢。

米澤市　市は米澤盆地の南隅、吾妻火山群から流入する濁川による濁の一部を堪して他は悉く破毀し、溶岩流として松岬公園と名づけた。今その大部分は上杉神社の境内である。▲上杉神社（別格官幣社）驛の西方約二粁三バス停留所から約四〇〇米。舊城本丸址にあり、明治四年の創建で、藩祖上杉謙信を祀る。例祭は四月二九日。▲松岬神社（縣社）上杉神社の入口にあり、上杉景勝及治憲（鷹山公）を祀る。▲上杉家廟　驛の西方三粁半、御廟町にあり、板垣を廻らした杉林の中に藩祖上杉謙信以下累代の墓がある。▲佐氏泉公園　驛の西二〇〇米、此處は佐藤莊司正信の別莊地と傳へられ、その子、繼信、忠信の溪湯の泉と云ふ泉水が園の中央に湧出し佐藤清水とも云ふ。

小野川溫泉　山形縣南置賜郡三澤村、米澤驛の西約八粁九、自動車三五分乘合片道二〇錢（一日五回、但一二月―三月運休）貸切一圓。又は米坂線西米澤驛から約六粁、自動車二〇分、乘合片道二〇錢（同上運休）。地は大樽川に臨み、愛宕・笹野の峯巒を負ふた山間に湯街をなして居る。

仁明天皇の承和年間才色ともに優れた小野小町の父郡司良眞が出家したので、小町はその時一八歳で宮仕へをして居たが、少時の暇を乞ひ父の行方を尋ねる路すがら病に罹り、淋しき旅の一夜「こゝから北へ百里、吾妻川といふ川の岸邊に、名湯が湧き出て居る。之に浴せば病も治り、また父に出會ふ事が出來る」との藥師如來の靈夢により此の湯に來り、日ならずして病も平癒し、圖らずも此處で父にめぐり會ふ事が出來たので、翌年峯の藥師堂を建立して如來を觀請して開湯し、入浴したと云ふ傳説がある。小町が入浴したのは今の尼の湯であると云ふ。

溫泉は弱鹽泉で五五度、皮膚病・リウマチス・婦人病に効く。泉量は極めて豐富で共同浴場としては尼の湯の外瀧湯がある。

附近には小野川スキー場や小野小町の傳説による藥師堂、大袈裟觀音などがある。

〔旅館〕扇屋（室三五）、小野川ホテル（室三一）、登府屋（室二八）、辻屋（室一二）坂本屋（室一七）、山川屋、春木屋、吉野屋、龜屋、宍戸屋、篠川屋、若松屋、梅屋、二階屋、旭屋、高砂屋、一泊一圓半―三圓。

白布高湯溫泉　南置賜郡南原村、米澤驛の南一八粁、自動車一時間乘合上り一圓、下り八〇錢往復一圓二〇錢（七月―九月）、貸切三圓半。信夫高湯、藏王（最上）高湯と併せて奥羽三高湯の一で、西吾妻山への登山口に當り海拔約八五〇米、前に鬼面川の溪流を控へ、後に吾妻山を負ひ、東西南の三方は杉

つて形成された複合扇狀地の中心部に發達した都市で、最上川の支流松川に跨り、商工業が盛である。人口四六、二二七（昭八・一二調）

市内は町家と家中に分れ、最も繁華な街路は大町、停車場通、立町、鞘町で官衙、銀行、會社、商店など軒を並べて居る。

米澤は、鎌倉時代に大江廣元の次子時廣が長井の地頭となつて城を此處に築いたのが發展の源をなして居る、室町時代には伊達晴宗、輝宗、政宗が居りのち上杉謙信卧虎の養嗣景勝が會津で一三〇萬石を領して居た時、此の地はその臣直江兼續の居城であつた。然るに景勝は關ケ原の戰に西軍に與した廉で慶長六年三〇萬石に削封され、その後上杉氏は歴代米澤の城主として明治維新に及び、一五萬石を領した。藩祖上杉謙信から第一〇代の城主治憲は鷹山公として有名な人であつたが、明和年中專ら産業奬勵に力を致された結果、置賜地方一帶擧げて養蠶の地となり、市はその一大機業地として發達するに至つたのである。

〔旅館〕音羽屋（住ノ江町、驛二〇〇米、電一二四、室二〇、一泊二圓―三圓半）、音羽屋本館（立町、驛二粁二、バスあり、電二六四、室一八一泊同上）、茜屋（アカネ）（立町、同上、電一三一、室二二、一泊同上）、武藏屋（立町、同上、電一〇、室二〇、一泊同上）、丸万（立町、同上、電六四〇、室二〇、一泊同上）、其他。

〔名産〕甘露梅、のし梅、時雨の松、ゆべし（以上菓子）、笹野彫（玩具）。

〔娯樂場〕松岬劇場（門東町下ノ丁）、遊樂館（立町）、常盤館（北堀端町）。

〔遊覽巡路〕驛―住之江橋―市役所―門東町―松岬神社―松岬公園―米澤城址―上杉神社―上杉伯邸―高等工業學校―直江山城守兼續墓―七堀端片町―上杉家廟―立町―松川橋―佐氏泉公園―驛。

以上貸切自動車にて二時間位、料金三圓。

〔交通機關〕市内乘合自動車（列車毎）一〇錢均一、貸切自動車一時間二圓、以上一時間に付一圓增、半日八圓。

〔名所〕▲米澤城址　驛の西方約二粁半、南堀端町にあり、平地に築かれた城で舞鶴城又は松岬城と稱し、鎌倉時代に大江時廣の創築と傳へる。明治六年

の森林に圍まれて居る。温泉は鹽類泉で泉温六三度、婦人病・皮膚病・胃腸病等に効がある。

附近は秋葉に美しく、また吾妻山第一の赤倉瀧や白布大瀧・人形石・天狗石・イロハ沼等の勝地があり、二粁程離れた一、〇九〇米の地に新高湯温泉がある（阿部旅館）。尚此處は西吾妻登山者の足溜りで山頂迄約六粁、頂上から西大顛山を經て檜原湖畔に出で、檜原三湖の勝を探つて沼尻から磐越西線に出る旅は興味の多いコースである。

〔旅館〕東屋（室五六）、中屋（室四一）、西屋（室四二）。一泊一圓五〇錢、二圓。

赤湯溫泉

山形縣東置賜郡赤湯町。奥羽本線赤湯驛から約一粁六、自動車乘合一〇錢、列車毎、貸切七人乘七〇錢。上の山からバス三〇錢、一時間毎。

地は置賜平野の北隅にあり、北に吾妻を負ひ南は廣濶な沃野をなし、商舗櫛比する殷賑な町で、溫泉情緒も濃かな處である。烏帽子山は今偕樂園となり縣社八幡神社があり、櫻が多く又眺望に富み、置賜の平野を一目に見渡せる。其他赤湯沼、二色根山（ニロネヤマ）城址、藥師寺等の曳杖地がある。溫泉は無色透明の鹽類泉で、泉源數ケ所あり、丹波湯・甘湯・大湯は烏帽子山麓に、森の湯は街から少し離れた所に湧出し、新湯は其の中間にある。溫度五六度、婦人病・痔疾・脚氣等に効がある。

〔旅館〕御殿守（電五、室三二、一泊二圓半、三圓、三圓半、㊁三圓）、丹波館（電一、室二五、一泊同上）、丹泉ホテル（電八、室二五、普通一泊同上、㊁二圓半）、松島館（電二七、室一七、一圓半—二圓）、榮屋（電三、室二三）、大文字屋（電七、室二八、二圓半、三圓半）、近江屋（電一六）、櫻湯（電二二）、瀧波（電五一）、天ノ湯（電三七）、金湯（電四六）、森ノ湯（電五七）（以上何れも内湯あり）、富田屋（電五六）、大和屋（電なし）等。一泊一圓半乃至三圓。

上の山は昔から東北地方第一の歡樂鄉とされた所であるが、現在の赤湯は或はそれ以上に遊興氣分の漲つて居るものがあり、町から半粁許り離れた白龍湖畔には數軒の青樓さへあり、紅燈綠酒好夢を載せて、粉香麝麝湯煙と共に漂ふと云つた所である。〔名物〕葡萄、葡萄酒、七色唐辛、櫻桃、茸茶等。

朝日岳

羽越山脈の北半をなす連嶺で、山形・新潟の縣境に跨り大朝日岳（一、八七〇米）を盟主としてその東北に小朝日岳（一、六四八米）、鳥原山（一、六九五米）、以東ケ岳（一、七七一米）に連り、大鳥池を抱きて連峯凡そ三〇粁に亘る。山は概ね花崗岩から成り、殊に海と鹽風の影響甚しく、大鳥池は周囲

粁に及び、附近はキャンピングに適して居る。朝日岳は大正一一年山形高等學校生徒その他の登山により紹介せられ、比較的處女峯として登山者の愛好する深山地帶で、近時頓に登山家の間に東北アルプスの名を以て喧傳せらるゝに至り、今後東北に於ける登山興味の中心たらんとする趨勢にある。

〔登路〕朝日鑛泉口、大井澤口、柳川口などあるが、中でも朝日鑛泉口が最捷路で便利とされて居る。瀧木多くして、夏季の登山は容易でないが、冬期スキーによる登山は屢々企てられ、山岳美を紹介されて居る。

「朝日鑛泉口」奥羽本線赤湯驛で長井線に乘換へ鮎貝驛で下車する。鮎貝驛から朝日鑛泉まで一八粁五（徒歩上り七時間、下りは五時間）。驛前に鑛泉案内所がある。道を西北に進むこと約四粁半で黑鴨村に達する。（此處迄貸切自動車がゆく、五人乘二圓）。それから道は急坂になつて日影部落を過ぎ尖山（九〇〇米）を右に見、頭殿山（一、二〇三米）の北を廻り朝日川の谷に下つて朝日鑛泉につく。

朝日鑛泉は山形縣西村山郡五百川村にあり、朝日岳登山の根據地に當り、全く深山幽谷の鑛泉場で、旅舍は朝日川に臨んで建てられた山の湯宿である。浴場は舊湯・新湯の二ケ所あり、炭酸鐵泉の攝氏一二度、浴用加熱し、胃腸病、婦人病、神經痛に効くと云ふ。旅館は古川屋（室一七）、東北館（室一九）、朝日館（室一四）、の三軒あり一〇〇名内外の收容力がある。一泊一圓五〇錢位。

鑛泉から大朝日岳までは近來開かれた朝日俣道を約一〇粁で頂上に達する上り五時間、下り三時間位、强力案内料一圓半。（小朝日岳廻りは約二〇粁あり、上り七時間を要する）。まづ朝日川の溪流を溯るとブナの原生林と溪谷が美しく、鑛泉から約四粁で黑俣澤と朝日俣澤との合流點に達する。それから大朝日岳の急な尾根を上る。三粁ばかりはブナ・水楢・カヘデ等の茂つた狹い尾根で、次第に瀧木帶に入り岳樺の中に入る。右手には黑俣澤を隔て、鳥原山から小朝日岳が間近に迫つて美しく望まれる。海拔一、四〇〇米あたりから優松帶となつて殆んど一直線に上つて行くと花崗岩の岩塊が露し、やがて大朝日岳の頂に達する。

山頂は狹長な尾根狀をなして連嶺が東北・西南・西北の三方へ遠く走つて居る。頂上の展望は雄大で、夏なほ殘雪が輝き、北へ連る峯々は日本アルプスの景觀に似て居る。殊に東北アルプスの名さへある。北へは以東岳までの峯が連り月山・鳥海山を望み、東は最上平野から鬼王山・荒神山に至る鬼鬼山を眺め、南

西指岬の間に絶景な雄壯な雄姿を表はしてゐる。西は羽越平野から日本海の眺望がよい。

大朝日岳から西朝日岳・寒江山を縱走して以東岳までは約二〇粁、一日行程である。以東岳から大鳥池までは尚六粁、大鳥池には舘が多く、附近はキャムピングに適して居る。此の間約三〇粁に亘り縱走は興味多い山旅である。途中小舍の設備もあるが食糧その他の携帶を要する。

歸路は朝日鑛泉から引路朝日川に沿うて下り、立木・曲淵を經て夏草まで二〇粁の間溪谷が美しい。夏草から宮宿まで四粁、宮宿から最上川に沿ふて左瀧まで一二粁の間自動車があり（五五錢、一時間）、左瀧から左瀧線により山形に出られる。

上ノ山溫泉

山形縣南村山郡上ノ山町。

奥羽本線上ノ山驛から西北半粁乃至一粁三、自動車乘合五錢（二〇分毎）、貸切五〇錢。

▲山形からバス三〇錢、二〇分毎、赤湯からバス三〇錢、一時間毎。

上の山は松平氏の舊城下で、町の中央の城址は今は月岡公園となり、園内に月岡神社がある。附近に澤庵和尚の舊蹟と云はれる春雨庵及舊城主の觀光地であつたと云ふ松山御殿址などがある。溫泉は無色透明の鹽類泉で、溫度六三度、胃腸病・貧血症・皮膚病に效がある。

上の山は豪族武永義忠が、天文四年に天神森に月岡城を築いてから、松下信安に至るまで數百年間、所謂城下町として發達して來た所で、只單に溫泉町と云ふのみでなく、此の附近物產の集散地となつて居る。溫泉場に月岡城址を中にして、其北にあるのが舊溫泉町の湯町で、其東にあるのが二日町、十日町、新町である。舊溫泉は「出羽で庄内、最上で上の山、此處は會津の東山」と唄はれ、由來東北の三樂鄉の一として知られた處で、その昔は紅燈絃歌の巷として、轉た遊子の心をそそつたものであるが、今は享樂的氣分は漸次薄れて行き摯實な湯治湯となつて來て居る。新湯は元月岡城の外濠であつた所で、昔の口碑をたよりに大正一一年三月掘鑿を試みた處、首尾よく湧出口を發見したものであるが、急速な發展を示し、今は舊湯と代つて紅燈絃歌の歡樂境と云ふ慨

じの遊郭となり行く饒富な溫泉場を出現して居る。

〔名物〕千代、櫻桃、葡萄、委團子、春雨饅頭、松茸等。

〔旅館〕村尾旅館別館（電上ノ山一〇二、驛七三〇米、室一一、普通一泊三圓半乃至六圓、㊁四圓）、村尾本館（電一二〇・一二三、室二〇、㊁三圓）、米屋（電三三、驛七一〇米、室一七、同上、㊁三圓、貸切湯あり）、寒河江屋（電八、驛六九〇米、室一二、一泊一圓二〇錢、一圓半、一圓八〇錢）、月岡ホテル（電一二一、室三〇、二圓—四圓、㊁三圓、貸切湯あり）、湯本五助（電一一、驛八三〇米、室三四、一圓八〇錢—二圓半、貸切湯あり）、龜屋（電三〇、室一二、二圓—三圓）、登位屋（電一七、驛三九〇米、一圓半—二圓半）、川島屋（電二五、驛八二〇米、一圓半、二圓）、中村屋（電三五、驛五三〇米、一圓半—二圓）、材木榮屋（電一七二、驛七六〇米、一圓三〇錢—二圓）、外二八軒、何れも内湯あり。

上野から急行八時間四七分（三五九粁二）、三等四圓三四錢。稲島から普通三時間一七分（九〇粁）、三等一圓三八錢。秋田から急行五時間（二一一粁六）、三等二圓八五錢。

山形市

市は山形盆地の東南部に位し、馬見ケ崎川は市の東北部を流れ、山形縣治の中心で、商工業が榮えて居る。人口六九、一四二（昭和九・四・一調）。

此地はもと最上と稱し、驛家（ウマヤ）が置かれ、出羽の主要地であつた。即ち市の繁榮となつたのは、今から千二百餘年前、天平年間大野東人霞が城を創築したことに起源し、吉野時代斯波兼頼が出羽按察使として此處に居り、子孫相繼ぎ最上を氏とし、地名を山形と改めて次第に繁榮を來し、最上義光の時に至つて最盛となり、江戸時代に入つ元和八年鳥居忠政封を此處に受け、爾後保科、松平、奥平、堀田、秋元、水野などの諸大名が相次いで入部し、その城下町として榮えた。また靈地三山の參拜者が全國から集り、是等の參詣者が寒河江街道、六十里越街道を辿つて三山參拜の途についたので、その途次、山形は全く大きな宿場となつたのである。

〔旅館〕後藤屋本店（旅籠町、驛一粁六、電六一・七五二、室二六、一泊三圓—七圓、㊁四圓）、後藤屋支店（香澄町、驛前、電二〇二、室一二

一泊二圓—三圓、㊁二圓半）、柴田屋（派籠町、驛一粁六、電四八、室一八、一泊二圓—三圓、㊁二圓半）、柴田屋支店（驛前、電一五七、室九、二圓—三圓）、杉山館（七日町、驛一粁半、電一一五、室三四、二圓—三圓）。

〔名產〕山形織、山形鐵瓶、のし梅、甘露梅、やたら漬、櫻桃の罐詰。

〔娯樂場〕千歲座（七日町、第二公園內）、旭座（七日町）、霞城館（七日町）、演藝館（七日町）、樂天地（七日町）。

〔遊覽順路〕驛—十日町—七日町—縣廳—三島通—千歲公園—山寺—專稱寺—高等學校・釋迦堂・唐松觀音—兵營—驛。

▲貸切自動車一時間三圓。▲タクシー市內五〇錢。▲乘合自動車市內一〇錢。

〔名所〕▲千歲公園　驛の東北三粁、乘合自動車一〇錢、馬見ケ崎川に沿ひ園內に國分寺藥師堂があり舊四月八日の緣日が賑はふ。▲千歲山　驛の東三粁、海拔四二四米、滿山松樹に掩はれ、北麓に萬松寺あり、慈惠大師作の觀音像を安置し阿古耶姫の開基古蹟。▲專稱寺　驛の東北二粁、乘合自動車一〇錢、市內第一の伽藍。▲釋迦堂　驛の東五粁、東濕村にあり、自動車二〇錢、日本三釋迦ノ一。

藏王高湯溫泉

山形縣南村山郡堀田村、奥羽本線金井驛（山形の一驛南）から東一〇粁、自動車三〇分、乘合七〇錢、下り六〇錢（一日七回）貸切五人乘四圓。山形驛から一六粁三、自動車一時間、乘合上り八〇錢、下り七〇錢、（一日七回）、貸切五圓。

地は藏王山の西腹海拔約九二〇米に位し、三方に峯巒を繞らして西の一方のみ展けて山形平野を望み、藏王登山の根據地となつて居る。溫泉は酸性硫黃泉で泉溫四二度、神經諸病・子供の癇・呼吸器病・眼病・關節病・皮膚病などに効く。此處はもと爆烈火口のあつた處で硫氣が盛んで「東北の草津」の稱もある。

〔旅館〕柏屋（室一七）、山形館（室五〇）、海老屋（室二九）、山形屋（室一九）、瀧見屋（室三〇）、堺屋（室四一）、壽屋（室三二）、松金屋（室二八）、鶴屋（室二〇）、吉田屋（室一〇）、若松屋（室一四）、中村屋（室一〇）、川原屋（室一六）、辻屋（室三三）、近江屋（室二〇）、岡崎屋（室二九）、高見屋（室二四）、以上一泊一圓五〇錢乃至三圓、何れも內湯あり。

附近に鷹湯又は高湯溫泉と稱される層一粁一の母滝・釣魚に適する處があり、また藏王山へは東南一二粁、柴內料夏一圓半冬二圓。山を越えて更に一二粁で宮城縣の青根・峨々溫泉等に出られるが此の方面からの路は嶮しい。此の行程は近來スキー家によつて行はれて居る。また溫泉附近にはスキーの好スロープがある。

山寺

山形縣東村山郡山寺村、山形驛から東北一四粁六、自動車四五分、乘合片道三〇錢、二五人乘一〇回發、貸切三圓。

▲奥羽本線羽前千歲驛から分岐する仙山西線で九粁三、山形から三等二四錢（一四粁一）、山寺驛から立石寺迄一粁。

俗に云ふ山寺とは寶珠山立石寺を中心とする上下約三〇粁に及ぶ一帶の奇勝を意味するもので、群巒の中にあつて立谷川の溪流が第三紀凝灰岩に浸蝕作用をなして奇岩の勝景を作つて居るもので、殊に高さ三〇米餘の天華岩の如きは、恰も一大石柱を建てたるが如き奇觀を呈して居る。秋季紅葉の頃は風景が極めてよい。溪谷の狹くなつた所に山寺の部落があり、立石寺は川の北岸に聳ゆる寶珠山の山麓にある。寺は貞觀二年（紀元一五二〇年）慈覺大師が清和天皇の勅願により草建せるもので、古來比叡山の別院として東北に於ける天台宗の大寺院である。境內極めて廣く、河流に沿ふ對面石は慈覺大師が狩人磐司と會見した古蹟と傳へ、其處から人家の間を東に進んで登山口から左に向つて登ると根本中堂がある。正平年間、斯波兼頼の再建で、桁行五間、梁間五間、高さ一八米の單層入母屋造柿葺、桃山式特徵を多少現はして居るが全體として粗大な建築で、今國寶となつて居る。其他清和天皇の供養塔一山の守護神として鎭座した日枝神社、念佛堂、鐘樓、姥堂、觀明院、性相院金乘院、釋迦堂、中性院、最上義光の靈屋華藏院があり、更に麓から約一粁登つた所に奥の院がある。此處には傳敎大師が支那天台山から傳へて比叡山の根本中堂に點じた燈火を移して常燈として居る。〔山寺見物案內料〕一人三〇錢。

山寺から東北へ一二粁、山角をよぢ、所謂四十八瀧に沿ふて登つた所に面白山がある。山は宮城縣の境上に聳え、海拔一、二〇四米、全山輝石安山岩から成つて居る。此處に至る間紅葉川の溪谷には材木石其他奇岩が多く、長さ四五米、高サ二〇米の天然石橋などがある。

〔山寺の旅館〕山寺ホテル（室一一、一圓半乃至三圓）、高砂屋（室四、一圓二〇錢—二圓）、米屋（室六、同上）、富士屋（室七、同上）。貸食七五錢、一圓。

天童溫泉

山形縣東村山郡漆山村、前記山寺から八粁半、自動車乘合二五錢、貸切二圓半、徒歩二時間。天童驛から七〇〇米、自動車乘合一〇錢（列車毎）貸切五〇錢。天童町はもと織田氏の城下で、町の南にある愛宕山には城址縣社愛宕神社及織田信長を祀る縣社建勳神社がある。町は將棋の駒の產地として名高く、年產五萬二千圓に及ぶと云ふ。溫泉は灌漑用の水を得んとして發見したと云ふ新溫泉で、鹽類泉、溫度四六度、神經痛・婦人病・痔・ヒステリー等に効があると云ふ。

〔旅館〕天童ホテル（電天童七〇、室一五、一圓—一圓半）、二見館（電六九、室一五、同上）、山口館（電六五、室一一、同上）、寄際館（電一一九、室七、同上）、東松館（電五一、室九、同上）、其他。

大沼の浮島

山形から分岐する左澤線左澤驛から西南一二粁、西村山郡大谷村大沼部落の東北にある指定の名勝地である。驛から一〇粁の上口迄自動車がある、賃五〇錢、一日四回、四月—一一月、貸切往復五圓。所要四〇分、夫から徒歩二粁、四〇分。

沼は第三紀層の臺地に横はり、嬬南谿の「東遊記」などにも書かれて昔から有名な所で、浮島沼とも云はれ、沼の大きさは長さ（南北）二五〇米、幅一〇〇米乃至一五〇米位あり、水深は二米乃至三米で、湖底に植物の半分解した腐泥の沈澱物があるため、常にメタンガスを發生して居る。此の沼の中に、小なるは長さ三〇糎から大なるは長さ一米の浮島が五〇有餘浮遊し、芦の根が集結した上に植物の腐敗したものが重なり、つゝじ・かきつばた・山吹・藤・芦などがその上に生えて居る。太陽が昇ると氣溫の變化に伴ふ湖流によつて移動して居るが、それは多く朝夕で日中は少いから之を充分に見んとするものは湖畔に近い浮島稻荷神社の宿坊で一泊しなければならない。

抱返り

秋田縣仙北郡神代村、奥羽本線大曲驛から分岐する生保內線（オボナイ）神代驛の西南三粁の抱返神社に始まり夏瀨溫泉、八木澤口を經て長內溪（オサナイザハ）口に至る間の玉川峽流の勝景で、此間淸流を挾で東に廣久內岱、西に小影山、大影山の連山兩側から押しかぶさる樣に迫り、峽中奇岩峙ち、瀑布懸り、急流、深淵あり、兩側の山には松・杉・櫻・つゝじ・楓・檜・藤などが密生し、四季おのおのその趣きを見るも、特に秋季の紅葉が絕佳である。峽中には巫女岩・鞍掛松・大天岩窟・蓮華岩・常願寺自糸瀧・回願瀧・奥瀧・瞰下瀧・百疊瀧・小田巻・黑瀧・若旅の急流・大岩壁・藪倉の懸瀧・長瀧などの勝がある。

神代驛から抱返り入口の抱返り神社迄三粁、夏瀨溫泉迄一〇粁、八木澤口迄一四粁、徒歩四時間（此間林間軌道の手押トロがあり、日曜祭日には特に許可を得て便乘することが出來る。トロは無料であるが手押人夫賃として一人に付一圓位を要する）。八木澤から長內澤口を經て柱石トンネルを過ぎ、生保內盆地に入り、村落の間を通過して生保內驛に出る。此間七粁、徒歩一時間半。

夏瀨溫泉

玉川河岸の自然石の間に浴場を設けられた甚だ原始的な溫泉場で、泉質はアルカリ性鹽類泉、皮膚病・胃腸病・婦人病・リウマチス・眼病等に効がある。

〔旅館〕北田屋　一泊一圓半—二圓半、晝食五〇錢、以上自炊制を主とする。

奥羽本線大曲驛から分岐する生保內線生保內驛から田澤湖畔（春山）まで西北六粁、夏季中列車に接續して乘合自動車がある、片道四〇錢、所要三〇分、貸切三圓二〇錢。

田澤湖

〔田澤湖畔（春山）の旅館〕蓬萊館、湖心亭、一泊一圓半、二圓、三圓、晝食一圓。

田澤湖は生保內村の西方に位し、海拔二五〇米に水を湛へ、樣湖又は辰子潟の雅名がある。その面積二四・六九方粁餘で、餘り大であるとは云へないが、その深度は四二五米に達し、本邦では第一の深湖で、湖底は海面下一七五米に位し、これと同じ深さの海底は日本海の岸より五〇粁以上の沖合にあると云ふ。湖岸線は二〇粁に達せず、また長徑（東西）六、〇三六米、短徑（南北）六、〇〇〇米で殆んど圓形をなして居る。從つて湖畔に變化は少いが、しかし原始的樹林を控へて居るので、明るい水面にも拘らず幽邃な氣が溢れ、峯巒四周を繞る中に駒ケ嶽の秀峯を東方に、湖上の勝景は實に幽邃そのものである。

湖盆は湖岸から直ちに深くなり、湖底は平坦で、之を切斷して見ると丁度掘を眞直に二つに割つた樣な形をして居る。次に湖盆を涵養する受水區域は極めて小である爲、注入川の主なるものがないから湖底に涌水のある事や認す

るもので、滿々と滿へられた水は西南岸に排水口を求めて潟尻川となり、檜木内川に合し、玉川に入り、末は御物川となつて日本海に注いで居る。湖の水色は非常に美しい瑠璃色を呈し、その鮮麗なること天下に比なく、實にフオーレル水色標準液の第一號に相當し、從つて透明度も、世界一を以て誇るに足るもので、秋季の最も清澄な時は三九米に及び、深度一〇〇米附近まで光線が到達して居ると云ふ。（十和田湖は七八米餘）

〔湖上舟遊〕湖畔春山（白濱）からモーターボートで湖上を一周することが出來る。料金一人一圓半、但最底料金は三人分とす。對岸潟尻へ直行一圓。春山附近の湖岸には石英粗面岩の分解に依て生じた石英質の砂が堆積して極めて美しいので此處を白濱とも云つて居る。背後に笹森山（海拔四〇一米）がある西に進めば右手東北八粁にある荷葉岳（一、二五四米）の火山、その左に玉川の谷を隔てゝ高森（七九六米）が仰がれる。湖の北隅に進めば高鉢山（五七一米）の麓、湖岸に大樹の繁るあたりに近く、水中僅かの深さに灰白色を呈する一大凝灰岩の岩盤が長く湖中に突出して小牛島狀になつた處がある。之を御座の石と云ふ。其邊緣は直立の大絶壁をなし、其高さ殆ど四〇〇米に近く、紺碧の水が神秘的に湛へ、俯瞰するに心魂を寒からしめる。磐上平坦水際に鳥居があり、陸上木立の中に御座石神社がある。神社の傍には延命水と云ふ極めて冷かな清水の滾々と湧出して居る所がある。湖の西北隅に相内潟の部落があり、更に南下すれば小松澤に到り、渚を距る僅かばかりの處に古木の湖中に倒立せるものあり、恰も龍の蟠るが如くに見えるので之に因んで槎木神社が祀られてゐる。更に南して湖の排水口の潟尻に達する。此處には疊を敷いた樣な岩盤があつて一年の大部分水面下にある。その岩上に湖の神を祀つた漢槎宮があり、社殿から岸へ橋が架けられてある。社頭からは湖面を越えて東方一五粁のかなたに駒ケ岳（一、六三七米）の靈姿が仰がれる。潟尻からは潟尻川に沿ふて下り角館に通ずる道がある。此處から東南に向ひ、南祖坊を過ぎ、湖畔最大の部落大澤を眺め、湖に迫る霞森山を右に仰ぎ、田子の森の部落・大森鼻・春山堰・蓬萊松を見て春山に歸る。

田澤湖は日出・日没・雨後・月夜等時として佳ならざるはなく、四季とりどりの眺めがあるが一〇月の紅葉期は又格別である。湖中に產する國鱒、口黑鱒、背黑鯉などにも一種の風味がある。

▲湖に絡る田鶴子姫の興味ある傳說は、北歐フインランド神話「カレワラ」と似通つて居るのは、陰鬱な空を仰ぐ同じ北方人の心理の謎とも見られやう。田鶴子姫は田澤・十和田・八郎潟の三湖傳說の女主人公で、姫は水を求めて此の山間に入り高鉢山迄來たが、俄かに天變地異が起り、暴風雷電の間に谷に陷つて大湖を生じ、姫の身は蛇體に化し、此の湖の主となつたと云ひ傳へられて居る。十和田神話（一九七頁）參照。

田澤湖遊覽日程案（東京から四日）

遊覽の好期——五月から一〇月末まで……新線と紅葉の候最も佳

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一〇・〇〇	青森行二、三等急行車中一泊	▲上野—大曲間一二時間四一分（五一九粁一）、三等急行料一圓上記列車ニハ二、三等寢臺及和食堂車ガアル。 ▲大曲—神代間五三分（二二粁八）、上野—神代間三等五圓八五錢。二等一一圓五四錢（生保内線は三等）
第 大曲驛 神代驛	大曲驛	着前 一〇・四一 發前 一〇・五〇 着前 一一・四三	生保内線ニ乘換 生保内行列車下車	▲神代驛カラ抱返り入口ノ抱返り神社迄三粁、夏瀨溫泉迄一〇粁、八木澤口迄一四粁、徒歩四時間（此間休憩時間ノ手神トロガアリ目書察日ニハ特ニ許可ガ得テ便乘スルコトガ出來ル。トロハ無料デアルガ手押人夫一人一圓位ヲ要スル。）

2日	抱返り		徒歩	
	夏瀨溫泉	着		
	八木澤口	發後	徒歩	
	生保内	發後 五・四〇	自動車	
	田澤湖畔	着後 六・一〇	宿泊	▲生保内—大曲間一時間一三分（三五粁五）（三等車ノミ） ▲大曲—上ノ山間約五時間一〇（一七二粁） 上ノ山—上野間一〇時間二七分（三四七粁一）、生保内—大曲—上野間三等五圓九五錢、二等一一圓六四錢（生保内線三等）（通用七日）
第3日	生保内驛	發後 一・三五	大曲行列車	
	大曲驛	着後 二・三八 發後 三・一〇	乘換 上野行列車	
	上ノ山驛	着後 八・二〇	上ノ山溫泉宿泊（第二一三頁參照）	
第4日	上ノ山驛	發前 九・二八	上野行列車	
	上野驛	着後 七・四五	歸宅	

夏瀨溫泉（二一五頁參照）

▲八木澤カラ長内澤口ヲ經テ柱石トンネルヲ過ギ、生保内盆地ニ入リ、村落ノ間ヲ通過シテ生保内驛ニ出ル。此間七粁、徒歩一時間半。

▲生保内驛カラ田澤湖畔（春山）マデ西北六粁、夏季中列車ニ接續シテ乘合自動車ガアル。片道四〇錢、所要三〇分、貸切三圓二〇錢。

▲田澤湖畔（春山）ノ旅館　蓬萊館、湖心亭一泊一圓半、二圓、三圓、晝食一圓。

〔參考〕

此日程ニ更ニ一日追加シテ駒ケ岳登山ノ行程ヲ入レレバ尙一層面白イ旅程ガ出來ル。卽チ第二日夏瀨溫泉ニ一泊、第三日田澤湖ニ出テ遊覽ノ上、湖畔ニ一泊、第四日目ニ登山往復シテ生保内カラ歸ルノデアル。

生保内驛カラ田澤湖畔ヘ通ズル道ヲ北ニ一粁半許リデ中生保内ニ達シ、夫カラ駒ケ岳頂上迄約九粁。登山所要五時間乃至七時間デ比較的樂ナ行程デアル。案内人一日一圓半、一日二圓。登山期ハ六月中旬ヨリ八月末ニ駒ケ岳ハ生保内村ノ東方、崗手縣ノ境上ニアリ輝石安山岩カラ成ル火山デ、暑完全ナ截頭圓錐形ヲナシ、山頂ニ愚蹄形ノ大ナル「カルデラ」ガ南ニ向テ開キ其内ニ女岳及横岳ノ中央火口丘ガアル。最高峯ハカルデラノ北側ニアル女目岳ト呼バレル寄生丘デ海拔一、六三七米ヲ示シ秋田縣ノ最高峯デ、山頂カラハ東ニ岩手縣栗石小岩井方面ガ見下サレ、東北ニハ小高倉山岩手山ノ雄姿ヲ望ミ、北ハ烏帽子岳、西ニハ近ク手ニ取ル如ク田澤湖ガ山間ニ點キ、遠ク太平山カラ秋田平野日本海ヲ望ミ、マタ遙カニ鳥海山ノ靈峯モ仰ガレル

旅行費用概算

		圓
二等	四三・九八	
三等	二四・四〇	

内譯

（備考）急行料一回分及二等下段寢臺料一夜分四圓半、三等上段八〇錢、旅館二泊分二等七圓半三等五圓。食事料及上野—神代間、生保内—上野間汽車賃及田澤湖往復自動車賃三等上段八〇錢、旅館二泊分二等七圓半三等五圓。食事料及湖上舟遊料其他トシテ二等六圓三等五圓ヲ計上ス

男鹿半島巡り日程案（東京から五日）遊覽の好期――六月から九月まで……梅雨期最も佳

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一〇・〇〇	秋田、青森行二、三等急行車中一泊	▲上野―山形―秋田間急行列車デ約一四時間（五七〇粁八）急行料三等一圓。上記急行列車ニハ二、三等寢臺及和食堂車ガアル。
第2日	秋田驛 船川驛 秋田驛	着前 一一・四五 發後 一二・一〇 着後 一・三五 發後 五・三〇 着後 六・五四	乘換 船川行列車 船デ男鹿半島巡リ 秋田行列車 宿泊	▲秋田―船川間一時間二五分（三九粁六、三等車ノミ）三等片道六三錢 乘車券ハ上野―山形―秋田―鶴岡―長岡―澁川―大宮―上野及ビ秋田―船川往復ノ廻遊乘車券ヲ求メルコト、二等二一圓六八錢、三等一一圓四七錢（通用一五日）。 船川カラ船デ男鹿半島大棧橋往復四時間位（二一九頁參照）。 **秋田市**（二二〇頁參照）。
第3日	秋田驛 鶴岡驛 善寶寺前 湯ノ濱	發後 一二・二〇 着後 三・四八 發後 三・五五 着後 四・一一 發後 四・五六 着後 五・〇四	新津行列車 下湯ノ濱行電車 下車參拜 湯ノ濱行電車 宿泊	午前中秋田市內一巡。 ▲秋田―鶴岡三時間一二分（一三粁三）（秋田―水上―上野三等六圓三二錢） 「註」或ハ溫海驛下車（後四・三一着）溫海溫泉ニ一泊（二三八頁參照）又八村上驛下車（後六・一四着）瀨波溫泉（二四〇頁參照）ニ一泊スルモヨイ。 ▲鶴岡驛―善寶寺―湯ノ濱溫泉間庄內電車（省線驛構內ニテ接續ス）ニテ二四分（一一粁二）賃金片道三五錢。 **善寶寺參詣**（二三八頁參照） **湯の濱溫泉旅館**―龜屋、岩本屋、其他（二三八頁參照）
第4日	湯ノ濱 鶴岡驛	發前 着後 六・三三 發後	鶴岡行電車 下車遊覽 上野行列車 車中一泊二等寢臺アリ 歸宅	**鶴岡市見物**（二三七頁參照） 「註」鶴岡發前一一・〇一ノ準急列車ナレバ後八・三〇ニ上野ニ着ク、尙此ノ列車ハ新潟―上野間急行トナリ水上ニ後五・二五、澁川ニ六・一五ニ著クカラ水上溫泉又ハ伊香保溫泉ニ一泊シテ翌日ユックリ歸京スルモヨイ。 ▲鶴岡―上野間上越線一二時間（四五四粁五）三等五圓一七錢。
第5日	上野驛	着前 六・三四		

旅行費用概算　三二等　五五圓　二九・六八　内譯（汽車賃及急行料、二等二三圓六八錢、三等一二圓四七錢、（備考欄參照）、旅館二泊料二等一〇圓、三等六圓、二等下段寢臺一二夜分九圓、三等上段一夜分八〇錢、男鹿半島巡リ舟賃八三圓、食事料其他費用トシテ概算二等一〇圓、三等七圓ヲ計上ス）

男鹿半島

▲秋田から船川ゆき列車により（奥羽線追分驛から分岐する船川線の終點）約一時間二〇分（三九粁六）、片道六三錢（三等車のみ）。

▲船川からモーター船を賃して半島を半周して大棧橋に至り引返すのが普通である。

男鹿半島は、秋田市の北方、日本海上に突出する一大半島で東西約二八粁、南北約二〇粁あり、半島の大部分には日寒風山脈を載いて居る。東部、卽ち頸部に當る部分には日本第二の大湖八郎潟を擁して居る。

寒風山脈は半島の南端に眞山及本山を越して北走し、北端に寒風山を峙たしめて日本海に沒して南・西・北麓は直ちに日本海の波濤に洗はれて居る。從つて是等の海岸は景の單調を破つて奥羽線中最も景色の雄大なところで、奇岩怪石に富み奇觀の極みを呈して居る。殊に南・西岸は二〇米乃至三〇〇米に及ぶ海蝕段丘の著しい發達を見せて居る處である。卽ち船川・門前間は最も急峻な傾斜をなす所で、その雄渾壯大は、世に松島を笑ふが如く、象潟を怨むが如く、男鹿を怒るが如しなどと讃美して「島めぐり」の興に輕舟を走らせるものが多い。

男鹿半島は、之を地質學上から見れば、海中から隆起して先づ島となり、次第に隆起すると共に其高さ及廣さを增し、同時に北方に於ては能代川、南方には雄物川が盛に砂を吐き出して砂堤を造つたので遂に本土と結び付いて半島となり、兩川砂堤の中間には海跡湖八郎潟を殘すに至つたものであると云ふ。海中から隆起して島が出來た證據として、男鹿には海蝕段丘の發達が實に著しいものがある。卽ち東北及東南部は前記の如く二條の砂堤に因つて陸地に結び付けられた部分であるが、現に日本海に接して居る處、殊に西部山地區域は隆起の最も著しかつた處であるから、二〇米乃至三〇〇米に及ぶ海蝕段丘の著しい發達を見せて居る。その船川、門前間は最も急峻な傾斜をなす處で、絕壁をなして海に下つて居る處も少くない。その絕壁の下には海蝕洞穴や、天然橋や岩島が澤山あつて、調所男鹿の島巡りの勝地とされて居る處である。

此の西海岸に露出する岩石は第三紀の下部（舊成統）に屬する双六火山碎片岩類であつて、その中には凝灰岩あり、粟塊岩あり、安山岩あり、また之を貫く玄武岩脈あり、硅長岩脈などゆりて、岩石の種類が頗る多く、從つて島の形や色が千差萬別で、一つ一つ別の鬼神の手に成つたかと思はれる程實に變化に富で居る。

〔島めぐり〕　半島の南・西岸は前述の如く二〇米乃至三〇〇米の海蝕段丘をなして斷崖直ちに海に枕み、陸上は寒風山脈重疊して交通機關を欠くため、男鹿の探勝には海上風波の靜かなる日を撰んで發動機船を走らせるのである。その普通のコースは船川から海上約一八粁の「大棧橋」の勝又は二〇粁の加茂迄を往復するのである。

船賃一人四圓、二人五圓、三人六圓、五人八圓、六人以上は一人につき一圓五〇錢の割。團體は其都度取極。

所要時間　往復四時間位（大棧橋往復）。

船川からモーターボートに依り半島の南岸に沿ふて增川、女川の部落を過ぎ鵜ノ崎・龍ケ崎・金ケ崎を經て椿の部落に至れば能登山と云ふ丘があり全山椿で掩はれ花季には美觀を呈する。館山崎に御前落しの懸崖を眺め、双六灣に入り小滝の部落を過ぎれば巨大な帆掛島を仰ぐ。その左には鹽瀨崎が突出し、附近に幾多の奇岩が散在して雄大な風景を見せて居る。その次の部落は門前で、北四粁に本山の赤城神社がある。これを過ぎて半島の西南端に出ると高さ二〇米ばかりの龍ケ島がありそれから幾多の奇岩を眺めて北に進めば深さ四〇米ばかりの嵩雀ケ窟があり、やがて巨大な石門を船で潜る。これを大棧橋と稱し龍ケ島、嵩雀ケ窟と共に男鹿の三大偉觀とされて居る。普通は此處で船川に引返す。

大棧橋から更に進んで二粁許り、小棧橋、戈島、黑島、立島、蓮華島、豐島等を經て加茂に著く。此處から更に舟で二粁許りゆけば湯ノ濱溫泉がある。溫泉

は海濱の岩石を積んで浴槽としたもので療養本位の旅館が一戸ある。此處に上陸して北進すれば約二粁で戸賀灣の見える所に達し、近くに三ノ目潟を見下し、右方遠く二ノ目潟を見、直下に楕圓形の一方の缺けた戸賀灣が眺められその北岸に戸賀の部落がある。加茂から戸賀迄七粁、旅館戸賀館がある。戸賀から陸上東方四粁に湯本温泉がある。道路急坂にて不良、自動車貸切一圓半、乘合は不定期にて、三〇錢。

▲湯本温泉（秋田縣南秋田郡北浦町）は大同年間田村將軍の發見と傳へ、炭酸石灰泉で三二度強、神經衰弱・リウマチス・婦人病・眼病等に効がある。

〔旅館〕 幅神館（室六、一泊一圓半）、大淵館の二戸。

湯本温泉から約四粁で男鹿半島の北岸にある北浦町に出（乘合二〇錢、一日五回）そこから更に一一粁八で船川線羽立驛に出る。（湯本—羽立驛間、一時間二〇分、賃一圓、一日五回、貸切五圓）。

船　川　男鹿半島の南岸に位し、冬季の西北卓越風を避け、安全に碇泊するには最も理想的の港とされて居る。

〔旅館〕 諸井（電船川二八、驛前、室二二、一泊一圓半—三圓、普通團體收容九〇人位）、泉（電同一三、室一〇、一泊同上）、小玉（電二一、室六、同上）、森長（電五〇、室六、同上）。

【男鹿のナマハゲ】　また生剝とも云はれる珍らしい風習で、今は僅かに男鹿の西北隅に殘つて居るに過ぎない。それは正月一五日の夕刻から鬼に假裝した若者が各戸を訪問し、先づ戸外で奇聲を發して呼べば、その家の主人は羽折袴の正裝で之を迎へる。すると鬼は先づ神棚に向つて禮拜し、直ちに獨特の作法によつて足ふみならして躍りながら室々を悉く廻つて歩く。此の際もし鬼が勢に乘じて家具や建物を破損する事ある時には、その家では反つて之を幸運として喜ぶと云ふ事である。この間に座敷には酒と餅とを供して鬼を鄭重にもてなす。鬼は酒を呑み、餅を從者に擔はせて次の家にゆくのである。

鬼の服裝や携帶品は村々により一定して居ない、即ち或る村では鍬をもち、或る所では鉋丁を携へ、または金棒を持つと云つた風である。鬼の數も夫婦二匹の所、子鬼を加へて三匹の所、更に青鬼夫婦を加へて五匹の所もある。本來は五匹のもので、木山の傳說から來たものと云ふ。その傳說によれば昔支那から鬼の武帶が五匹の鬼を引き連れて木山に渡來し、その鬼共は平素は武帶のために心ゆるゆる苦役に從事したが、正月一五日だけは村里に出て、彼等の慾するものを何でも自由に探し求める事を許されて居たと云ふ事である。今それ等の鬼を祀つてある祠五社堂が木山の登山口門前部落にある。

【八郎潟】　男鹿半島の頸部に位する大湖で、東西一二粁半、南北二四粁、周圍八一粁の楕圓形を呈し、面積二二一平方粁を占め、琵琶湖の約三分の一に當り全國第二の大湖であるが、潟湖としては日本隨一の淡水湖である。然し其の深度は極めて小であつて最大四米半に過ぎぬ。此の湖は前記の如く、もと男鹿島との中間に挾まれた日本海の一部であつたが、長い年月の間に東北及東南の兩方面に二本の砂嘴が發達して、遂に其中に取殘されて生じた海跡湖で、大小二〇餘川之に注ぎ。長さ二四〇間の八郎橋架る處纔かに日本海に通じて居る。

湖水は淡水湖で、南部に於ては海水を混じて多少鹹味を帶びて居るが、此の地方に於ける淡水漁業の豐庫であつて、殆ど四季を通じて漁獲がある。殊に冬期氷上漁業は、其漁具及漁法が獨特なので有名である。魚族はわかさぎ、ごり、ぼら、ふな、えび等。結氷期は一二月下旬になれば湖畔の淺い處に薄氷が張り一月下旬には全湖面が凍結し、湖上人馬が通れる。解氷は二月下旬に始まり三月中旬には全く融ける。

【寒風山】　偏心二重式構造を有し、山頂圓形をなし長く緩かな裾野を曳いて居る。登山は船川線脇本驛から西北三粁で、往復徒歩三時間を要する。頂上には二個の火口址があり。舊火口は北に、新火口はその南部の火口壁を破つて生じたもので、火口底の中央から西に偏して小さな沼がある。山頂から四方を眺めた「パノラマ的風景は」此の山獨特のもので、先づ東南を望めば脇本船越間に發達する砂丘の列、拂戸村附近の舊湖底に取殘された多數の水溜りを前景として、その向に八郎潟を眺め、東北に轉ずれば若い堆積海岸の緩かな曲線と、八郎湖岸の鋸齒狀の線とが互に背中合せとなつて奇觀を見せ、西北には美しい曲線を描く壯年期の海岸線、西方には男鹿の最高峯本山の圓頂丘を中央にして眞右に眞山、左に毛無山の丸い流紋岩の火山が、何れも杉の天然林に包まれて翠黛を描き、其の前方から西南にかけて段丘に削られた傾斜地があり實に變化の多い眺めである。

秋　田　市　上野・福島・山形・秋田間急行一三時間四五分（五七〇粁八）、三等六圓七錢。上野・青森・長岡・秋田間急行一二時間五六分（五八六粁八）、三等五圓九七錢。

秋田市は雄物川下流の秋田平野に位し、その支流旭川は市内を貫流し、東南は雄物川河谷に連り、西北に近く土崎港を控へて居る。羽越本線の開通に依り物資の集散愈々盛になり、現に石油業、製材業の一中心をなし、人口五一、〇七〇（昭和五年十月國勢調査）を算し、縣廳の外市役所、旅團司令部、歩兵第一七聯隊、地方裁判所及鑛山專門學校等がある。市街は旭川に依つて東西に區分され、西は外町と稱し商工業が盛に行はれ、東は內町と稱し舊藩時代の武家町で、官公廳、學校などがある。

此地はもと久保田（窪田）と稱し、今から約千二百年前、即ち聖武天皇天平五年一二月（紀元一三九三年）の秋田城設置に初まるものである。秋田城は秋田驛の西北四粁半、土崎驛の東南三粁、今の寺內村（當時の秋田村）高清水岡にあり、其の頃は此處が蝦夷國と日本國との國境に當り、國防の爲出羽の柵を今の莊內地方から此處に移して設けられたもので、城域は寺內村丘陵の北半を占め、東西、南北共に一粁餘に及ぶ大規模な城廓であつた。天平寶字の頃城廓整備し國府また次いで此處に移されたが、永承五年（紀元一七一〇年）初めて秋田城介を任命した。しかし次第に蝦夷の勢力が北方に衰退するに從ひ城も次第に荒廢した。慶長七年（紀元二二六二年）秋田氏は常陸宍戸に封を移し、佐竹義宣代りて領した時は城は全く荒れ果て居たので、翌年約六粁南なる久保田郷の神明山（今の千秋公園）に城を築き、二〇萬石を食で爾來二七〇年間子孫相繼ぎて明治維新に至る迄此處に居住したので、秋田の城下町は此の城を中心として發達したものである。

〔秋田市內の主なる旅館〕 **小林**（電秋田一五、驛へ約九百米、土手長町、室二四、一泊二圓、三圓、四圓半、㊐三圓六〇錢）、**石橋達摩館**（電同四〇、驛へ八百米、土手長町、室二〇、一泊同上、㊐三圓六〇錢）、**敦賀屋**（電同一三〇、驛へ一粁一、木町三丁目、室二三、一泊一圓八〇錢、二圓八〇錢、三圓半、㊐三圓）、**山田**（電同二一一、驛へ一粁一、木町三丁目、室一六、一泊料同上）、**關根屋**（電同六三、驛前、室一八、一泊料同上）、**木村**（電同六九、驛前、室一一、一泊料同上）等其他。

〔遊覽順路〕 秋田驛—廣小路—土手長町—物產館—大町二丁目—一丁目—上通町—廣小路—中土橋—記念館前—千秋公園—手形山—平田篤胤墓—農事試驗所—日吉神社—全良寺戊辰官軍戰歿者墳墓—寺內村古四王神社—高清水公園—土崎港町—土崎驛。

〔名所〕 ▲千秋公園　驛の西北二二〇米、舊久保田氏の城址で、本丸、二丸及帶曲輪を範圍とし、自然の勝景を利用され、東北第一の公園と云はれて居る。此の城は慶長年間佐竹義宣が、市街の東北なる丘陵を利用して築造されたもので、園上から秋田全市が一目に見渡せる。また園內には櫻樹が多く、舊藩祖を祀る縣社秋田神社がある。▲平田篤胤墓　驛の東北二粁、手形山の西腹にある。篤胤は江戶時代の有名な國學者で、且神道家で著書百餘部に及び、安永五年秋田城下に生れ、天保一三年歿した人である。▲日吉八幡神社（縣社）　驛の西約三粁、自動車の便がある。境內廣く八橋公園となつて居る。**古四王神社**（國幣小社）　驛の西北四粁半、寺內村高清水岡の舊秋田城址附近にある。▲手形山スキー地　驛の東一粁半で手形山の斜面に達する。一二月下旬から二月末迄一米內外の積雪があり、初心者の練習に適する處である。

〔名物〕 秋田蕗、諸越、蕗砂糖漬、畝織、八丈織、金銀細工、羽二重等。秋田蕗は頗る大形で、大なるものは高さ三米、葉の大きさ直徑二米に及ぶものがあり、之を製したものに砂糖漬・菓子・テツキ等がある。

大鰐・藏館溫泉　青森縣南津輕郡大鰐町、奥羽本線大鰐驛の東南半粁乃至一粁、自動車がある。地は古來津輕の勝地として、また歡樂鄕として名高いところ、前に平川を羅し、川を隔てゝ南に大鰐、北に藏館の溫泉街がある。東北に楯ケ崎、西南に甚吉森の諸山を繞らし、岩木山を西に望んで風色優れた一區をなして居る。附近の茶臼山公園は眺望が廣く、その麓に狐森のスキー場がある。溫泉は弱鹽類泉で四九度內外、脂肪過多症・婦人病・リウマチス等に効がある。特色は療養並に行樂向。

〔旅館〕 「大鰐」大鰐ホテル（電大鰐一六、室一四、一泊㊐三圓）、加賀助（電四・一〇九、室一三、㊐三圓）、後藤（電一三、室一〇）、金森（電六、室八）、一二三（電二三、室一一）、「藏館」公園大鰐二・一四、室一一）、不二屋ホテル（電一〇八、室一二）二電半—三圓。

▲大鰐スキー場　溫泉から二粁東南にある阿闍羅山一帶は、一二月下旬から

三月中旬まで一米半乃至二米の積雪があり、雪質も優良で立派なジャムプ臺があり、東北有數のスキー場として年々競技會が催される。

上野から山形經由急行で約一八時間（七一九粁二）、三等二圓一六錢。
圓一四錢。秋田から四時間（一四八粁四）、三等二圓一六錢。
青森から普通列車で一時間餘（三七粁四）、三等六〇錢。

弘前市

弘前市は岩木山の東南麓、津輕平野の南に位し、岩木川に臨んで居る。もと津輕氏一〇萬石の城府として發達した處であるが、廢藩後大いに衰へ、のち鐵道の開通と第八師團の設置によつて漸く盛運に戻つた。市内の最も繁華なのは土手町、一番町、親方町などで、林檎・米などの集散盛んで、商況も活潑である。名産には津輕漆、木通蔓細工などがある。また民俗には一種の津輕氣質があつて古都の風が遺つて居る。人口四三、三三八（昭・五・一〇調）

〔旅館〕 齊吉（元寺町三九、驛七〇〇米、電三九、室一八）、石場（元寺町、同上、電三〇二、室一七）、竹内（中土手町、驛半粁、電二一七、室一八）、佐々木（一番町、驛七〇〇米、電三三九）、大室本店（一番町、驛七〇〇米、電二二八）、大室支店（驛前、電五三四）、（以上二泊二圓乃至五圓）、小堀（六木町、電二一九、驛一粁、一圓八〇錢―三圓）、小山内（百石町、驛半粁、電二三四、同上）、千葉（驛前、電九一三、一泊一圓半―二圓半）、鈴木（親方町、電一二二二）。

〔遊覽順路〕 驛―代官町―土手町―物産陳列所―公園―公會堂―長勝寺―最勝院―高等學校―師團―驛。

〔市内乘合自動車〕 前六時から午後九時迄凡一〇分毎に運轉、一〇錢。

▲弘前城址 驛の西方約二粁、慶長年中津輕信牧の築城にかゝり爾來津輕氏累代の居城であつた。明治維新廢城ののち三の丸に陸軍兵器支廠が設けられ、廢揚園と稱されて居る。本丸・二ノ丸・三ノ丸の一部は公園として保存せられ、櫻揚園と稱されて居る。現在本丸・二ノ丸・三ノ丸の周濠土壘石壁などもその儘に存し、本丸址には追手門を始め東門、北門及天守閣の建物を存し、眺望に富んで居る。▲最勝院 驛の西方一粁半、市内銅屋町にある。境内に寛文年中津輕信政の建立した五重塔婆があり、國寶となつて居る。▲長勝寺 驛の西方約三粁半、市内西茂森町にある津輕氏の菩提寺で、大永年中大浦盛信の創建に係る。曹洞宗。▲第八師團 師團令部 驛の西南二粁、市外富田町。▲物産陳列所 驛の西一粁半、市内靖師町。

〔津輕塗〕 元祿年間津田藤兵衛の發明したもので、藩主の保護を受けて發達して來たもので、弘前の名産として古い歴史を有して居る。一名バカ塗とも稱し、下塗から仕上まで三八回乃至四〇回の塗りを重ねるので色彩の優雅なのと堅牢なのとで珍重されて居る。

【林檎】 弘前及こゝに近い浪岡、川部、石川、大鰐、碇ケ關、黒石、藤崎、板柳、陸奥鶴田各驛附近は此の地方林檎の主産地で、車窓から見渡す限り林檎畠が續き、年産一千二百萬圓に達し、主に東京、大阪及浦鹽、上海方面に發送される。青森縣の林檎は明治七年に米國インデアナ州から米人ウオルフ・リング氏の齎せる種樹を試植したのが始めである。

岩木山神社（國幣小社）

青森縣中津輕郡岩木村百澤。弘前驛の西約一三粁八、自動車四五分、乘合片道五〇錢、往復八〇錢（自五月至一一月一日四回）、貸切五人乘四圓。

岩木山の南麓にあり宇都志國玉命（大國主命）、多都比毘賣命、宇賀能賣命を祀る。社傳によれば宗鑑年中岩木山上に鎮祭せしものといひ、今も山頂に奥宮を有し、當社を下居宮といふ。津輕氏累代の崇敬篤く、社殿の莊嚴華麗なること津輕地方隨一で「奥の日光」の稱があり。楼門、拜殿は共に國寶に指定されて居る。例祭八月一日。

奥宮は此處から六粁一の岩木山頂にあり俗に御室と稱し隔年毎に改造するものにて、舊六月二日にその奉建祭がある。また毎年七月二五日に山開祭があり、八月一五日に山納祭がある。此の二〇日間は古來御山參詣と稱し登山するものが多いが七月二九日から八月一日に至る三日間は奥宮神賑祭があるので登山者が最も多い。山頂迄約六粁一、上り三時間位。

岩木山

青森縣の西部にある火山で、津輕平野の西南に位し、東から見れば美しい圓錐形を呈して富士山に似て居るので津輕富士と稱され、山頂は巖木山（北、一四五六米）、鳥海山（南、一五〇二米）、岩木山（中央、一六二五米）の三峯に岐れて居る。三峯中岩木山最も高く、舊火口の南方に偏して噴出した中央火丘で完全な圓錐形をなし、山頂には火口がなく、全山熔岩から成る塊狀火山である。山頂は奇岩林立してその間に岩木山神社奥宮及休憩小舍がある。山頂からは東に八甲田の群峯を望み、東北は青森灣から淺虫海岸などが見え、北方には遙に十三湖及津輕半島の諸山を望み、西北には鰺ケ澤方面から日本海の景致が美しく見える。

猪苗代湖舟遊と東山溫泉遊覽日程案

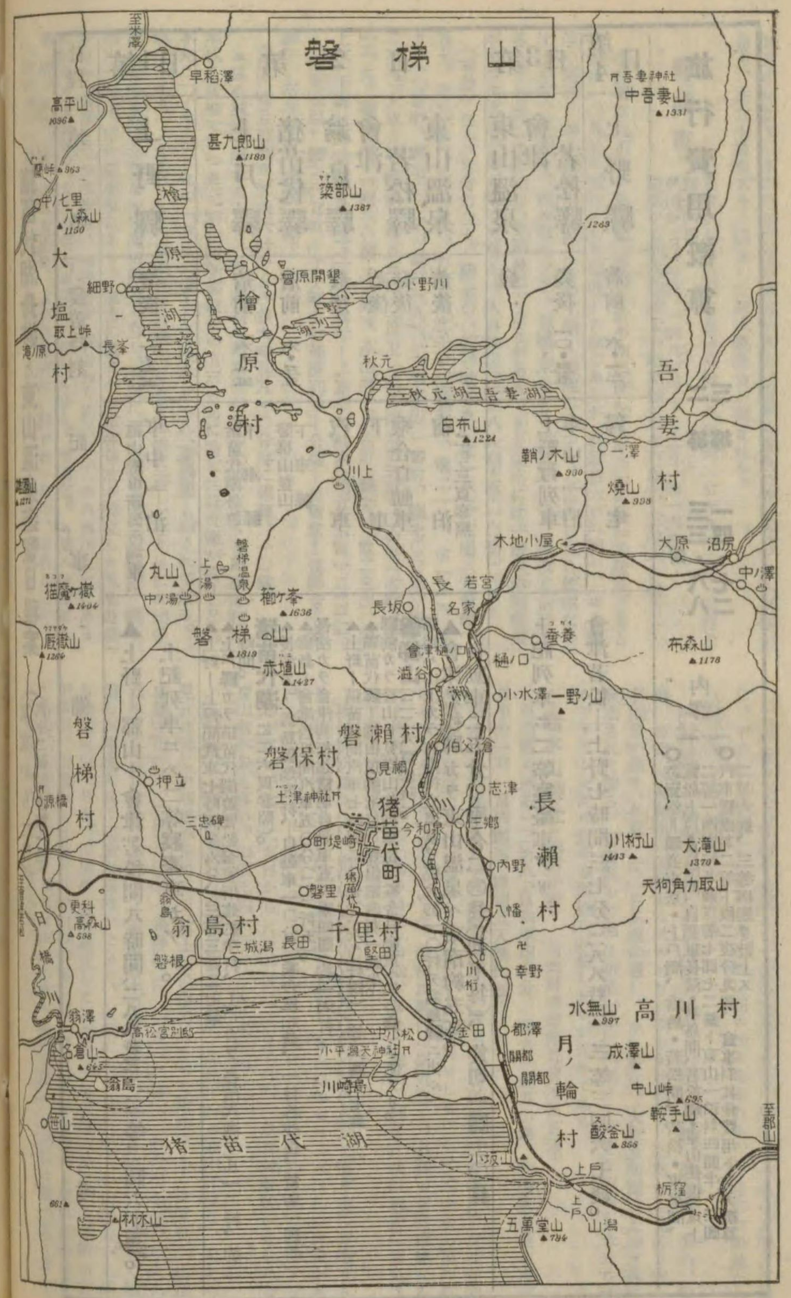
（東京から二日）（汽車二泊、旅館一泊）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 二一・一五	郡山經由新潟行列車 車中一泊	▲上野―郡山―會津若松間八時間、二八八粁三）三等三圓六七錢。 上記列車ニハ二等寢臺車ガアル。
第2日	上戸驛	着前 六・一五	猪苗代湖舟遊 下車驛 磐梯山登山 下車驛	▲上野―上戸間汽車七時間〇六分、三等三圓二七錢。 ▲上戸驛カラ猫苗代湖遊覽船發着所迄約半粁、上戸カラ長濱迄湖上凡一二粁、約二時間。 **猪苗代湖**（二二六頁參照）。 ▲長濱カラ翁島驛迄五粁、自動車一〇分、乘合三〇錢、一日八往復、貸切一圓半。 ▲翁島―會津若松間汽車五〇分（三三粁五）。 長濱カラ會津若松迄貸切自動車五人乘四圓（約一六粁）。
	猪苗代驛	着前 六・三五		
	翁島驛	發後		
	會津若松驛	着後 發後	汽車 下車 乘合自動車	
	東山溫泉	着後	宿泊 二〇三頁參照	▲猫苗代驛―栃山頂約七粁。登山案内料一圓半。 ▲上野―猫苗代間汽車七時間二〇分（二六〇粁四）三等三圓三七錢。 驛前カラ登山口見樣山迄列車毎ニ乘合自動車（二〇錢）ノ便アリ。（二二六頁參照）。 **磐梯山** ▲會津若松驛カラ東山溫泉へ東南約五粁。 驛路八山上カラ西南押立溫泉ヲ經テ約一〇粁デ翁島驛ニ出ル。 自動車二五分、乘合二〇錢（列車毎）、貸切一圓二〇錢。
第3日	會津若松驛	發後 一〇・三五	上野行列車 車中一泊	上記列車ニハ二等寢臺車アリ 會津若松―上野七時間三七分（二八八粁三）三等三圓六七錢。
第4日	上野驛	着前 六・二二	歸宅	

旅行費用概算

二等 三三・八八圓
三等 一四・七二

内譯
○遊覽券＝鐵道東京・上戸間、翁島・若松間、若松・東京間、渡船上戸・長濱間、自動車長濱・翁島間、若松驛・東山往復、以上二等一四圓三八錢三等七圓七二錢ト東山一泊料四圓半・三圓
○汽車寢臺料二等下段二夜分九圓、食事料其他費用トシテ概算二等六圓、三等四圓ヲ計上ス



東山溫泉

福島縣北會津郡東山村。會津若松驛から東南約五粁、自動車二五分、乘合二〇錢（午後六時四〇分迄列車毎、貸切一圓。

東山溫泉は四面殆んど靑巒に圍まれ西の一方纔に開けて湯川の溪流、町の中央を流れ、川を隔てゝ兩側に大厦高樓軒を連ね、崖に倚り水に沈んで風光の美を恣にして居る。古來有名な溫泉で、奧羽三樂鄕の一として四時殷賑を極めてゐる。特色は行樂向。

附近には屛風岩、雨降瀧、登仙岩、象岩等の佳景多く、有名な白虎隊墳墓のある飯盛山も近くにある。

泉質は無色透明の鹽類泉で、瀧ノ湯・菅ノ湯・狐ノ湯・猿湯・貉湯・漣湯・檻ノ湯・總湯・穴湯・隅ノ湯・目洗湯等十餘口の泉源を有し、溫度三八度乃至六〇度、婦人病・リウマチス・神經諸病等に效がある。

〔旅館〕新瀧（電東山三・三三、室一二、普通一泊三、四、五、七圓、㊐四圓半）、向瀧（電四・三四、室三六、一泊同上、㊐五圓）、不動瀧（電六、室木館一二、別館六、一泊同上、㊐三圓）、福住（電七、室一五、一泊二圓—三圓半、㊐二圓半）、二八屋（電八、室一二、一泊同上、㊐二圓）、原瀧（電二五、和室一四、洋室二、一泊同上㊐三圓）、天龜（電一〇、室一一、一泊同上）、有馬屋（電一、室一二、一泊同上）、山水館（電三五、室一二、一泊同上）、高橋館（電一四、室八、一泊同上）、鳥一（電二六）、古瀧（電一三）、瀧見屋（電二三）、玉ノ湯（電五）、新榮館（電三五）、惣湯（電一一）、荒井館（電三〇）、刃（電一八）以上一泊一圓半乃至二圓半。

若松市

人口四四、八三四（昭和八・一〇調）、會津盆地の東南に位し、城下町として發達した處で、史蹟が多い。此處は會津塗の本場で、其製造が盛に行はれ、大町、七日町、栄町は商業地區として賑はつて居る。

市はもと黑川と稱し、至德元年（紀元二〇四四年）芦名直盛が鶴城以來、子孫相襲いで據つたが、天正一七年六月（紀元二二四九年）伊達政宗のために攻略せられ、翌年豐臣秀吉は之を收めて蒲生氏鄕に與へ、氏鄕が更に規模を改めて若松城と改稱した。慶長三年（二二五八年）上杉景勝之に代り、石田三成と策應して德川家康を除かんと圖つたが關ケ原の敗戰のため志を遂げず、同五年米澤に移され蒲生秀行が復封した。寛永年中には加藤嘉明が此處に據り、後山形の保科正之が入國して以來會津藩の城下として殷盛を極めた。明治維新の際藩主容保が幕府の恢復を策し賊名を受けて官軍の攻伐する處となり、城陷り、市街悉く灰燼となつたが、後次第に恢復して今日に至つたのである。

〔旅館〕清水屋（栄町一丁目、驛から二粁、電三四、一泊二圓半—六圓）、たばこ屋（驛半粁、電七七六、一圓—二圓）、蓑川（一ノ町、驛一粁三、電五五一一圓半—二圓）、玉川（大町、電一五二）等。

〔土產物〕五郎兵衛飴、柿羊羹、會津豆、白虎飴、漆器、絵蠟燭、白虎人形等。

▲會津塗　古來有名なもので、その特色とする處は豆柿から搾取した澁に漆液を加へて下地として居るため、堅牢で耐久性を有することである。

〔名所〕▲若松城址　驛の南方約三粁、乘合自動車八錢（凡三〇分毎）、鶴ケ城とも稱し內廓の大部分即ち本丸、帶郭、北出丸、西出丸などの濠壘・石垣。城門址など整然として遺存し殊に太鼓門の石垣、天守の宏壯な石壁を始め、本丸內には大書院、小書院、茶室などの礎礎、庭石を存し、尙よく全國屈指の名城たりし當年の規模をうかゞふ事が出來る。▲山鹿素行誕生地碑　驛の南約二粁半、市內榮町一之丁通の南側にある。素行は江戸時代初期の有名な軍學者で、殊に山鹿流兵法の創始者として知られた人である。碑は大正一五年に自然石で建てられ、一の玉垣を結んである。▲蒲生氏鄕墓　驛の南一粁半、市內榮町興德寺境內本堂の後方に位し、方形の積石塚で、上に五輪塔を建てゝある。氏鄕は織田、豐臣二氏に仕へ、天正年中奧羽の守護に任じ、百二十萬石を領して此地に據り、勇名を馳せ、文祿四年（二二五五年）二月七日京都に於て卒去し、紫野の大德寺に葬られたが、此地は舊領地なので、分骨を納めた所である。▲白虎隊墓　驛の東三粁、乘合自動車一〇錢（一日六回）市外一箕村、飯盛山の中腹會津盆地市街を見下して眺望のよい所にある。明治元年戊辰の役に死力を盡して官軍に抗した會津藩士が朱雀、靑龍、玄武、白虎の四隊を編成して戰つた

時、一五歳から一七歳までの少年が白虎隊となり八月二三日死を決して戰つたが利あらずして隊士多く死傷し、城の陷落も旦夕に迫つた。此時僅かに殘つた一九人の少年等は、瀧澤村の戰場から引返し城中降服の議有るを聞いて、激越の情禁ずる能はず、若松を距る東二粁餘、飯盛山に登り城を拜して自刄し悲慘の最期を遂げた處である。昭和三年、伊國の鐵腕宰相ムツソリニ氏が深く少年等の義に感じ寄贈されたと云ふ記念碑が建てられて居る。「武士の赤き心を秋ごとに、紅葉に見する飯盛の山」―小川清胤。▲攀螺堂　驛の東三粁、前記飯盛山麓、白虎隊墓に至る途中にある。圓通三匝堂と稱し、六角形三層樓で高さ一六米、旋回して昇降段を附けたのが螺殼に似るので、俗に「サゞエ堂」と云ふ。

猪苗代湖　磐梯山の南麓に一〇三方粁の水面を開いて居る本邦第四位の大湖で（琵琶湖、八郎潟、霞ヶ浦に次ぐ）東西一六粁、南北一八粁。然し湖岸線に於ては其面積十分の一にも充たぬ磐梯山北の堰止湖檜原湖（面積は一〇方キロ餘、湖周四七粁餘）より僅かに九粁程長いと云ふに過ぎぬ。即ち湖岸線に變化の少いことを示すものである。されど四周概れ山を繞らし、北方の磐梯山はその姿を湖水に浸し、南方からの眺望がよい。湖面は十和田湖を拔くこと一一三粁の海拔五一四米あり、湖盆はその南部と、北東部長瀬川の注入口から長濱に向つて居る區域とに緩斜面を見るのみで、その他は一般に急斜して湖心に向つて居る。そして最深點は中央部より少し南に偏し、一〇二米に達して居る。水溫は溫帶湖の標式をとるが、水面の大なること、冬季の風力强きが爲、全面の凍結を見ることはない。湖岸各所には特に寒冷なる冬季には一部分の凍結はあるが、それとても長期間に亙ることはない。水色は四―五號附近で、藍色湖の最も低級な部に屬し、透明度は普通一二米内外である。猪苗代湖は、その東方に迫んで南北に横ぐ川桁山の西斜面と、之に對して湖の西緣の赤井谷地を瞰下す背炙山の東斜面の地壘に挾まれ、その中間に長溝狀をなして陷沒した部分に、北方猫魔、磐梯の兩火山の噴出熔岩が地溝の北側を埋めた結果初めて生じた大湖であると云ひ、その注入河長瀬川は上流にある沼尼硫黄鑛山から惡質の水を齎し來るので、注入河口附近卽ち湖の北岸の水は南岸の水に比して水中に含まれて居る硫化物の量が多く、南岸よりも北岸は漁獵が少いと云ふ。

猪苗代湖はまた水面の高いために灌漑或は發電用として人類に害與する事が大である。卽ち東の上戸には人口による排水口、安積疏水路が中山峠の隧道を潛り、西に流れて安積平野の開拓に資し、郡山附近の米産額を數倍にし、更に東部電力二萬ワットの源となつて郡山の産業を起し、また原町の無線電波を飛ばして居る。北西端に發する天然の排水口、日橋川は激流をなして會津盆地（海拔二二〇米）に流下して居るので、その下流に東京電燈の發電所四ケ所を起して、一〇萬ワットの電力と化し、東京市内の電車を動かし、また大寺製鍊所、廣田製銅所に於て亞鉛・銅等が製鍊して會津の工業を左右して居るのも此の水である。

【湖上遊覽】

▲磐越西線上戸驛から猪苗代湖遊覽船發着所迄約半粁、上戸から長濱迄湖上凡一二粁、遊覽船約二時間貸切（五〇人又は八〇人）大體一〇人迄は一五圓、二〇人迄二〇圓。三〇人迄二五圓、五〇人迄三〇圓位で人員と廻り方に依て異なる。

磐梯山　猪苗代湖の北方に秀峰高く聳ゆる會津の名山で、その輪郭富士山に似て居るので一に會津富士の名がある。その南側及東側には長く裾野を曳き、山上には沼の平の舊火口と爆裂火口とがある。沼の平は北に櫛ヶ峰、東南に赤埴山、西南に大磐梯山を圍らし、大磐梯山は海拔一、八一九米に達し最高點をなして居る。爆裂火口は沼の平の西北に位し、もと小磐梯山のあつた所である。明治二一年七月一五日朝七時頃から突如靜寂を破つて轟々たる鳴音あり、續いて猛烈な地震起り、七時四五分小磐梯は爆裂して大爆音と共に一條の黑煙天に冲し小磐梯の一峰を爆散し去つて生じたもので、一大泥流、これと同時に谷を襲ひ（泥流の奔下する速度は一時間約七六八粁の速さであつたと云ふから、勿論避難するなどの餘地がなかつたと云ふ）瞬時にして數個の村落と四六一人の人命とを熱灰泥土の下に埋めた跡である。火口は北に開いた蹄鐵狀をなし、東南西の三面は約五百米の懸崖をなし、今は再び火口の中に溫泉場を設けられてある。當時飛散した灰泥は北西の溪谷を埋め、流水を堰き止めて原、小野川檜、秋元の三湖その他數多の池沼を作つたが、之等の地も亦その頃迄人家のあつた所である。

〔登路〕▲磐梯山登山路は東口、西口、北口の三つあり、東口（猪苗代から登る）は道程最も近く亦登山容易で指道標も完備して居り案内者の要がない。途上に土津神社、天の庭、赤埴山・沼ノ平の舊噴火口、弘法清水等の名所がある。

磐越西線　猪苗代驛―磐梯山頂約七粁。

驛（三粁、此間殆平坦）―土津神社（夫から坂路となつて馬返を過ぎると急坂となり約三粁にて一合目の天の庭に達し、更に約一粁で海拔一四二七米の赤埴山に達す。此處は二合目と云はれ前面に大磐梯の山容が美しく眺められる）―二合目（一粁七）―三合目（〇粁六、天狗岩がある）―四合目（弘法清水があつて良い休場となつて居る。夫から道は嶮しく胸突坂と云ふ處がある、約六百米で）―頂上（五合目卽ち山頂には磐梯明神の石祠がある）

▲一合目天の庭のほか登山沿道に茶屋がないから食料品は全部猪苗代町にて用意するを要す。四合目に弘法清水あり。歸路は山上から西南押立溫泉を經て約七粁半で翁島驛に出る。又爆烈火口を經て約六粁半で川上溫泉に出る。

山頂の眺望は實に此の山獨特のもので、南方には猪苗代湖が鏡の如く美しく輝き、之を圍んだ山々の末には那須、高原の山々も見え、また北方の目の下には豆神の大顆のやうに北に開いた一大火口の環壁が連り、その奥遠く只累々たる崩岩のかなたに檜原、秋元、小野川の三湖が、吾妻連山の谷々に深く霞で居る。

〔猪苗代町の旅館〕山木（電猪苗代一七）、伊勢屋（電一〇）、江戸龜（電二八）

奥田屋（電三〇）、山口屋（電二四）、一泊一圓二〇錢、一圓半、二圓。

磐梯山北麓の堰止湖　磐梯山の北麓に多數散在して居る檜原、小野川、秋元の三湖を始め其他群小の沼池は、明治二一年小磐梯山の爆散に依る泥流が溪水を堰止めて生じたもので、何れも狹長な水面を成し、また湖中には幾多の島嶼（流れ山）が散在して他にその類を見ぬ風景美を見せて居る。檜原湖はその内最も大なるもので、最深水三〇米、面積一〇方粁餘であるが湖周四七粁餘に達し、その面積に於て猪苗代湖の十分の一に過ぎぬが、湖周は出入の變化に富み猪苗代湖の夫より僅かに九粁許り短いのみである。

【龜ヶ城阯】猪苗代驛の北方約二粁。猪苗代町にあり、自動車の便がある。城は鎌倉時代に佐原經連が築城した處で、天正以後は會津若松の支城として蒲生氏以後歷代の藩主が何れも城代を置いて會津の東門を扼して居たが、明治戊辰の役に城廓全部を燒失し、今公園地となり、櫻の名所（福島縣十ケ所の内）となつて居る。西北に磐梯山の秀峯を仰ぎ、その裾野には伊達氏と芦名氏の戰つた摺上原古戰場の東端が見え、南方は近く猪苗代湖を望み風光の美に富で居る。

磐梯溫泉　耶麻郡磐梯村、（翁島驛から北八粁、道路嶮しく徒歩三時間を要する、又は後記川上溫泉からゆく四粁の道もある。）地は海拔一二〇〇米、磐梯山の北山腹、爆烈火口の中にあり、猪苗代湖を始め會津盆地、檜原三湖等の眺望が絶佳である。溫泉は含鐵硫黄線で、一〇〇度、胃腸病・性病に效がある。

〔旅館〕中の湯（一泊一圓、五月―一〇月迄營業す）

押立溫泉　耶麻郡翁島村、磐梯山頂から南約六粁、（翁島驛から北二粁、自動車貸切一圓。）磐梯山の裾野にある炭酸泉で三七度、神經諸病・火傷・創傷に効があると云ふ。〔旅館〕鷲ノ湯、山形屋、住吉館、一泊一圓半―三圓半。

熱海溫泉　福島縣安達郡高川村大字高玉字熱海、磐越西線岩代熱海驛附近。地は五百川の清流に臨み、若松街道に沿ひ、三方山に圍まれ東南の一方展けて遠く安達・安積の平野を望んで居る。溫泉は弱鹽類泉で三六度、浴用加熱し、胃腸病・神經諸病・婦人病・皮膚病などに効がある。特色は行樂向。

〔旅館〕一力ホテル（電熱海五、室二〇、㊐四圓）、松本屋（電同三〇、室一〇）、東館（電一三、室二五、二圓―三圓）、信夫屋（電二二、室二〇）、富士川（電九、室一三）、紙屋（電六、一圓―二圓半）、榮樂館（電一二、室一二、一泊二圓半位）。尙驛の北約一粁に高玉溫泉がある、自動車五人乘一臺三〇錢。泉質効能

同前。蓬莱館（電熱海一八、室二三、二圓—三圓）、信濃屋（電同一七、室九、）、玉屋。

川上溫泉　福島縣耶麻郡磐瀬村、川桁驛の北東一〇粁、川桁から分岐する耶麻軌道線會津樋の口驛（二四分、片道二五錢）から西北山路徒歩約七粁、駄馬二圓、徒歩約二時間。地は磐梯登山の北口で、また秋元・小野川・檜原湖等の眺めがよい。溫泉は鹽類泉で三四度、リウマチス・胃腸病・神經諸病に効がある。〔旅館〕瀧ノ湯（室二〇）、湯本（室一五）、一泊一圓半、一圓七〇錢。

中ノ澤溫泉　同上吾妻村、川桁驛から北一七粁、同上耶麻軌道終點沼尻驛の東約六五〇米、自動車八錢（車列毎）、貸切四〇錢。地は四方に山を繞らした別天地、冬季はスキー地として知られて居る。また附近に耶麻軌道會社經營の遊園地があり、中に姫沼があつて舟遊の設備がある。溫泉は酸性硫黄泉で四四度、胃腸病・皮膚病・創傷・火傷等に効がある。〔旅館〕西村屋（室四一、㊐一圓二〇錢）、白城屋（室一七、㊐二圓）、花見屋（室一五）、扇屋（室三一、㊐二圓）、安積屋（室一七）、平澤屋（室一二）、朝日屋（室一九、㊐二圓）、小川屋（室一二）、以上何れも内湯あり、一泊一圓半以上。

沼尻溫泉　同上吾妻村、同上沼尻驛の東二粁七、自動車一〇分、乘合二五錢（列車毎）貸切五人乘一圓二五錢。中の澤から約一粁。酸性硫黄泉で皮膚病・婦人病・胃腸病・創傷・火傷に効がある。〔旅館〕田村屋（室二七、㊐二圓、岩瀬屋（室一一）一泊一圓半以上。附近に湯沼、白糸瀧の名勝がある。

▲沼尻、中ノ澤溫泉は共に東に安達太郎山、北に吾妻の山群を繞らし、西南は磐梯の雄姿を望み、冬から春にかけては積雪が多く、また雪質が非常によく、附近一帯はスキー場として初心者にも熟達者にも適する多種多樣なスロープがあり、ジヤムプ臺及貸スキーの設備もあり、我國有數のスキー場である。

柳津虚空藏（臨濟宗妙心寺派）　福島縣河沼郡柳津村柳津、同上會津線會津柳津驛から東南約八五〇米、自動車一〇錢（一日五回）、貸切五〇錢。寺は露巖山圓藏寺と號し、會津地方屈指の大寺である。未尊虚空藏菩薩は日本三虚空藏の一として姿詣人常に多く、除夕一月七日、三月一三日、八月晦日の縁日には雑沓を極める。現在の堂宇は文政元年の火災後松平氏保護の下に建立されたもので、本殿は只見川の男滝に臨む崖上に建てられた舞臺造の大堂宇で壯大を極めて居る。〔柳津の旅館〕月木（電柳津三三、一泊半—三圓）、内田（電一二、一圓半—二圓）、宝屋（電一三、同上）、鈴木屋（電二〇、同上）、小川（電一六、同上）。

飯豐山　山形・新潟・福島の三縣に跨る群山で、飯豐山（二、一〇五米）を主峯として西ケ岳（二、〇一二米）、大日岳（二、一二八米）、種蒔山（一、七九一米）、三國岳（一、六三一米）などの連峯を連ねて蟠居すること方四〇粁に亘り、東北有數の深山地帶をなして居る。磐越西線で會津若松から北行する時列車の窓から遠く西北に此の廣大な山稜が眺められ、また羽越線新發田附近からも間近に望むことが出來る。山頂に縣社飯豐山神社を祀り、信仰的な登山は古くから行はれ毎年八月に至れば登拜する者多く、婦女子も樂に登る事が出來、しかも近年登山家の憧れる深山として知られ、山中に高山植物の繁茂が非常に多く、盛夏でも櫻などを見る事が出來る。

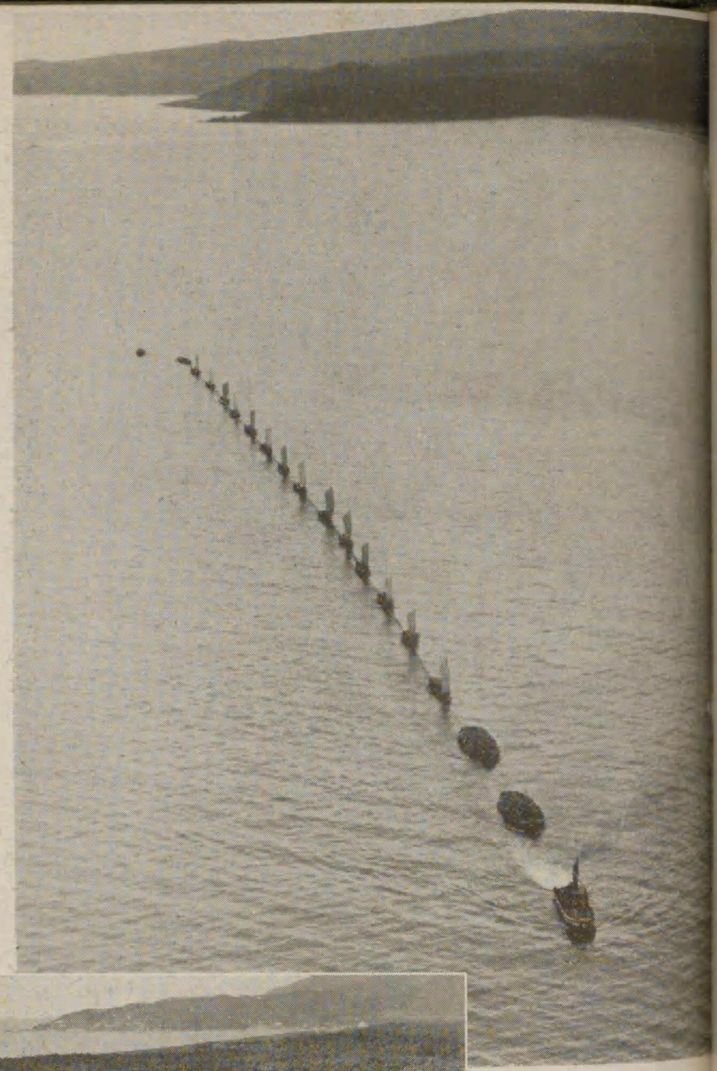
〔登路〕磐越西線山都驛口、德瀧驛口及羽越線の新發田から分岐して居る赤谷線赤谷驛口などがあり、山都口、德瀧口は夏季は途中に休泊所が出來（二食付七五錢）、山頂にも宿泊が出來る。

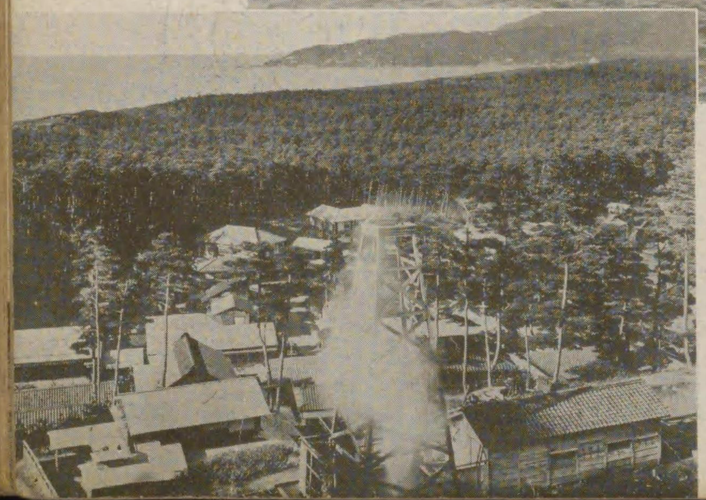
○山都口　山都驛から山頂まで約三二粁、途中約一一粁の一ノ木村一ノ戸迄自動車四〇分、乘合四〇錢、貸切三圓、それから徒歩約一〇時間。一ノ戸には縣社飯豐山神社の遙拜所があり、旅館も十數軒あり（二食付八〇錢位）。登山用物資及案内者（一日二圓）を得る事が出來、館豐登山の根據地となつてゐる。此處から一ノ戸川の溪流に沿ふて森林軌道が八粁ばかりの間敷設されて居るが、その七粁の所にある橋の手前から右に八〇〇米程入ると山間の一部落川入に達する。川入から山頂迄は約一二粁、約二粁の御瀧から道は急な登りとなり、北に折れて美しいブナ林の中を進み下十五里、中十五里、上十五里及横峯の小屋場を經ぎて地藏山に達する。此の間を長坂と云つて居る。此處迄登ると磐梯山から會津盆地、猪苗代湖などが望まれ、飯豐山は指呼の間に迫る。やがて三國岳、種蒔山を經て飯豐山頂に達する。山都から上り約一五時間、下り一二時間位。

○德瀧口　德瀧驛から溜平四郎の部落に到り、三國岳を經て頂上迄約三〇粁

○新發田口　赤谷線赤谷驛から加治川に沿ふて湯の平溫泉まで二〇粁、それから頂上まで約一六粁。赤谷から上り約一四時間、下り一一時間位。

山頂には縣社飯豐神社の木社と避難小屋がある。頂上の展望は實に雄大で、東に吾妻連峯、東南に磐梯山・猪苗代湖・若松平を望み、西に新潟、新發田市街と羽越平野や日本海を望み佐渡ケ島をも眺め、北東間近に朝日連峯の山地が指呼の中に雄偉な山容を見せて居る。

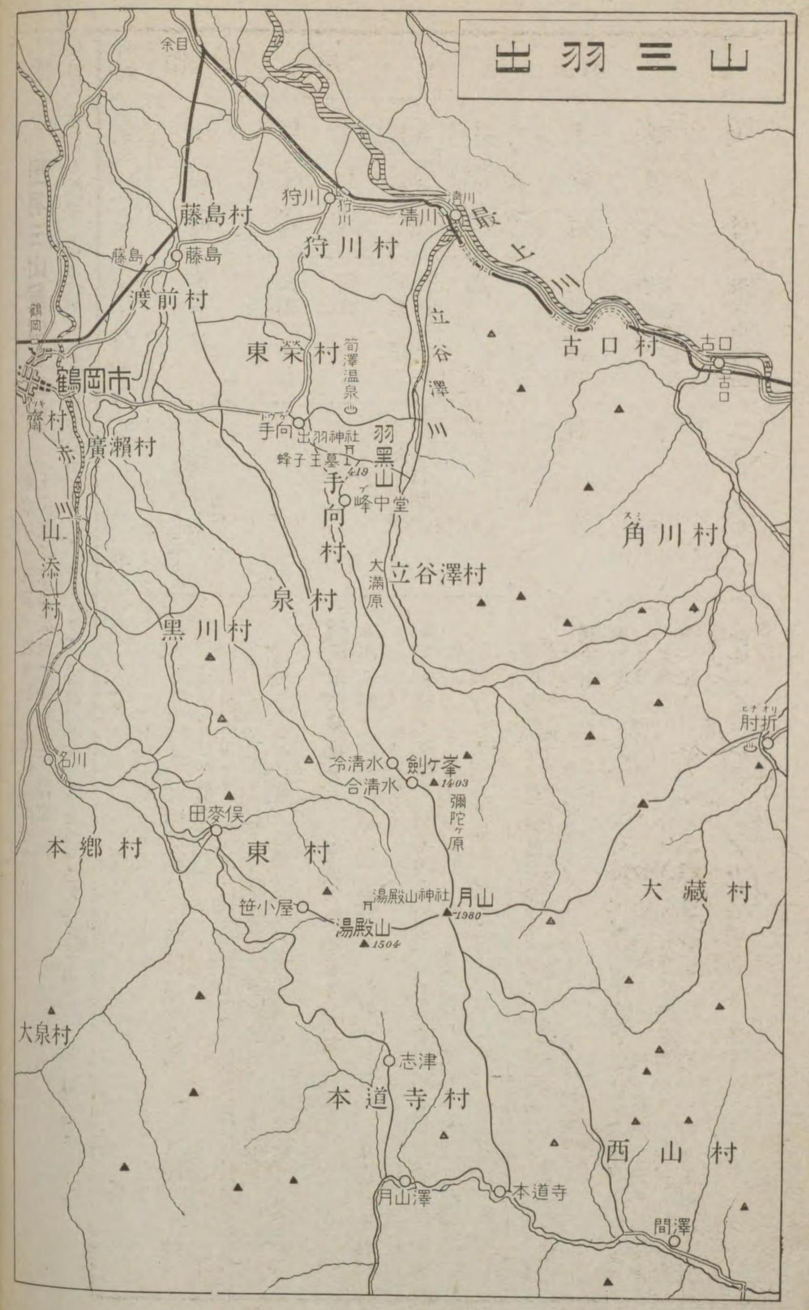




羽越線沿線

上、秋田吹浦海岸（東日寫眞）

下、瀬波溫泉



出羽三山登山日程案

（東京から五日、表口から裏口に出て上山又は赤湯温泉に一浴して歸京）

「註」裏口から登山する場合は間藤から月山灘迄自動車で行き、夫から徒歩で志津に出て一泊、翌早朝志津出發、湯殿山、月山を經て羽黒へ下る。

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一〇・三五	秋田行列車上越線經由リ車中一泊 二等寢臺アリ	▲上野—水上—鶴岡間約一二時間（四五四粁五）三等五圓一七錢。上記列車ニハ二等寢臺アリ。「註」上野發後一〇・〇〇ノ秋田行ノ急行ニテ發、新庄乘換狩川着前九・二一ノ列車ニヨラルルモヨイ。上野カラ三等五圓一八錢（四五五粁六通用六日）狩川カラ手向迄九粁八、自動車四〇分、乘合四〇錢（一日五回）、七人乘貸切二圓半。
第2日	新津驛	發前 七・〇四		**鶴岡市内見物**（第二三五頁參照、乘合自動車一〇錢均一）▲鶴岡驛カラ手向村迄一五粁七、自動車五〇分、乘合三五錢。（一〇回）貸切二圓半。
	村上驛	發前 八・三四		
	鶴岡驛	着前 一〇・三二	下車、遊覽	
	手向村	發午後	乘合自動車	▲手向村ノ旅館　羽黒館（電手向一一番）、多聞亭（電手向一五）みやま館（以上一泊一圓半、二圓半、三圓、團體一圓二〇錢乃至二圓）、三山ホテル（一圓半—三圓半）其他宿坊多數アリ。
		着午後	宿泊	
第3日	手向村	發前七時頃	徒歩	手向村端レノ出羽神社隨神門ヲ潜ツテ石段ヲ下レバ祓川ノ橋ヲ渡リコレヨリ石段ハ老杉ノ間ヲ縫フテ一粁半ノ急坂ヲナシテ頂上出羽神社ニ達スル、所要四〇分位。石段ノ途中半粁ノ所ニ慶長五年最上氏ノ建立ニ係ル國寶五重ノ塔ガアル。（二三二頁參照。）**羽黒山**▲羽黒山—月山一四粁餘（山道六里ト稱ス）徒歩六時間半位（途中休憩二時間位ヲ含ム）、七合目迄ハダラ〳〵坂、七合目カラハ相當困難ガアル、一合目カラ九合目迄掛茶屋ガアリ、餅・飯・素麺・菓子・酒・杖・草鞋等ヲ販賣シ、一泊スル事モ出來ル、握飯付デ一圓八〇錢。▲山中宿舍宿料　一圓半乃至二圓二〇錢。**月山**（二三一頁參照）。
	羽黒山	着前八・三〇 發前九時頃	徒歩	
	月山	着後六時頃	頂上宿泊	

第4日				
月山	發	早曉	徒歩	▲月山—湯殿山間約四粁(山道二里ト稱ス)徒歩約一時間半位。
湯殿山	發前九時頃		徒歩	▲湯殿山—玄海約五粁、徒歩約二時間、玄海—志津約一粁四、徒歩三〇分位(志津ノ旅館—布袋屋、鶴屋、仙臺屋、一泊一圓半位)
玄海				「註」湯殿山カラ鶴岡方面ヘ出ル場合ハ、湯殿山(三粁三、徒歩五〇分)—笹小屋(八粁、二時間)—田麥俣(三粁五、一時間餘)—大日坊(六粁五、一時間五〇分)—上名川(六粁、鶴岡驛迄貸切自動車三圓、五五分)—落合(一六粁、自動車乘合三〇錢、一四回、四〇分)—鶴岡驛。
志津	着後			▲志津—月山澤間五粁七、徒歩約一時間(上りは一時間一〇分)
	發後一時頃		書食	貸切自動車二圓半。
月山澤	發後		徒歩	▲月山澤—本導寺—間澤驛間一五粁九、三山電車ニ接續シテ乘合自動車ガアル、所要約五〇分、乘合八〇錢。貸切六人乘五圓。
間澤驛	發後	三・〇五		▲間澤—羽前高松間三山電車デ三一分(一一粁四)三五錢。
羽前高松驛	着後	三・三六	高松行電車乘換	▲羽前高松—山形間(左澤線(マデラザハ)五八分(二一粁二)三等車ノミ。
	發後	三・四三	山形行列車乘換	▲山形—上ノ山間二五分(一二粁一)
山形驛	着後	四・三四	福島行列車	上ノ山驛カラ溫泉場迄北西半粁乃至二粁餘、自動車乘合一〇錢、貸切五〇錢。
	發後	五・一〇		▲山形—赤湯間一時間(三一粁)
上ノ山驛	着後	五・二九		赤湯驛カラ溫泉場迄一粁六、自動車乘合一〇錢(列車毎)貸切七〇錢。
赤湯驛	着後	五・五七		**上ノ山溫泉**(二一三頁參照)、**赤湯溫泉**(二一二頁參照)。

第5日				
上ノ山驛	發前	一一・一〇	上野行列車	上ノ山—上野七時間五五分(三四七粁一、三等四圓二四錢)
赤湯驛	發前	一一・三九		赤湯—上野七時間二六分(三二八粁二、三等四圓八錢)
上野驛	着後	七・〇五	歸宅	上記列車ハ福島ニテ一〇四列車ニ合併、急行トナル。 間澤—上野間三等四圓八八錢、二等九圓二二錢(通用五日)

旅行費用概算　三等　二四五・二二圓　二九・二〇

内譯（上野—鶴岡、間澤—上野間賃車賃、鶴岡—手向、月山—湯殿間自動車賃(備考欄參照)、二等喫茶下段一夜四圓半及宿館其他ニテ三泊分二等一〇圓、三等八圓、食事料強力其他費用トシテ概算一〇圓宛ヲ計上ス）

出羽三山

羽黑山・月山・湯殿山之を出羽の三山と呼び、勝れた靈場として普く世に知られて居る。三山中月山は盛夏尙山頂に斑雪を見る程で、羽黑山以外は夏季の外登山する事が出來ぬ。地形上の山岳としては月山ひとり秀峯を峙て、他は全く丘陵と谷底に祀られた神社によつて山と呼ばれるに過ぎぬ。

羽黑山

山頂に國幣小社出羽神社があり伊氏波神を祀る。

出羽神社は羽黑神社とも云ひ、本殿は莊內藩主酒井忠器が文化八年(一四七一年)工を起し文政元年(一四七八年)竣工した大建築で、中央に月山神、右に羽黑山神、左に湯殿山神を合祀して居る。月山及湯殿山は高嶺にして夏季の外は登ることが困難であるから此處に合祀して三山神社合祀殿と稱して居る。三山の奉仕には古來修驗者が關係し、僧徒と共に奉仕して大和の大峯、豐前の英彥山、加賀の白山などの修驗に相對して殊に有名で、東北無比の祭壇であつた。從つて其信仰の厚いこと、報賽の盛であつたことは、實に奧羽・坂東・北陸を傾けた程である。境內に三山神社の山祖と傳へらる、蜂子皇子(崇峻天皇の皇子)の社殿と御陵墓がある。例祭は毎年七月一五日に三山の例祭を同時に此處で行ふ。當日奉納の黑川能は古雅愛すべきものがある。また一月三〇日には松例祭がある。農作物の豐饒を祈る爲に行はれる特殊の神事で、百日間の參籠の後色々な勝負を爭ふ古式があつて、特に百松明の神事は、巨火が暗黑の一山を白晝に變ずるかと思はれる程の壯觀である。羽黑山は手向村の東部、月山登路表坂の北に連る丘陵であつて海拔四一九米、出羽山脈第三紀頁岩層から成る裂片地塊で、山麓の手向山は月山火山の泥流層上に發達した聚落であつて、羽黑山の第三紀層とは祓川に依て明に界されて居る。

○手向村は三山神社參詣人の宿場で、村の中央羽黑山一の鳥居の北側に特別保護建造物の黃金堂がある。黃金堂は源頼朝が奧州藤原氏を討伐した時に建立したものと云はれ、細部の手法に鎌倉時代の特徵を存してゐる。

「祈禱料」一人五〇錢以上、大々神樂一人五〇圓、五〇人迄七五圓、以上一人一圓半、小神樂一人五圓、七人迄七圓、但七月二〇日から九月一〇日迄は人數に不拘月・水に限り大々神樂を奉ずる、一人一圓五〇錢。

月山

山頂累々たる石塊の中央に官幣大社月山神社があり、祭神は天照大神の御同胞に在す月讀命を奉祀す。山開七月一五日、山閉九月一五日。

月山は羽前の中央に屹立する羽越山脈の一雄峯で、海拔一、九八〇米、純頂圓錐形をなし、我國稀有のアスピーテ型火山であつて、西は湯殿山の境內を過ぎて遙に朝日嶽に連り、北は羽黑山を經て鳥海山を望み、盛夏尙斑雪が山を飾る處は、鳥海山と共に奧羽の山嶽を兩斷するの概がある。中世、羽黑修驗者の行道所で、今も尙七、八月の頃は羽黑山へ七里、湯殿山へ二里の所謂三山懸越九里の道を、淨衣の賽者が絡驛として通るのは當時の名殘とも見られる。頂上の木社は、境內石圍ひで、御室といはれ、尙頂上に高山植物研究の爲に月山高山植物園を設けて斯學者に便して居る。參拜時間は前五時から午後五時迄。

〔參路〕前記日程案參照。登山案內料は二日掛りで二圓半、强力を兼ねれば三圓位。

湯殿山

大山祇命を祭神とする國幣小社湯殿山神社を祀り、古來山中の湯瀧を以て御神體となし、之を寶前と稱へて社殿がない。山開四月八日、山閉一〇月二〇日。參拜時間前五時—後五時。

湯殿山は月山の西南山腹一局部の稱で、海拔一五〇四米、梵字川の川蝕によつて出來た深谷である。月山の頂上から西南、蛯ケ岳(一六七〇米)の中腹を下つて、裝束場と云ふ平地に至れば、梵字川源流の深谷に臨んだ崖頂に立つ。此處は三山參拜の最難所である。月光坂の險所で、鐵鎖にすがり乍ら下ること二百餘米、梵字川の谷に出れば間もなく、谷底に湯殿山神社の奧宮である所謂寶前がある。此處に輝石安山岩の塊片を混ぜる泥流の中から炭酸鐵泉の湧湯溢流して赤褐色の酸化鐵華がその周圍に沈澱堆積し、所謂靈岩の御神體を形成し、參詣人は五色の幣を納め、錢を蒔散し、寶前積んで山をなして居る。

〔參路〕前日程案參照。

○登山コースは羽黑口から登り、本導寺口又は田麥俣口に降りる方が比較的樂である。月山—湯殿山間は全コース中の最難所であるが下りなればさして困難ではない。

○登山には各掛小舍で飲食物を賣り宿泊の便もあるから特殊の物の外は携帶の要がない。また山中の宿泊には何れも布團・風呂等の設備はあるが、七合目以上の宿泊には冬シヤツ・ズボン下・毛布等が必要である、またノミ取粉・蚊取線香等を持參さるゝがよい。

羽越温泉めぐり日程案（遊覽券利用 東京から一週間）

秋田から西南に岐れて本荘・酒田・鶴岡・三瀬・鼠ケ關・村上を經て新津に至る羽越線は、殆んど日本海岸に沿うて走るので、到るところ風光美に富み、三瀬から南西鼠ケ關を經て村上に至る間は、越後山脈の海に迫れる間を縫ふて走り、琴平石、暮坪の立岩・鼠ケ關の辨天島・海府浦・笹川流れなど幾多の風光美姿を變へて眼界に入り、粟島の青螺遙かに泛びて其背景美をなすなど車窓の眼を樂しませるものが多い。特に日本海に美しい裾野を曳いて西奥州に君臨してゐる鳥海山の秀容は幾度か車窓の眺めに入り、飛島の青螺墨繪の如く波上に泛んで景趣を添へ、また、酒田・鶴岡をすぐるあたり庄内平野の東に其の雄姿を見する月山の靈峰など、此の地旅行者の忘れる事の出來ぬ印象を與へるのである。

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一〇・〇〇	秋田廻り急行二、三等車中一泊	▲上野—山形—新庄間急行列車デ一〇時間九分（四二〇粁七）急行料三等一圓。上記急行列車ニハ二、三等寢臺及和食堂車ガアル。
第2日	新庄驛	着前 八・〇九 發前 八・二〇	乘換 酒田行列車	乘車券ハ上野—新庄—余目—新津—會津若松—上野及余目—酒田往復、新津—新潟往復ノ廻遊乘車券ヲ求メルコト、三等一一圓五九錢、二等二三圓一八錢、通用一六日（歸路上越線經由ノ上記廻遊券ハ三等九圓七六錢、二等一九圓五二錢、通用一五日）
	酒田驛	着前 九・五五	下車、遊覽	▲新庄—酒田間一時間三五分（五五粁二）餘目—酒田（一二粁二）酒田驛カラ市内ヘ乘合自動車一〇錢均一。
	酒田驛	發後 三・〇七	新津行列車	**酒田市**（二三五頁參照） ▲酒田—鶴岡四一分（二七粁五）
	鶴岡驛	着後 三・四八 發後	下車 自動車	**鶴岡市見物**（二三七頁參照） ▲鶴岡—湯田川温泉八粁半、自動車四〇分、乘合一五錢（毎列車）貸切一圓半。
	湯田川温泉	着後	宿泊	**湯田川温泉**（二三八頁參照） 旅館 御殿、七内其他。

第3日				
	湯田川	發前	自動車	湯田川—鶴岡驛間乘合自動車デ三五分、一五錢。 ▲鶴岡驛—市内自動車乘合一〇錢。 鶴岡市内遊覽ニハ次ノ順序ニ依ラルヽトヨイ。驛—日枝神社—荒町—下肴町—一日市町—常念寺—本住寺—大督寺—鶴岡公園—驛（二三七頁參照）
	鶴岡	着	市内見物	▲鶴岡驛省線構内カラ善寶寺—湯ノ野濱温泉行庄内電車ノ便アリ（一日二〇往復）全區間一二粁二、所要二四分、賃片道三五錢（善寶寺迄ハ片道二四錢、善寶寺驛ハ正門前ニアル）
	鶴岡驛	發後 一・二〇	庄内電車	**善寶寺參詣**（二三八頁參照） 「註」善寶寺カラ湯野濱ヘ徒歩二粁（間道）
	善寶寺驛	着後 一・三八 發後 三・二二	下車 參詣電車	**湯野濱温泉**（二三八頁參照） 旅館 龜屋、惠比壽屋（㊁三圓）、其他。
	湯野濱温泉	着後 三・二九	宿泊	

第4日				
	湯野濱驛	發後 一三・四〇	莊内電車	鶴岡驛ヲ出テ二五、六分許リ、汽車ガ矢引峠ノトンネルヲ潜ル邊カラ莊内盆地ハ霧キ、ヤガテ三瀬ニ日本海ノ風光ニ接シテカラハ絶エズ玄武岩ト第三紀層ノ交錯スル越後山脈ノ海ニ迫レル間ヲ縫ウテ走リ、此ノ間ニ柱狀節理ノ發達シタ岩床鹽俵岩（五十川驛ヲ出テ間モナク線路ノ右側近クニ見ル）マタ間モナク玄武岩礁ガ海蝕サレテ海中ニ直立スルコト一五〇米ノ暮坪ノ立岩（何レモ天然紀念物）ヲ眺メ、間モナク温海驛ニ着ク。
	鶴岡驛	着後 一・〇四 發後 一・一三	乘換 大阪行列車	▲鶴岡—温海驛—温海温泉間汽車四五分（二九粁六） ▲温海驛—温海温泉間二粁半、自動車乘合一五錢。
	温海驛	着後 一・五八 發後	下車 乘合自動車	**温海温泉**（二三八頁參照） 旅館 温海ホテル、橘屋、萬國屋（以上㊁三圓）其他
	温海温泉	着後	宿泊	

第5日				
	温海温泉	發前	自動車	温海温泉ヲ出テ一〇粁餘、羽越ノ國境ニサシカヽレバ、往時勿來及白河ノ關ト共ニ奥羽三大關門ノ一ツデアツタ念珠ケ關址ガアリ、近ク西北八〇〇米ノ海濱ニ羽越線中第一ノ名勝「辨天島」ヲ美シク眺メ、越後路ニ入レバ海府浦、笹川流レナド幾多ノ風光美容ヲ變ヘテ眼界ニ入リ、遠ク海上ニハ粟島ノ青螺、佐渡ケ島ノ翠巒浮ンデ其ノ背景美ヲナスナド車窓ノ眼ヲ樂シマスモノガ多イ。 ▲温海—鼠ケ關—寒川—桑川間汽車四七分（三一粁五） ▲桑川—村上間汽車二八分（一八粁九） ▲村上—瀬波間二粁四、自動車七分、乘合一五錢（列車毎）貸切
	鼠ケ關驛	着前 一一・四三	新津行列車	
	桑川驛	發前 一〇・五六	下車 遊覽舟（二三九頁參照）	
	笹川流れ			

日			
桑川驛	發後	二・四二	
村上驛	着後	三・一〇	
瀨波溫泉	發後		
着後			
大阪行列車	下車	乘合自動車	宿泊

五人乘五〇錢。

瀨波溫泉（二四〇頁參照）

旅館　萩野屋（㊐三圓）、天野屋（㊐二圓半）。

第6日			
瀨波溫泉	發		
村上驛	發前	一〇・〇〇	
新津驛	着前	一一・三三	
新潟驛	發後	一一・四五	
會津若松驛	着後	二・一二	
東山溫泉	發後	二・三三	
	着後	六・四九	
新潟行列車（下車遊覽）郡山行列車	乘換	自動車	宿泊

▲村上―新潟間汽車二時間餘（七六粁四）（新津―新潟一七粁）

新潟市見物（新潟市內乘合自動車一區三錢、四區以上一〇錢均一、タクシー市內片道七〇錢往復一圓）

驛―萬代橋―本町通リ―白山公園―古町通リ―日和山―驛。

▲新潟―會津若松間汽車四時間一六分（一一八粁）

▲會津若松驛―東山溫泉間東南約五粁、自動車二五分、乘合二〇錢（列車毎）。

東山溫泉（二二五頁參照）。

旅館　新瀧（㊐四圓半）、向瀧（㊐四圓）、不動瀧（㊐三圓）、福住、二八屋（㊐三圓）。

第7日			
東山驛	發		
會津若松驛	發後	二・〇一	
郡山驛	着後	一・五五	
上野驛	發後	二・〇八	
	着後	七・四五	
郡山行列車	乘換	上野行列車	歸宅

▲會津若松―郡山―上野七時間四四分（二八八粁三。新潟―上野間三等四圓八四錢）

「註」上越線ヲ經由シテ沿線ノ溫泉ニ一浴シテ歸京スルモヨイ。汽車賃三等新潟―水上―上野四圓一一錢。

旅行費用概算

	二等	三等
內遊覽券	五八・三七圓	三八・三六圓
譯急行（一回）、寢臺料（下段一夜分）宿泊料（湯田川一泊三圓）、食事料其他雜費概算	三六・八七圓	二四・八六圓
東京―酒田―新潟―會津若松―郡山―上野	六・五〇	二・五〇
自動車 溫海、瀨波、東山各往復、宿泊	一五・〇〇	一一・〇〇

東京、鶴岡―湯ノ濱往復瀨波（三圓）、東山（四圓半、三圓）湯ノ濱（三圓）、溫海（四圓）

酒田市　▲鶴岡から汽車二四分（二七粁五）▲秋田から汽車急行二時間（一〇四粁八）、▲奥羽線新庄から一時間半（五五粁二）。

市は最上川の河口北岸に位する港市で、古來米の搬出地として著はれ、人口三二、九〇九（昭和八年末調）、昭和八年四月市制が布かれた。

陸上交通機關の備はらなかつた時代―殊に江戸時代には、最上川が中央四地帶の主要運搬路であつて、置賜盆地の輸出入も殆ど之によつた程で、從つて山形縣全體の物資の集散地となり、各地方から產出する米は最上川、赤川によつて悉く此處に積み下され、一旦倉庫に收め、帆船の入港する毎に之を積込んで大阪及江戸に廻送し、奥羽屈指の要港として繁榮を極め、日本海の商權を一手に握るの觀があつた。後時代の推移は不利にして稍沈勢の狀ありしも、昭和六年鐵道上越線の開通に依り重要幹線驛となり、海上交通に於ては大正六年築港工事着手し次で昭和四年第二種重要港灣に編入せられ修築工事著々進捗し今や四、五千噸級船舶も出入し得三千噸級船舶の碇泊荷役可能となり諸設備之に伴ひ甚だ利便を加へた。而して北海道樺太其他との航路は早くから開かれ居り又昭和九年からは北鮮航路も開け滿鮮の發展と共に本港の價値益々加はり港市としての將來は大いに囑目され特に市域の廣茫と築港埋立地の利用は勞銀の低廉と相俟ちて工業界への躍進も大に期待さるゝに至つた。

〔旅館〕酒田ホテル（電二〇八、一泊二圓―五圓半、㊐三圓半）、中川屋（電二六、二圓―五圓、㊐二圓七〇錢）、村上屋（電二〇六、二圓―五圓半、㊐三圓）、矢口（電四〇四、二圓―三圓、㊐二圓半）。

〔名所〕▲龜ケ崎城址　驛の南方一粁半、新井田川の東畔にあり。酒井氏の番城として明治維新に至つたもので、今城址に中學校、舊二の丸址に鎭守八幡社がある。▲日枝神社（縣社）驛の西方一粁半、市街の南端、日和山公園にある。▲光丘神社（鄕社）驛の西一粁半、日枝神社の東北に當り、大正一三年の創建で、木間四郎三郎光丘を祀る。▲日和山公園　驛の西方二粁、町の西部砂丘の上にあり、日本海及最上川を望み、展望がよい。

▲山居倉庫（サンキヨ）　驛の西南一粁半、市內秋田町にある酒田米穀取引所の附屬倉庫で、一に米券倉庫とも稱し、その米券法は全國の模範となつて居る。元和八年酒井氏封を得て以來、その貢納米につき近江の大津で行はれる米券制度を採用して、酒田城外新井田沿岸に新井田倉、通稱いろは倉四十八戸前を建て、貢米の收納を之に納入せしめて米札を發行して米の受授及賣買等に便ならしめ、且米質の改良を圖る目的で建設せられたものである。倉庫は本支庫合計一〇一棟、建坪一三、一九五坪、收容力約六八萬石に及び、其位置、構造等は周密な注意の下に建設せられ、舟樽の便も亦申分がない。享保年間大阪の堂島、加賀の金澤と共に此處に米會所設置を許され、米の取引愈々發達し、米券は紙幣同樣に流通し、米問屋は隨時新井田藏に至り現米と引替へ多くは大阪方面へ移出した。明治二六年酒田米穀取引所が創設せられ、舊米券法による米穀の保管を繼承し、定期の賣買、米受授の圓滑、地方產米の改良を圖り、近年鐵道の發達に伴ひ阪路が擴張して來た。一ケ年の保管高三五萬石と云ふ。▲出羽の柵跡　本楯附近にあり、酒田から自動車往復二圓。〔名物〕水精飴、奥竹、諸越、核無柿等。

莊內平野　出羽丘陵を東部に控へ、その北部には出羽富士鳥海山、東南には靈峯月山聳え、洋々たる日本海の西風に常に潮さゝる、莊內平野は、古來米の產地として天下に名高い。此の盆地は潟湖であつたものが、月山、鳥海山等の火山から崩壞携入する砂礫の外に最上川、赤川等の水系による注入河流の堆積と共に、陸地隆起が加はつて、潟湖は遂に平野を形成するに至つたが、この際日本海よりの西風は、波浪に依て海岸砂丘を生ぜしめたものであると云ふ。平野は南北四〇粁、東西二〇粁、南に廣く北に挾き略三角形を呈し、面積約五百餘平方粁、平野の殆全部は乾田で、碁盤の目の如く整然たる田圃、樹林に圍まれた村落の適當なる配置、盆地緣邊の丘下から直ちに展開する平々坦々たる沃野は、遙に海岸に盡る所幽かに地水一髮の線を劃してまた水天を分たざるものは莊內平野の大觀で、之等三萬六千町歩の耕地から年九〇萬石の米が收穫されて居る。これ天惠の然らしむる所とは云へ、藩主酒井忠勝が農政に意を用ひ、倉庫米券の法を定め、累代亦之にならひ來たることを忘れてはならぬ。又忠德の頃には本間四郎三郎光丘が、海岸一帶の砂防に（日本海岸には延長約三五粁に亙つて巾一粁半乃至三粁の砂丘があり、殊に北部は吹浦の名に明なる如く海風强く、砂丘は內地に浸入したが、年來の努力によつて砂防植林が行はれ、之を防止し得て風光の美をさへ加ふるに至つた）、酒田港の改修に、農政の改善に偉大な攻績を盡し、また幕府の命を受けて酒田から京阪廻米の策

を建て、所謂大廻りに下關を經て大阪に廻船し、十四、五日で五ケ所結び二重俵裝の莊内米が堂島に着く事に成功した河村瑞軒等の力に俟つ事が少くない。藩主酒井忠勝は元和八年、封を莊内にうけて鶴岡をその居城地と定めたが、代々莊内米の好收入により、諸侯羨望の的となつた程の裕福が災して、遂に天保一一年忠器の代に轉封事件が起つた。そして領民の熱烈な反對運動が直訴にまで及ばんとして、移封中止になつたと云ふ歴史的の事實は、此の地方産米の如何に豐富であるかを物語つて居る。

飛　島　酒田港の西北三八粁の海上に位する、山形縣下唯一の島嶼で、その間發動機船（三〇人乘）が毎日二往復し三時間で達せられる、賀金片道一圓。飛島本島と其西方にある御積島、烏帽子群島等幾多の隨伴した小島から成つて居る。本島は周圍一〇粁、面積僅かに二・三方粁で、全島は一の海蝕臺地をなして東西南北に各岬角を突出してゐる。西岸は數段の海蝕段丘から成り、強き西風のため樹木茂らず草地をなして居るので人家は全くなく、低段丘上に僅かに水田が耕作されて居るのみである。北部と東岸一帶は海面から四〇米餘の海蝕崖が發達して居るので、西風を避くる關係上、熱帶性闊葉植物など繁茂して西海岸とは全く別天地をなし、人父の發達は此の方面に限られて居る。此の東南岸にある飛島港は天然の良港で、現在所帶數一八四、人口一、二四五（昭和五・一〇調）を有し、島民悉く漁業に從事して居るのである。此處は暖流と寒流が上下に交叉反流するので漁業の垂直分布が大きく、縣下第一の漁業地であつて、島の氣象も著しく溫暖化されて居る。

島の成因に關しては幾多の傳說があり、中にも鳥海噴火に因緣を有するもの多く、山の一角が飛散して海中に落下したと云ふもの、また往時までは女鹿山から飛島まで羽縣と稱する半島が存在したが嘉祥三年强震によつて羽縣四〇粁四方悉く陷沒して、大海と化しその一角丈殘つて飛島を作つたと云ふ。加ふるに近時の調査によつて先住民の遺跡が發見され、時代不明の石器等も發見されたので、今後は益々興味ある研究地と云はれて居る。

本島の西方海上にある御積島は石英粗面岩が屹立すること七七米の圓筒狀の島で、北岸に海蝕洞窟があり、島は「うみねこ」の棲息地となつて居る。洞窟は入口の高さ一二米、奥五五米に及び、洞奥に竪穴があり水を湛へ、その底に圓石が存して居る。此處に遠賀美神社を祀り、此の竪穴を俱利伽羅不動尊の御手洗と稱して島民が崇敬して居る。洞奥には鱗紋狀の燐灰土が壁面を被ひ夕陽に照されて輝き、御手洗の清水に映じて其狀恰も白龍の鱗の如き奇觀をなし天井からは水が滴り美音を發して居る。此の燐灰土は島上に群成する鳥が裸岩の上に「グアノ」を形成せしめて、それが溶解浸下せるものが洞壁を傳ふて滴り、粗面岩の分解物と化合して銀星石質の鱗酸アルミナ鑛物を鱗狀に沈澱せしめたものである。島人は此處を神域として女人を禁制し、飛島第一の靈地とされて居る。

鳥　海　山　山形、秋田の兩縣に跨り、出羽丘陵の鳥海火山脈の主峯であつてコニデー型の美しい山容は日本海に擬を曳き、悠然東北の天に君臨する最高峯である。形狀富士に酷似するにより一に出羽富士とも稱せられる。山は二重式層狀火山で、山上は舊火山、新火山及稻倉岳の三火山に岐れて居る。舊火山は一名西鳥海とも呼び西部に位し、笙ケ岳、月山森、扇子森等を連ねる外輪山の馬蹄口を南西莊内平野に開き、中央火口丘鍋森をその中に藏して居る。そして火口瀨「水ノ又」は笹ケ岳と月山森の間を破つて西南に流れ、途中に二ノ滝一ノ滝等の瀑布を形成して月光川に合して居る。中央火口丘の鍋森は鈍圓錐形を呈し、直徑約五〇米の圓形火口には水を湛へて鳥の海を形成し、排水口がなく、所謂眺湖をなし地下流により南に流出して居る。新火山即ち鳥海本山は更に大なるカルデラをなし、二、二〇〇餘米の廣大なる火口壁は七高山、行者岳を外輪山として北方に向つて開け、新山・荒神ケ岳を中央火口丘として居る。新山は海拔二、二三〇米に達し、東北地方の最高地點をなして居る。此の峯は享和年間の噴出で、一に享和岳と稱せられる。山勢急峻倒るが如く、山上に圓形の火口がある。その直徑約一二〇米、その西に峙つ荒神ケ岳は史前の噴出で山體の一部は新山の熔岩で掩はれて居る。七高山は外輪山の最高部をなす弧狀の山列で、急峻なる內側には噴山岩類の成層が明かに認められ、火口原の水は千蛇谷の火口瀨から、鳥越川となつて北流して居る。山上、七高出と新山と相對峙する盆地に國幣中社大物忌神社を祀り、山麓遊佐驛から約三粁の蕨岡村杉澤及吹浦驛の北半粁に口ノ宮がある、例祭は隔年毎にこの兩口ノ宮で行はれる（蕨岡口は五月三日、吹浦口は五月八日に行ふ）。又山頂附近には本州高山に類似なき高山植物「テフカヒフスマ」繁殖し、山形高等學校の徽章に選定せられ詩りの花となつて居る。稻倉岳は西北部に位し、孤峯をなし、成生最も古きものと云はれて居る。

（登路）登山口は左の數口あり、何れも登山口から山頂まで二〇粁乃至二五粁、登路は比較的容易であるが、蕨岡又は吹浦を選ぶが便利である。此處では一切の周旋心なし。案內等萬事差閊がない。蕨岡口は蒲坂、八丁坂の嶮はあるが、途中一般に變化に富み河原宿には日本唯一の高山植物園あり、笹小舍も四ケ所あり飲料水も豐富であり、其他の設備等もある。

○蕨岡口　遊佐驛—蕨岡間三粁、徒歩一時間、自動車（不定期）五〇錢、それから山頂迄一九粁、登山所要約六時間下り三時間。（蕨岡ノ旅館）—清水坊、玉泉坊、磐若坊（一泊一圓半—二圓半）、登山案內料一日二圓、强力賃一日三圓。

○吹浦口　吹浦驛から賽の河原迄約一八粁夫から頂上迄約二粁、上り九時間、下り六時間。登山案內料五人迄二圓。

○小滿口　羽越線象潟驛—山頂約二五粁、登り約八時間、下り約四時間。途中九粁の山麓上郷村字小滿迄夏期中乘合が行く二〇分、片道五〇錢、貸切二圓象潟の旅館　岡本屋、秋田屋、一圓半—二圓半。

○矢島口　羽後本莊驛から分岐する横莊鐵道の前郷驛から矢島まで約一三粁自動車が行く。四五分、乘合一圓（列車毎）、貸切四圓。それから山頂迄約二三粁、上り一〇時間下り五時間、登山案內料一〇人迄二圓半。登山道は變化が多いので登山客に喜ばれる。途中祓川の小舍場は七、八月には宿泊が出來る。

▲登山は七月上旬から九月中旬まで、其他の時期は寒氣と雪の爲に登攀が困難である。一般の登山者は暑苦を避くるため大抵午前二時頃發足、午後三時頃歸着するものが多い。

大物忌神社（國幣中社）　鳥海山頂にあり出羽國一ノ宮として崇敬せられ、今も多く登山者があり、御本前に宿泊所がある（一圓八〇錢）。山頂から東に栗駒山、東北に駒ケ岳北に太平山が眺められ、南は近く月山を望み、また東南は遠く山形盆地を隔てて藏王山を見、西南に莊內平野を俯瞰し、西は日本海上の男鹿半島、飛島、佐渡ケ島を眺めた景が雄大である。

吹浦の羅漢岩　吹浦の附近は鳥海火山の熔岩が海に達して斷崖をなして居るが、その中に熔岩の自然石を其儘使用して五百羅漢像を彫刻したものがある。その狀千姿萬態、他に多く類を見ない奇觀をなして居る。吹浦驛から六五〇米。自動車乘合二〇錢。

鶴岡市　新津から急行二時間三八分（一、三九粁四）、三等二圓〇四錢秋田から二時間四〇分（一、三二粁三）、三等一圓九五錢

市は莊內平野の南部に位し東方に赤川を控へ西南に金峯山を背び、商工業盛んに行はれ、特に羽二重の機業と米の取引が著しい。人口三六、一三八（昭和九・四・一調）市內で繁華なのは荒町・下肴町・十日町・一日市町・七日町・上肴町等である。

市は往時の大泉鄕で、地頭大寶寺氏の統治下であつた時は城名を大寶寺と稱し、大寶寺武藤氏の居城であつたが（起原は詳でない）天正一二年から村上義光に屬し城代が置かれ、翌年上杉謙信之を陷入れ部將下治右衞門をして守らしめたが、慶長六年に至り再び義光の有となつたので、同八年其名を鶴岡城と改めた。其後元和八年最上家改易せらるるに及び酒井忠勝新に封を得て信濃國松代城から移つて之を治するに及び、莊內藩と稱し、當時東北の雄を以て自任し、街區を改め產業を興す等、名實共に莊內の首邑たるべくつとめた。元治元年左衞門尉忠篤江戸市中警衞の勞を以て二萬七千石加賜、前封を併せて一七萬石、明治維新に至り廢城となつた酒井氏の舊城下である。

〔遊覽順路〕驛—日枝神社—荒町—下肴町—一日市町—常念寺—本住寺—大督寺—鶴岡公園—驛。

▲乘合自動車　市內一〇錢均一、貸切五〇錢。

〔名所〕▲鶴岡城址　驛の西南二粁、市の中央にある。今本丸、二ノ丸の壘及濠の大半を遺し、城址は公園となり、松杉の大木多く、また櫻樹は濠に沿ふて長く連り別に菖蒲園などもある。本丸址には莊內神社（藩主酒井忠勝及父祖家次忠次の靈を祈る縣社）があり、その南側に招魂社と明治天皇御駐蹕記念碑があり、園內の大寶館には集會所、圖書館、物產陳列所などがある。

〔旅館〕　**ホテル**　伊勢屋（電三六、驛から一粁九、室三一、一泊㊀三圓）、鶴岡（電三五、驛から一粁六、室二八、一泊㊀三圓）、吉川屋（電一三一、驛から一粁六）、伊勢屋支店（電五五八、驛前）、一泊二圓—五圓。

〔名物〕栃餅、平核無柿、民田茄子、竹漆（塗器）、味淋漬、のし梅（菓子）等

湯田川溫泉　山形縣西田川郡湯田川村、羽越線鶴岡驛から西南八粁五、自動車四〇分、乘合一五錢。一日一六回、貸切一圓半。地は莊内平野の丘陵の間に介在する溫泉場で、金峰山の永くひいた裾野にあり、三面翠巒に圍まれ只西の一方廣々とした田圃となつて鶴岡市と續いて居る。その昔殿賜を極めた當時の豪華な面影が殘つて、大きな建物は設計の凝つた古風な匂ひのするものが多くまたそれ丈品があり落付きのある保養及遊山に好適の地である。

泉質は無色透明のアルカリ性鹽類泉で溫度四〇度、腦神經諸病・眼病・婦人病・リウマチス・皮膚病等に特效あり、由來中風の湯と呼ばれて居る。

〔旅館〕御殿（電湯田川一・二九、室一八）、民彌（電同二、室一五）、七内（電同一〇、室一七）、以上普通一泊二圓乃至三圓半。

善寶寺（曹洞宗）　山形縣西田川郡西鄕村字下川、鶴岡驛から湯之濱溫泉に至る庄内電車で善寶寺驛下車すぐ（一四分、賃二四錢）。約一千年前妙達上人の開基と傳へ、下川丘陵高館山の麓から中腹にかけて多くの堂塔伽藍參差として居る。龍澤山と號し、曹洞宗大本山總持寺直末の常恒會轉法輪の道場で、寺に祭祀する龍王・龍女の靈驗あらたかなりとして大漁や航海安全・五穀豐穰・營業繁榮・當病平癒を祈るために遠近から集る參詣者毎年一〇萬を越える。

堂塔の數二二宇、その主なるものは本堂・龍王殿・五重塔・五百羅漢堂・山門・五重塔婆で、多くは明治年間の造營に係るものである。

湯野濱溫泉　山形縣西田川郡加茂町湯野濱、羽越線羽前大山驛の西北約七粁二、自動車四〇分、乘合三〇錢。同上鶴岡驛から庄内電車で善寶寺經由二四分（一二粁二）、片道三五錢。又は前記善寶寺から間道徒步約二粁。

古來奥羽三樂鄕として上の山、東山と共に謳はれた地で背に高館山一帶の翠巒を負ひ、前は漂渺たる日本海の碧波に面し、南方二粁に加茂港を控へ、遠く北走せる砂丘の直線狀砂濱は海波に洗はれて酒田港を煙霞の中に望み、更に鳥海の雄峯滄海に裾曳くを仰ぎ乍ら海水浴を試むべき日本海隨一の溫泉勝地である。（海岸は遠淺で危險なく、東北では稀に見る好海水浴場で、夏季は湯治客と海水浴の人達で旅館は何れも賑つて居る）。

溫泉は鹽類泉に屬し、無色清澄、溫度四八度、胃腸病・婦人病・リウマチス・神經衰弱等に特效がある。

〔旅館〕龜屋（貸切湯あり、電一〇、室九〇、㊐三圓）、惠比壽屋（電一、室四五、㊐三圓）、岩本屋（電一九）、大屋（電五）、大黑屋（電二五）、湯ノ濱ホテル（電一七）、宮島屋（電二八）、都屋（電二二）、富屋（電六）、一泊二圓—六圓。

加茂港　湯野濱の南二粁半、自動車乘合片道一〇錢、貸切一圓。酒田港と共に莊内重要の港灣をなし、莊内漁業の中心地で、縣水産試驗場がある。近時築港成つて二千噸級の汽船も安全に碇泊し得る樣になつた。加茂から北方湯野濱に至る二粁餘の海岸は懸崖高く海岸の岩礁も甚しく風景極めて佳い。

〔旅館〕石野屋、一圓半—二圓半。▲加茂水族館入場料二〇錢。

溫海（アツミ）溫泉　山形縣西田川郡溫海村湯溫海。

羽越線溫海驛のある所は日本海の波打際、（七〇一及七〇二の急行列車停車する）そこから溫海川の清流に沼ふて谿谷を二粁四許り遡つた所にあり（自動車、乘合一五錢、貸切七〇錢）町の背後には海拔七三五米の安山岩々峯溫海嶽聳え、天魄（アマシロ）・八方等の峯巒は東南北の三方を圍み、西の一方僅かに開けて日本海に向けて開けた山峽の靜かな湯町で、保養・遊山何れにも好適の溫泉鄕である。

溫泉は食鹽含有硫化水素泉で、溫度八二度、湧出量頗る豐富で、湯色が時に灰・淡黃・淡青等に變化するので古來溫海七色の奇稱がある。皮膚病・外傷・火傷・リウマチス・神經病・花柳病・婦人病・痔疾・胃腸病・諸病恢復期等に效がある。

〔旅館〕橘屋本店（電溫海溫泉一、室二六、㊐三圓）、橘屋別館（電同四、室一〇）、橘屋新館（電同七二、室三）、萬國屋（電同三、室五〇、㊐三圓）、溫海ホテル（電同二五、室三九、㊐三圓）、新鶴屋（電同二八、室一九）、瀧乃屋本館（電同二五、室一三）、同別館（電同三五、室七）、朝日屋（電同二、室一八）、新玉屋（電同七、室二〇）、越後屋（電同一六、室一六）、其他濱屋、鐵屋、鶴屋、富士屋（電二二）、柏屋、梟屋、櫻屋、海老屋外五軒あり。〔溫海驛前旅館〕賀壽屋、一泊一圓—三圓。

溫海には此處獨特の頗る鄙びた情緒のある朝市がある。毎朝未明の頃から附近の漁夫や農夫の女房達が思ひ〳〵に街路の傍に店を張り、自炊客達は季節季節の新鮮な野菜や、山の名產、海產物等を買物に出掛ける野趣に富だものである。

〔名物〕漆器、栃餅、そば、あつみ蕪等。

〔附近名所〕大清水・熊野神社・紅葉ケ岡・臥龍園・一ノ瀧、湯見ケ瀧等。

健脚家には溫海嶽登攀も興が多い。夏は溫海驛附近に海水浴の快があり、冬は鳥獸及長嶺等スキーの好スロープあり、秋は紅葉鄕としてまた知られて居る。

○暮坪の立岩　溫海驛の北三粁、溫海村字暮坪の海岸にある直立一五〇米の玄武岩島で、柱狀節理がよく露はれ、天然紀念物に指定されて居る。

鼠ケ關　山形縣西田川郡念珠關村、羽越線鼠ケ關驛所在、新津から汽車二時間半（一〇一粁）、鶴岡から汽車一時間（三八粁四）。地は格子谷の一つである鼠ケ關川が、その河口に橫はる大岩島辨天島の勝が恰も防波堤の役目を演じて出來た羽越線唯一のデルタに發達した聚落で、辨天島の雄する鼠ケ關港に面し、風光明媚である。此處はまた羽越の國境に當り、古くから鼠ケ關の關所が置かれ勿來及白河の關と共に奥羽三大關門の一として知られたところである。〔旅館〕村上屋、丸長、一泊一圓半。

〔名所〕辨天島　驛の西北八〇〇米、砂嘴によつて連ねられた玄武岩の半島で、海水浴に適する灣入がある。此島は海岸隆起に基いて砂嘴の發達を來し陸地と連つてトンボロ地形をなしたもので今は半島となり、その西南端に燈臺があり、北側には老松に圍まれた嚴島神社があり展望絕佳で、日本海岸有數の勝地として近時著しく知られて來た。

笹川流　新潟縣岩船郡下海府村附近海岸、羽越線桑川驛の北約四粁の板貝—笹川間の海岸地域二粁の稱で、海府浦景勝の一中心部を爲すものである。桑川驛の南方一粁半の鳥越山から北方の寒川驛の西南半粁餘の狐崎に至る延長九粁の間を絕景とされ、名勝地に指定されて居る。此のあたりを俗に笹川流れと呼んで居るが河の流れではなく、沿岸漁業地帶を漁夫達が呼びならはした名稱である。

鼠ケ關から西南瀨波町の海岸三面川の注ぐ處、岩ケ崎迄は、西の親不知に對する北越の難險、海府浦の地で、北部越後山系に雁行して海に迫る葡萄山系の沿岸一帶の岩石海岸地域、笹川流れを中心に外海府の景勝延長二〇數粁に亙て居る。此處は葡萄山塊を構成する黑雲母花崗岩の日本海に沒入する處の特殊構造と、第三紀末からの地盤隆起と海蝕によつて、一帶の地形は稀に見る景觀を形成して居る岸崖海に迫り、岬角參差起伏し、靑松を頂ける岩礁海上に點綴して浪に洗はれ、且つ海蝕洞穴内には鐘乳洞あり、石筍あり、また鐘乳狀酸化鐵華に滿された洞穴などあり、海岸線は凹凸を極めて越後特有の單調を破り日本海の荒波に對するなど、實に壯絕を極めて居る。

▲桑川驛前—下海府村板貝間約八粁、笹川舟遊料往復四〇錢。上下各列車に出帆し遊覽に約二時間を要する。遊覽船は桑川驛前各旅館にて斡旋す。

〔桑川驛前旅館〕笹川ホテル（室一三）、鐵屋（室八）、丸一（室八）、大山（室四）、一泊一圓半、二圓、二圓半。

村上町　新潟縣岩船郡、新潟から二時間三〇分（七六粁四）門前川の川岸、臥牛山の麓に位し、もと木莊と呼んだ内藤氏五萬石の城下町で、越後東北部の主要な都邑である。町は我國では宇和島町と此處のみと云はれる環狀放射式となり、今尙封建的保守氣分の昔を夢みる村上本町と、經濟的に進出した商

人階級の村上町とに分れ、人口九、九三三（昭和五・一〇調）を有して居る。〔旅館〕扇屋本店（電村上二二〇）、丸屋（電二八、驛一粁半）、渡邊（電五二驛一粁六）、石田屋（電一六）、魁屋（電二二八）、其他一泊一圓半、二圓、三圓、特産には堆朱、堆黑などの漆器があり、その品質は他の地方の追從を許さぬ優秀なものであると云はれ、町の西を流れる三面川の越後鮭は美味を以て聞え、えて居る。また此地に産する年額約二〇萬圓の線茶は芳香と甘味を以て聞え、殊に玉露は最も優れて居るが、而し實は名に壓され、宇治の川柳として京都のマークで賣出されると云ふ。

瀨波温泉　新潟縣岩船郡瀨波町、羽越線村上驛から西南二粁四、自動車七分、乘合一五錢（列車毎）、貸切五人乘五〇錢。

瀨波町松山にある丘陵の北斜面海拔六〇米、海岸から五〇〇米の地に、明治三七年石油井鑿掘の目的で深さ二五〇米に達した時轟然たる音響と共に熱湯が噴騰し高さ二〇米に及んだのに始まる。爾後絶えず繼續して噴騰し、現在では高さ十餘米に及び、瀨波温泉は此處から引湯して居るのである。泉質は無色清澄の鹽類泉で、温度六五度、リウマチス、皮膚病、胃腸病、腦神經病等に效がある。

地は後に翠巒を負ひ、前は展けた田園にて限りなき豐饒を示し、また松籟颯々たる所を過ぐれば渺々たる日本海に接し、遠く粟島、佐渡ヶ島が墨繪の樣に浮んで見える。

〔旅館〕萩野屋（電村上一〇六番、室數三二、㊐三圓）、大和屋（電同一一〇、室一四）、三島屋（電同一六六、室一五、㊐二圓半）、臨海ホテル（電同二〇八、室數一五）、吉田屋（電同一七四、室一一）、養眞亭（電一〇七、室一二）、丸一（電三二二、室一二）、長谷川五泉屋（電一六三、室九）、見晴亭（電四〇五、室八）、松月亭（室六）以上一泊二圓、二圓半、三圓半、五圓。何れも内湯あり。

粟島　一名粟生島（アヒシマ）と云ひ、瀨波町から海上一九浬八、岩船港から三五粁、漁用を主とする定期船がある、一日一回、片道一圓半、四時間。

全島黑色の頁岩又は玢岩の岩床からなり、傾動地塊が間歇的の隆起により三段四段また五段と段丘が判然と見られる。周圍一六粁、最高の小柴山は二六五・三米、海岸は水平肢節に富みその地帶構造と、地盤隆起後の海蝕によつて出來た粟島西岩の景觀は海岸風景の極致をなすもので、天下の一大奇觀である。島は暖流の影響で氣候温和、竹の名産地として知られ（年額一萬六千圓）その他魚介類、乾鮑、牛鮑、乾海苔、海草類等約七萬圓を産する。本島は新潟縣岩船郡に屬し、粟生浦村と稱し全人口七四二（男より女の方が一〇〇名許り多い）、島には醫者もなく、駐在所もなく、和氣靄々として大家族的な團欒を持ち、七月末から八月半の未明にかけて老若男女が十數人圓陣を作り、音頭と合せて右に左にまはりつゝ、麥打をする光景、鮑を主とする名物粟島料理「ワツパ蒸」の味噌汁に舌鼓を打つなど獨特の風情を以て人をそゝるものがある。

新發田町　新潟縣北蒲原郡、新津から三〇分（二六粁）。

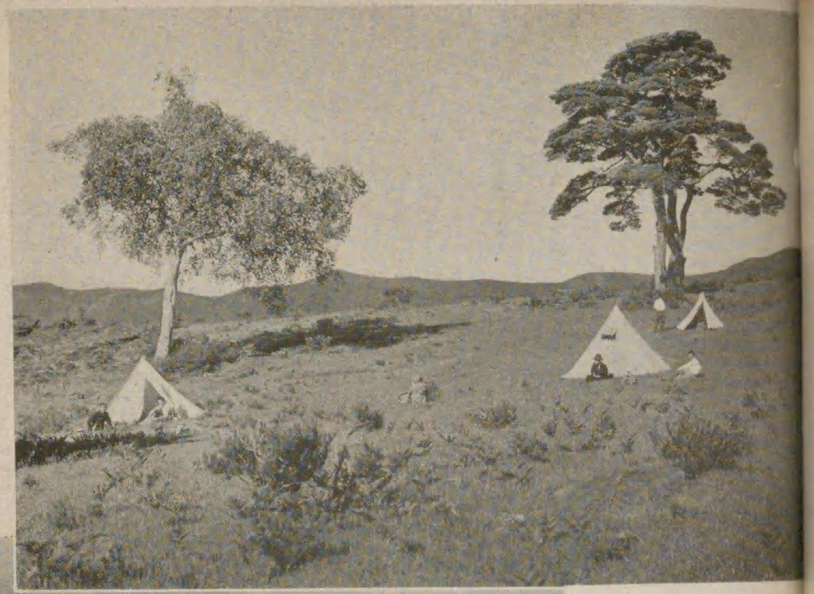
新發田町は加治米産地の中心市場で、鐵道赤谷線の分岐點に當り、人口二一、〇三一（昭和五・一〇調）、名産木崎梨がある。此地はもと溝口氏十萬石の舊城下で、城址には歩兵第一六聯隊の兵營がある。

〔旅館〕材甚（電六一）、石川（電一四九）、皆川（電三二九）、一圓二〇錢―三圓

加治川堤の櫻　此處の櫻は、加治川の水害を豫防するために新發田の西北に當る眞野原から次第濱迄延長五粁の分水路を開鑿し、水閘と洗堰を設けて水量を調節する事に成功した記念として右岸の堤上一五粁、左岸の堤上一七粁の間に五五〇〇株の染井吉野櫻を試植したものである。之が成育して今は北越の一勝地となつて居る。觀櫻の中心は眞野原の水閘附近で、新發田から西北七粁、花期には自動車が出る、乘合四〇錢、貸切二圓半。加治驛から一粁六、自動車一〇分、又花期中新發田から北へ二粁六の地點に「加治川」假驛が出來る。

新津町　新潟縣中蒲原郡。街は東南に紅葉山を負ひ、三面平野を回らし能代川に跨り、信越・磐越・羽越三線の鐵道連絡地點をなし、從つて物資の集散も盛んに行はれて居る。人口一九、七五五（昭五・一〇調）、附近に新津油田があり、梨果の産も多く、その他生鮑を産する。〔旅館〕森清、梅屋、美好館。

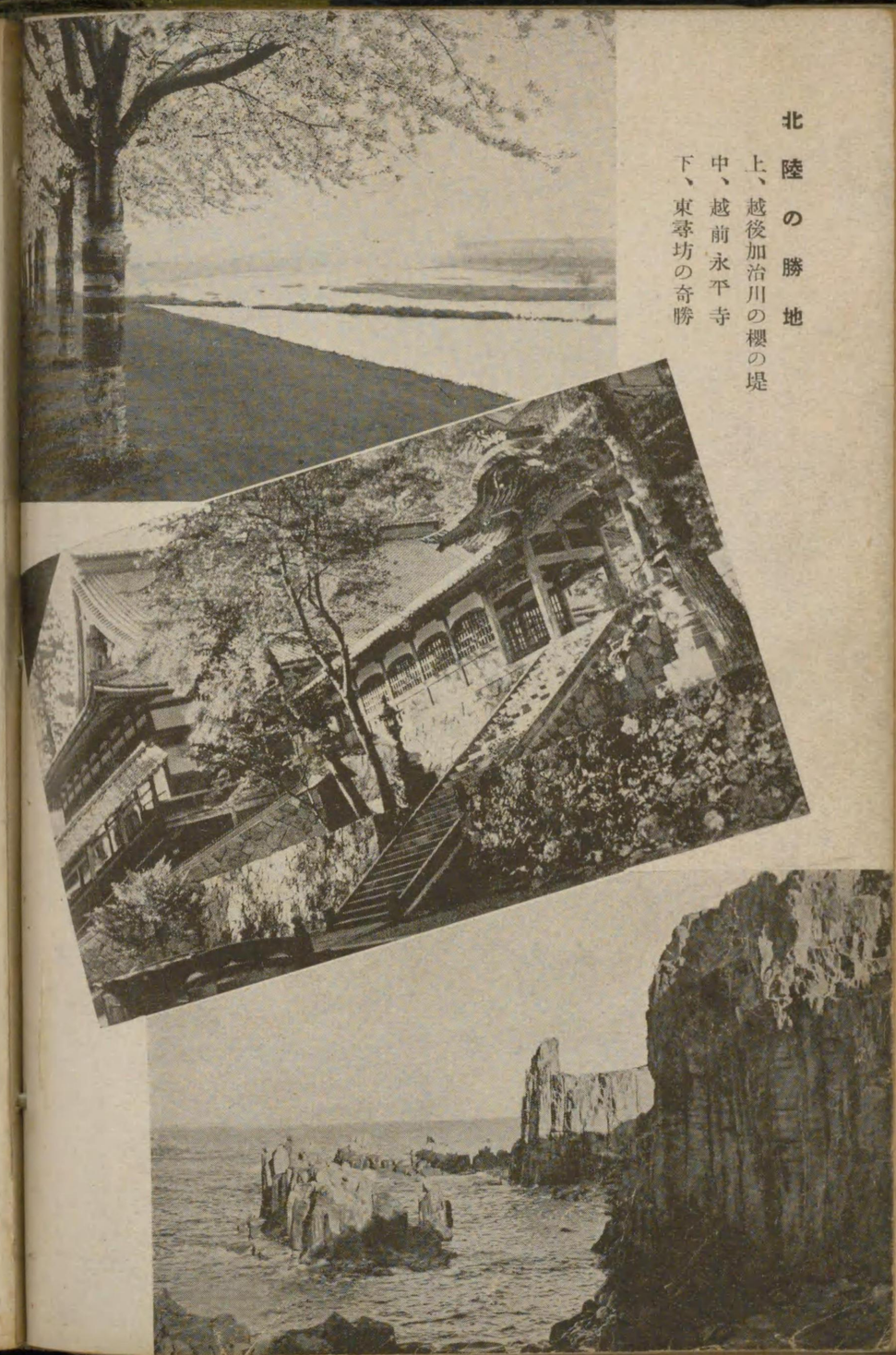
▲新津油田　新津町外四箇村に跨り、延長八粁に及ぶ大油田で日本石油會社の經營になる。丸新、石崎、吉澤、梨田の各製油所及栖目木、小口、朝日等の油田があり、年産二二五萬圓に及ぶ。



信越沿線

上、夏の菅平高原

下、草津白根の頂上



北陸の勝地

上、越後加治川の櫻の堤
中、越前永平寺
下、東尋坊の奇勝

伊香保遊覽日程案（遊覽券）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一・五五	小山新潟行列車	▲上野—澁川間二時間五八分（一二二粁五）三等普通片道一圓八二錢。
	澁川驛	着後 四・五三 發後	下車 自動車又ハ電車	▲澁川—伊香保間、自動車約二〇分、（約一〇粁）乘合片道五〇錢往復九〇錢（列車毎）貸切（五人乘）三圓。電車約五〇分、（一二粁八）（三〇分乃至一時間毎ニ運轉）並等片道四五錢（但シ當分ノ内割引ニテ片道三五錢往復六〇錢） 伊香保町旅館 木暮、千明、岸權、横手館等其他數十軒（二四三頁參照）
	伊香保	着後 五・一五	遊覽、宿泊	
第2日	伊香保	發後	自動車又ハ電車	第2日　午後三時過迄榛名湖及榛名神社等廻遊。 ▲伊香保カラ榛名山鞍部ノやせおれ峠迄二粁一ノ間ケーブルカーデ一〇分、賃金片道六〇錢、往復一圓（但シ歸路ハ大瀧、七重瀧ヲ經テ山道ヲ下ルモヨイ） ▲やせおれ峠カラ榛名湖畔マデ約三粁（道路殆ンド平坦）、自動車一〇分、三〇錢（三〇分毎） ▲湖畔カラ天神峠ヲ下ツテ榛名神社迄約二粁、自動車三〇錢、（三〇分毎） 「註」榛名神社前カラ自動車デ高崎ニ出ル道モアル。 榛名町—下室田—高崎　約二八粁餘、自動車　一時間二〇分、八〇錢（一時間乃至二時間毎ニ六回）、貸切五圓。（二四四頁參照）。
	澁川驛	發後 三・四〇	上野行列車	
	高崎驛	着後 四・〇八 發後 四・一六	乘換ナシ	
	上野驛	着後 六・〇〇	歸宅	

旅行費用概算　二等　一七・八〇圓　三等　一二・四四

内譯
- 遊覽券
  - ▲鐵道券—東京・澁川間往復　▲自動車券—澁川・伊香保
  - 榛名神社往復　▲宿泊券—一泊（㊁三圓半ヅヽ）▲ケーブルカー券往復ヲ含ム—二等一七・八〇、三等九・四四
  - 食事料其他費用トシテ概算二等五圓、三等三圓ヲ計上ス

草津と吾妻溪谷廻り日程案（遊覽券利用東京から三日）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發前 一〇・〇五	小山長岡行列車	▲上野―輕井澤四時間二五分（一四二粁三）、三等普通片道二圓八錢。「註」上野發前七時四五分、輕井澤着前三時〇三分ノ不定期列車アリ、輕井澤着一一時二四分及上野發後一〇時四五分、輕井澤着後三時〇三分ノ不定期列車アリ、乘車ノ節ハ運轉ノ有無ヲ確ムルコト。▲輕井澤―草津間草津鐵道電車デ三時間〇五分（五五粁五）、三等二圓（三等車ノミ）、一日七往復運轉。
	輕井澤驛	着後 二・三〇 發後 二・五五	草津電車ニ乘換	
	草津驛	着後 六・〇〇	宿泊	▲草津―長野原―川原湯一九粁三、自動車デ四五分、乘合一圓二〇錢、貸切五人乘七圓。草津カラ長野原ニ出デ川原湯ヲ經テ中ノ條ニ至ル間ハ常ニ吾妻川ノ深淵溪流ニ沿フテ下ルノデ沿道ノ風光ガヨク、關東耶馬溪ノ稱ガアル。殊ニ秋葉霜ニ染マル頃ハ山腰ト云ハズ谿谷ト云ハズ一樣ニ錦ヲ織リ出シ、吾妻ノ溪流其ノ間ヲ縫フテ走リ、奔端ト激シ碧潭ト緩ミテ流ル、佳景ハ一度此地ニ遊ベル者ノ忘レ得ヌ景趣デアル。 **草津溫泉**（二四四頁參照） ▲草津驛カラ溫泉場迄二〇〇米餘。
第2日	草津町	發前 一〇・三五	乘合自動車	▲川原湯―原町―澁川間約四〇粁一、自動車デ一時間三〇分、乘合一圓三五錢、貸切八圓。 ▲澁川―伊香保間一〇粁、自動車デ一〇分、乘合往復九〇錢。
	川原湯	着前 一一・二〇	遊覽、晝食	
	川原湯	發後 一・三〇	澁川行自動車	
	澁川	着後 三・〇〇	乘換	
	伊香保	發後 三・四〇	自動車	
		着後 六・〇〇	宿泊	
第3日	伊香保	發後	乘合自動車	**伊香保遊覽**（二四三頁參照） 榛名湖、榛名神社等。ケーブルカー及乘合自動車アリ。 ▲澁川―上野間二時間二〇分（一二二粁五分）、三等普通賃一圓八二錢。
	澁川驛	發後 三・四〇	上野行列車	
	上野驛	着後 六・〇〇	歸宅	

旅行費用概算　二等　二七・六三圓　三等　二三・五四

内譯（遊覽券―東京・草津溫泉間、草津・澁川・東京間、澁川・伊香保・榛名間自動車及ケーブルカー往復▲宿泊券―二泊六圓五〇錢、三等一八圓五四錢。湯一食（二等一圓半、三等一圓）、二等二二圓六三錢、三等一八圓五四錢。外ニ食事料其他費用トシテ五圓宛ヲ計上ス

伊香保溫泉　群馬縣群馬郡伊香保町

▲上野から急行列車で澁川驛まで二時間二五分（一三粁五）三等一圓八二錢
▲澁川驛から伊香保溫泉迄約一〇粁、自動車二〇分、乘合片道五〇錢、往復九〇錢（一〇回以上）、貸切五人乘三圓。又は電車で約五〇分、賃片道三五錢、往復六〇錢（三〇分乃至一時間毎）。

伊香保町は群馬縣の西北部、榛名連山の東腹、海拔八五〇米の高地に在り、三方は廣漠たる眺望にて前に吾妻川を隔てて利根、吾妻兩郡の諸峰を望み、北から東にかけて小野子、子持の山々から蜿蜒たる赤城の翠黛を眺め、東は遠く前橋、高崎の粉壁を目睫の間に見渡す景勝の地である。夏は八〇度を越ゆることなく、避暑によく、秋は紅葉の美に聞えて居る。浴舍は懸崖に凭つて建てられ、街路は階段の樣に石段で刻まれ、屋並は層一層と漸次高く、一樓は一館の屋上に聳えて居る。

溫泉は鹽類性含鐵炭酸泉に屬し、貧血症・胃腸病・婦人病・腺病・リウマチス・神經諸病に效があると云ふ。溫度四六度乃至四八度。

泉源は湯元と稱する溪谷中、集塊岩と浮石層の間に八箇所あり、それが集まつて各旅館の內湯として木樋で曳かれて居る。湯元には水鹽化鐵の沈澱影しいので、これを布に塗沫して伊香保染として居る。

〔旅館〕木暮館（室一七〇、電話一〇、別館四一、㊐三圓半）、蓬萊館（室八〇、電二〇、㊐三圓半）、千明仁泉亭（室一五〇、電六、㊐三圓半）、塚越（香雲館、室八四、電七、㊐三圓半）、塚越別莊（電七〇、㊐三圓半）、福一樓（室六一、電四、㊐三圓半）、森田館（室一二四、電三、㊐三圓半）、鐵泉館（石坂、室五二、電一、㊐三圓半）、横手館（室一一七電八、㊐三圓半）、千登世館（唐澤、室三〇、電九、㊐三圓）、香山樓（村松、室二四、電一三、㊐二圓半）、古久家（森田、電五、別館用一〇五番、㊐三圓半）（以上普通宿泊料二圓半、三圓、四圓、五圓）、丸本館（萩原、室一四、電三一、㊐二圓）、藤野屋（齋藤、室二五、㊐二圓）（以上普通宿泊料二圓、二圓半、三圓、四圓）、伊香保ホテル（電四六、洋式㊐六圓）、橋本ホテル（電三五、一人室六、三食付七圓半、二人室六、三食付一五圓、㊐五圓）、市川館、新井屋、河內屋、橋屋、油屋、其他一五軒、以上宿泊料一圓半、二圓半、三圓。

〔附近名所〕湯元公園、伊香保神社、物聞山、見晴し、七重瀧、辨天瀧、大瀧などめり、榛名山、榛名湖、榛名神社にかけては一日の遊覽地として好適の處である。

榛名山

古來妙義、赤城と共に上毛三山に數へられて居る名山である。山は群馬縣の中央から稍西に偏して噴起した代表的の二重式火山で、氷室山硯岩、髮櫛、烏帽子等の諸山は外輪山、卽ち火口壁で、その外輪山の鞍部に當るヤセオネ峠から星餘に亙る大きな平原沼の原は、何時の世にか今より高く富士の如くに聳えて居た榛名火山の頂上部を爆發してそこに生じた火口原である。其後更にその中央部に榛名富士を生じ、その一部には水を湛へて榛名湖一名伊香保沼を生じ、榛名湖から東北に流れる沼尾川は卽ち火口瀨である。また此の火山には寄生火山が多く、外輪山上にある相馬岳（最高峯で海拔一四一一米）、帮部ケ嶽及その外斜面の淺間山や鏡臺山等がそれである。中央火口丘榛名富士は海拔一、三九〇米七、美しい圓錐形を呈し、三〇度內外の傾斜をなして榛名湖畔に屹立して居る。山頂には東に向つて欠けた蹄鐵形の火口を有して居る。

榛名湖

直徑南北一粁八、東西一粁、周圍四粁、殆ど圓に近い橢圓形をなして居る火口原口で、水深は榛名富士に偏する處最も大で二〇米（一二尋）あり湖面海拔一、〇八四米、湖水は沼尾川となつて北隅の少しく突出した所から排水して居る。

湖上は榛名富士の姿を映じて風景がよく、湖邊には菖蒲の野生した所がある。湖面は一二月下旬から翌春四月頃迄結氷するので、湖畔の旅館湖畔亭、富士屋等を根據地としてスケート練習に適し、また湖畔の東北に聳ゆる榛名富士のスロープは積雪は少いが（〇・五米位）草地で、雪質がよいので一、二月中はスキーも出來る。また湖畔は夏季最高溫度八五度最低六〇度位で、晝夜の差が僅少であるからキャンプの好適地とされて居る。

〔交通〕伊香保町から榛名山鞍部ヤセオネ峠（一一七九米）迄ケーブルカーの便がある、所要一〇分（二粁一）、賃金片道六〇錢往復一圓、三〇分毎に運轉ヤセオネ峠から湖畔迄約三粁、乘合自動車の便あり、所要一〇分、賃三〇錢、往復五〇錢（三〇分毎）、五人乘貸切二圓、往復三圓。

榛名神社

榛名湖の西南二粁餘、湖を右に見て天神峠（一一二一米）の小坂を登り、夫からダラ〳〵坂を下ること一粁八、ヤセオネ峠ケーブルカー終點から自動車二五分、乘合六〇錢、往復一圓（三〇分毎）、貸切四圓、往復六圓。坂路の途中に葛籠岩、佛體岩、鉾岩などの奇岩が多く、また神社から榛名山町に至る途中、東方溪流の向ふに天然橋をなす鞍掛岩等、集成岩の巨大なものが多く、有名である。

神社は掃部ケ岳の南斜面にあり、谿谷に臨み、老杉巨岩に包まれた閑寂の神境にある。昔では二千餘坊を有して關八州を睥睨したと傳へる延喜式の古社で、今の社殿は寛政年間に成り、本殿は一棟の奉日造り、拜殿は八棟造りである。本殿は背後の巨岩に接續して營まれ、その巨岩は神體岩と稱し、本殿から岩中の洞穴に通じ、そこに神靈が奉安されて居ると云ふ。祭神は火產靈神、埴山毘賣神を祀る縣社である。

○此處から更に少し下れば山の斜面に榛名山町の人家があり、尙下れば室田、里見の町々を經て高崎に出る道がある。

榛名神社前―高崎驛間直通自動車がある、一時間二〇分（二八粁餘）、料金片道八〇錢（一時間乃至二時間毎に一日六回あり、但途中下室田から高崎迄は一時間毎にある）貸切五人乘五圓。

草津溫泉

群馬縣吾妻郡草津町。

▲上野―澁川間汽車二時間四八分（一二二粁五）、三等一圓八二錢。

澁川―川原湯―草津間自動車二時間二五分（五九粁四）、乘合片道二圓七〇錢（一日七回）、貸切五人乘一五圓（省線と連帶乘車券を發賣する、片道二圓四〇錢往復四圓七〇錢）。

▲上野―輕井澤間汽車四時間二五分（一四二粁三）、三等二圓八錢。

輕井澤―草津溫泉間電車約三時間（五五粁五）、三等二圓。

▲輕井澤驛から沓掛・峯ノ茶屋・鬼押出・石津等を經て草津迄箱根土地會社の乘合自動車で二時間（四七粁餘）、一日六回（七回發陣雪運輕不能の外年中）（但グリーンホテルから三原までは專用自動車路につき他社の乘用車によるときは通行料一圓を要す）、料金片道輕井澤及沓掛から二圓、往復三圓。

▲信越線上田驛―眞田驛間上田溫泉電軌で三六分（一二粁八）賃四〇錢。眞田驛―鳥居峠六粁六、上田溫泉電軌自動車にて、夫から他社に乘繼ぎ草津電車新鹿澁溫泉口驛迄約一一粁、自動車一時間二〇分、乘合一圓五〇錢（一日四回）。

新鹿澁溫泉口驛―草津間電車約一時間（一八粁七）、賃六八錢。

上田―草津間六人乘貸切一二圓（二時間）。

草津からは白根山を越えて萬座溫泉へ下る道もあり、澁峠を越えて信州の平穩の溫泉郷に下る道もあり、花敷溫泉（二四六頁參照）を經て四萬へ行く山道、暮阪峠を越えて澁渡溫泉（二四六頁參照）へ行く道もあり、長野原を經て川原湯方面へは自動車が通じて居る。

▲草津から澁溫泉に出るには山道約三二粁ある。上り一二粁下り二〇粁で約一日を要する。冬季積雪期にはスキーに上達せる人ならば行く事が出來る。

草津は海拔一、二〇八米の高地にあり、古來撫津の有馬に對して東國第一の名湯と稱せられて居る。地は上州吾妻郡の中でも特に信濃國境に近い山巒重疊の間にあつて、白根山西に聳立し澁峠は北に、吾妻・岩蓼・萬座・淺間の諸峰蜿蜒として繞り、東北は入山村を隔て越後と界し、東南には一望廣漠たる大高原が展開して遠く起伏する八州の山岳を望んで居る。殊に白根・淺間の白煙碧天に漲る樣は實に壯觀である。

土地高燥開豁なるが故に日照時間多く、空氣乾燥清澄にて健康に適し、氣溫は盛夏と雖日中八〇度を越ゆることがない。

溫泉の歷史は頗る古く景行天皇四〇年（約千八百年前）日本武尊の發見とも云ひ、又養老年間（約千二百年前）行基菩薩が藥師如來の示現に依つて發見したとも傳へて居る。湧泉量は非常に多く、その主なるものは八代將軍吉宗公の御汲上の湯（松の湯）を中心として熱の湯、御座の湯（白旗の湯）鶯の湯、地藏の湯の五ケ所あり、何れも酸性明礬泉で、その一千グラム中には明礬の主成分たる硫酸アルミニユーム一グラム以上を含む上に遊離の硫酸二瓦位を含んで居るので、皮膚病に効くのも、草津獨特な時間湯と云つて入浴時刻を制限したりするのもこの爲であると云ふ。溫度五四度乃至五九度、花柳病・皮膚病に特效ありと云はれ、胃腸病・眼病・痔疾・リウマチス・神經衰弱等にも効くと云ふ。

草津名物の時間湯と云ふのは、五ケ所の共同浴場があり、そこに一日四回一定の時刻に湯長の指揮の下に、入浴者は各自に長い板を持つて「草津よいとこ一度はおいで　ドツコイショ　お湯の中にもコリヤ花が咲くよ　チヨイナ〳〵」の節面白く唄はれる歌の調子に合せて一同湯を揉み合ひ、溫泉に一定の溫度を保たしめて規律的に入浴するものである。入浴時限は三分間に限られ、野趣滿々、草津獨特の奇觀である。

〔旅館〕草津ホテル（電草津一〇番、和室一五、一泊二圓半―五圓）洋室三〇、七圓―九圓、㊐三圓）、大阪屋（電八・二三、室六六、㊐三圓）、一井（電一一、室六二、㊐三圓）、日新館（電一三・一一三、室五五、㊐三圓）大東館（電一八、室五三、㊐三圓）、望雲館（電一〇・一一〇、室五五、㊐四圓）、きり山（電二一・一〇四、室四〇、㊐三圓）、奈良屋（電三、室三四、㊐一圓八〇錢）、細野（電一二、室四一）、山本館（電一九、室二九、㊐二圓半）、古久長（電二八、室二三）、山幸（電三五、室二一、㊐二圓）、ての宇屋（電二二、室一五）（以上普通一泊二圓乃至五圓）、富久住（電三四室三二）其他。

〔附近の名所〕▲白根神社　日本武尊を祀る鄕社で境內閑寂、平家の化燈籠と云ふものがあり近くには草津公園及草津町を一目に眺める見晴茶屋がある▲賽の河原　白根神社から琴平神社を經て六、七百米、溫泉が到る所から湧出し奇石面白く散在して居る。▲動搖石　賽の河原から三〇〇米、一抱程の巨石が指頭でユラ〳〵動く奇石である。▲獅子岳　賽の河原から約四粁、殺生河原にあり、白根噴火の熔岩が固つて其の形を爲して居るもゆを云ふ。其他香草の湯、澁峠の途中にある小蓋の池、町から東三粁の所にある蟻仙の瀧等がある。▲草津スキー場　運動茶屋附近、天狗山附近、白根山麓の各斜面、香草の湯附近等に好スロープがあり、賽の河原上、天狗山の麓にはシヤンツエがある。積雪量は大概二、三尺で、一二月下旬から三月上旬迄出來る。

白根山

草津の西方に位する活火山で、一に草津白根と稱し南北二つの火山から成つて居る。南にあるのは本白根山（海拔二、一七六米）、北に並ぶは白根山（二、一六二米）で、共に秀麗なる雄峯をなさず、前者はむしろ熔岩臺とも云ふべく、後者は熔岩鐘である。白根山の頂上には巨大な火口があり、東西に長い楕圓形を呈し長徑八〇〇米、短徑四〇〇米、口底に三個の火口湖を有し、中央を湯釜、西を溫釜、東を水釜と稱して居る。湯釜には酸性の熱水が湧き、其水色黃青色であるが、溫釜、水釜には黃濁の冷水を湛へ、湯釜の西部には硫黃を混ずる泥土が堆積して居る。この火山は明治以來に於ても小爆發を繰返し、湯沼は明治二五年に、弓池は同三六年にも活動をなし、山頂の南に多くの爆裂火口がある。

登山には草津町から山頂迄約八粁、上り約三時間、下り二時間位。澁峠道の途中、芳ケ平から左折して約四粁で頂上に達す。その途上に硫黃採取の小屋があり（草津から此處まで馱馬で登る事が出來る）そこから西に向へは三粁下つて萬座溫泉に行かれる。山頂からは日光群山、北アルプス、妙高から淺間の噴煙を望み眺望開豁である。

香草溫泉

草津町にあり、草津溫泉場から徒步約三粁半、海拔一、三五〇米の高地にあり、酸性硫黃泉で慢性胃腸病・婦人病・痔疾・蓄膿症・神經衰弱・リウマチス・貧血症に効く。〔旅館〕山樂園、三食付一圓半。

湯の平溫泉

吾妻郡大合村入山。草津から徒步約四粁、人蓋と全く隔絕した山奥の仙境で、湯は須川の河底に湧出するものを電力で四〇米の高所にある浴槽に汲み上げて居る。無色透明の石膏性苦味泉で、溫度五四度、腦病・胃

腸病・歯氣・リウマチス・便秘に効がある。〔旅館〕松泉閣一泊二圓均一。

應德溫泉　前記湯の平溫泉から須川に沿ふて約牛粁許り登つた所に近年再興した溫泉である。硫黃泉に屬し、四九度、ネブト・梅毒・皮膚病・婦人病・痛風等に効く。〔旅館〕朝日館、一泊一圓二〇錢位。

花敷溫泉　前記應德溫泉から更に須川に沿ふて進むこと約八粁、無色透明の鹽類泉で五〇度乃至六〇度、子宮病・痲病・産前産後血の道に効くと云ふ。〔旅館〕中村屋、關晴館、一圓半位。尙此處から約半粁の上流に尻癒溫泉がある。地方の人々が各自食料寢具を荷參し、痔疾や婦人病になやむ者が臀部の入る丈の穴を掘つて其患部のみを湯に浸して療治すると云ふ事である。

四萬溫泉　群馬縣吾妻郡澤田村四萬。

前記澁川驛の西北四〇粁一、自動車約一時間半、乘合片道一圓五〇錢（六回）省線と連絡切符發賣する（片道一圓三五錢、往復二圓六〇錢）貸切八圓、中條町から一六粁八、貸切四圓、乘合八〇錢、澤渡から一六粁三、貸切四圓、バス七〇錢、四回。

溫泉は新湯を中心として下流に山口、上流に日向見あり之等を總稱して四萬溫泉と云ふ。地は海拔七六〇餘米、山巒四周、西に高野東に水晶の翠巒繞り、四萬川、新湯川、日向見川の溪流美と秋季に於ける紅葉の美觀と旅館の設備と相俟つて、上毛溫泉中の白眉として、伊香保・草津と竝稱せられ、療養的溫泉地として知られてゐる。溫泉は無色透明の弱食鹽泉で、溫度五四度乃至八五度、胃腸病・リウマチス・婦人病に特效があり、蒸風呂、痔蒸しの設備や、プールの設けもあり、旅館の內湯の外に河原の湯・鹽の湯・上の場・天然風呂がある。

〔旅館〕田村賽陵館（電四萬五・六・七・三二一、室二二六、一泊二圓半—五圓、㊐三圓）、積善館（電同二・三・四、室一七六、一泊同上、㊐三圓）（以上新湯）、山口館（電同八・一一、室八六、一泊二圓—四圓、㊐三圓）、鍾壽館（電同一〇、室七二、一泊同上、㊐三圓）、四萬館（電一二、室六九、一泊同上）、（以上山口）、三木屋（電同一七、室二六、一圓二〇錢—三圓）、日向館（電同一五・二五、同上）、豐島屋（電同一六、室一七、同上）、玉泉館（電同三一）。

〔附近名所〕霧滿ケ淵・澁紙泉・楓泉峽などあり、新湯川、日向見川の上流には瀑布多く、中に摩耶ケ淵・小倉の淵・神仙の淵等有名である。日向見の藥師堂は鎌倉時代の建築で國寶となつて居る。

四萬から山越に草津へは二八粁徒歩七時間、法師へは一一粁半、徒歩五時間（二二八頁參照）の山道があり、共に殆ど一本筋の道である。

澤渡溫泉　群馬縣吾妻郡澤田村上澤渡。前記澁川驛の西北三二粁七、自動車一時間二〇分、乘合一圓二〇錢（一日四回）、貸切七圓。

地は秋葉、有笠の翠巒に挾まれ、蛇野川がその間を緩流して居る海拔七〇〇米の地にあり、療養地として適して居る。溫泉は無色透明の鹽類泉で、溫度五二度內外、皮膚病・神經諸病・婦人病・花柳病などに效がある。

〔旅館〕福田屋、龍鳴館、萬屋、丸本、虎屋、新叶屋、一泊一圓二〇錢乃至二圓半。

川原湯溫泉　群馬縣吾妻郡長野原町川原湯。

▲澁川驛の西約四〇粁一、自動車一時間半、乘合一圓五〇錢（一日九回）、貸切八圓。（省線と連帶券發賣する、片道一圓三五錢往復二圓六〇錢）

▲草津からは東南約一九粁三、自動車五五分、乘合一圓二〇錢（一日七回）、貸切七圓。

無色透明の硫黃泉で、三ケ所から湧出し、溫度七一度、皮膚病・子宮病・胃腸病・リウマチス・神經痛等に效がある。地は金鷄山の中腹、吾妻川の溪谷を左にする勝景の地で關東耶馬溪として世に知られて居る。東の入口の八場大橋千歲新橋の大鐵橋及び溫泉場の西二粁餘に架けられた辨天橋は共に溪流を眺むる勝地で其他周圍五〇尺もある神代石獅子宮の瀧、坂上村の仙人窟など杖を曳くべき名所がある。

〔旅館〕敬業館（電川原湯六、室五〇、一泊二圓—四圓、㊐三圓）、山本館（電五、室三〇、一圓半—二圓半）、養壽館（電二一、室三〇、一圓半—三圓、㊐一圓八〇錢）山木屋（電四、室一〇、一圓半—一圓）柏屋（內湯なし、高田屋（同上）自炊向）、

鳩の湯溫泉・藥師溫泉　群馬縣吾妻郡坂上村本宿。高崎驛から自動車乘合一圓五五錢（一日四回）、又は澁川驛から原町、大戸を經てバス片道一圓四〇錢。地は溫川の流に臨んだ靑巒四周の地である。溫泉は炭酸泉で、四三度、痔疾、座骨神經痛に特效がある。

〔旅館〕三鳴樓（室一二）、湯元館、一泊一圓二〇錢—三圓。

松の湯・川中溫泉　群馬縣吾妻郡岩島村。澁川から前記川原湯に向ふ途中川中迄約三三粁、自動車一時間二〇分、一圓二〇錢。そこから右折する事約半粁の所に松の湯、一粁三の所に川中溫泉がある。共に鹽類性硫黃泉で溫度三五度、浴用加熱す。皮膚病・胃腸病・腺病・婦人病・花柳病・呼吸器等に效があると云ふ。

〔旅館〕松溪館（松の湯）、鳳鳴館（川中）、一泊一圓乃至二圓位。

大塚溫泉　群馬縣吾妻郡名久田村大塚。澁川驛から北二八粁、途中二三粁の中の條迄自動車四〇分、又は電車で一時間二〇分、三六錢。中の條から北へ名久田川を溯ること約五粁。硫黃泉で皮膚病・腺病・梅毒・リウマチス等に效があると云ふ。

〔旅館〕金井旅館一戶、一圓—二圓位。

鹽川鑛泉　群馬郡小野上村鹽川。澁川驛から約一一粁、自動車五〇錢。吾妻川の左岸に沿ふた景勝の地で、火傷及一般皮膚病に效くといふ。

〔旅館〕高田館一戶（室八、一泊一圓位）

我樂目嬉鑛泉　群馬郡相馬村。高崎驛—箕輪町九粁七、自動車三〇分、乘合片道三〇錢、往復五〇錢、一時間毎。前橋驛—箕輪町間一一粁三、自動車三五分、乘合片道三〇錢往復五〇錢、一時間毎、箕輪町から相馬ケ原金明水迄約六粁、貸切り五人乘一圓半。金明水からガラメキ溫泉迄徒歩約四粁。或は伊香保の南約六粁（馬馬三圓位）、また榛名山ケーブル終點ヤセオネ峠から搭白峠を經て約四粁下つて行く道もある。地は相馬ケ岳の東南麓にある無色透明の鹽類泉で火傷・皮膚病・梅毒等に效がある。

〔旅館〕富士見館（室八、一泊八〇錢—二圓）、阿蘇山館（室六、一泊八〇錢—一圓半）、の二戶。

總社鑛泉　群馬郡總社町。前橋市から三粁餘、上越南線群馬總社驛から約三百米、利根河畔にあり、北東に近く赤城の秀嶺を望んで風光がよい。赤褐色の弱アルカリ性鐵泉で、リウマチス・神經痛・胃腸病・婦人病等に效がある。

〔旅館〕總社館、千歲亀。一圓半—二圓。

川場溫泉　利根郡川場村。沼田驛の東北一三粁、自動車乘合片道六〇錢、四〇分（一日三回）。（上野—沼田汽車三時間、三等片道二圓八錢）無色透明の鹽類泉で三八度、昔から脚氣川場と云はれ、脚氣・リウマチスに特效がある。〔旅館〕關、山市屋。二圓—二圓半。

川場への途中二粁許り手前薄根川の畔に鹽河原鐵泉があり、婦人病、創傷に效があるといふ。また川場から東北二粁、薄根川の上流に小住溫泉がある。

老神溫泉　利根郡東村老神。同上沼田驛の東北一六粁、大原新町まで自動車あり（乘合片道一圓、往復一圓六〇錢、貸切五圓）、街道から右へ六、七百米離れた片品川の溪を下る、徒歩一粁三。硫黃泉で花柳病・皮膚病に特效があり、旅館には內湯がない。

〔旅館〕朝日館（電追員一四）、上田屋、老神館（電追員一三）、上の湯元館（電同上）、下の湯元館（電追員一二）、末廣館、山口館、榮屋。一圓半—二圓別に白雲閣には赤城溫泉、關場館には關場溫泉があり專屬浴場を有して獨立してゐる。

穴原溫泉　利根郡東村穴原。前記老神の對岸にあり、同じく硫黃泉で四六度、リウマチス・花柳病・皮膚病に效く。

〔旅館〕東秀館（電追員二四、室一六、一圓半—二圓、自炊五〇—七〇錢）。

白根溫泉　利根郡片品村。同上沼田驛の東北三六粁、追員を經て自動車の便あり一圓半、一六七頁參照。

湯宿溫泉　利根郡新治村布施。後閑驛の西北約八粁、自動車約三〇分、乘合片道三〇錢、往復五〇錢（一日七回）貸切一圓半（上野—後閑汽車三時間一四分、三等片道二圓一四錢）途中赤谷川に沿ふて走る三國街道の月夜野橋を渡つた所に義民磔茂左衞門を祀つた地藏堂があり（領主眞田氏の苛政を憤慨して將軍に直訴し、終に磔刑に處せられた人、下新田には鹽原多助の墳墓、紀念碑があり、生家は愛馬寄との別れ松と共に今も殘つて居る。

溫泉は無色透明の弱鹽類泉で溫度六〇度、胃腸病・婦人病・リウマチス等效

があると云ふ。

〔旅館〕金田屋、湯元館、常磐屋、大瀧屋、太盛館、一泊八〇錢—一圓半。

笹の湯溫泉　利根郡新治村鹿ケ京。前記後閑驛の西北一一粁餘、自動車四五分、乘合六〇錢（一日數回、往復一圓、貸切三圓。

前記湯宿から赤谷川に沿うて上流四粁、赤谷川の奇勝相生橋下の風景美の地を占めて居る。溫泉は鹽類泉に屬し六〇度位、もと眼疾に效くと云ふ微溫湯のみであつたが、近年上流約半粁の湯島溫泉から熱泉を引いた。胃腸病・リウマチス・婦人病に效がある。

〔旅館〕相生館（室二一、二圓、二圓半、㊐二圓）。

湯島溫泉　前記笹の湯から北へ徒歩約半粁。

赤谷川の流に臨んだ所にあり、溫泉は鹽類泉で八八度、湧出量頗ろ多く、胃腸病・婦人病・脚氣に效がある。別に近くに見晴溫泉がある。

〔旅館〕桑原館一戸（五五室、普通一泊一圓—二圓半、㊐二圓）。

川古溫泉　利根郡新治村赤谷道。前記笹の湯から北へ徒歩四粁餘、赤谷川の上流海拔九〇四米の地にあり、旅館は木賃式の茅屋一戸、（室九、一泊八〇錢—一圓二〇錢）溫泉は鹽類性硫黃泉で九〇度弱、腫物に特效があると云ふ。

法師溫泉　利根郡新治村法師。前記後閑驛の西北二二粁、湯宿、笹の湯を經てゆく。後閑驛—鹿ケ京間一二粁は坂東自動車の大型バス一日七回往復す、所要約四八分、乘合片道六五錢。往復一圓一〇錢、貸切五人乘三圓。鹿ケ京—法師間約一〇粁は夏季中に限り小型自動車不定期運轉す、所要約四〇分、乘合片道六〇錢。後閑—法師間貸切六圓。

地は上越國境三國峠の南麓、大利根の支流赤谷川に注ぐ西川の溪流に臨み、海拔八〇七米、四面全く翠巒に圍まれた閑寂境である。

溫泉は弘法大師發見の傳說を傳へて法師の名を負ひ、河床の一部に浴場を設けた原始的なもので、泉質は單純泉で玲瓏玉の如く清澄無比、旭の湯、壽の湯に分れ、旭の湯は腦病、眼疾によく、逆上引き下げに特效があると云はれ、壽の湯は胃腸病・リウマチス・婦人病に效くといふ。

〔旅館〕長壽館一軒（室五〇、普通一泊一圓半—四圓、㊐二圓）。

附近には箱淵、大鮫若塚、明治戊辰役古戰場、百間瀧、三國權現瀧等の名所がある。權現祠は三國峠上にあり、溫泉場から登り四粁二、峠は上越國境の分水嶺で海拔一、二四四米、此處から遙かに日本海が雲烟模糊の彼方に眺められ淺貝、貝掛溫泉を經て（二三〇頁參照）湯灘溫泉に出られる、行程約三三粁、此の道は所謂三國街道で、往時は長岡、新發田、與板城主などの江戸への參勤の折通行した道で、健脚者には興のある行路である。三國峠附近は冬獵期には兎、山鳥の獲物が多く、秋の茸狩によく、また溫泉場への途中、西川に沿うて八粁の間は紅葉の美觀が實によい。

尙法師入口から赤灘林道を約一一粁半、五時間で四萬溫泉に出る事も出來る。法師—赤灘峠間六粁、上り二時間半（下りは二時間）、赤灘峠—日向見溫泉入口間四粁、石楠木尾根を下る、二時間（上りは二時間半）、それから四萬迄一粁半、三〇分位。此の林道は半日行程に樂な山旅で、新綠・紅葉が殊によい、途中數ケ所に休憩所がある。

上牧溫泉　（上野—上牧汽車三時間二五分、三等片道二圓二五錢）溫泉は石膏泉苦味泉で、三八度、リウマチス・神經痛・皮膚病に效く。

利根入諸溫泉の關門をなす所で、清流に沿ひ、溪谷美に富み、夏は避暑によく、奉秋の蕨狩や茸狩を兼て附近利根溪谷諏訪峽の探勝に、また高橋お傳の生家、白木屋お駒の墓を探るのも一興である。冬季は溫泉場から一粁の上牧スキー場の好スロープがあり、又西方四粁の大峯・吾妻郡山麓一帶約五〇萬坪の大峯スキー場は山岳スキーの好適地である。

〔旅館〕辰巳館（利根郡古馬牧村上牧。上牧驛の北方二二〇米、室三三、一泊一圓半—二圓半。大室館（利根郡桃野村石倉。驛の北方三三〇米位、室一五、一泊一圓半—二圓半）。

尙驛から東四粁に奈女灘溫泉があり、神經痛・リウマチスに效がある。

湯原溫泉　利根郡水上村湯原。水上驛の南八〇〇米、驛側の小日向溫泉迄自動車で行く、乘合一〇錢、貸切五〇錢。（上野—水上汽車三時間三五分、三等片道二圓三一錢）

利根川西岸の最勝地を占め、水上橋を以て左岸の小日向と相通じてゐる。溫泉は弱鹽類泉で五八度、リウマチス・胃腸病に效がある。

〔旅館〕菊富士ホテル（電湯原一〇、室二三、一泊一圓半—四圓、㊐二圓半）、藤屋（電二〇、室一一、一泊一圓半—三圓、㊐二圓半）、古屋（電同七、室四〇、一泊二圓—五圓、㊐和三圓洋四圓）、白雲館（電同三九、室二〇、一圓半—三圓）、米屋（電同三二、室一〇、同上）、大國屋（電なし、室一一）

小日向溫泉　利根郡水上村小日向、水上驛の南約七百米、自動車乘合一〇錢。

利根川を挾んで前記湯原溫泉と相對してゐるので附近の風光など湯原と大差ないが、溫泉は弱鹽類泉で六〇度、皮膚病に特效があると云ふ。

〔旅館〕水上館（電湯原三七、室二六、一泊一圓半—三圓半、㊐二圓半）。

大穴・鵜の瀨溫泉　利根郡水上村、水上驛から七〇〇米—二粁半、乘合一〇錢—一五錢。

溫泉は無色透明の弱鹽類泉で胃腸病・婦人病・下痢症・リウマチス・脊髓病・腺病・諸神經病に效がある。

〔旅館〕奥利根館（電湯原二五、室二五、一圓半—三圓）、鳴瀧別館（電同一八、室二八、同上、㊐二圓半）、かの澤館（電同二・三、室二二、三圓—五圓、大廣間あり、㊐三圓）、蒼海ホテル支店（電二五、室一〇、一圓半—三圓）、山景館（室五、同上）、神峽樓（電ユビソ七、湯原五二、水上驛から二粁半、バス一五錢、一泊㊐三圓）。

谷川溫泉　利根郡水上村谷川、水上驛の西北二粁七、自動車貸切一圓二〇〇錢。

谷川岳の麓、谷川に臨んだ靜寂境で、溫泉は鹽類泉に屬し泉量豐富、玲瓏透明、溫度五四度、川向ふの「御裳濯の湯」は沼田の城主眞田家の姫君、孝貞院の治療せられた所と傳へ、婦人病に特效があるといひ、他に「目の湯」といふものもある。附近にはスキーの好適地がある。

〔旅館〕谷川館（電湯原三一、室五〇、一泊一圓半—二圓半、㊐二圓）、共盛館（室一五、一圓半—二圓半）、金盛館（電同二六、室一七、一泊一圓半—二圓半、㊐二圓）。

寶川溫泉　利根郡水上村寶川。水上驛の東北約一九粁、途中大穴迄二粁の間自動車の便があり、利根本流に沿うて溯ること一七粁、それから支流寶川の上流二粁の地にある。默馬二圓。但今秋頃には湯檜曾驛から溫泉場の二粁手前まで自動車路開通の豫定である。無色透明の鹽類泉で、溫度六五度、眼病・腦病・痼氣・婦人諸病等に效があるといふ。

〔旅館〕木賃式の汪泉館一戸（室一一、一泊八〇錢—一圓二〇錢。

湯の小屋溫泉　水上村湯の小屋。前記寶川溫泉から東北四粁徒歩の地にあり（今秋迄に六粁手前の所まで湯檜曾から自動車路開通の豫定）、峻嶺重疊してゐる文珠岳の麓、海拔七六〇米の地で、五、六月の候櫻花一時に開く仙鄕である。世に蕨原鄕と呼ばれる傳統的美人鄕は卽ち此の附近であるといふ。溫泉は清澄な鹽類泉で泉量豐富、溫度五四度、腦病・皮膚病・胃腸病・リウマチス等に效があるといふ。〔旅館〕湯元館（室五、一泊一圓）一戸。

湯の花溫泉　利根郡水上村。前記寶川から利根本流に沿うて一六粁溯つた所にあり、利根最奥の湧泉地で、その間溪谷の美は實に秀拔であるが、惜しい事に旅館がない。但し一軒の山小舍があるから食料、蒲團、鍋釜を持參すればその小舍で寢起きが出來る。溫泉は鹽類泉で六〇度許り、效能は寶川と同じであるといふ。

湯檜曾溫泉　利根郡水上村湯檜曾。湯檜曾驛から坂路約一〇〇米下る又は前記水上驛から約四粁、列車毎に自動車の便もある（一〇分、片道二〇錢、貸切一圓）（上野—湯檜曾約四時間半、三等片道二圓三九錢）

地は清水峠の入口で、此處から約二粁上ると有名な清水大トンネルの入口がある。利根川の支流湯檜曾川に臨み、後方には上越國境の群山連り、空氣清く、靜寂の境で、療養・遊覽・登山及スキーに好適の地である。溫泉は昔陸奥

の豪族安倍貞任が此の地に逃れて發見したものと傳へ、湧泉豐富で、旅館の設備も比較的整つてゐる。

上越線の湯檜曾驛は溫泉の後山のトンネル内でループ式となり、トンネルを出た所にあり、今迄走つて來た線路が俄に眼下に瞰下されるので一種奇異の感を抱かしめる。附近は狩獵に適し、山鳥や雉の獲物が多く、冬期は土合、大穴等の好スキー場が近くにある。（水上―湯澤驛間の乘車券所持のスキーヤーは土合信號所で乘降する事が出來る。湯檜曾―土合間約三粁半）。

溫泉は無色透明の鹽類泉で、泉溫六五度、胃腸病・婦人病・腦病・神經痛等に效がある。

〔旅館〕本家旅館（電湯檜曾二、室三〇、一泊二圓―三圓、㊥二圓半）、林屋（電同八、室一七、同上）（以上内湯及貸スキーあり）、小林屋（室五、一圓半―二圓。内湯なし）。

湯澤溫泉　越後湯澤驛から西北へ約一粁、自動車五分、乘合五錢、五人乘一臺五〇錢。尚急行列車停車驛の石打驛前三〇〇米の石打村から自動車がゆく、所要二〇分（六粁）、乘合一七錢（八回）。

上野―越後湯澤間約五時間四〇分、三等片道二圓六八錢。

地は溫泉岳の麓、海拔約三六〇米の所にあり、東に飯士山の秀峰聳え、遙かに上越國境の太源太、七ツ小屋、茂倉、萬太郎、谷川富士などの連峰を眺め、魚野川の淸流を見下して環境雄大である。溫泉は千年以上の昔に發見されたものと傳ばり、無色透明の單純泉で、溫度約四〇度、中風・痛風・リウマチス・胃腸病・性病・貧血諸症に效があると云ふ。

〔旅館〕高半（電湯澤九、室五〇、大廣間及貸切湯あり、㊥二圓半）、湯澤ホテル（電四四、室二五、舞臺付七〇疊の大廣間及内湯、家族風呂がある、㊥二圓）、中屋（電一四）、碇屋（電二五）、岸野（電三三）、福泉（電四七）、西仁（電二八）、富士屋（電三七）、松月（電一九甲）、井仙（電二九）、末廣（電一九乙）、玉泉、廣川屋、熊野館（以上一泊一圓半乃至三圓。何れも内湯がある）。

此處は以前は三國街道の驛路にあたり、その旅人の疲勞を慰す處として相當賑はひ、山間にある割合に昔から人に知られた處で、今も當時の宿驛の建物が殘つてゐる。

附近には諏訪公園、瀧澤の瀧、藥師堂、百體觀音があり、溫泉の裏山に續く「布場」はスキー場として知られて居る。此の地方は妙高山麓や高田地方と同じく、日本有數の降雪地で、一二月下旬から四月上旬まで約三米以上の積雪があり、奥地上越國境に近づくに從つてその量を增し、到る處スキーの好スロープがある。大峯山麓の布場は初心者によく、熟達者には大峯山（一一七〇米）の山森歩道も面白く、附近の山々や苗場山へのスキー登山は、最も興味あるものである。また淸水峠又は蓬峠を越えて、土合又は湯檜曾方面へのスキー旅行は、山好きの人々の捨て難いプログラムである。

湯澤から三國峠の北麓淺貝まで約二〇粁、途中約一二粁の所に眼疾に特效のある貝掛溫泉がある。

貝掛溫泉　新潟縣南魚沼郡三俣村。越後湯澤驛から約一二粁、自動車五〇分、乘合四五錢（一日四回）、貸切四圓半。地は苗場山の麓（頂上迄一六粁）、淸津川の左岸勝澤川の落口に當つて、風光がよく、淸津川沿岸の峽谷美は黑部以上との稱もあり、また櫻花及紅葉の美觀が特に勝れて居る。また三國街道に當つてゐるので、法師から三國峠越しの探勝者の疲れを醫するによい所である。冬季は向山及萱月スキー場の好スロープがある。溫泉は無色透明の鹽類泉でま、微溫ではあるが眼病に卓效があるので賑はつてゐる。其他腦病・ヒステリー・呼吸器病等にも効がある。

〔旅館〕茂木館一軒、室一四、一泊一圓半、二圓、二圓半。

此處から三國峠の麓淺貝まで約一二粁、湯澤驛から此處まで貸切自動車を通ずる事が出來る。五人乘一臺九圓、淺貝から三國峠迄上り約六粁、徒歩約二時間、夫から法師溫泉迄下り約四粁、徒歩一時間位。

赤城登山日程案（東京から二日）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發前 八・〇五		▲上野―前橋間二時間五四分（一一一粁一二）三等片道一圓六七錢
	前橋驛	着前 一〇・五九 發前	高崎廻リ小山及新潟行列車 下車 乘合自動車	〔註〕淺草雷門驛カラ東武電車ノ便モアル。雷門―中央前橋間電車、三時間餘、中央前橋驛―箕輪間自動車五〇分、箕輪―赤城大洞間徒歩約一時間半。赤城神社―二ノ鳥居間下リ約一時間半、二ノ鳥居―新大間々驛間自動車一時間半。赤城神社―二草雷門間電車二時間餘。以上廻遊券割引三圓六〇錢。通用五日間、新大間々驛―淺草雷門間電車二時間餘。以上廻遊券割引三圓六〇錢。通用五日間、六月カラ一〇月末迄發賣。東京ヲ早朝ニ起テバ日歸リモ出來ル。
	箕輪驛	發前	徒歩	▲前橋驛―新坂下間約二二粁五、自動車五〇分、乘合一圓二〇錢、貸切六圓。
	赤城大洞	着後	遊覽、宿泊	▲新坂下カラ山上ノ新坂平迄登リ約半粁、ソレカラ大沼南岸ノ大施迄下リ二粁。大沼湖畔ノ旅館　赤城館猪ヶ谷（勢多郡富士見村大字大洞、大沼湖尻、室三〇、收容三〇〇、㊥一圓八〇錢）、青木（勢多郡富士見村大字大洞、赤城神社附近、室八、八〇人位收容、㊥二圓）、宿泊料三圓、二圓半、二圓、一圓五〇錢、（團體及滯在客ニハ一割乃至二割引アリ）
第2日	赤城山	發午前	徒歩	▲大洞―梨木鑛泉間九粁八、徒歩二時間餘。
	梨木鑛泉	着午前	書食、一浴	【梨木鑛泉】赤城ノ東南麓海拔四五〇米、山光水色ノ美ト展望廣濶ノ境地ニアル泉質ハ無色淸澄ニシテ少シク蟻味ヲ帶ブ食鹽炭酸泉デ浴用加熱ス。内用スレバ胃腸ト便祕ニ利キ、浴用ニハ慢性ノカタル、婦人病、癤癧、呼吸器病等ニ效ガアル。
	上神梅（カミカンバイ）驛	發午前	徒歩	〔旅館〕梨本館（電水沼七番、室一〇六アリ六百人ヲ收容シ得。宿泊料一圓―二圓。滯在八〇錢内外。自炊一日三五錢内外）
	桐生驛	發後四・二	桐生行列車	▲梨木―上神梅驛　徒歩四粁五、乘馬賃一人乘八〇錢、二人乘一圓二〇錢
	小山驛	着後 四・五八 發後 五・二六	乘換 小山行列車	▲上神梅―桐生―小山―上野五時間（一四二粁三）三等二圓八錢。
	上野驛	着後 六・三八 發後 七・五二	乘換 上野行列車	高崎廻リハ上野着後九・一七、三等二圓二一錢。
		着後 九・二五	歸宅	

旅行費用概算　二等 一五・五〇圓　三等 八・七五

内譯
（汽車賃上野―前橋間二等三圓三四錢、三等一圓六七錢、上神梅―上野間二等四圓二六錢、三等二圓八錢、旅館一泊二等三圓、三等二圓、食事料、自動車其他費用トシテ概算二等五圓、三等三圓ヲ計上ス）

赤城山　前橋の北方に聳ゆる二重式火山で、外輪山は最高峰の黑檜山（海拔一、八二八米、上毛三山中の最崇壞にして山頂闊濶、四顧十三州の山河一眸の裡にあり）から駒ケ嶽（海拔一、六八九米）、長七郎山（海拔一、五七九米）前淺間（海拔一、四八〇米）桑柄山（一、五六二米）藥師岳（一、五二四米）を連ね、再び黑檜山に至る連峰で略楕圓形を呈し、その圍繞する所東西三粁半、南北四粁半、その中には大沼の火口原湖を湛へ、地藏岳（一、六七三米大洞湖畔から凡そ一粁三。山頂の展望亦廣闊。高山植物多く腹籠には地藏ノ湯、牧場等がある）の中央火口丘が噴起して居る。

赤城は妙義、榛名と共に上毛三山として有名であり、殊に三山中最も幽邃且つ眺望美に富み、また白樺や楢の林に出沒する放牧の姿や、一〇月初旬から初まる紅葉の美しさは幾度行つても佳い所である。（大沼湖畔は夏季は天幕を連ねてキャムプを試みるに申分なく、冬はスキー、スケートの絕好地である）。

大沼（オノ）は地藏岳の北麓にあり東南より西北に長く、長徑一粁半、短徑之に半し東岸に近く小島ケ島がある。湖面は海拔一、三二〇米、湖の東南隅の湖畔を大洞と稱し、此處に赤城神社がある。湖水は西北隅から沼尾川の火口瀨によつて桑柄山の北に於て外輪山を破り、急瀨をなして西流して利根川に注いで居る。また地藏岳の東南麓、大洞の南一粁半の所に小沼（コノ）がある。畠生的に噴出した火口に水を湛へたもので、直徑四〇〇米、略圓形をなして居る。その水は南に排出し、小沼川の火口瀨となつて外輪山を突破して瀧澤大瀧を懸けて居る。

外輪山の外側には黑檜山の北に小黑檜山（一、六四六米）、桑柄山の西方に鈴ケ岳（一、五六五米、大洞から約四粁、往復三時間を要する、險岩峨々、登路險嶮にして鐵鎖による所がある）前淺間の西南に荒山（一、五七二米）鎌刺山（一、三三三米）などが聳えて麓を外、裾野を長く曳き、輻射谷は可なり發達して、多くの登山路はその中に通じて居る。また南側の斜面には湯の澤、瀧澤、梨木の三鑛泉、西側には地藏鑛泉が湧出して居る。

〔登路〕前橋口・敷島口・沼田口・岩宿口・水沼口・大間々口などがある。

「前橋口」「大間々口」前記日程案備考欄參照。

「敷島口」この沿道は沼尾川の溪流に溯つて登るので、秋は紅葉の美殊に勝れ、景又雄大である。上野―敷島（上越南線）連急行で二時間四〇分（一二八粁九）三等片道一圓八九錢。それから大洞迄約一三粁、徒歩五時間、乘馬賃片道二圓往復三圓半、登山案内料片道一圓半。

「水沼口」足尾線水沼驛から大洞迄約一二粁半、外輪山の一部、畠居峠（海拔一、三九三米）迄上り約一一粁、それから大洞迄一粁餘は殆ど平坦である。

赤城山スキー、スケート場　赤城の山頂附近は標高が高いので一二月から三月迄一米内外の積雪があり、雪質が良好なので大沼を中心として隨所に好練習所を見出せる。附近に大小三個のジャムプ臺があるが、地藏岳東南面のものは最も大きく、現在では日本で最も理想的なものと云はれ、五五米位の飛躍が出來る。湖畔の旅館には數十臺の貸スキーもあり、乾燥場の設備もある。赤城は結氷期が早く、氷の質も非常に良いので、スケーターの理想鄕である。晝濕湖は一一月中旬から全面結氷し、小沼は稍遲れて一一月下旬結氷、大沼は全面に結氷を見るのは一二月下旬である。積雪も少いので三月乃至四月上旬まで完全にスケートが樂まれる。

前橋市　上野から高崎廻り汽車二時間五〇分（一一一粁二）、三等一圓六七錢、同小山廻り三時間二五分（一五八粁九）、三等二圓二九錢。

市は群馬縣の南部、利根川の左岸に位し、行政商業の一中心をなして居る。もと松平氏一七萬石の城下で、越後と下野の交通の要路に當り、上毛生糸市場の中心地たなし、製糸業が盛んである。人口八四、四五六（昭五・一〇調）群馬縣下第一の都邑で、本町、堅町、立川町一帶は市内の主要商店街である。

〔旅館〕白井屋（本町、驛から九〇〇米、電前橋一〇二、一泊三圓―一〇圓、㊐三圓）、油屋（本町、驛六〇〇米、電二二五・二二九、二圓半―五圓、㊐二圓半）

〔名所〕▲前橋公園　驛の西北二粁、舊城址で利根川に臨み、上毛三山及淺間の噴煙を望む。▲二子山古墳　驛の東南二粁半、市外天川町の畑中にあり規模の雄大な代表的前方後圓墳で史蹟に指定されて居る。

桐生市　群馬縣の東南に位し、足利、伊勢崎と共に機業地として名高く、織物、染織、製麻の會社工場が多く、また桐生高等工業學校がある。

〔旅館〕桐生館（本町）、藤文（本町）、東屋（本町）、駒蔵屋（本町）。

地名	發着時刻	記事	備考
上野驛	發前 八・〇五	小山及新潟行列車	▲上野―松井田三時間一七分（一二五粁六）三等一圓八六錢。
松井田驛	着前 一一・三三 發前 一一・三三	下車自動車又ハ徒歩	▲松井田カラ妙義神社前迄五粁五、（大部分上り道）（徒歩間道二粁餘、雑氷假橋ヲ渡ル、約三〇分。假橋ハ時々破損スル事アルヲ以テ驛ニテ確メテカラ行カル、事）。自動車妙義神社前迄乘合片道二〇錢、石門寄迄四〇錢（一日五回、日曜祭日は八回）　貸切五人乘一圓半。
妙義町	着前 正午	徒歩	【妙義町旅館】（群馬縣北甘樂郡）菱屋（室二六、㊐二圓）、東雲館（室八）、玉屋（室一四）。
妙義山	金洞山（中ノ岳）往復		妙義山の突當リ石段ヲ上リ妙義神社ニ參拜後境内カラ左折シテ一ノ濱、二ノ濱、葡萄園、山麓ヲ過グレバ道愈險嶮トナリ一名「へこたれ峠」ト云ハルル七曲リ峠ニ至レバ前面ニ金洞ノ諸峯、右ニ白雲山頂ト相對シテ相馬岳、鼓ケ岳ヲ望ミ、左ニハ金鶏ノ風穴、筆頭岩ナドヲ仰ギ見ル。更ニ登ルコト約二粁餘ニシテ一本杉ノ休憩所、金洞舍ニ達スル。麓カラ四粁ト云ハル。
妙義町	着後 發後	自動車	祭日は八回。
磯部溫泉	着後		▲妙義町―磯部溫泉八粁、自動車二〇分、貸切二圓半。
磯部溫泉	發後八時過	徒歩	磯部溫泉（二五四頁參照） ▲磯部溫泉場―磯部驛三三〇米。
磯部驛	發後 八・五八	汽車上野行最終列車	▲磯部―上野二時間四七分（一一九粁）、三等一圓七六錢。
上野驛	着後 一一・四五	歸宅	

旅行費用概算

二等	一五・二四圓	内譯（汽車賃ノ外食事料自動車料金其他費用トシテ二等八圓、三等五圓ヲ計上ス）
三等	八・六二	

妙　義　山

妙義山は榛名、赤城と共に上毛三山の一にして就中妙義は山勢秀拔、峨々たる奇峭天表に聳え、石門の妙景神斧鬼鑿を極め火山岩の奇秀を極め盡すを以て、普く人口に膾炙してゐる。妙義山は群馬縣の西部に位し、全山三峰に岐れその東南部を金鶏山、東北部を白雲山、西部を金洞山と呼び、ほゞ半圓形に彎曲する第三期層に屬する火山群で、その中央部にある窪地は舊時の噴火口であると云ふ。春、新緑の妙義に鶯の聲、夏、麓の若葉蔭に郭公を聞くも妙なれども、更に秋全山錦の粧をこらす紅葉の大美觀は他に得がたい趣である。紅葉期十月上旬から。

妙義山の臺地は第三紀層で、山體は荒船火山の一部を造る集塊熔岩の一部であるといはれるが、これらの熔岩は直立節理を存し、且つ岩質脆弱なるにより、ながの歳月風雨氷雪作用により、容易に峨々たる山峯を彫刻したもので、堅固なる岩塊の介在するにより、絶壁に近い傾斜面の瓦解が防がれ、今日の奇景を保存してゐるものである。

〔登路〕▲信越本線松井田驛口及磯部口（前記日程案參照）▲高崎から分岐する上信電鐵下仁田驛から上小坂まで約八粁（自動車二五分、乘合四〇錢、貸切二圓五〇錢）。上小坂から中ノ岳神社迄約三粁三、登り約一時間（緩坂）中ノ岳石門めぐり約二時間、一本杉から妙義町（急坂約六粁、二時間位。

〔登山案内料〕（妙義町から）▲白雲山大之字迄七〇錢、頂上迄一圓半。▲奥山廻り二圓半。▲金洞山中之岳迄一圓半、頂上迄二圓。▲金鶏山全山二圓半、筆頭岩は五〇錢增。▲妙義山縱走五圓。（以上八年六月調）

▲白雲山　妙義神社の背後に聳え、海拔一、一〇三米八に達し、甚だ急峻な傾斜をなし、山軸は南北に近く走り、絶壁面はその兩側の上部、特に東側によく發達して居る。その山頂は東方關東平野を展望するによい。

山麓妙義神社から急坂約一粁にて、大の字岩に出で、更に樂天岩を經て奥の院、四つ這等の難所を經て山頂に達す。往復三時間以上、五粁餘。

▲金洞山（中ノ岳）白雲山の西南にあたり、や、低き連峯で相連り、山軸は東西に走り、上部の絶壁面も之に沿ふて居る。その最高點は一、一〇四米に達し三山中最も高い。その山腹には數個の石門その他の奇岩があるので、それに登るものが多い。妙義町—山頂五粁、往復五時間位。

▲金鶏山　金洞山から東南に走る一枝脈で、山軸は略東南に走り、最高八五六米一で三山中最も低く、絶壁面の發達も他の二山には及ばないが、しかし何枚折かの屏風を立てたる如く、嶄立膝行尚難んずるが如き個所もある。妙義町山頂六粁、往復五時間位。

磯鑛鑛泉

群馬縣碓氷郡磯部町、信越本線磯部驛から半粁、自動車二〇錢。地は碓氷川の南に面し、榛名山を望み、西南一〇粁を隔て、妙義の奇峯を望み、淺間の噴煙を仰ぐ一望廣々たる桑園の中に位して居る。鑛泉はアルカリ性食鹽泉で湧出量豐富、浴用飲用共に胃腸病に特効があり、また神經諸病、リウマチス、婦人病にも効がある。湯はまた製菓の材料及藥用ともなる。浴用は加熱して居る。

此地はまた妙義の登山口にも當る。處から妙義登山者の休憩地として紅葉期には殊に賑はひ、また九、一〇月頃には此處から妙義山の展氣樓が見られる。

附近には佐々木盛綱の城址と傳へる城山、松岸寺（自動車二〇錢）があり、同寺には盛綱の墓、忠臣藏の大野九郎兵衛の墓と稱するものがある、また前記豐前神社へは六粁、自動車（四五錢）がある。

〔旅館〕磯部館（電磯部五、室四五、㊐三圓）、鳳來館（電同三・四、室四七㊐二圓）、林屋對岳樓（電一〇、室三一、㊐二圓半）（以上普通一泊一圓半—三圓）、團體一圓二〇錢）、長壽館（電一四、室一二、一泊一圓半—二圓半）、一新館（電二七、室二五、一泊同上）、小島屋（電二、室四一、一泊一圓均一）、旭館（電三一、室二〇、一圓均一）、東泉館（電一三、一圓—三圓）。

高崎市

上野から汽車二時間餘（一〇一粁四）、三等一圓五四錢。

市は群馬縣西部に於ける交通の要點を占め、生糸、生絹太綾繭の産出等が盛んで商況活潑、人口五九、九二八（五・一〇調）を有して居る。此地はもと大河内氏八萬二千石の城下で、その城址に今歩兵第一五聯隊の兵營があり、周圍に外濠が殘つて居る。

〔旅館〕信濃屋（新町八八、驛一二〇米、電一二四、室三〇、一泊二圓半—六圓）、豐田屋（八島町六八、驛一八〇米、電一三七、二圓—三圓）、安田屋（八島町六八、驛一五〇米、電六四八、一圓半—三圓）、田島屋（八島町一七、驛一五〇米、電六七四、同上）、上越館（驛前、電九二一、二圓—三圓）、錦山莊（石原町二八九二、電九一六、四圓—六圓）、堺谷（本町一ノ二八、電六三、室二二、二圓—三圓半）等。

〔名所〕▲高崎公園　驛の西南約半粁、城址の南隣にあり、内に舊城主大河内氏の祖源三位頼政を祀る頼政神社がある。▲清水觀音堂　西約二粁、郊外觀音山の中腹にあり、附近景勝第一の地である。養蠶の爲祈願するもの多く、花季及一月二日、一〇月一〇日の緣日には大いに賑はふ。

〔名物〕竹の子餅、鉢の木等。

黑瀧山不動寺

群馬縣北甘樂郡磐戸村、上信電鐵下仁田驛から一二粁、途中六粁の小瀧まで自動車がゆく、一五分、乘合二〇錢（一時間毎）、貸切五人乘一圓五〇錢。小瀧から黑瀧山迄六粁、上り一時間半。

西上州の一角、黑瀧山（八七〇米）の中腹俗氣を離れた幽邃境にあり關東高野顯寺となつた。寛延年間中興開山潮音禪寺の時伽藍備はり、朝廷諸侯の歸依を受け、黑瀧派と稱し末寺二〇〇餘に及んだ。今は諸堂宇荒廢し、就中庫裡方丈等は大破して目下修理計畫中との事である。

山中奇巖怪石多く、殊に日東、星中、月西の三岩最も奇拔である。その他三三觀音、九九谷などの勝があり、紅葉の頃は美觀を呈する。

四月二七・八日は不動尊大祭、一〇月二四日は開山忌が行はれる。

荒船山

下仁田の西、上信の國境に聳ゆる海拔一、四二二米五の大山で、之を東から仰ぐときは「船ノ南天ニ行ニ似タリ」と云ふので此の名がある と云ふ。山頂は幅八〇〇米、長さ一粁六程の安山岩の熔岩臺地から成り、之を志賀越方面（北側）から見る時は、その毒々しいまでに赤錆色をした怪奇な岩肌が顔る人目を惹いて居る。

〔登路〕下仁田から西牧川に沿ふて、木宿を經て小屋場から登るのと、下仁田から南牧川を遡つて羽澤から登るのと二つの道があるが、

「木宿口」下仁田驛—木宿—市野萱間約一五粁、自動車四〇分、乘合片道五〇錢、往復八〇錢（一日六回以上）、貸切五人乘三圓。

市野萱—荒船頂上約八粁、急坂徒歩約三時間。頂上艫廻り、舳の今日塚登攀約一時間半。

「羽澤口」下仁田驛—小澤—羽澤間約一五粁、自動車五〇分、乘合七〇錢、（一日三回）、貸切五人乘三圓。

羽澤—星尾峠約一〇粁、徒歩約二時間半。

星尾峠—今日塚（經塚）麓上り約一粁六、徒歩四〇分位。

神津牧場

物見山（一、三七五米四）山麓（群馬縣北甘樂郡西牧村）四方粁九六に亘る高原地帶を取入れた、素晴しく綺麗な牧場で、澄切つた碧空の下に陽光をあびて居る風物は、なんとも云へぬ親しみに滿たものであるが、冬の積雪期に於ても強い魅力を持つて居る所である。變化に富んだ、雄大なスロープをかつとばす直滑降の快は附近至る處に得られる。スキー季節は一二月下旬から翌春三月下旬頃まで、積雪量は年末で一米前後、一・二月で二米近くあり、雪質も全く乾粉雪で、木州のスキー場としては頗る良質のものである。

〔交通其他〕下仁田驛から本宿經由市野萱までバスがゆく、（荒船の項參照）市野萱から神津牧場本館まで約六粁（急坂あり）、徒歩約二時間（途中から約二粁はスキーが滑ける）。

神津牧場本館（收容人員六〇名）、一泊三食付一圓五〇錢。

〔神津牧場から荒船の縱走〕神津牧場—（急坂一粁六、三〇分）—物見山（降坂八粁、一時間半）—小屋場—（急坂二時間）—荒船頂上—（艫廻り經塚登攀約一時間半）—經塚麓—降坂一粁六、二〇分）—星尾峠分岐點—（降坂一二粁、三時間）—羽澤—（バス五〇分）—下仁田驛。

下仁田町（シモニタ）

群馬縣北甘樂郡、上信電氣鐵道の終端驛所在地で高崎から約一時間で達する（三三粁七）、三等片道七九錢。地は信州街道及妙義山裏登山口の要衝である。こんにやくの產地として知られ、また砥石、石灰、石材、木材、薪炭の產も多い。人口五、一九八（昭和五・一〇）附近に名刹黑瀧山がある。

〔旅館〕常盤館（電下仁田二二、室二四、一泊二圓—三圓、㊐二圓半、新杉原（電二〇、室一二、同上）、下仁田館（電三一、室一五、一圓半—二圓半。

淺間登山日程案（東京から一日）

地名	發着時刻	記事	備考
上野驛	前夜發後 二・五〇	米原行列車	▲上野―沓掛間五時間半（一四六粁三）、三等二圓一三錢。 ▲沓掛驛カラ淺間山頂迄約一三粁、登路ハ比較的容易デ婦女子ニモ安全ニ登ラレル。 登ラレル。
沓掛驛	着前 五・一九 發	下車 自動車又は徒歩	▲驛前ニまるや支店アリ、登山準備ガ出來ル、電輕井澤二二三、一泊料ハ一圓、二圓、二圓半 ▲沓掛驛カラ星野溫泉、千ケ瀧遊園地ヲ經テ、小淺間山南腹ニアル峯ノ茶屋迄約七粁ノ間自動車ガ通ズル、所要二五分、貸切五圓、乘合五〇錢（箱根土地會社草津行定期自動車）、此ノ道ハ輕井澤及沓掛カラ草津ヘノ街道デ、自動車ノドライブニヨイ道デアル。峯の茶屋ハ標高一、四〇六米デ、可ナリ眺望ガ開ケテ居ル。
峯ノ茶屋	發前	徒歩	淺間山頂ハ最モ平易ニ登レル山岳ノ展望臺デ、眺望ハ頗ル廣イ。東北ニハ遠ク日光及奥上州ノ諸山ヲ、近ク赤城、榛名山ヲ望ミ、北ハ草津白根山カラ四阿山ニ續ク峯々カラ稍西に妙高、戸隱山方面、西ニハ北アルプスノ連嶺屏風ノ如ク立並ビ、間近ニハ淺間カラ嶺續キノ黑斑、三方、湯ノ丸等ノ諸山ヲ望ミ、南ハ千曲川ノ谷ヤ上田平原ヲ俯瞰シテ八ケ岳、秩父カラ南アルプス、富士山ナドガ一眸ニ集リ、東南近ク妙義ノ奇峯及荒船火山ヲ見下シ、ソノ東ニ關東平野ガ俯瞰サレル。
淺間山頂	着 發		▲頂上―小諸驛一五粁、下リ四時間位（上リハ五、六時間位、乘馬賃火山館迄六圓半、案内料晝間二圓五〇錢、夜間三圓） 小諸口ハ勝地アリ、飲料水アリ、鑛泉アリ、小屋アリ、風景佳ニシテ又案内標札モ備ハツテ居ル。
小諸驛	着後 發後 四・二三	上野行列車	**山中ノ休憩宿泊所**　淺間館（驛カラ八粁、主トシテ休憩客ヲ扱フ）。淺岳ホテル（驛カラ八粁七、海拔一四〇〇米餘、眺望ヨロシキ地ヲ占メホテルノ百米手前ニ專屬ノしのぶ湯鑛泉ガアル。二食附一泊七五錢、泊リ丈ハ二五錢五百人ヲ收容シ得。朝二時頃出發スレバユツクリ御來光ヲ拜スル事ガ出來ル）。火山館（驛カラ一二粁餘、海拔一九〇〇米餘、胸突八丁ノ上百米程登ツタ眺望絶佳ノ地ニアル。泊リ丈ニテ三〇錢、二食一泊九〇錢。朝三時頃此所ヲ出發スレバ御來光ニアフ事ガ出來ル）。
赤羽驛	着後 九・〇二		

上野驛	着後 九・一七	歸宅

▲〔小諸ノ旅館〕鳥屋（電一二一番、二圓―三圓）、小諸館（電一三二）、菱屋（電四九）、小諸―上野間五時間〇七分（一六四粁七）、三等二圓三五錢。

旅行費用概算

	二等	三等
上野―沓掛	二・九六	一・四
沓掛―上野	六・九八	

内譯（汽車賃二等八圓九六錢三等四圓四八錢（備考欄參照）及食事費登山用品費トシテ二等三圓三等二圓五〇錢ヲ計上ス

MEMO

淺間山

淺間山は長野（北佐久郡）、群馬（吾妻郡）二縣に跨る三重式の活火山である。最舊の火口壁は僅に西方の一部を殘存し（二四〇五米の黑斑山及牙山がそれである）第二次の火口壁も西部が著しき隆起を示して前掛山（二五二一米）となつてゐる。現今の火口は卽ち第三次のものでお釜と稱し、直徑三五〇米の圓形を描き（深さ六〇米、其底は堅實な熔岩から成り、火口壁から墜落した岩塊が累積し、基底及側壁の裂罅からは絶えず水蒸氣、亞硫酸瓦斯、硫化水素瓦斯を噴出し、時には灰または砂礫を飛散することがある）その東邊が淺間山の最高點となつて海拔二、五四二米に達してゐる。

此の山は昔からの噴火山で、日本紀略に「天仁元年戊子、上野國言、廐間蜂燒、降砂礫灰燼、埋沒田園」とあり、昔から絶えず噴煙し、屢々破裂して灰を降らし、山麓に災害を及ぼしてゐる。中にも天明三年（紀元二二四三年、西曆一七八三年）の噴火は特に有名で、降灰は關東、東北の地方に及び、熔岩を北方へ押し流し、吾妻川を塞ぎ、續いて缺潰して利根川に流れ、沿岸諸村を滅ぼし、夥しい人畜の死傷を來した。火口の北にある「鬼の押出し」と稱するものは、その時流出したもので、熔岩流が長く延びて石塊の落々たる荒野になつてゐる。その熔岩は冷却の際表面に多數の龜裂を生じて「カルメラ狀」になつてゐるものがある。

山側には浮石、火山礫などが堆積し、麓には赤松の林があり、中腹以上は草木帶となり、山頂は新古の噴出岩のみである。裾野は南北の兩麓よく發達し南を追分原、北を六里ケ原と云ひ、山腹東方の小淺間山（一六五五米）、南腹の石尊山（一六六八米）は寄生火山であるといふ。

【登路】沓掛口、追分口、御代田口、小諸口などあり、何れも長所短所があるが、中でも追分口が比較的距離も短かくまた危險性も少い。

○沓掛口「小諸口」前記日程案の項參照。

○追分口　信濃追分驛（上野から片道三等二圓一七錢）から山頂迄約一〇粁。驛から六粁の石尊山麓まで貸切自動車がゆく（四圓）、それから山頂迄二時間位（下りは四〇分位）、登山案内料往復晝間三圓半夜間四圓半。追分宿は海拔約一、〇〇〇米あり、夏期避暑に適し、旅館本陣（室一一）、油屋（室三五）、がある、一泊一圓八〇錢、二圓、二圓半。

「御代田口」御代田驛（上野から片道三等二圓二五錢）から山頂迄約一一粁、上り普通三時間位。登山案内料朝出發二圓、夜出發二圓半。

〔御代田の旅館〕井桁屋（電御代田二五、室一一、一圓二〇錢―二圓）、竹屋（電四〇、一圓―一圓八〇錢）、料理兼業。

碓氷峠と八ヶ岳山麓めぐり（東京から一泊）

東京鐵道局「東京から一・二泊新遊覽コース」懸賞 一等當選コース

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一三・二〇	柏崎行列車	▲上野—沓掛間約五時間（一四六粁三） 「註」後三・〇五發ノ長野行列車ハ七・四一沓掛驛着デアル 上野—佐久海ノ口間三等二圓七八錢、二等四圓九一錢（沓掛—佐久海ノ口間三等）
	沓掛驛	着後 五・一三 發後	下車 バス又ハ徒歩	▲沓掛驛カラ星野溫泉迄約一粁半、バス一〇錢、貸切五〇錢。
	星野溫泉	着後	宿泊	**星野溫泉** 明星館（一泊㊁二圓八〇錢、二六三頁參照）
第2日	星野溫泉	發前		▲沓掛—小諸間汽車三九分（一八粁四） 「註」星野溫泉—小諸貸切自動車ニ依ルモヨイ。
	沓掛驛	發前 六・二五	自動車又ハ徒歩 長野行三等車	▲小諸—小海—松原湖—佐久海ノ口間一時間四〇分（三九粁五）賃六三錢（三等ノミ） 「註」十年九月ニハ小海南北兩線全通ノ豫定デアル
	小諸驛	着前 七・〇三 發前 八・二一	乘換 小海北線行列車	**松原湖**（二六三頁參照） ▲松原湖—佐久海ノ口間汽車一七分（五粁四）
	小梅驛	着後 九・二〇 發後 九・三〇	下車 下車遊覽	▲佐久海ノ口—野邊山原—念場ヶ原—清里驛（小海南線）間約一二粁、徒歩三時間餘。
	松原湖驛	着後 九・四四 發後 一一・五五	下車	▲清里—小淵澤間約四〇分（一七粁五）三等車ノミ。
	佐久海ノ口驛	着前 一・一二 發後 一・一五	徒歩	▲小淵澤—新宿間四時間一六分（一六三粁四）
	清里驛	發後 五・〇三	中央本線小淵澤行列車	清里—新宿間三等二圓五二錢、二等四圓八六錢（通用三日）
	小淵澤驛	着後 五・四〇 發後 五・四九	乘換 新宿行列車	

新宿驛	着後 一〇・〇五	歸宅	夕食ハ甲府ニテ汽車弁當。
旅行費用概算	二等 一五・五七圓 三等 一一・一〇	内譯	汽車賃 三等五圓三〇錢 二等九圓七七錢 宿泊料㊁一泊 二圓八〇錢 食事及自動車賃其他概算 三圓

上信高原溫泉めぐり（東京から一泊）

東京鐵道局「東京から一・二泊新遊覽コース」懸賞當選二等コース

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發前 七・一〇	水上行列車	▲上野—澁川間二時間四八分（一二二粁五）、三等一圓八二錢。
	澁川驛	着前 九・五七 發前 一〇・〇〇	下車 群馬自動車	▲澁川驛—川原湯—草津町間群馬自動車會社定期乘合（省線連帶切符發賣ス）ニテ二時間二五分（五九粁四）、運賃二圓四〇錢、一日七往復。
	川原湯	發前 一一・四〇		
	草津町	着後 〇・二五	下車、晝食	**草津溫泉**（二四四頁參照）クーポン中食券一圓三〇錢
	草津驛	發後 四・一〇	草津電鐵 輕井澤行	▲草津溫泉驛—新鹿澤溫泉口驛間草津電車デ五三分（一七粁六）賃六三錢。
	新鹿澤溫泉口驛	着後 發後 五・〇三	下車 自動車	▲新鹿澤溫泉口驛—新鹿澤溫泉間自動車四分（約一六粁）、乘合六〇錢。
	新鹿澤溫泉	着後	宿泊	**新鹿澤溫泉**（二六二頁參照）增屋、鹿鳴館、㊁一泊一圓半

旅行費用概算	第2日			
二等 一八・七五圓 三等 一四・三九 内譯（汽車及自動車賃二等一四圓二五錢、三等九圓八九錢 旅館一泊料㋑一圓五〇錢 食事料其他費用概算 三圓）	新鹿澤温泉	発前	自動車	
	鳥居峠	着前 発前	乘換 自動車	
	菅平口	着前 発前	乘換 自動車	
	菅平	〃	下車、遊覽	
	〃	発後	自動車	
	眞田驛	発後	二・三九	上田温泉電鐵
	上田驛	着後 発後	三・一五 三・三一	乘換 上野行列車
	上野驛	着後	九・一七	歸宅

▲新鹿澤温泉—鳥居峠—菅平口間自動車七〇錢、約一時間

▲菅平口—菅平間約六粁（六月カラ一〇月迄ハ眞田驛・菅平間乘合自動車ガアル）、自動車二五分、三〇錢。

菅　平（二六三頁參照）

▲菅平—眞田驛間約一二粁、自動車四五分、五〇錢（六月—一〇月迄一日四回）

▲眞田驛—上田驛間上田温泉電鐵ニテ三六分（一二粁八）、四〇錢。

▲上田—上野間五時間四六分（一八二粁七）、三等二圓五四錢。

上越温泉と平穏温泉めぐり日程案（東京から二泊）

東京鐵道局「東京から一・二泊新遊覽コース」懸賞一等當選コース

日程	地名	発着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	発後 一・五五	新潟行列車	
	水上驛	着後 六・二	下車、水上温泉ニ一泊	

▲上野—水上驛間四時間一六分（一六〇粁五）、三等二圓三一錢

水上温泉（二四九頁參照）

クーポン指定一泊二圓五〇錢乃至四圓。

旅行費用概算	第2日			
二等 二五・五圓 三等 一七・三九 内譯（汽車及電車賃三等九圓三四錢、二等一五圓四六錢 旅館二泊料㋑三等五圓、二等七圓 食事料其他費用概算 三圓）	水上驛	発前	九・五七	
	越後川口驛	着後 発後	〇・一四 〇・一八	乘換 十日町行列車
	十日町驛	着後 発後	一・〇二 二・〇五	乘換 飯山鐵道
	飯山驛	着後 発後	五・二〇 五・二五	下車 徒歩
	信濃安田驛	発後	六・三六	長野電鐵
	信州中野驛	着後 発後	六・五六 七・〇四	乘換 長野電鐵
	湯田中驛	着後	七・一九	下車 平穏温泉一泊

▲水上—越後川口間二時間一七分（八三粁七）。

▲越後川口—十日町間（十日町線）四四分（二一粁四）、三等車ノミ。

上野—水上—越後川口—十日町間三等三圓四二錢、二等六圓六二錢（二六五粁六）

▲十日町—飯山間飯山鐵道（ガソリン車併用三等車ノミ）ニテ三時間一五分（五六粁一）、賃一圓五七錢。

▲飯山—信濃安田驛（長野電鐵）間約一粁六、自動車一〇錢（一四同）、貸切五〇錢。

▲信濃安田—信州中野間（長野電鐵木島線）一八分（一一粁四）、三二錢。

▲信州中野—湯田中間長野電鐵ニテ一五分（七粁六）、二二錢。

平穏温泉（二六五頁參照）。

クーポン指定一泊二圓五〇錢、三圓。

旅行費用概算	第3日			
二等 二五・五圓 三等 一七・三九 内譯（汽車及電車賃三等九圓三四錢、二等一五圓四六錢 旅館二泊料㋑三等五圓、二等七圓 食事料其他費用概算 三圓）	湯田中驛	発前	一〇・〇五	
	善光寺下驛	着前	一一・〇五	長野行電車 下車 善光寺參拜
	長野驛	発後	二・二六	上野行列車
	上野驛	着後	九・一七	歸宅

▲湯田中—善光寺下間長野電鐵ニテ一時間（三一粁五）、賃八九錢（凡一時間毎ニ發、善光寺ヘ約半粁。

善光寺（二六八頁參照）

▲善光寺カラ長野驛ヘ約二粁、バス一〇錢。

▲長野—上野驛間六時間五二分（二一七粁二）、三等二圓九二錢

輕井澤　長野縣北佐久郡、上野から急行列車で三時間半、普通列車で四時間半（一四二粁三）、三等二圓八錢。町は舊輕井澤（驛から約一粁四離れ、草津電車及夏期乘合自動車の便がある）、新輕井澤（驛附近）、矢ケ崎、雨宮新田鹽澤、離山、沓掛、古宿、小瀨等の部落から成る東西七粁、南北一三粁の地域で、人口五、六一八（昭和五、一〇調）別莊七百餘軒を有して居る。

地は碓氷峠の南麓、海拔九四二米（三千八十呎）の地にある高原で、荒船の開析火山の北麓と、淺間の活火山の南麓との間の窪地が、淺間の南麓追分原泥流の噴出によつてその西口を塞ぎ止められ、其後頻々と繰返された淺間火山の活動により火山灰砂礫等の厚い堆積を見るに至つた堆積性火山高原で、地積約八粁、周圍には碓氷嶺から南走する城尾根山、池頭山、矢ケ崎山等の峰巒連り、又長倉山、留夫山は北走して小瀨山と連つて上信の國境をなして居る。又近くには愛宕山、深山、西山等四方に連り淺間山麓を走つて離山に接して居る。河川は川越石川、雲場川、湯川等が南流し、之等の山川と原野は巧に調和して天然美――所謂高原美の快味を親しく味ふ事が出來る。土地高燥なればて空氣亦清澄、盛夏尚八〇度を越ゆることなきが故に「サンマーレゾート」として廣く內外人に知られて居る。

輕井澤は中山道碓氷峠の難所と共に古くから知られた地で、殊に德川末期には非常に繁榮したる所であるが其後甚だしく淋れたのを明治一九年夏、英人シャウ氏及デクソン氏等に依つて氣候風土共に避暑地として好適地なることを世に宣傳せられてから再び繁榮し、遂に大正一二年八月町制を布くに至つたものである。

〔旅館〕萬平ホテル（驛から一粁六。電輕井澤二二、三食付九圓―一二圓）、輕井澤ホテル（驛から一粁四、電同二〇、米式一二圓―一四圓）、三笠ホテル（驛から三粁三、電同一五、室代三圓―六圓）、パークホテル（驛の南三粁、室代三圓―八圓）鶴屋（驛から一粁六、電五三、室七〇、一泊五圓、七圓、一〇圓）、要屋（驛から一粁二、電同五九）、油屋（驛前、電同一三、室一五、一泊二圓半、三圓、四圓）等其他。

小瀨溫泉　長野縣北佐久郡輕井澤町、草津電車小瀨驛（舊輕井澤から冊分）から約半粁、淺間山の東南麓、小瀨山の麓にあり、四面峯巒繞り、湯川の清流其間を流る、高燥の地である海拔一、二〇〇米。無色透明アルカリ性炭酸泉で溫度三三度、浴用加熱、胃腸病・貧血病・皮膚病・神經衰弱等に效がある。

〔旅館〕蓬萊館（室二〇、一泊一圓半、二圓、二圓半）。

霧積溫泉　群馬縣碓氷郡坂本町。橫川驛から西北一四粁、（坂本町まで乘合自動車がある、一五錢、一日一五回）。夫から一〇粁（徒步三時間、花負案內人一圓、獸馬二圓、籠三圓半）。輕井澤驛から約一〇粁（峠町から八粁山道）、碓氷嶺の東方約三粁の山間にあり、徒步約二時間半鼻曲山の東麓、霧積川の上流海拔一、一八〇米、碓氷嶺後を廻る山川明媚の境で、殊に秋葉美は人を醉はしめる。泉質は透明な硫黃泉で溫度三九度、皮膚病一切筋骨の病外傷に特效があり、神經衰弱・腦病・食慾不振・婦人病・貧血症にも効がある。〔旅館〕金湯館（室二六、一泊三食付一圓、一圓二〇錢、一圓半、自炊一日四〇錢―八〇錢）。

萬座溫泉　群馬縣吾妻郡嬬戀村萬座。草津電鐵萬座溫泉口驛（新輕井澤驛から二時間二二分、並等一圓六〇錢）の西北約一六粁、獸馬賃二圓、二人乘橇馬一頭三圓。又は山田溫泉（二五二頁參照）から約一六粁、乘牛二圓五〇錢、カゴ五圓。草津から一六粁。地は上信國境の萬座山（一、九八六米）と、草津白根との裾合の谷、萬座川の水源地海拔一、五五五米の地にあり、日本に於ける有數の高山溫泉の一つである。溫泉は溪流となつて滔々と流れ去る程豐富で、弱酸性硫黃泉と含鐵硫黃泉の二種あり、姙湯・苦湯・鐵湯・蒸湯などに分れ、腦病・胃腸病に特効があり婦人病・皮膚病・リウマチス等にも効があると云ふ。溫度三七度乃至六〇度。〔旅館〕豐國館（室五三）、常盤屋（室四六）、日進館（室三九）、一泊一圓半乃至三圓。

新鹿澤溫泉（シンカザハ）　群馬縣吾妻郡嬬戀村。草津電鐵新鹿澤溫泉口驛の西南一六粁、夏季自動車がある、八〇錢、（新輕井澤―新鹿澤溫泉口間二時間、並等一圓三六錢）或は信州上田驛から東北二四粁、上田驛―眞田間上田電軌電車で三六分（一二粁八）、賃四〇錢、眞田驛―鳥居峠―新鹿澤間約一一粁、自動車一時間乘合一圓二〇錢（一日四回、但鳥居峠にて乘纏ぎ）、貸切五人乘六圓。

地は淺間山麓の高原で海拔約一、二〇〇米、近く鳥居峠から四阿、萬座、白根を右に、籠の登、鍋蓋を左に、村上山を隔て、淺間の噴煙を眺め眺望雄大である。冬季は好箇のスキー場として賑はふ。溫泉は西南約四粁にある鹿澤から引湯したもので、アルカリ性炭酸泉に屬し、胃腸病・腦病・婦人病・リウマチス・多血症に効く。〔旅館〕增屋（㊐一圓半）、鹿鳴館（㊐一圓半）、宮崎屋、かね屋、三食付一圓半―二圓。

鹿澤溫泉　前記新鹿澤溫泉から徒步約六粁許り奥にある。又は田中驛から一六粁、途中新張迄四粁、自動車がゆく、二五錢（一日七回）、夫から徒步又は乘馬（二圓）新鹿澤の泉源であるから効能は同前。

〔旅館〕紅葉館（室五〇、一泊一圓半以上、スキー期には三食付一圓半）。

千ケ瀧遊園　輕井澤の次驛沓掛驛の北方約二粁九、星野溫泉へ約半粁、淺間山麓の高原地海拔一、〇六〇米の地にある。此處は輕井澤よりも海拔高く、眺望は頗る開闊雄大、絕好の避暑地である。遊園は箱根土地會社の經營で、ホテル、貸別莊等の諸設備が整つて居る。千ケ瀧は沓掛驛から約六粁、千曲川の支流湯川の溪流に沿ひ、淺間の雄姿を望む幽邃の地である。七月下旬から九月中旬まで各列車に接續して沓掛驛―千ケ瀧遊園迄乘合が出る、片道三〇錢。

〔旅館〕グリーン・ホテル（一泊二食付五圓）。

星野溫泉　長野縣北佐久郡輕井澤町、輕井澤の西北五粁、沓掛驛の北約一粁半、共に自動車がゆく。沓掛驛から乘合一〇錢、貸切五〇錢。淺間登山道から右へ約一〇〇米程入つた湯川の溪流に枕み、輕井澤に續く淺間山麓の高原で、海拔一、〇一三米、溫泉は蛋白石濁を帶びたアルカリ性泉で、溫度二三度、胃腸病・糖尿病・皮膚病・リウマチス・神經諸病・婦人病等に効く。〔旅館〕明星館（電輕井澤五二、室三〇、一泊二圓、三圓、四圓㊐二圓八〇錢）。貸別莊もある。

松原湖　長野縣南佐久郡、信越本線小諸驛から分岐する小海北線松原湖驛下車約一粁半（小諸―小海―松原湖驛間一時間三五分、三四粁、片道八三錢）。

松原湖とは北牧村松原附近の湖沼の總稱で、猪名湖が最も大きく、その南の長湖之に次ぎ、その他は小蓼水である。その成因は八ケ岳火山の一峯根石岳方面から流出した噴出物が數多の窪地を作つた所に水の滲づたものである。北西南の三面は一帶に高い山を繞らし、東岸の一部排水口附近は低い丘陵となつて居る。松原湖の西南には八ケ岳から毫科山に續く連嶺聳立、東は千曲川上流の谷を隔て、秩父連峯や荒船山を望み、北は佐久平野を隔て、淺間山を望んで眺望が廣く、湖邊の風光また明媚である。

猪名湖は八ケ岳の東北山腹海拔一、一二二米の高所にあり、湖面は僅か八二平方米に過ぎず、深度また小さいので冬季はよく結氷してスキーの好適地となる。即ち一一月中旬から三月まで結氷約三〇糎乃至五〇糎に達し、氷質また非常によく殊に降雪が少いのでスケートの理想鄕として知られ、每年一月全日本學生スケート聯盟大會が催される。湖畔には一〇〇名位收容出來る旅館があり、鑛泉、浴場の設備もある。夏期は避暑及キャンピングの適地として秋期は紅葉地として知られ、貸別莊もある。

長湖は猪名湖の西にあり、湖面二四平方米あり、此處もスケートによい。

〔湖畔及附近の旅館〕蔦屋（驛から一八五〇米、室一三、一泊八〇錢―三圓）田島鑛泉旅館（驛一九七〇米、室一六、一泊同上）、松湖屋（驛一六三〇米、室五、一泊同上）、宮本屋（驛一四二〇米、室三〇、一泊同上）、さざなみや。

上田市　上野から急行四時間四〇分、普通列車で五時間四〇分（一八二粁七）、三等二圓五四錢。

市は千曲川の北、上田盆地の中央に位し、信州に於ける養蠶業の中心都市をなし、養蠶專門學校がある。人口三五、一三八（昭和五・一〇）

上田はもと城下町として發生し、發達し來つたもので、維新前は松平氏五萬八千石の城下であつた。城は始め眞田信幸、幸村の父である安房守昌幸が築いたもので（天正一一年）、伊勢山の地を利用し、千曲川の深淵尼ケ淵に突出して築城されたので伊勢崎城とも尼ケ淵城とも呼ばれた。關ケ原の役に昌幸及幸村の父子は大阪方に與したが、信幸は德川家康の謀臣本多正信の女婿であるところから關東方に味方した。德川家康が三子秀忠に兵三萬八千を率ゐて中仙道を上らしめるに對し、眞田昌幸、幸村の父子は此の上田に遮り、信幸、正信の勸降をも頑としてきかず敵を惱まし、遂に秀忠をして關ケ原の戰期におくらしめた事は史上に有名な話である。しかし眞田氏はのち德川に仕へて此の地に封ぜられ、元和以後は仙石、松平兩氏を經て維新に及んだ。

〔旅館〕上村館（天神町、驛前、電上田三四四、室一四、一泊一圓半、二圓）上村ホテル（海野町、驛から八〇〇米、室二一、一圓五〇錢以上）。

菅平（スガタヒラ）　（長野縣小縣郡長村）上信國境の雄峯四阿山（アツマヤ）（二、三三二米九）とその西北に相接する猫岳（二、一九五五米）の西側一帶の裾に展開された廣袤七七方粁に亘る茫漠たる高原で、海拔平均一、二五〇米を維持し、見渡す限りの原や丘はみな柔軟な芝草を以て蔽はれた美しい草原である。菅平の部落まで凡そ六粁の間三五度乃至一五度の緩傾斜が續き、その間は殆ど無樹帶で何等の障害物もなく、痛快な滑降が出來るところから近時「日本ダボス」などの名稱を附されスキーの絕好地として名聲があり、夏季は霍亂漲る暑さ知らずの此の高原は天與のキャンプサイトとして喜ばれて居る。

積雪は一米乃至一米半であるが、斜面全體が放牧地の草原であるから、五〇糎以内の積雪でも充分にスキーが出來る。また氣溫が常に低いところから、雪質は信越國境附近に比して遙かに良く、附近にはその他大小の起伏重疊して相當變化あるスロープも多く、猫岳山麓全體隨所に好スロープを持つて居る。

尙此地の特長は、猫岳登山の最も容易な事である。（猫の七合目に休憩小舍がある）山頂の樹氷の美觀は特筆すべきものであり、また此の山頂からの展望は實に雄大である。スキー期節は三月中旬から翌年四月中旬まで。

〔交通〕信越本線上田驛から上田溫泉電軌により終點眞田驛下車（三六分、賃四〇錢、一二粁八）、そこからバスで菅平口（土合）迄二〇分、二〇錢、一日一三回（六粁）、菅平口からは大洞川の溪谷に沿ふた六粁許りの山道を登る。六月から一〇月迄は眞田驛からホテル前迄乘合自動車がある、四五分、五〇錢（四回）、上田驛—菅平間貸切五人乘四圓。冬期はスキーを穿いて一時間でスキー場にゆけるが、馬橇の便があり、各宿泊所の玄關迄乘る事が出來る、賃金片道上り三〇錢下り二五錢、荷物一ケ一〇錢。

〔旅館〕菅平ホテル（防寒裝置、浴場、乾燥室、社交室等完備し、室二九、二〇〇人以上の收容があり貸スキーも二百疊位ある。一泊三食付一圓八〇錢、二食付一圓半、㊐二食付一圓半）、高原ホテル（收二〇〇人、三食付一圓八〇錢、二食付一圓半）。

名鐵山の家（菅平ホテルの横にあり、室二三、收容定員一五八名、男女別浴場、食堂及炬燵の設備がある、一泊五〇錢、休息料二〇錢、朝食二〇錢、晝食二五錢、夕食三五錢、三食付一泊一圓一〇錢）

その他志滿家（室六、三食付一圓）及民家に凡そ三〇〇人、北信牧場内にある青年訓練所にも宿泊出來る。

別所溫泉　長野縣小縣郡別所村。上田驛の西南一一粁五、上田溫泉電軌の別所線電車で三一分、賃片道三五錢、往復五五錢、又は自動車で三〇分、乘合三五錢（一日一二回）五人乘貸切二圓。電車終點驛から道は二つに岐れ、右に約四〇〇米で院内、左すれば約二〇〇米で大湯に出る。別所とは此の部落を合せて呼び、溫泉は夫神岳の東麓、湯川の右岸に湧出し、旅館の内湯の外に院内には石湯（浴槽は天然の岩石其儘である）大師湯、大湯には大湯と玄澄湯の共同浴場がある。泉質は無色透明の硫黃泉で溫度四一—四四度、胃腸病、婦人病に特效がある。

〔旅館〕花屋ホテル（電別所一三・三一、室三六、㊐三圓）、柏屋本館（電一一）、柏屋別館（電一二）、和泉屋（電三〇）、玉屋（電一五）、あさひホテル（電一〇）、中松屋（電四）、上松屋（電九）、南條館（電三）、大島屋（電二）、鶴屋（電八）、みどりや（電一六）、以上一泊一圓二〇錢乃至三圓。

〔名所〕安樂寺の八角四重塔（國寶）、北向山觀世音、常樂寺、愛宕山遊園。

戸倉溫泉　長野縣埴科郡戸倉村。戸倉驛の南約一粁半、自動車乘合一〇錢（列車毎）貸切五〇錢。上田からバス五〇分、三五錢、長野からバス一時間、四〇錢（列車毎）貸切四圓半。

前は千曲の清流に臨み、背後に冠著山を負ひ、溫泉は無色透明の硫黃泉で、外傷性創傷・梅毒・皮膚病一切等に效がある。

〔旅館〕笹屋ホテル（電戸倉三、室二六、普通一泊二圓半、三圓、㊐三圓）、上田館（電二七、室二〇、二圓三〇錢、三圓、㊐二圓八〇錢）、戸倉ホテル（電一九、室二一、二圓、三圓）、千曲館（電四四、室二〇、二圓半、三圓）、都屋（電三九、室二〇、一圓半、二圓半）。

觀月の名勝姥捨山へは此處から自動車でゆく、約七粁、一五分、三〇錢、一二回、貸切片道一圓半。

上山田溫泉　長野縣更級郡上山田村。戸倉驛の西南二粁、自動車乘合一〇錢（列車毎）前記戸倉溫泉とは一溫泉區中に村界があるため二つの名稱を有するもので、冠著山の東麓、千曲川に臨む風光明媚な所である。泉質效能同前。

〔旅館〕三好屋（電上山田三、室三五、㊐三圓）、清風園（電戸倉三六、室二五、一六・五六、室六六、一泊二圓—五圓）、上山田ホテル（電上山田五、室二五、二圓、二圓半）、萩原館（電同一八、室一九、一圓三〇錢、二圓半）、龜屋（電二、室二五、一圓半、一圓八〇錢）。

【川中島の古戰場】川中島は篠の井驛及川中島驛の東南、更級郡の東北部、千曲川及犀川の合流する附近の中洲の名稱で、善光寺平の中心を占め、上田、松本、長野三街道の相會する交通の要路に當つて居る。古來戰略上にも重要位置を占めて居るので、壽永の横田河原の合戰、應永中の大塔合戰等屢々交戰の場所となつたが、中でも永祿四年十月、謙信、信玄の甲越合戰が最も有名である。その起因は、信濃葛尾山の城主にて、附近の數郡を領して居た舊族村上義清が武田信玄に逐はれて上杉謙信に投托せしに因るものである（天文二二年八月）。弘治元年七月から十月に亘つて第一戰が行はれ、第二戰は永祿四年十月に戰はれた。當時謙信は東方妻女山に陣取り、信玄は西方茶臼山に陣を控へ最も激戰の行はれたのは小島田村八幡原である。一劇戰兩軍敎傷算なく、甲軍敗れ信玄の弟信繁之に死し、殆と危しく、時に小島田源三郎樣奮戰し因て以て多ふるを得たりしと、山本入道勘助の謀は柴村にある。信繁の墓は水潦の奥嚴寺境内に、山本入道勘助の討死したのも此處である。

平穩溫泉郷

長野縣下高井郡平穩村、信濃川の一支流夜間瀬川に沿つて溯ること約一六粁、星川と角間川との合流する附近を中心として、其上流數村の間に點在する湯田中、安代、澁、上林、地獄谷と帶の樣に長く地續きになつて居る五つの溫泉と、山の上の發哺、熊の湯の二溫泉を合せた七湯が平穩村にあるので、之等を總稱して平穩溫泉と稱し、是に川を距てた對岸の穗波村の角間及穗波の二溫泉を加へて山の内溫泉とも呼んで居る。

地は何れも海拔七五〇米乃至一、三〇〇米の高所にありて山水の美に富み、夏の避暑地としては勿論のこと、秋、紅葉のシーズンには、此溫泉郷一帶の山岳、山陵溪谷の殆綾羅錦繡の粧ひをこらし、又冬季は上林を中心とする丘陵の各所には長野電鐵で開いた理想的なスキー場がある。此の地の他に誇る點は、宿泊料の廉い點と最も經濟的な自炊制度の設けられて居る事である。

〔交通〕

▲長野—湯田中溫泉間　長野電鐵一時間三分（三三粁三）片道九四錢、往復一圓五〇錢。

▲屋代—湯田中溫泉間　長野電鐵一時間二三分（四五粁一）、片道一圓一八錢（途中須坂にて乘換を要す）往復一圓九八錢。

湯田中溫泉　湯田中驛から湯田中溫泉の中心まで半粁、自動車乘合五錢貸切五〇錢。

地は平穩溫泉郷の關門をなし、東北に山を背負ひ、前に星川の廣やかな河原を控へる海拔八〇〇米の地にあり、大湯を圍んで一五軒の旅館及百戸餘りの人家が櫛比して居る。此處には長野電鐵經營の遊園地があり、また山之内劇場、湯の宮神社があり、村役場の一隅には當地澁出身明治南畫壇の巨匠兒玉果亭翁の記念に建てた「果亭文庫」がある。溫泉は各旅館の内湯の外、鶴の湯・綿の湯・鷲の湯・瀧の湯・鹽の湯・大瀧湯・脚氣の湯・千代の湯・河鹿の湯等の浴場があり、各々多少泉質を異にして居るが、概ね硫黃泉及鹽類泉で、泉溫の高さこと信州第一と云はれ、七八度、子宮病・皮膚病・リウマチス・痛風・神經痛に效がある。

〔旅館〕萬屋（電湯田中四三番、室三三、㊐三圓）、湯本（電五番、室三〇、㊐三圓）、湯田中ホテル（電五九番、室二二）、中屋（同九番、室一五）、見崎屋（同三三番）、中見崎（同二七番）、島屋（同八番）、大和屋（同四二番）、金子屋（同二〇二番）、坂木屋（同一〇四番）、丁字屋（同四七番）、大和屋（同四二番）、加命の湯（同五三番）。以上標準宿泊料一泊二食付二圓内外、三食付二圓半内外。

安代溫泉　湯田中驛から凡一粁、自動車乘合一〇錢、貸切五〇錢。

湯田中から五、六百米、湯町に續いた星川緣の大道を曲り坂を下つた所にあり、大湯を中央に七軒の風雅な旅館が、松や楓の奥床しい植込に圍繞された靜かな所である。溫泉は無色透明の鹽類泉で六〇度、效能は湯田中と同じである。

〔旅館〕山口屋（電湯田中三、一五五、室四〇、㊐二圓半）、山崎屋（同一二五）、塵表閣支店（同一〇二）、桝屋（同二一）、萬屋（同一九）、安代館（同一一〇）、越後屋（同一〇三）、普通一泊一圓半—四圓。

澁溫泉　湯田中驛から一粁半、乘合自動車一〇錢、貸切五〇錢。

安代とは小橋一つを界にした湯町の宿の軒續きで、日用品や土產物を賣る店が二〇餘戸、二〇餘軒の内湯館と、大湯を始め初湯・笹の湯・神明の湯・七操湯・目洗湯・千代の湯寺の湯等の浴場等が一小市街を形成して居る。此地は平穩溫泉中最も古い溫泉場で、嘉元二年現溫泉寺の開山である虎關禪師及練國禪師が浴場の經營を始めたのによると云はれ、溫泉寺は町の中央から左へ數十尺の石段を登つた所に

建ち、樣々な傳說が鄕人の間に物語られて居る。又此地には素朴な盆踊り（八月一五・一六日）が盛んで、その純眞な、田舍情緖のこまやかな風習が今に殘つて居る。溫泉は白微濁を呈する鹽類泉で、溫度五〇度乃至七〇度、神經痛・中風・リウマチス等其他痔疾・胃腸病等に效があると云ふ。

〔旅館〕金具屋（電湯田中四、室五五、㊐三圓）、山本館（同一、室五〇、㊐三圓）、古久屋（同二五、室三四）、龜屋（同六五、室三四）、津幡屋（同二八）、もとや、松屋、ひしや、かどや石の湯、西山館、いかりや、白銀屋、井筒屋、松坂屋、さかえ屋、たまりや、瀧本、小澤屋、小石屋、大丸屋、丸屋、大和屋。（標準宿泊料一泊二食付二圓位、三食付二圓半位。）

此處から草津へは澁峠を越えて二八粁、道は比較的良く澁から上り一六粁下り一二粁ある。人夫賃一日三圓（宿料雇主持）。

上林溫泉　湯田中驛から二粁八、自動車二〇分、乘合二〇錢、貸切八〇錢。地は八五〇米の臺地をなした森の中にあり、西南低く開けて戶隱、妙高、黑姬の諸峯を望み、東に笠ケ岳、岩菅山等重なり、星川の淸流美しく、坐ら乍らにして山水の大觀を獨占して居る。此處には長野電鐵經營の遊園地があり（茶菓子付入園料二〇錢）大溫泉プール・萬人風呂・食堂・運動場・遊戲場・一般休憩用の二階建大廣間等があり、旅館部上林ホテル（仙壽閣）もある。仙壽閣の直ぐ上には明治畫壇の巨匠寺崎廣業氏のアトリエを其儘寺院（尼寺）とした長壽山廣業禪寺がある。日置默仙禪師の開山で、書伯遺愛の佛像を本尊とし、側に書伯夫妻の壽像を安置して居る。此地一帶冬はスキーの好練習地で、坊平練習所にはシヤンツエの設けもあり（宿には貸スキーの設備もある）又志賀高原ハイキングの關門をなしてゐる。

溫泉は無色透明の鹽類泉で溫度六〇度、リウマチス・痛風・婦人病・貧血等に效がある。

〔旅館〕仙壽閣上林ホテル（電湯田中一四九・二〇〇、室數本館二四、別館二二、室代一圓半乃至五圓、食事料定食朝四〇錢、晝及夕八〇錢づゝ、貸切風呂一回二〇錢。一泊㊐三圓）、鹿表閣本店（電同一〇一、室二五）、關屋（室一〇一泊一圓半—四圓。）

志賀高原　上林・發哺—熊ノ湯—萬座—山田—草津の諸高原をつなぐ廿餘粁の高原で、岩菅・白根・澁峠・横手・笠岳等二—三千米の高山、大沼瓶・丸池等四十餘の湖沼があり、春秋のハイキング、夏の登山・キャンプ、冬のスキー地として絕好の地である。

地獄谷溫泉　上林から約二粁徒歩。橫湯川上流の河床から約十米の高さに噴出して居る溫泉で天然紀念物に指定されて居る。此處には名物として噴泉で蒸したたまきがあり、探訪者に喜ばれて居る。泉質は鹽類泉、硫黃泉の二種效能は湯田中に同じ。〔旅館〕後樂館一戶（室一四）一泊三食付二圓內外。此處から約四粁の旭山（一五二〇米）は先年秩父宮殿下御成りの光榮に輝き山上展望臺は四望廣濶、冬季は積雪一米半に及ぶスキーの好スロープを持つて居る。

發哺溫泉（ホツポ）　上林溫泉から徒歩約六粁。地は海拔一、六〇〇米の高所にあり背後は深い原生林で遮られ、前面は曠豁な展望を有し、日本アルプスの群峯を見渡す事が出來る。溫泉は豐富で、無色透明の鹽類泉に屬し、泉溫五四度、效能は湯田中と略同一である。〔旅館〕天狗の湯、藥師の湯。

熊の湯　上林溫泉から徒歩九粁、笠岳の麓、海拔一、七〇〇餘米の地にあり苔打茶屋から草津街道を眞直に登つて行く、その途上に澗滿瀧、幕岩等の名勝がある。此の溫泉の特長は、含有して居る鑛質物が湯の表面に浮き出て、それが次第に厚さを增し、薄い雲母の樣な膜が張り詰めると云ふ。今は此浮遊物は湯の花として賣出されて居る。上林から馱馬片道一圓半。〔旅館〕熊の湯溫泉旅館一戶、一泊一圓五〇錢—二圓。

穗波溫泉　湯田中から徒歩三〇〇米、湯田中ホテルの所から眞直に下つた所、橫湯川と角間川との落合に近い川床の中に湧出した新しい溫泉である。泉質は無色透明の鹽類泉で六〇度、胃腸病、痔氣・脚氣・リウマチス・神經痛等によいと云ふ。〔旅館〕穗波館一戶、一泊三食付一圓二〇錢。

角間溫泉　湯田中驛から穗波溫泉を經て徒歩二粁餘、又は澁から和合橋を渡つて徒歩七、八百米。角間川の對岸、稍高みの所に位し、上林、澁、安代等の湯町を眺める事が出來る。溫泉は無色透明の弱鹽類泉で、五〇度餘、脚氣に特效があり、胃腸病・常習便秘・神經衰弱・ヒステリー・火傷・眼病にも效くと云ふ。〔旅館〕越後屋（內湯あり、電湯田中一五八、室三九）、高島屋（室八、同一六一）、福島屋、養田屋、和泉屋、一泊一圓半以上。

中野溫泉　長野驛下高井郡中野町、長野電鐵平穴線と木島線との分岐點、信州中野驛から東四〇〇米（自動車六人乘五〇錢）の所にある、電車賃長野から七二錢。又は信越線豐野驛から自動車二五分、乘合四五錢（一二回）、貸切六人乘二圓半。此の溫泉は十萬圓の巨費を投じて五粁餘の平穴村上川原から湧出する熱湯を曳いたもので、白微濁の弱鹽類泉に屬し、胃腸病・皮膚病・關節・リウマチス・ヒステリー・神經衰弱・婦人病等に効があると云ふ。中野町は製絲と杞柳竹細工業が盛んで人口約一萬五千、附近に高梨城址、如法寺遊園地、川東善光寺等がある。

〔旅館〕中野館（室三一、一泊一圓六〇錢—二圓半、電中野三五、內湯あり）翠山亭（電六二、室一二、一泊同上）。

野澤溫泉　長野縣下高井郡豐郷村、信越線豐野驛から分岐してゐる飯山鐵道上境驛下車、豐野から一時間一五分、賃八八錢）東方へ三粁、自動車乘合二五錢、貸切一圓半、又は同鐵道飯山驛下車一二粁、自動車五〇錢、或は豐野驛から直通貸切自動車八圓一時間半、又は長野電鐵河東線終點木島驛（長野から一時間一〇分、七五錢）から北へ一二粁、自動車乘合四五錢。

地は海拔七六〇米、東南北は山に圍まれ、西は開けて北アルプス連峯の眺めがよい。溫泉は溫度高く（九〇度乃至一二〇度）また非常に豐富で、出口二五ケ所を有し、八つの共同浴場がある。泉質は硫黃泉及鹽類泉の二種、胃腸・皮膚病・リウマチス等に效があると云ふ。附近には湯澤神社・健命寺・觀音山公園及麻釜の噴湯などがある。麻釜は熱潭が五つあり、其中三個の釜には年產十萬圓を輸出する木通細工の原料を浸し、他の二個は村人の調理用として茹物に使はれて居る。町は戶數五百、旅館三〇許り。冬季はスキーが盛んである。

〔旅館〕酒屋（㊐三食付二圓）、常盤屋（同上）、千歲館、岩井屋、龜屋、桝田屋、岩戶屋、山屋、島屋、桝屋、末廣屋、桐屋（電野澤二〇、㊐三食付二圓）、住吉屋（電野澤五、㊐同二圓）、奈良屋、麻屋、湖月、港屋、角屋、松本屋、永樂屋、大丸屋、藤屋、大和屋、中島屋、河本屋等。一泊二食付二圓內外。（㊐三食付料金はスキー季節に限る）。

山田溫泉　長野縣上高井郡山田村。長野電鐵須坂驛（長野から三六錢）から東北一一粁、自動車三五分、乘合六〇錢（一日一〇回）、貸切六人乘四圓。此處は白根山の西麓、海拔八〇〇米の地にあり、脚下に松川を控へ、三方は山に圍まれ、西は遠く開けて善光寺平を眺望した眺めがよい。此處から五色溫泉へは六粁、七味溫泉へは八粁、松川の溪谷に沿ふてゆくので、秋は紅葉が實に美しい。萬座溫泉（二四七頁參照）は一六粁ある。溫泉は無色透明の鹽類泉で、五〇度、脂肪過多、痔疾、胃腸病、リウマチス、婦人病、外傷等に効があると云ふ。

〔旅館〕山田館（電下山田二、室三〇、㊐二圓半）、湯本ホテル（電下山田一、室四〇、㊐二圓半）、風景館（電六、㊐二圓半）、藤井（室三二）、北信館（室三〇）、湊屋（室四〇）、伊賀屋（室八）、るま小（室二七）等。一泊一圓半以上。

長野市　上野驛から急行五時間二五分、夜行列車で七時間五分（二一七粁二）、三等二圓九二錢。

長野市は飯繩、戶隱の二山を背にして善光寺平の一角に位して居る。市は往時越後、越中から江戶に通ずる驛路にも當つて居たが、主として海內著名の靈刹善光寺を中心としてその門前町として發達した佛都で、昔は善光寺町と稱し、長野驛から善光寺、仁王門に達す南北約二粁の一直線街路は、市のメーンストリートとなつて居る。今長野縣廳が置かれ、その他裁判所・營業署・稅務署・測候所・鐵道保線・運輸兩事務所等の官公廳又ラヂオ放送局があり、銀行會社、工場等が多い。人口七六、三二五（昭和八・一二調）陶土、簞笥、杞柳、木通細工、麻絲、干杏を產する。

〔名物〕そば、林檎、杏羊羹等。

〔旅館〕藤屋本店（大門町、驛から一粁六、電話二二、室八〇、外に洋室二、一泊二圓半、三、四、五圓、㊐四圓）、藤屋支店（末廣町、驛前、電三〇四）、犀北館（縣町、驛から八〇〇米、電一五、和室二八、洋室四、一泊三圓—五圓、洋室々代三圓—一〇圓）、五明館扇屋本店（大門町、驛から一粁六、電一二一、室二七、一泊二圓半、三、四、五圓）、扇屋支店（驛前、電五七〇、室一五）、花房屋（權堂町九五、電三一、驛から八〇〇米、室

一六、一泊同上）、白木屋（大門町、驛へ一粁五、電三一四、室二六、同上）、山屋（大門町二六、驛一粁五、電一二七、同上）、池絞（大門町三九、驛一粁五、電三三六、室二二、同上）、清水屋（大門町、驛一粁五、電六七二、室二一、同上）、惠比壽屋（末廣町丑、驛前、電六六四、一泊二圓半、三圓）。

〔娯樂場〕長野劇場（箱清水）、菊田劇場（西鶴賀）、相生座（權堂町）、長野演藝館（大門町）、長野活動館（石堂町）等。

〔廻覽順路〕（A）驛—刈萱堂—善光寺—城山公園—往生寺—驛。

（B）驛—四光寺—大本願—大勸進—善光寺—記念公園—往生寺—裾花峽—戸隱神社—長野驛（又は柏原驛）。

以上自動車にて九時間位、料金二〇圓。自動車貸切一時間三圓、半日九圓、一日（午前七時—後五時）一八圓。

善光寺

長野驛から二粁、自動車一〇分、乘合一〇錢（一日三三回）貸切五〇錢、俥三八錢。長野電鐵善光寺下から半粁。

市の北端大峰山麓にあり、南面して市街を俯瞰して居る寺は別當職大勸進と稱する天台宗（寛永寺末）の僧寺と、寺務職大本願と稱する淨土宗（別格寺）の尼寺とに依つて守られて居る。今の堂宇は約三百餘年前の寛永四年七月（紀元二二八七年）に幕府が松代藩に命じて建立せしめたもので、金堂は特別保護建造物に指定され、東西二七米餘、南北五三米弱高さ三五米の大伽藍は賽者の目を驚かし、柱數一三六、垂木六萬九千三百八十四、以て法華經字數に准へて居る。本尊は三國傳來の一光三尊佛と稱せらるゝ御丈一尺五寸、閻浮檀金の阿彌陀如來の尊像である。人若し生を享けて善光寺に詣でなければ彌陀の淨土に至つて其光明に浴する事が出來ぬと云はれ、四時善男善女の賽者で雜路を極めて居る。

善光寺如來の尊像は今を距る一三八〇餘年前、欽明天皇一三年一〇月（紀元一二一二年、西暦五五二年）百濟國王から無卷と共に我邦に始めて奉獻せられたもので、大臣蘇我稻目その子馬子は之を深く信仰したが、物部、中臣二氏の反對に遭ひ、難波の堀江に投ぜられたものを、推古天皇の御代、信濃の人本田善光が拾ひ上げて持ち歸り、之を一時伊那座光寺村に奉じ、次で麻績郷今沼村に小堂を建て、安置したが、皇極天皇の九年今の地に移されたと云ふ善光寺由來は人のよく知る處である。善光寺の名は本田善光の名に因んだものである。その後武田信玄は此の像を甲府に移して新善光寺を建て、武田氏滅亡の後織田信長が岐阜に移し、德川家康は濱松に、豐臣秀吉は京都にと、更に諸國を轉々として最後に慶長三年秀吉によつてまた舊地長野に戻されたものであると云ふ。

寺内には末派寺院及僧坊約四〇、納骨堂、毘沙門堂、阿闍梨の池、法然上人及親鸞上人の舊蹟、聖德太子鏡の御影、御靈屋、接待所等がある。境内は今公園となり（一萬八千二百七十三坪）其東に續いて城山公園がある、城山の頂上には城山館があり（長野市公會堂）善光寺平一帶を俯瞰して風光がよい。

▲大勸進　山門の西側にあり善光寺別當職で天台宗に屬し住職は比叡山、東叡山から薦擧せらるゝ常とする。▲大本願　二王門下西側にある善光寺寺務職で淨土宗、住職は代々尼公と定められて居る。▲釋迦堂　山内世尊院にあり國寶紫金の釋迦涅槃像を安置す。▲苅萱山西光寺　石童丸が父を訪ねて來て寂滅せる所、加藤重氏の開基にかゝり石堂町にある。（驛から半粁、善光寺への途中にある）。▲往生等　善光寺の北西八〇〇米、驛の北西約二粁八の往生寺山の南麓にある、自動車善光寺前にて下車。もと筑前の國主加藤左衞門重氏（等阿と云ふ）が草庵を結び入寂した所である。

裾花峽（スソハナケフ）

長野驛から西北五粁餘の茂菅から裾花川の上流四〇粁ばかりの間の峽谷を云ひ、市内大門町から鬼無里（キナサ）村迄二二粁自動車の便がある（一日五回）、驛から茂菅まで二〇錢、峽の終點下祖山まで八五錢。

峽谷は第三紀層流紋岩、安山岩の集塊岩を浸蝕して生じた若年谷の風景地で、兩岸の峭壁相迫つて奇岩百出するところ、溪流曲折して或は奔流となり、或は深潭を作つて山水の勝をなし、秋葉黐に染むる頃は殊に美觀を呈する。風景の勝れた所は觀音岩附近、小鍋峽一帶、銚子口溪谷、奥裾花の深溪である。奥裾花は鬼無里の玄珠堂から上流を云ひ、溪谷二〇粁あまり、岩から岩へ溪から溪を傳ふて高妻山の裏に出て五地藏岳に達するのであるが、此處に入るには充分の準備と案内者の必要がある。

戸隱山・戸隱神社

戸隱山は長野市の西北、信越國境に近く聳ゆる名山であるが、飯縄（一、九一七米）、高妻（二、三五三米）乙妻（二、三一五米）、黑姫（二、〇五三米）、妙高（二、四四六米）、の諸峯に續く一群の火山彙、所謂高妻火山群中の一峯で、しかも俗に戸隱山と稱するは五地藏岳（一、九九五米）、高妻山、乙妻山を戸隱奥山とする前山にすぎぬ。

戸隱前山卽ち俗に云ふ戸隱山は海拔一、九一一米、全山凝石安山岩から成り東に飯縄山、東北に黑姫の火山近く聳え、北は高妻山を經て信越の名山妙高山に接し、西は松川の谿を隔てゝ日本北アルプスの白馬岳に接して居る。稍西南に連る西岳（二、〇三五米）から戸隱山を經て北の五地藏岳に至る凡そ一〇粁の山列は、東南面が著しく懸崖、奇峯をなして全山凝灰質集塊岩からなり、妙義山式の奇景を呈して壯麗を極めて居る。國幣小社戸隱神社中社は所謂戸隱高原の中央にあり山麓の奥社迄約四粁（殆んど平坦）、古來信仰登山者が多い。

戸隱山は神代の昔、天照皇大神天岩戸に隱れさせ給ふた時、手力雄命が岩戸を押し開いて投げられたのが玆に落ちて山となつたのだと傳へられ、また中古平維茂が戸隱山の鬼女を退治したなどと云ふ傳說を有し、山中に天の岩戸、鬼女退治の古蹟、釜添岩、薄岩、木曾殿古蹟等の名所がある。

〔交通〕一、長野驛から戸隱中社まで一六粁、自動車七〇分、乘合一圓四〇錢、貸切六圓、奥社まで約一九粁、自動車は奥社の一粁半許り手前の鳥居前までゆく、所要八〇分、乘合一圓二〇錢（九回）、貸切七圓。

二、信越本線柏原驛から西へ飯縄山と黑姫山の裾合谷を流る、鳥居川に沿ふて戸隱中社及寶光社まで約一七粁、奥社迄一七粁、自動車奥社鳥居前迄一時間半、乘合片道一圓六〇錢、往復二圓五〇錢（一日二回）、貸切五人乘八圓。

中社には八意思兼命を、寶光社には天表春命を祀り、天手力雄命を祀る奥社を併せて戸隱三社と稱ふ。中社は長野縣上水内郡戸隱村中社、海拔一、一六五米、盛夏も尚暑熱を知らぬ仙郷にあり、道を挾んで兩側に神官の居宅が並び、參拜者に宿泊の便宜を與へて居る。神社は孝元天皇卽位五年の鎭座と傳へて居るが、神佛混淆時代には修驗道者が多く入峯して主奉し、佛神の靈蹟を說いた處である。別當天台宗の顯光寺は、俗に戸隱三千坊と云はれ、明治維新前には尚三六坊もあつた。寺傳には役行者此の山に九頭龍を封じたと傳へて居る。

維新後修驗山伏停止せられ、神佛混淆を一洗して眞社としたが、二三年國幣小社に列せられた。例祭は八月一四日、奥社では同一五日、寶光社では一六日に祭事がある。

中社から寶光社までは一粁一、中社から奥社までは約三粁三、御手洗川の石橋の所で柏原からの道と會ふ。橋を渡ると鳥居があり、杉や樅の並木道を約一粁半ゆき更に赤塗の隨神門を潜れば登りとなり、五十間長屋、百間長屋、蟻の戸渡り、劔の又渡り等の懸崖絕壁を登れば、普通戸隱山の絕頂と稱する前山の西端たる八方睨に達する。奥社は磊々たる大巖石の下、表山の登山口に立てられて居る。

山頂からは近くは戸隱・鬼無里の諸村落、高妻、乙妻の二山を始め、西には日本アルプスの白馬岳からその南へ一列に連るアルプス連嶺のパノラマは實に美觀である。

これより更に乙妻、高妻の山頂をきはめるのを戸隱裏山又は奥山登山と稱し、その縱走は極めて興味があるが、必ず案内者を伴はねばならぬ。

登山者は中社及寶光社に宿泊が出來る。中社には二一戸、寶光社には一六戸あり、概ね寺坊が宿舍となつたもので、信州そばは特に此處の名物である。

野尻湖

信越線柏原驛から約四粁、自動車一五分、乘合片道二〇錢（列車毎）貸切五人乘一圓。長野からバス二時間、八〇錢、往復一圓二〇錢（七回）、貸切片道六圓半。田口驛から四粁、バス四五錢。

湖は南北兩岸に丘陵を示す第三紀層山地の間にあつた谷が、東の斑尾火山、西の黑姫火山が噴出して上流下流ともに埋められて生じた堰塞湖で、湖面は海拔六五四米、面積三・八五五方粁、最深三八・五米、湖岸は頗る出入に富み芙蓉湖の名がある。湖中には琵琶島があり辨天祠を祀り、湖面には斑尾山の翠巒が影を映じ、遠くは妙高、黑姫、飯縄等の諸山を仰いで風光がよい。近來避暑地として外人間に喜ばれ、冬はスケート場として賑はひ（一月中旬—二月上旬、三月には全部解氷する）スキーの好スロープもある。

湖上舟遊　午前及午後各三回宛和船が出る。一周四五錢、半周二五錢。

〔旅館〕宮川館（バス終點から三〇〇米、室八、一泊一圓—二圓半、㊐二圓半）、小松屋（室一二）、藤屋（室一〇）、坂本屋（室六）、一圓—二圓半。

妙高溫泉

新潟縣中頸城郡名香山村。

信越線田口驛から六〇〇米、自動車五分、乘合一〇錢、列車毎。貸切五〇錢。

地は越後富士の稱ある妙高山を負ひ、黑姫、長範、袴岳斑尾山の峻嶺重疊の間にあり關川に臨んで風光絕佳である。冬季はスキーの好適地として赤倉、關溫泉と共に全國に知られて居る。（二月中旬から四月中旬頃迄滑れる。雪量二―三米）溫泉は妙高山の北地獄から曳湯したものであるが、今は專ら南地獄から曳いて居る。泉質は弱鹽類泉で無色透明、筋及關節リウマチス・腺病・慢性濕疹・婦人病等に效がある。

〔旅館〕妙高ホテル（電關川二、室二九、㊐三圓）、鶴屋ホテル（電同七、室二四）、加島屋（電同三、室二六、㊐三圓）、若尾（電同一四、室二〇）、かねた館（電同一一、室二三）、小林館（電同一二、室二四、㊐三圓）、香風館（電四六、室一八）、（以上普通宿泊料一圓半乃至三圓半）。

赤倉溫泉　信越線田口驛から約五粁、自動車一五分、乘合片道五〇錢往復九〇錢。（前七時から後八時迄列車毎）、貸切五人乘二圓半。

地は海拔七五八米の妙高山腹にあり、北方は廣々と開け頸城平原遠く展開して遙かに日本海の蒼海を眺め、佐渡ヶ島迄指摘される。西方は妙高山雲表に聳え、南方、黑姫、飯綱の高峰櫛立して居る其の中に、野尻湖の明鏡が隱見して居る。土地高燥、四季野に山に興が盡きない。附近はスキーの好適地で一二月上旬から四月上旬まで滑れる。泉源は溫泉場の西六粁、妙高山中の北地獄から曳いたもので泉質效能は妙高と同じである。

〔旅館〕赤倉ホテル（電赤倉一、室五六、一泊一圓半―四圓、㊐三圓半）、洋室三、一泊四圓位）、香嶽樓（電同三、室三六、㊐三圓半）、香雲館（電六、室二九、一圓半―二圓半）、高田屋（電一〇、室一六、一泊一圓半―三圓）、廣島屋（電五、室八、一圓半―二圓）、泉屋、あたらし屋、清水屋、豆腐屋（以上一泊一圓半―二圓）、妙高クラブ（電なし、室一七）。

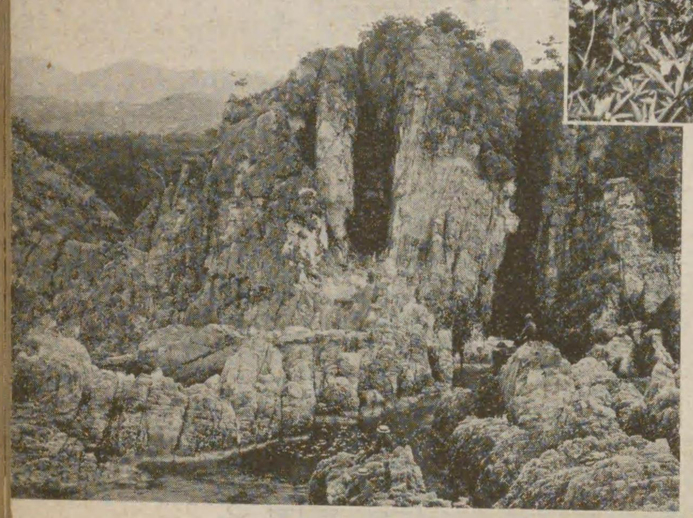
池の平溫泉　中頸城郡名香山村。田口驛の西南三粁三、自動車一五分、乘合三五錢、前七時―後八時迄列車毎、貸切一圓八〇錢（五月―十月）。妙高山の東南麓海拔七〇〇米の高所にあるので眺望がよいのは勿論、冬期雪量は妙高より一米餘も多く、附近妙高の大斜面、茅場、一本松、三つ澤等のスキー場がある。溫泉は妙高山から曳湯したものであるから泉質は妙高と同樣である。

〔旅館〕妙高閣（電關川八、室二九、一圓半―三圓半、㊐三圓）、加島ホテル（電同二九、室二六、一圓半―二圓半）、上越館、川越屋、エビス屋等。

關溫泉　中頸城郡關山村。田口の次驛關山驛から西南六粁半、自動車上り六〇錢、下り四〇錢、貸切上り四圓、下り二圓。地は海拔約九〇〇米の高所にあり、西は妙高山聳え、神奈山、前山、黑姫、戸隱の高嶺南北に重疊して眺望雄大であるが、北方には山波が打返して居て日本海の方面は充分に眺める事が出來ない。此處もスキーの練習地として知られて居る。溫泉は含鐵鹽類泉で溫度五〇度、胃腸病・呼吸器病・子宮病・皮膚病に効がある。旅館は笹屋、富山屋、柳屋、初音屋、中村屋、小松屋、吉野屋、花屋等。（一泊一圓半―二圓半）。

燕溫泉　關溫泉から更に徒歩約一粁七許り登つた所にあり、此處から妙高山頂迄は約六粁、途中に地獄谷や光明の瀧などの稱がある。溫泉は帶黃色半透明の硫黃泉で、溫度五〇度內外、リウマチス・子宮病・皮膚病・外傷等に效がある。旅館　中村屋、明治屋、岡本屋、笹屋、岩戸屋、一圓半―二圓半。

妙高山　赤倉溫泉から山頂まで五粁、六時間で上下する事が出來る。山は海拔二、四四五・九米のコニデー型の中央火口丘が屹然と頭角を擡え、その前方には前山、南方には赤倉山、北方には神奈山が圓陣をつくつて取回み、二重式火山の典型をハツキリと認める事が出來る。山頂には阿彌陀堂があり、富士・後間・八ツ岳・白根・戸隱の高峯・佐渡ヶ島など眼界に入る。



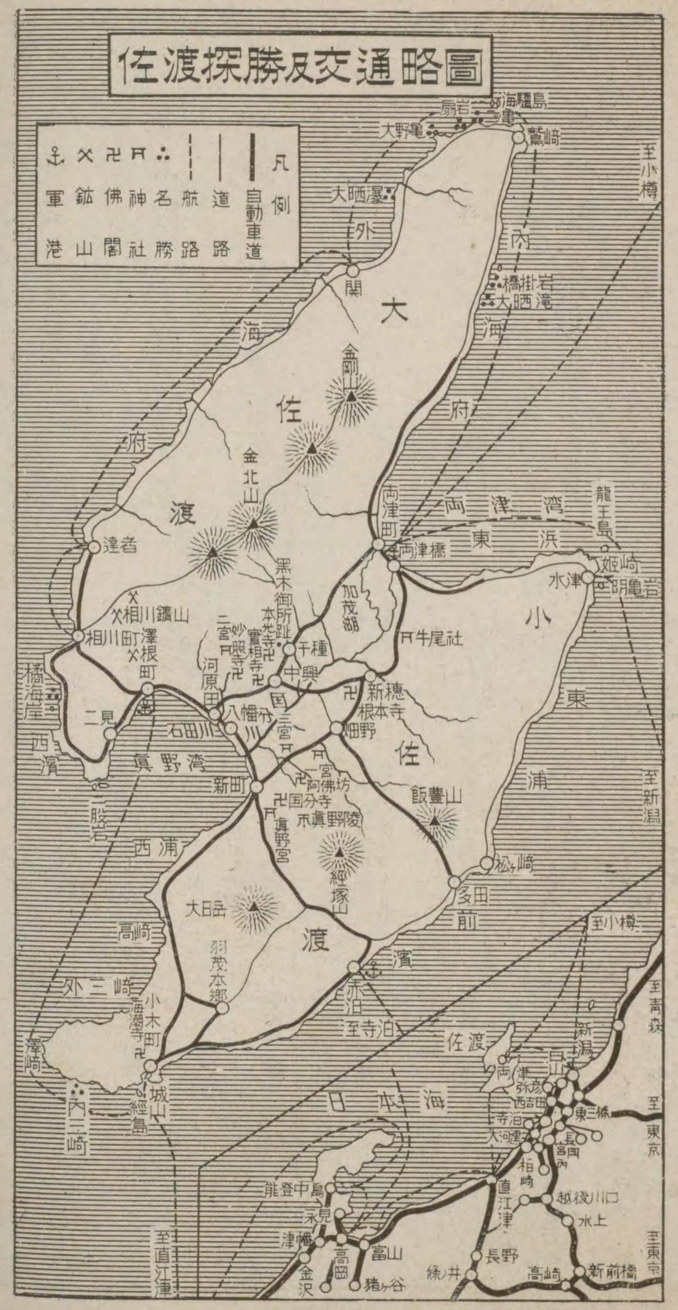
佐渡の島

上、金北山頂の石楠花の大群落

中、姫津の長井戸の奇景

下、佐渡のおけさ

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一〇・三五	上越線經由秋田及新潟行列車、車中一泊。二等寢臺アリ	▲上野―新潟九時間（三三二粁一）三等四圓一一錢。「註」乘換前晩水上溫泉ニ一泊（二四九頁參照）、翌日水上驛發前七時五八分、長岡及新津着後一時一三分ノ列車ニ乘リ、新潟市内一瞥後おけさ丸ニ乘船サルモヨイ。
第2日	新潟驛	着前 七・三五	下車、遊覽	**新潟市内遊覽**（二七七頁參照）、又ハ**彌彦神社參拜**（二七七頁參照）、ノ上新潟港カラ乘船ノコト。▲新潟驛カラ市街ヘ乘合自動車一區三錢、四區以上ハ一〇錢均一。
	新潟港	發後 五・四五	佐渡汽船（五月―八月）	▲新潟―佐渡夷間汽船デ二時間半（三三浬）佐渡汽船會社おけさ丸毎日就航（四九〇噸、定員特別室八人、二等七七人、三等三〇二人）、船賃片道三等一圓半、二等二圓五〇錢、特等三圓五〇錢。「註」▲おけさ丸ハ一・二・二月ハ前九時發、三・一〇・一一月ハ後二時發、四・九月ハ後四時半發デ、五月カラ八月迄ハ上記後五時四五分發ノ外ニ前一〇時一五分ノ二回發（但一ノ日ハ第八佐渡丸ガ前八時發後一時歸着ノ一回デアル）。▲第八佐渡丸（二三〇噸定員特別室二人、二等二五人、三等一五二人、船賃同上）。
第3日	夷港（佐渡）	着後 八・三〇	宿泊	兩津旅館　丸金（㊐二圓半）、本間（㊐二圓半）（二七四頁參照）
	兩津町	發前 七・〇〇	乘合又ハ貸切自動車	「遊覽順序」　根本寺―井戸堂―黑木御所跡―實相寺―妙照寺―川原田町―相川町―金山見物ノノチ晝食。▲乘合自動車　兩津―新穗（一〇粁五）三〇分、乘合一五錢（一時間半毎）貸切二圓。新穗―中興（五粁一五分、一五錢。中興―相川（一三粁七）五〇分、三〇錢。凡四〇分毎ニ發。▲貸切自動車　兩津町カラ相川迄四圓、小木迄八圓、赤泊迄八圓、國中廻リ相川經由小木迄一臺一日廻リ一五圓、同上歸着一日半廻リ二三圓。一日貸切一五圓。
	新中河原田興穗	着前 一〇・〇〇	金山見物晝食	
	相川町	發後 二・〇〇	乘合又ハ貸切自動車	**相川町**（二七五頁參照）。「遊覽順序」　河原田―八幡―越ノ松原―壇風城址―阿佛坊―國分寺―眞野宮―眞野御陵―戀ヶ浦―蓮華峯寺―小木町安隆寺―箭島―經島―小木ニテ夕食―夜一時小木港出帆―直江津へ。



日			
小木町	着後 六・〇〇		
第4日 小木港	發夜中 一・〇〇	第八佐渡丸	
直江津	着前 五・〇〇	下船	
直江津驛	發前 六・三五	上野行列車	
上野驛	着後 四・五五	歸宅	

▲乘合自動車　相川―河原田（九粁八三〇分、二〇錢。河原田―新町（五粁）二〇分、一五錢。新町―小木（二三粁五）一時間半、五五錢、（一日八回）河原田―小木間乘合一日七回。相川―小木（三八粁半）一臺七圓半、二時間半。尖閣灣往復三圓。

▲貸切自動車

▲小木―直江津間佐渡汽船會社第八佐渡丸（二三〇噸）自四月至一〇月毎日定期運行ス、所要四時間（三六浬）船賃一等三圓、二等二圓三〇錢、三等一圓五〇錢、外ニ艀賃トシテ小木一〇錢、直江津二〇錢ヲ要シ、艀ハ本船出帆ヨリ三〇分前ニ出ル。

「註」▲小木發午前八時、赤泊發九時半、寺泊着一一時半ノ佐渡汽船會社第二佐渡丸（二八〇噸）ノ便アリ、赤泊迄並等三〇錢、二等四五錢、特等六〇錢、寺泊迄並等一圓五〇錢、二等二圓三〇錢、特等三圓。

▲直江津着船場カラ直江津驛ヘ約一粁。

▲直江津―長野―上野間一〇時間二〇分（二九二粁二、三等三圓七一錢。

（參考）

一、直江津―高田を回遊シテ高田發後一一時一七分の急行ニ乘車（金澤發二、三等急行、二、三等寢臺アリ）、第5日午前七時上野着、又ハ途中赤倉溫泉ニ一泊（二七〇頁參照）、或ハ長野下車善光寺（二六八頁照參）ニ參拜シテ歸ルモヨイ。

直江津―高田間自動車デ二五分、乘合一五錢（三〇分毎、五人乘貸切二圓。

二、第三日小木ニ一泊、第四日自動車ニテ小木發（四四粁、一臺一〇圓）、佐渡夷港からおけさ丸ニテ新潟着、磐越線ヲ廻ツテ東山溫泉（二〇三頁參照）ニ一泊ノ上歸京スルモヨイ。新潟―郡山―上野三等四圓八四錢。

三、上野―新潟―佐渡夷―相川―小木―夷―新潟―上野ノ「クーポン遊覽券」（乘物賃ノミ）二等二二圓七八錢、三等一三圓五八錢。

旅行費用概算　二等　三九・七九圓　三等　二六・一七

（内譯）（上野―新潟二等八圓二二錢三等四圓一一錢。直江津―上野二等七圓四二錢三等三圓七一錢、自動車賃二圓〇五錢（備考欄參照）汽船賃新潟―兩津二等二圓五〇錢三等一圓五〇錢、小木―直江津二等二圓三〇錢三等一圓五〇錢、外ニ艀賃三〇錢宛。宿泊料二泊分二等七圓三等八圓ヲ計上ス。食事料其他雜費トシテ概算二等一〇圓三等五圓。）

佐　渡

佐渡ヶ島は新潟市の西方なる角田崎の沖合三一粁の日本海上にある周約二一〇粁、東西約五〇粁、南北五九粁、最大幅三一粁、面積八五二方粁の還海の孤島で、今、新潟縣の管轄に屬して居る。人口一〇六、二六二人（昭和五・一〇）、五ヶ町（相川、兩津、小木、河原田、濁根）二〇ヶ村ある。

『地勢』「北は大佐渡、南は小佐渡、中の國中（クニナカ）米どころ」と云ふ佐渡の地形を良く言ひ表はして居る名句の通り、東南から西南に雁行的に連延する二列の山脈と、其中間に横はる一帶の平地とから成つてゐる。

北の地塊は大佐渡と云ひ金北山脈が縱走し、稍中央部に海拔一、一七三米の金北山が聳えてゐる。南の地塊は小佐渡と呼び海拔六七九米の飯出山を最高峰とする國見山脈が横はつて居る。之等の地塊は主として第三紀層と火山岩（石英粗面岩及安山岩等）から成り、海濱に接する所は殆ど平地を殘さず斷崖直ちに海に臨んでゐる。殊に著しいのは北端の「外海府」地方で、海岸に沿うて數段の段丘の跡や、時には三百米に達する段丘（相川の北方笠山附近）が連續してゐる。

中間の平地帶は「國中（クニナカ）」と呼び、佐渡に於ける最も地味の豐かな、又、人口密集の地で、東北の海岸は兩津灣となつて西南に深く凹入し、尙其餘勢として加茂湖が殘つてゐる。西南の海岸は眞野灣が入込んでゐる。

『風土・經濟』佐渡は海洋的風土と暖流の關係で、比較的暖く、年平均氣溫一二度九分、盛夏の平均二五度四分、嚴冬平均二度三分で、積雪も亦少く對岸越後の比ではない。此の風土が農林に島人を精進せしめた動因ででもあらうか生產總額年一三、五一〇、〇〇〇圓中殆ど其半分六、四六〇、〇〇〇圓（米一八六、三九七石の五、〇七三、九五一圓。麥二〇、五八二石の二二〇、〇〇〇圓。大豆九、五一一石の一四六、五五〇圓。甘藷其他も成績がよい）が農產物で、水產業は農產額の三分の一にも充たぬのは（一、八一二、二一〇圓）環海の孤島に似合はしからぬ面白い現象である。

（佐渡全體の耕地一萬三千町歩中、半分以上を國中が占め、其他の大部は段丘上の田である。其他林業一、一六〇、八八〇圓。工業三、二〇八、九三八圓。鑛業八七三、二三六圓。）

『史の國、佐渡の景觀』佐渡は幾多の優れた特色のある自然的景觀を持つてゐる。大佐渡、小佐渡の周緣は實に美事に展開してゐる大棧敷を幾重にも重ねた樣な段丘と、其丘脚を洗ふ白浪の面白き調和は繪にも筆にも盡せぬ山水美の絕勝を見せてゐる。そして其段丘は或は米田となり或は牧場となりて島の經濟をも構成してゐるのである。

佐渡の名勝は主に順德天皇と日蓮上人に由緒のあるものである。承久三年痛はしくも、順德帝の遷幸を始めとして日蓮上人、日野中納言資朝、小倉大納言、冷泉院大納言泰鄕、觀世元淸等の配流されたところ、それ等流人の文學と金山の文明、絕海の孤島の段丘を舞臺として生れた佐渡の人文上には幾多のロマンティックな物語が殘されて居る。夫等の由來深い遺跡は島の隅々に至る迄分布され、景勝と合せて近代人の旅情を深く唆るものがある。旅すべきは佐渡ヶ島――佐渡は四十九里波の上……と歌はれたのは既に過去のこと、今は新潟、寺泊、直江津等から僅か數時間で渡島し得るのである。島内また至る所道路が修理され自動車も定期に運轉して居るからそれを利用すれば旅程は如何樣にも立てる事が出來る。

新潟—夷　1等 ¥3.50　2等 ¥2.50　3等 ¥1.50
外に西新潟發着の場合は船賃10錢を要す（縣營埠頭は無料）

第八佐渡丸（おけさ丸）　二四九〇噸　三三〇噸

月別＼方向	新潟發	夷着	夷發	新潟着
1. 2. 12月	前 9.00	前 11.45	前 9.00	後 12.45
3. 10. 11月	前 8.00 後 2.00	前 11.45 後 4.45	前 9.00 後 1.00	後 11.45 後 4.45
4. 9月	前 8.00 後 4.30	前 11.45 後 7.15	前 9.00 後 1.30	前 11.45 後 5.15
5月—8月	前 10.15 後 5.45	前 1.00 後 8.30	前 6.30 後 2.00	前 9.15 後 4.45
但1の日は	前 8.00	後 1.00		

直江津—小木　1等 3.20　2等 2.50　3等 1.70（繋賃共）
繋は出帆時刻より30分前に出發する

第二佐渡丸　一八〇噸

月別＼方向	直江津發	小木着	小木發	直江津着
5月—8月	前 8.30	後 12.30	前 1.00	前 5.00
5—8月の1の日 4. 9. 10月	前 6.30	前 10.30		

寺泊—赤泊—小木　寺泊—小木 1等 3.10　2等 2.40　3等 1.60（繋共）
寺泊—赤泊 〃 2.70　〃 2.00　〃 1.40

第二佐渡丸

月別＼方向	寺泊發	赤泊着	小木着	小木發	赤泊發	寺泊着
1—3,5—8,11.12月	正午 12.00	後 2.00	後 3.10	前 8.00	前 5.00	前 11.30
5—8月の1の月 4. 9. 10日	後 3.00	後 5.00	後 6.10	前 11.00	正午 12.00	後 2.20

兩津町　佐渡の東海岸、兩津灣と、佐渡第一の大湖加茂湖との間に細長く横はる港町で、町は夷・夷新・湊及加茂歌代から成り、それを繼ぐ兩津橋は加茂湖の吐口を扼して僅かに湖と海とを分ち、その橋上からは海と湖とを相望み、掬すべき好風景である。

町はもと一漁村であつたが、日本海の單調な海岸には伏木港以北良港がないので、慶應三年新潟港が開港された時、こゝがその繫船場となり、爾來次第に發展して今日を爲したものである。殊に冬季に於ける避難港としては近海に是以上の良港なく、新潟に碇泊すべき船舶も、また外洋を航行中の巨船も多くは此處に避難するので、今は佐渡の表玄關として眼覺しい發展をなして居る。港は水深く、船は直ちに棧橋へ横着され、數多の自動車が並んで客を待つて居る。人口六、八六七（昭和五・一〇調）。〔名物〕竹細工、このわた、櫻蛸、櫻干。

〔旅館〕丸金（電夷一二六、室一三、㊐二圓半）、本間（電四、㊐二圓半、室一〇）、推屋（電一八）、喜樂（電一三二）、白山屋（電一一三）、二圓—四圓。

【加茂湖】　大佐渡小佐渡の二山脈の間に挾まれた、實ては海峽だつたと云ふ國中平野の北東端に位し、その東側は一條の狹長な地帶（兩津町所在）に依つて兩津灣と隔つて居る。湖は南北に長く（六粁）、東岸に比して西岸は湖岸の出入が多い。東西の幅二粁、湖岸の周圍一七粁、面積四・九方キロ、佐渡唯一の大湖で、最深八米餘に達するが、湖の全體に亙つては概して淺い。湖は又日本百景の一として世に知られた佐渡代表的の明風光で、所謂「加茂湖の八勝」……金岳の春雪・兩峯の晴嵐・兩津橋の曉靄・椎崎の夕照・木崎の神祠・鷗洲の閑鷗・天王の秋月・湖鏡の晏鐘……等々、輕舟を浮べて湖山の風光を探るによい。

【金北山】　大佐渡山脈の中央部から西南に偏する島中第一の高峯で海拔一一七三・四米、兩津から山頂まで一二粁。夏季登山するものが多い。頂上に迦具槌智命、大彦命を祀る小祠があり、一國の鎭守として古來崇篤く、男子七歳に至れば御山詣りと稱して登山せしめ、山上に群生する「石櫛花」の枝を持歸る風習がある。頂上からは殆ど島の全容を望まれ、晴れた空には南に加越、北に粟生島を經て南部の連山が雲の知くに浮んで見える。山麓には牛馬が放牧されて居る。**【根本寺】**　兩津町から南九粁八、新穂村大野にある。日蓮上人が文永八年に流謫された當時、迫害の多い中にあつて阿佛坊夫妻の被護を受けて風雪をしのぎ、一念法を修した所である。日蓮自筆其他寶物が多い。**【井戸堂】**　中興にあり、根本寺から五粁、日蓮上人流謫中地頭近藤信重の請に依り認めた曼荼羅に用ひた井戸である。**【黑木御所跡】**　國中平野の北西側を走る縣道相川線に近く金澤村泉に理する。順德天皇御遷幸の後（寛久年中）國分寺から此處に移らせ給ひ、しばらく御座せられたと傳ふる所で、御遺蹟はよく保存せられ常に清淨の一區をなして居る。**【妙照寺】**　二宮村一の澤にある日蓮宗の靈場で、日蓮上人が文永九年四月から同一一年三月迄二ケ年間塚原から此處に移され近藤伊豫守清久の預として謫居した所である。伊豫守の族日靜は深く上人に歸依して配居の地に此寺を開基したものである。

相川町　大佐渡の西北岸、日本一の海岸美「海府」の將に盡んとする南西端に近く、段丘の上の小平地に發達した鑛山町で、佐渡の名の普く知られた金山の所在地である今人口七、一六一（昭和五・一〇調）（金山の最盛期慶長一八年頃には人口十萬を數へ殆んど現今の佐渡全體の人口に匹敵し、官設坑三百餘坑もあつた）佐渡支廳を始め其他官衙の所在地で、國の中心市街として榮えて居る。町の四近には千疊敷や春日崎の勝地があつて何れも岩石と波浪の豪壯な風景美を見せて居る。町に名物無名異燒を產し、佐渡情緒（おけさ）の本場である。

〔土產物〕銅器、無名異燒、海產物加工品。

〔旅館〕出雲屋（電相川二九、室一七、一圓八〇錢—四圓半、㊐二圓半）、高田屋（電二八、室一七、一圓八〇錢—四圓半）、濱潟屋（電三七、室一五、同上）、久保田（電一六、室一三、同上）、山長（電五三、室九、一圓半—三圓）、立身屋（電三二、室一三、同上）、佐州館（電三八、同上）、土屋（電一一七、同上）。

【相川金山】　慶長六年（約三三〇年前）、鏡石安山岩を含む第三紀層地帶に金鑛の露出を發見したと傳へ、爾來德川累代三百年の間幕府唯一の寶庫として經營せられた。維新後政府の管理に屬したが明治二九年三菱鑛業會社の經營に委る事となり現在に及んで居る。現今その產額は昔の俤を止めないが、しかし尙鑛區三三萬アール餘に跨り、坑道の深さ五百餘米、年額六〇萬圓の金銀銅を出して居る。全盛期の慶長から元和の頃にかけては金含有量百分の一を示したが、現在では百萬分の五と云ふ。鑛山見物所要二時間位。

【佐渡情緒「おけさ」】　佐渡は金山の國であると同時に、また「おけさ」節で知られて居る。お盆が來ると日暮を待つて町々の廣場、鎭守樣の境內などで盆踊が行はれる。十五、十六に最も盛で、其頃になるとお盆は過ぎても法要や祭禮のある毎に「おけさ」踊りが開かれ、男も女も、老も若きも、かの哀調を含んだ歌に合せて圓舞するのである。かくして夏の佐渡の夜は暑さも知らず涼風そゞろに吹くうちに、踊りに明け、踊りに更け行くのである。相川町には鑛山技師や町の人達で「立浪會」と云ふのを組織して旅行者の求に應じて居る。謝禮一回一〇圓と定められて居るが、定職のある人達であるから夜間に限られて居る。

佐渡へ〳〵と草木もなびく
來いと云ふたて行かりよか佐渡へ
佐渡は居よいか住みよいか
佐渡は四十九里波の上
波の上でも來る氣があれば
舟に櫓もある櫂もある
島の乙女の黑髮戀し
一度行きたや佐渡が島
沖の漁火すゞしく更けて
夢を見るよな佐渡ケ島
——佐渡おけさ——

【澤根町】　相川から河原田に行く途中、眞野灣の北岸にある町で、漁業の盛んな所である。灣內に於ける重要な港で水深く、直江津との航路が開けて居る。此町に產する銅器「斑紫銅」は高雅まことに掬すべきものがあり、世界的に名聲を博して居る。**【越の松原】**　河原田の海岸、八幡の海岸、その白砂うち續くところ靑松の蔭くるなきが卽ち「越の松原」「雪の高濱」で、眞野の入江を一眸の裡に收め、白帆靜かに去來する靜かな風景は佐渡の他の海岸では味ふ事の出來ぬ女性的な海岸である。**【眞野村】**　順德帝に最もゆかりの深い所で、聚落を形づくる新町の程近い所には帝を奉祀する「眞野宮」があり、また字豐田の海岸には「戀ガ浦」と云はれる一區がある。順德帝承久三年卯月、御年二五歳にて御遷幸の砌、御舟の着御あらせられた所と傳へられ、御製「いざさらばいそうつ浪に言問はん、おきの方には何事かある」の句を刻んだ石碑が建てられてある。**【眞野宮】**　新町の南東にあり順德天皇を奉祀しまた誓

原道眞及日野資朝の兩卿を附祭する。宮はもと眞論寺と號し、帝の山陵を守り四時の祭事を營つて居たが明治七年縣社に列し、更に近年宏壯な社殿に改められたものである。近くに御遺跡「石抱の梅」「眞野山陵」「御所跡」がある。

【壇風城阯】 新町の北東約一粁の所、國中平野の一端に草茫々として居る所に城址がある。城は木間氏の居城で、日野中納言資朝の子阿新が木間三郎を刺殺したと云はれる所である。

【國分寺】 城址の南東約一粁の所にある。天平九年聖武天皇の勅願に成るもの、本島最古の巨刹で順德帝御遷幸の初め、本寺を假宮とされ、また崩御（御在島二五年、聖齡四六歳）後は本寺で山陵の事を司つて居たのである。雷火、出火により堂塔その他燒失したが今尚國内有數の大伽藍で、本尊藥師如來は國寶となつて居る。日得上人の開基と云はれ、國分寺の近くにある。日蓮宗の主要な寺院で、境内の五重塔は佐渡唯一のもので老樹茂る中に聳立して結構壯麗松の綠と相和して居る。開基日得上人は順德帝に奉仕せる遠藤左衞門尉爲盛と云つた北面の武士で、帝崩御の後入道して陵下に心喪すること三〇年、其子盛綱亦入道して日滿上人となり、父子相計つて其の宅を寺となせしものである。なほ境内に北條高時のために島に謫居八年、遂に斷された南朝の忠臣「日野資朝卿ノ墓」がある。資朝は藤原俊基と共に後醍醐天皇を奪し奉り北條討滅の軍を起さんとして成らず、正中二年一二月八日此の佐渡に流され、木間山城兵衞尉の居城壇風城内に幽閉されたが遂に正慶元年五月二九日木間三郎のために斬られたのであつた。資朝の子阿新丸（後に南朝の忠臣日野中納言邦光となる）一三歳にして都より來り、父の仇を報じた史實は人皆知る處である。

【薄華菴寺】 小木町の北三粁の小比叡山にあり古來國分寺と共に佐渡第一の大寺で、眞言宗の名刹である。金堂及弘法堂は佐渡唯一の國寶建造物に指定されて居る。

小木町 佐渡島の西南岸にあり、兩津へ次ぐ佐渡の門戸で、城山の半島に因つて「内の淵」「外の淵」に分れ、共に水深く相川金山の全盛期――和舟交通時代には佐渡隨一の良港として段賑を極めた地である。人口五、五五六、（昭和五・一〇調）往時の俤は見られないが尙此地方の中心地で、對岸直江津との定期航路が開けて居る。此地、附近の景殊に勝れ、矢島、經島は美しく小木港口の佳景をなし、宿根木琴浦の奇竹林や椿の茂るところ、大佐渡の海岸とは全く景趣を異にし、南國に遊ぶかの趣きがある（昭和九年五月文部大臣指定の天然紀念物及名勝となる）。「本行寺」は文永八年一〇月二八日、日蓮上人流謫の折着陸した所で、「安隆寺」は文永一三年三月七日、日蓮上人赦免の使者として日朗上人着島の舊蹟である。〔土產物〕いか鹽から、竹細工。

小木にも「連會」と云ふおけさ踊の組合が出來て居る、謝禮金一〇圓。

〔旅館〕 權座屋（電小木二〇、室一〇、一泊一圓八〇錢―三圓五〇錢㊐二圓半）、さはち屋（電一八、室一二、同上、㊐二圓半）、はりま屋（電二二、一圓半―二圓半）、古田屋（電二四）、小一館（電九、同上）、鍋屋（電二五、同上）、赤梨屋（電二八、一圓―二圓）。

【箭島と經島】 矢島が古來矢竹を產するので著名、經島は日蓮上人の高弟日朗が赦免狀を持つて此島に着き、島蔭に一夜を明して讀經したと傳へらるゝので此の名がある。共に陸地から岩鼎傳ひに渡ることが出來るが、モーターボートを傭へば一時間で見物が出來る。

【海府の絶勝】 大佐渡の海に沒するところは、豪壯な海岸美の極致をなし、之を内浦及外浦と呼び居る。兩津から北にモーターボートを進める事約二時間で佐渡の北端鷲島に着く此處迄の海岸を内浦と稱し奇岩碧波に映する處、斷崖の直ちに水に臨む處、其の間に砂濱を求めて營む漁家などありて眺め飽かぬ所である。北端鷲崎には港があり、矢崎を繞れば彈崎で、波濤岩に碎けて壯觀を極めて居る。此處から關崎に至る約二四粁の間（一時間半）は佐渡隨一日本無双の海岸美「外浦」の絶勝で昭和九年五月文部大臣指定の名勝となつた。つゞいて高下崎から相川に至る約四〇粁の間も素晴らしい景勝である。

先づ海豚瀨を經て「二ツ亀」に至る。亀とは方言で、島の意であるが潮滿つれば島となり退けば砂嘴が現はれて陸續きとなる亀の子の日和ぼつこをして居るやうな美しい島である。「番島」「大野亀」「鴨島」の景が次から次と展開し「眞垂れの瀧」「大垂れの瀧」など岩壁を破つて海に瀉下する瀧あり更に南

すれば「關の寒戶」と呼ぶ塔の傳說で知られた所や弘法大師が護摩を修したと云ふ「勝榮岩」があり、「打帆浦」「彭ノ神」「片邊ノ立岩」や絶勝「勝ノ浦」が吹聲のやうな怒濤の中に聽見して居るなど、かうした奇岩と岩波は外浦の特徴で、西北に面した海岸にはどこ迄も續いて居るのである。

右海府の勝を探る場合は前掲日程案の第三日午前七時頃別仕立てのモーターボートで兩津夷港發、海路を北にとつて大佐渡の北端鷲崎を廻つて相川に船を着ける。直航すれば正午頃に着くが途中絶勝の地に停船上陸しても夕方には相川の人となる事ができる。同地一泊。

第四日　相川金山見物―河原田―妙照寺―實相寺―黑木御所跡―中興―新穗―根本寺―阿彌坊―國分寺址―新町―小木着、前記日程に依り第五日午後五時上野着のコースによらるゝがよい。

信越線（新潟―直江津間）

新潟市

▲上野から上越線經由急行で七時間一〇分（三三二粁一）、三等四圓一一錢。

▲秋田から七時間（二八八粁七）、三等三圓六七錢。

市は北に衞菊山塊、南に角田、彌彥、多寶地塊の岩石海岸を緣どる砂丘を控へ、中央に信濃川斜に吐き口を開くその兩岸に發達した港市で、市内には溝渠が縱横に通じ水運の便がよく且つ水邊の柳は「柳の都」と呼ばせる程風情を添へて居る。永く五港の一と謳はれ、現に北陸の門港をなす新潟は、寛文年間河村瑞軒が幕命により東北沿岸の航路を開いてからその寄港地として開けたもので（酒田市の項參照）その後信濃川改修工事に附帶する大河津分水の大工事が完成せられ、縣營埠頭には六千噸級以上の汽船も自由に横づけされ、北日本第一の繁華を呈し、且つ日滿首都連絡の最捷路である。

市は又濠に柳の影うつす情緒纏綿たる遊樂の街として、民謠佐渡おけさ、新潟甚句、越後追分や越後美人のほかに、また渡れば長い萬代橋の思ひ出としてのみの土地ではなく、近代產業の都としても亦著しいものがあり、漆器（年額で六萬餘圓）・佛壇（一〇萬餘圓）・履物（三六萬圓）・味噌・醬油・石油類・鐵器・肥料・雨傘・綿織物・硫酸・疊・梨果等を產する。人口一四二、六二四（八・一二調）、市内の繁華街は古町通・本町通である。

〔旅館〕 篠田（驛から一粁半、電二〇四、㊐四圓）、小甚（同一粁六、電二一八、㊐四圓）、大野屋（同一粁八、電六七九、㊐四圓）、同別館（同一粁八、電二二二）、室長（同二粁一、電六三）、くし清（同一粁八、電二八）野口（同一粁五、電一〇〇七、㊐三圓）、菊池屋（同二粁、電二三〇）、新潟ホテル（同六〇〇米、電一一、㊐三圓）、以上何れも市内一流旅館にて一泊三圓半、四圓、五圓。

〔廻遊順路〕 驛―萬代橋―本町通り―白山公園―古町通り―日和山―驛。タクシー市内五〇錢、バス一〇錢。

〔名所〕 ▲萬代橋 驛の北約半粁、江東沼垂町から江西舊市街に連絡する爲め信濃川に架けられた長橋で、以前は七八二米の長い木橋であつたが昭和四年八月無交式六連橋のコンクリート製眼鏡橋となつた。長さは十四、五米の陸橋について二七三米あり、巾二二米ある。▲白山公園 驛の西二粁半、乘合自動車一五分、一〇錢。信濃河畔にある。園の西隅に白山神社があり、木像聖觀音一軀は國寶に指定されて居る。近くに醫科大學、高等學校がある。▲日和山 驛の西北二粁八、自動車一〇錢、海岸の砂丘にあり眺望がよい。

〔名物〕 梨果、五穀餅、油香里。〔娛樂場〕 新潟劇場、大竹座、松竹館、電氣館、新潟館、江東館、港座、富士館。

彌彥神社（國幣中社）　新潟縣西蒲原郡彌彥村

▲新潟市白山驛から信越線柏崎に至る越後線の西吉田驛で彌彦線に乘換へ彌彦驛下車北へ約一丁。白山驛から汽車一時間四〇分（三六粁一）、三等片道五八錢。▲又は新潟市内から彌彦迄乘合自動車で二時間、料金片道六五錢（三五粁三）一日一七回。▲寺泊からバス四〇錢、四回。

天照大神の皇曾孫天香語山命（アメノカゴヤマ）を祀る延喜式所載の名神大名で古來越後國一ノ宮として著名で、參詣者の多いこと我國第四位と云ふ。（命は初め熊野に在して神武天皇の大和御征討の折賊徒平定に大功あり、後、勅により越後を鎭守して彌彦山麓に宮居し、土民に漁耕、製鹽の法を授けられたと云ふ越後地方開拓經營の祖神である）社殿は近年改造せられたもので、日本海に屹立する彌彦山を負ひ、前には坦々たる田野が續き、老杉境内に並びて森嚴を添へて居る。末社十柱、神社の社殿は元祿七年（二四〇年前）の建築で國寶になつて居る。彌彦山は神社から山頂まで約四粁、日本海の風光がよい。例祭五月一四日。

〔旅館〕彌彦軒（電彌彦二八、室一六、㊐二圓半）、冥加屋（電三四）、みのや（電一〇）。

長岡市

上野から上越線經由急行列車で五時間四三分（二六七粁）、三等三圓四四錢。

市はもと牧野氏二萬四千石の舊城下で、越後平野の南部、信濃川の東岸に位して米產年額三〇〇萬石の集散地として榮え、また附近に石油の產出が多く、石油市並商工業の市として洽く知られて居る。人口五七、八六六（昭五・一〇調）

〔旅館〕大野屋本店（表町一丁目、電五六、㊐四圓）。

〔名所〕▲悠久山　驛の東南三粁餘、電車及自動車の便がある。公園で櫻の名所となつて居る。

高田市

上野から急行列車で七時間一〇分（二八五粁五）三等三圓六四錢、新潟から普通列車で四時間半（一四四粁八）三等二圓一〇錢

市はもと榊原氏一五萬石の城下町で、越後西南部の荒川の西岸に臨んでゐる。人口三六、二七二（昭和八・一〇）、降雪量の多いので名高い。冬季の大積雪は道路を埋めて屋根に達し、屋内は晝夜を分たず點燈する事もある。從つてスキーの好適地で一二月下旬から二月下旬まで二米乃至四米の積雪があり、我國のスキー發詳地として知られてゐる。古くからスキー製作が盛んで年々數萬疊のスキーが製作され、近年高田市の主要物產の地位を占め、市たあげて斯界の民衆化に努め、近時はスポーツの城を脫して學生の通學や郵便集配等、實用的に普及發達して居る。〔名產〕毛拔、笹飴、栗飴、スキー菓子。

〔旅館〕高田館（電一三一、本町五、驛三三〇米、室二八、一泊二圓半―四圓）、高田ホテル（電二六四、本町三、驛六七〇米、室二〇、二圓半―四圓）、三光館（電二八、本町四、驛六〇〇米、室一六、一泊同上）、大黑屋（電五一四、仲町四、驛七〇米、室一二、二圓―三圓）、高田ステーション・ホテル（電七七、仲町四、高田驛前、室一四、洋室二、室代八〇錢―一圓、食事は食堂にて自由にとる）。

〔廻遊順路〕驛―金谷山―高田城址―別院―驛。

▲高田城址　驛の東一粁半、市の東部にあり、慶長年間松平忠輝の築いたもので、今城址に歩兵一五旅團が置かれて居る。▲金谷山（スキー場）市の西南約二粁、市附近の主なるスキー練習場で、此附近一帶の斜面は比較的長大なものはないが變北に富み、ジャムプ臺の設備があり、地形が競技場として適するので年々大會が催される。▲東本願寺別院　驛の西南約一粁二、中寺町にあり、享保年間の建築で本堂、食堂、大門、鐘樓、寶藏院等の諸堂があり伽藍壯大。

直江津町

上野から急行列車で七時間一五分（二九二粁二）、三等三圓七一錢。前記高田市から乘合自動車で二五分、一五錢。

市は荒川の吐口にあり、直に日本海に臨み、佐渡の小木へ汽船便があり、信越北陸の鐵道分岐點に當り北陸の要津で今人口一萬四千を有す。

〔旅館〕いかや本店（電七、驛七〇〇米、三圓、五圓）、いかや支店（電一二〇、驛前、同上）、和倉樓（電五〇、驛一粁六、二圓半―四圓）、料理兼業）、清風軒（電五七、驛一粁六、一圓半―二圓半、料理兼業）、山崎屋本店（電二七、驛一粁、二圓、二圓半）、つたや（電一一九、驛一粁、一圓―二圓）。

〔名所〕▲五智國分寺　春日村五智國分、直江津驛の西一粁六、自動車一〇錢、貸切六〇錢、高田驛から一〇粁、自動車一五錢。寺は天平年間の創建になる越後國分寺で、また親鸞上人の舊蹟として知られ、現今の堂宇は江戸時代の再建になり往古の壯麗はないが三重塔、經藏、仁王門等があり、奥の院に安置されて居る大日如來の坐像は國寶である。▲春日山城址及び林泉寺　直江津驛の西南四粁三、自動車山麓迄一五錢、貸切山上迄一圓半。高田驛からは西六粁、自動車一五錢。春日山驛の西二粁、春日山上にあり、城址は眺望爽快洵に要害の衝で、其の頃不識庵の據つて天下を睥睨した處である。山麓の林泉寺に長尾家累代の菩提所、謙信幼時の學修所で、謙信の自筆「春日山」及「第一義」の額は寺寶となつて居る。

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 一〇・五五	米原行六〇三列車、車中一泊	▲上野―長野間七時間〇五分（二一七粁二）三等二圓九二錢。（上記第六〇三列車ニハ寢臺車ナシ）（參考）上野發後一一時五〇分米原行ノ終列車ハ長野着前七時三九分
第2日	長野驛	着前 六・〇〇	下車、參拜	▲長野驛カラ善光寺迄二粁、自動車一〇分、乘合一〇錢（九人乃至一六人乘、一日三五回）貸切五〇錢（五人乘）
	長野驛	發後 一・〇四	新潟行三〇五列車	▲長野―田口間一時間二〇分（三七粁三）
	田口驛	着後 二・二三	赤倉又は妙高温泉一泊	▲田口驛カラ赤倉へ五粁、自動車二五分、乘合五〇錢（五月―一〇月）、貸切二圓半。妙高温泉へ西南七〇〇米、自動車貸切五〇錢、乘合一〇錢、**赤倉温泉**（二七〇頁參照）**妙高温泉**（二七〇頁參照）、
第3日	田口驛	發前 七・三五	米原行六〇三列車	▲田口―直江津―富山―金澤間五時間半（二一七粁六分）（註）前晩上野發八・五五ノ金澤急行ニ乘レバ午前八・一〇金澤ニ着ク。三等急行料一圓。
	金澤驛	着後 一・一五 發後 五・〇六	下車、遊覽 福井行列車	▲金澤市内ニハ電車ガアリ、遊覽ニハ三、四時間モアレバ足リル。二八六頁參照。
	大聖寺驛	着後 六・二四 發後	乘換 電車	▲金澤―大聖寺―山中間（八粁九分）温泉電軌線電車デ二八分（前五・三一―後一一・五七迄省線列車着毎ニ發車）片道二八錢。電車終點から旅館迄徒歩約半粁。大聖寺驛カラ自動車貸切四圓。
	山中温泉	着後	宿泊	**山中温泉**（二八八頁參照） ▲山中―大聖寺間電車二八分。 ▲大聖寺―金津間汽車一九分（一二粁六分）。

4日			
大聖寺驛	發前 九・四五	大阪行列車	
金津驛	着前 一〇・〇四 發前 一〇・〇八	乘換 三國港行列車	
三國驛	着前 一〇・二一	東尋坊遊覽	
三國港驛（スハ）	着前 一〇・二四	東尋坊遊覽	
三國港驛	發後 二・〇〇	金津行列車	
蘆原驛（アワラ）	着後 二・一〇	蘆原溫泉ニ宿泊	

▲金津・三國港間（三國線）一六分（九粁八分）。

▲三國港驛カラ東尋坊行乘船場迄二〇〇米、東尋坊ヘ五粁、自動車一五分、片道二〇錢。（春、夏、秋ニ限リ列車毎ニ運轉ス）。

東尋坊（二九〇頁參照）

▲三國港カラ蘆原ヘ一〇分（五粁三）。

▲蘆原驛カラ蘆原溫泉ヘ半粁以内、自動車乘合一〇錢（列車毎五人乘貸切四五錢。（東尋坊カラ蘆原溫泉ヘ乘合片道二八錢、往復四五錢貸切片道三圓半、往復五圓、三〇分、一一粁二。

蘆原溫泉（二九〇頁參照）

5日			
蘆原驛	發前 九・五三	金津行列車	
金津驛	着前 九・五九 發前 一〇・〇五	乘換 姫路行列車	
福井驛	着前 一〇・三一 發後 四・二五	下車、遊覽 永平寺行電軍	
永平寺口	發後 四・五二	電車	
永平寺前	着後 五・〇六		
永平寺驛			宿泊

▲蘆原―金津七分（三國線、四粁五）

▲金津―福井間二七分（一七粁八）

（註）三國―蘆原―福井間電車ノ便アリ、（各省線驛ト接續ス）蘆原迄七分、一〇錢、福井迄四一分、五七錢。金津カラ丸岡町ヲ經テ永平寺門前迄永平寺電車ノ便アリ、所要五一分（二四粁二）賃五九錢。

福井市（二九一頁參照）

▲省線福井驛カラ永平寺門前迄電車片道四二錢、一六粁五分。四〇分、一日六回直通電車運轉ス。

（大野行電車ハ前五時カラ一時間毎ニ發車シ、永平寺口驛ニテ接續ス）

△福井―永平寺口―大野町間　京都電燈越前電鐵線電車。福井、永平寺口間二七分二四錢、（大野町迄一時間二五分、三六粁三、片道八〇錢）

△永平寺口カラ永平寺門前迄電車（永平寺鐵道線）一三分、（五粁八）片道一八錢。

▲永平寺門前驛カラ永平寺迄半粁、自動車一人一五錢。

永平寺（二九二頁參照）

6日			
永平寺驛	發前 八・一五	直通電車	
福井驛	着前 八・五五 發前 九・〇一	米原名古屋行列車	
米原驛	着前 一一・五九 發後 一二・〇六	下車、遊覽	
名古屋驛	着後 一・五七 發後 二・四五	各等急行列車	

▲福井―米原三時間餘（一〇九粁八）

▲米原―名古屋一時間五一分（七九粁九）

名古屋市見物（三八二頁參照）

△名古屋市内電車六錢（均一）、乘合自動車一〇錢（均一）。

7日			
東京驛	着前 七・一〇	歸宅	

▲東京行各等急行ニハ各等寢臺及洋食堂車アリ。（洋食朝七五錢）

「註」福井發前七時一八分米原行ニテ出發、米原ニテ二、三等急行第一〇列車ニ乘繼ゲバ其晩七時四五分ニ東京ニ着ク

旅行費用概算

	二等	三等
	圓	圓
	五四・六七	三四・三五

内譯

遊覽券（▲鐵道賃―東京―長野―金澤―米原―東京間、金津―三國港往復、大聖寺―山中及福井―永平寺門前電車往復ニテ二等一八圓九九錢、三等一〇圓〇六錢。▲自動車賃（テ二等一〇錢▲宿泊料　赤倉溫泉、山中溫泉、蘆原溫泉ノ三泊、二等一二圓、三等一〇圓ヲ含ム。）

	二等	三等		二等	三等
急行料（名古屋―東京）	二・三〇	三・〇六五	車中寢臺料（一夜分）	二・五〇	三・〇八〇
永平寺宿坊一泊料	一・五〇	〃 一・五〇	食事料及其他乘物賃	一・五〇〇	一〇・〇〇

MEMO

北陸沿線

親不知・子不知　新潟縣西頸城郡歌外波村及市振村海濱。北陸木線親不知驛から市振驛に至る間、白馬山脈の走つて海に迫る所を云ふ。峭壁亂峙すること約四粁、往時は越後路の難をかこつ者の常に語つた歴史的の難所で、海波の迫る間に路を通じ、朔風波浪を躍らす時は諸所の岩窟内に一時身を避けては走り〳〵すると云つた有樣だつたので、親子といへども相顧みるの遑なき實狀であつたところから此の名があつた。今は山の中腹に新道を通じ、また鐵道も敷設されて、その難所も昔語として車窓から靜かに望見する事が出來る。親不知驛の東三三〇米に籠岩、東約一粁に駒返しの奇勝がある。

小川溫泉　富山縣下新川郡泊町。北陸木線泊驛の東北約一粁九、自動車五分、一五錢（列車ごと）、貸切五〇錢。

地は日本海の碧波に臨み、日本北アルプスの峻嶺を背ふて居る。溫泉は東南一二粁半を隔てた藥師ケ岳の山麓谿間から曳いた新湯で、無色清澄の鹽類泉である。溫度四四度内外、リウマチス・濕疹・婦人病・胃腸病等に効がある。

〔旅館〕小川溫泉株式會社の經營で鱸山閑、不老館、松湯館があり（電泊一七、一泊二圓五〇錢乃至四圓、遊覽券指定一泊二圓五〇錢）、別に自炊館がある（一日三三錢乃至一圓）。

泊驛から元湯迄一二粁八、自動車五〇分、乘合八〇錢（列車毎）、貸切三圓元湯旅館一泊二圓—二圓半。

富山市　上野から急行列車で九時間五二分（四一二粁四）、三等、四圓八一錢、大阪から急行列車で七時間二〇分（三五六粁八）三等四圓三二錢。

市は越中平野の中央にあり、神通川その西北を繞つて流れ、鱒川は市の東部を貫流して神通川に合して居る。近くに岩瀬港を控へ、富山縣治の中心として縣廳（總曲輪）、地方裁判所（西田地方）、税務署（殿町）、商工會議所（總曲輪）等の諸官衙を始め、縣立高等學校（東岩瀬）、藥學專門學校（奥田）がある。また此の市の賣藥はその名天下に知られ、産額一、五〇〇萬圓に上り、絹織物、銅織物、醸造、製肥、製綿等の工業も發達して居る。人口八九、四〇七（昭和八年末調）

富山はもと藤井と呼ばれ、眞言宗の一寺藤井富山寺のあつた一寒村であつたが、永祿の頃、越中の豪族水野越前守勝重が此處に築城してから次第に城下町として發達し、のち神保氏三代（織田信長の臣佐々成政（天正七年）等之に據り、文錄四年前田利家の有に歸し、寛永一六年四月、利常の二男利次に州内一〇萬石を分與し、萬治年間富山城を經營せしめて居城となし、爾來子孫相次いで明治維新に及んだ。舊城址の邊は總曲輪（ソウカワ）と稱し、石垣、濠等を存し、縣廳初め諸官衙が多く此處に集つてゐる。

〔旅館〕富山ホテル（櫻木町、驛一粁、電話三一三一—三一三三、室二二、一泊三圓半、五圓、七圓）、富山館（總曲輪、驛一粁、電四一六七・四一六六、室一八、一泊同上）、舟山館（總曲輪、驛一粁四、電四一〇一・四一〇二、室一六、一泊同上、外に洋室四、室代五圓）、北越館（櫻町、驛一〇〇米、電二五四五、室一三、一泊二圓半、三圓、三圓半）、千代館（新富町、電二〇九八、室一四）。

〔遊覽順路〕驛—富山城址—西別院—總曲輪通り—日枝神社—廣貫堂—大法寺—光嚴寺—驛。

右貸切自動車にて二時間、料金四圓。▲貸切自動車一時間二圓、半日（六時間）一〇圓、一日（一〇時間）一五圓。

▲市内電車　一區五錢、二區八錢。▲乘合自動車　南富山驛ゆき（三〇分毎）、市内一周（一五分毎）、五百石ゆき（一時間毎）、笹津ゆき（省營バス一時間毎）二區迄五錢、以上一區毎に三錢增。▲タクシー　市内六〇錢均一。

〔名所〕▲城址　驛から一粁、バス七分、五錢（一七回）、▲廣貫堂　驛から二粁三、梅澤町にあり、市電廣貫堂前停留所下車、バス八錢（四五回）、明治九年に舊藩時代からの賣藥業者が合同して設立した株式組織の製藥工場で、諸施設完備して居る。古來の傳統を繼承し、二千有餘の行商人は父祖からの配置區域を守つて各自擔當の華客に出入して居る。▲日枝神社（縣社）驛の南一粁半、市内山王町にあり、市電一番町停留所下車、バス八錢（四五回）、市の氣土神で、六月一日の例祭には大いに賑はふ。▲呉羽公園　驛の西二粁半、山麓まで電車の便がある。山は海拔八〇米、市の西郊に當り、北アルプスや市街の眺望がよい。

〔富山の賣藥〕反魂丹や熊膽丸、感應丸などで全國津々浦々から海外にまで知られてゐる富山の賣藥は、天和六年富山二代の藩主正甫が慈善的に病者を救濟するため斯業の隆盛を圖つたのに始まる。此の業は始めは富山のみに限られて居たが、漸次上市・東岩瀬・滑川・水橋・四方・小杉・中田等の各地にも擴がり、今では縣下の總産額二千萬圓に上り、内地は勿論朝鮮・臺灣・支那・印度・南洋・布哇等迄も販路を擴張してゐる。

立山（三五〇頁參照）。

高岡市　北陸木線高岡驛の所在地で中越線の支線を出し、北方八粁に日本海岸屈指の要港伏木港を控へ、富山縣西部の交通、經濟、文化の中心をなし商工業の盛んで、鋼鐵器の産地として名高い。人口五七、四〇〇（昭八・一二）

〔旅館〕延對寺（末廣町、驛一〇〇米、電二六〇、一泊二圓五〇錢、三圓、四圓）、梅松園（末廣町、驛二〇〇米、電一三八、一泊同上）、高岡ホテル（坂下町、驛一粁半、電五七、一泊同上）、木津樓（定塚町、驛一粁、電五六、一泊同上）、大昌樓（堀上町、驛一粁、電二一〇、一泊同上）、富士館、福水樓（片原町、驛七〇〇米、二圓—三圓）以上料理兼業。高岡館（驛前、電二三八、一泊一圓半—二圓半、官吏學生向）、光陽館（驛前、電二八八、一泊同上、商人向）、角久（定塚町、驛四一〇米、電三五四、一泊同上、商人向）。

〔廻遊順路〕驛—櫻馬場—高岡公園（城址及射水神社）—前田利長墓—瑞龍寺—驛。以上貸切自動車にて一時間位、料金一圓五〇錢。

〔名所〕▲櫻馬場　驛から公園に至る街路で、往時前田利長が此の兩側に櫻樹を移植して調馬場とせしより此の名があり、櫻樹數凡五〇〇株、多くは二三〇年前のものに屬し、花季には壯觀である。▲高岡公園　驛から東一粁半、慶長一四年九月加賀二代侯前田利長の築城した城址で、面積七萬餘坪、加越能三州中最も形勝の地を卜して營んだ處と云はれ、天然の風光絶佳である。城は慶長一九年五月利長薨去と共に廢城となつた。

射水（イミ）神社（國幣中社）驛から東一粁半、高岡城本丸址にあり、延喜制の名神大社で二上神を祀る。當社はもと二上山麓にあり、養老元年僧行基が二上山に養老寺を創草して勸請したものと云ひ、明治八年此處に遷座された。現在の本堂及拜殿は明治三五年八月の再建である、例祭は四月二三日。

二上山は伏木港の西方四粁にある高さ二七三米の小丘陵であるが、秀麗形を有し、古くから月、紅葉の名所として古歌にも多く詠まれ、山頂からは日本海上遠く佐渡ケ島をも望み、眺望實に絶佳である。

▲瑞龍寺　驛の南一粁半、市内關町にあり、明暦年間前田利常が先代利長の菩提所として建立したものと云ひ、往時は加越能三州中第一の寺格を有する曹洞宗の巨刹であつた。佛殿、法堂及總門は今尚當初のものを存し、佛殿は國寶となつてゐる。

大牧溫泉　富山縣東礪波郡利賀村大牧・北陸木線石動驛から加越鐵道で青島町まで四〇分（一九粁五）、四九錢。又は北陸線高岡から分岐して居る中越線の福野驛（高岡から四九分、一九粁四、三二錢）で前記加越鐵道に乘換へ、それから青島町まで一三分（六粁七）、一七錢。青島町から庄川水力發電所專用電車で二〇分で小牧の發電所堰堤下に達し（賃一五錢）、夫から庄川峽の絶勝を賞し乍ら汽船で三五分で大牧溫泉に着く、汽船賃三五錢。（專用電車は加越鐵道の各列車及大牧・祖山行汽船と連絡して居る。汽船は一日六—七回往復あり貸切五人迄三圓）。

大牧溫泉は庄川水力電氣會社の大ダムにより生じた一大峽湖庄川峽の絶勝に臨む仙鄕にあり、溫泉は湯鹽類泉で、泉溫三九度、胃腸病・リウマチスに特効がある。

〔旅館〕大牧溫泉旅館、室二三、一泊一圓五〇錢以上、外に自炊部四〇室あり湯賃賃（食事道具及薪代共）一人一日三五錢、五〇錢、蒲團貸料二枚上等一日二〇錢、木炭一箱一〇錢、電話井波電一一一番。

庄川は遠く澤飛の國境烏帽子岳に源を發し、大白川を併せ、沿岸至る處奇峭絶壁をなす中を或は躍り或は左曲右折して途中幾多の絶景をなして北流し、富山平野を潤蔭して富山灣に注いで居る。

庄川峽　は庄川水力電氣會社の大ダム（高さ二六〇呎、長さ一、〇〇〇呎）により庄川の清流を堰き止めて湛へられた延長七哩の一大峽湖で、碧潭峽間に漲りて漣さへも立たぬ深澄な山水湖を現出して絶勝をなし、小牧から大牧を經て祖山まで一日數回汽船の便が開かれて居る。

汽船賃　小牧—大牧間三五錢、小牧—祖山間四五錢、大牧—祖山間一〇錢。

大牧から尚上流約二粁の平村大字祖山には祖山溫泉があり、此處は加賀騷動の發頭人大槻傳藏最期の地である。泉質は大牧と同じ。尚庄川の上流飛驒國

壇に至れば平氏の末裔が住むと傳ふる五箇村があり、大牧、祖山附近あたりで唄はれる「麥や節」は平氏の殘黨が都の榮華を偲ぶ心から生れたものといひ一種の哀調を帶び、また平家踊と云ふものがある。

浪の屋島をのがれ來て　薪木採るてふ深山邊に
烏帽子狩衣脱ぎ捨て、　今は越路の袖家かな

—麥や節—

倶利伽羅古戦場（クリカラ）　北陸本線倶利伽羅驛の東南約五粁、加越の國境、河北郡倶利伽羅村礪波山中にあり（二七七米）、壽永二年五月（皇紀一八四三年）木曾義仲の軍が大牛の奇計を以て平維盛の率ゐる平氏の軍を破つた有名な古戰場で、西南二粁の埴生庄の護國八幡宮には義仲が戰勝を祈つたと云ふ願文が今尚存し、またそのすぐ南の蓮沼村關野谷には、義仲の愛妾巴及葵兩女の墳墓がある。

（能登半島）

七尾港　七尾線七尾驛所在、金澤から汽車二時間餘（六六粁〇）三等一圓三錢。

地は能登半島の咽喉を扼する重要都邑で七尾灣頭に位し前面に横はる能登島は日本海の激流を防いで良港をなしてゐる。人口一二、一六四（昭八・一二調）産物には海鼠及七尾セメントがある。名物　大豆餡、三年酒。

〔旅館〕惠比壽屋（電七尾一一一、室一六、一圓六〇錢—二圓八〇錢）、小山屋（電二五）、ふじや（電四二二）、大津屋（電五一）、佐田美屋（電四三四）、まつなぎや（電七〇）一泊一圓半以上。

〔附近名所〕▲七尾城址　驛の東南約五粁半、矢田郷村石動山の北にあり應永年間畠山滿則が能登の守護に補せられた時築城したもので、城址は眺望がよい。▲能登島　七尾灣の中心に横はる大島で、東西約一一粁七、南北約六粁、面積四六方粁餘あり、全島低樹叢生する丘陵で鹿島郡に屬し、三ケ村の部落があり、新緑に、キヤムプに、海水浴に、又ハイキングに、茸狩りに、狩獵にと四季の行樂に絶好の處である。汽船二〇錢。

〔青柏祭〕五月一三日から三日間七尾町で催される最大行事で、名物のダシは見事な意匠をこらして一三日深夜から曳き出され、各町を練り歩き非常な賑を呈する。

九十九灣（ツクモ）　七尾港から丸中汽船で小木港まで九〇錢（二二浬）、その東方海岸の複雜な彎曲をなす部分を九十九灣と稱し、規模は小さいが風光勝れてゐる。

和倉温泉（ワクラ）　石川縣鹿島郡端村。

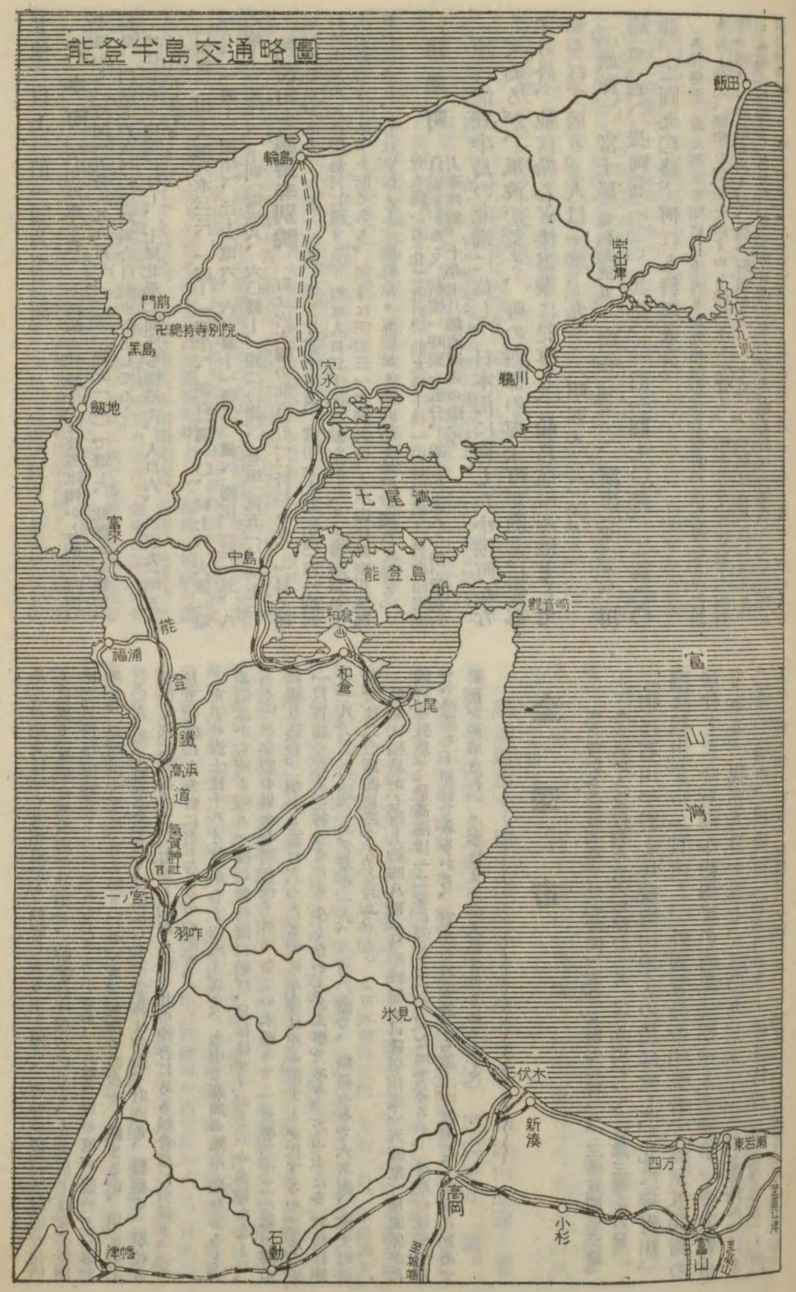
七尾線和倉驛から北二粁、自動車六分、乘合一〇錢（列車毎）五人乘貸切七〇錢。

七尾町から七粁九、乘合二〇錢、貸切一圓五〇錢。

地は七尾灣を南灣、西灣に劃する辨天岬の尖端にあり、能登島の南端屏風崎前面に横はり、机島・種ケ島・猿島・唐島などが靜かな海に翠松を頂いて散在し、風光明媚の境を占めた海岸温泉で、夏季は海水浴に、灣内周遊によく、また釣魚は浴客の樂しみとするところである。尚此處は遊覽地としての外に遊樂的氣分にも富んで居て脂粉の香も相當濃やかである。

温泉はヨードブローム及鹽化土類含有の食鹽泉で、泉温八三度、リウマチス・婦人病・貧血症・萎黄病・濕疹などに效がある。

〔旅館〕和歌崎本館（電和倉六、室一九、一泊二圓半—五圓）、和歌崎別館（電五、室九、一泊同上、㊐四圓）、銀水閣（電四五、室一四、一泊二圓半—五圓、㊐四圓）、柴端別館（電一四、室二〇、一泊一圓半—三圓五〇錢、㊐三圓五〇錢）、加賀屋（電一九、室二六、一泊二圓二〇錢、三圓三〇錢、㊐三圓）、多田館（電二、室一五、一泊二圓、三圓、㊐二圓八〇錢）、都石館（電一〇、室一六、一泊二圓半—四圓）、小泉館（電一六、室一二、二圓、三圓）、柴端本館（電一四、室一二、一圓八〇錢、二圓五〇錢）、直木館（電一五）、海望館（電二〇）、田中館（電一七）、松屋（電二三）、大井館（電四〇）、大德館（電二七）、和歌政館（電三一）、多喜館（電五二）、室屋（電三七）、竹屋（電九）、本田館（電一一）、奥田屋（電六二）



其他。以上一泊一圓乃至二圓。

穴水町（石川縣鳳至郡）七尾線の終點で、分岐點津幡から約三時間、金澤から三時間一五分（九九粁一、三等一圓五一錢）で達し、此處から飯田、輪島、門前等の各地に定期乘合自動車を出してゐる。

地は能登の中部に位し、七尾北灣に面する漁港で、人口六、二五九（昭五・一〇調）を有す。

〔旅館〕山下（電穴水三三、一圓—一圓半）、新谷（電一〇、同上）、大島（電一七、一圓—二圓半）、辻本（電六、六〇錢—一圓二〇錢）、勝田（電一五、八〇錢—一圓半）、毛利（電五八、六〇錢—一圓二〇錢）、吉田（電五一、同上）。

門前町と總持寺別院　町は穴水驛の北西約二〇粁にあり、一日七回定期自動車があり、（所要一時間、乘合片道七五錢、貸切六人乘三圓）西へ約四粁で半島の西岸黑島村に達する。町は人口三千三百餘を有し、もと專洞宗の大本山總持寺のあつた所である。同寺は明治三一年燒失後、大本山は神奈川縣鶴見に移され、今は別院として觀音堂・五院址・門前諸寺址等が殘つて居る。

輪島町　穴水驛から北二五粁、前九時—後一〇時過迄一日六回定期自動車がある、所要一時間一五分、乘合片道八〇錢、貸切六人乘四圓。十年七月鐵道開通の豫定。

地は能登半島の北端に位し、日本海に面した小港町をなしてゐるが、風波が荒く、町の西部の海士町が漁業に從事する外、他は殆んど漆器業に從事し、輪島塗の產地として知られて居る。人口一三、九一一（昭五・一〇調）

〔旅館〕富士屋（電輪島五九、廣谷（電三六、濱忠（電二五、川端（電一四）、長岡（電二三二）其他、一泊一圓七〇錢、二圓二〇錢、三圓九〇錢。何れも料理兼業。

▲輪島塗　遠く應永年間に、土人某が九州根來から髹漆の法を傳へたのに初まると傳へ、堅牢な製品を出すのを特色として居る。近年沈金、朱眼細工、彫刻等の精巧な漆器も出すが、膳、椀類を主として出し、年額三百萬圓に達する。

▲海士に就て　河井町、鳳至町は商工業で榮え、輪島町の主要部をなして居るが、輪島崎町及海士町は海士の部落で、人情風俗に著しく他と異るものがある。海士の祖先は早く九州邊から漂着したものと傳へ、彼等の言語は附近の住民とは異り、風儀は勿論粗野朴訥で、貯蓄心は頗る乏しく、また男子は女子を助けて只舟を操縱するのみであるところからか、女尊男卑の風が強いとの事である。之等海士達は、春も終りに近づき、北海の波のやゝ鎭まる頃、男女約七〇〇人、海士町を文字通り空虛にして、家族は勿論、財產も、警察も、學校も僧侶も共に同舟して、町から約四八粁の北の沖合にある舳倉島に引移り、一〇月下旬頃にまた町に引上げるのである。

女子の海士は十八才位から十四五才迄で、水中で惡魚の難を拂ひ得ると云ふ信念から姥も娘も一樣に觀音髻に結び、身にはサイジと云ふ巻褌をまとひ、「く」の字型の貝金を腰に押す外は全くの赤裸々で一五尋乃至二〇尋の海中に躍り込む。朝から海に入つたものは午後は他の海士と交代するのであるが一日百圓の收入を得るものも少くないと云ふ事であり、その主なる收穫は鮑の一八、〇〇〇圓、エデ草の一六、〇〇〇圓で、舳島のみで六萬圓、海士町全體では二〇萬圓に達すると云ふ。

舳島は輪島から海上約四八粁（發動機船一日貸切往復一五圓位）周圍僅かに六粁の孤島で、最高海拔一二米に過ぎない平坦な地であるが、冬期は氣候酷烈で、漁業も不可能であるから、夏季のみ輪島から海士が渡來し、此處に初めて聚落が形成され、冬季はまた無人島となるのである。

金澤市

▲上野から急行列車で一一時間一五分（四七二粁一）、三等五圓三三錢。

▲大阪から急行列車で六時間〇一分（二九七粁一）、三等三圓七六錢。

市は石川平野と丘陵性山地との境に位し、北に淺野川、南に犀川が市を貫流し、外國貿易の先覺者、錢屋五兵衞の居住した金石港を約四粁の西北に控ゆる北國第一の大都市である。現在人口一五七、三〇九（昭和五・一〇調）產物には羽二重を始め、絹織物（約五百萬圓）・綿糸紡績（五五〇萬圓）・酒（金・銀・銅・洋酒の四種で、全國生產の七割五分を占め海外へも輸出する、四二〇萬圓）・漆器・銅器（意匠及色彩の絢爛を以て著はれて居る）・九谷燒（雅趣ある樂燒の一種大樋燒があり、また硬質陶器をも產す）等、昭和七年度工產總額四、六一〇萬圓を算し、商況活潑である。

市はもと前田氏百萬石、三百年間の舊居城で、代表的な舊城下町である。市の發祥地は今の兼六園附近で、山崎と呼ばれた村落であつた。慶應康永の頃親鸞三世の齋覺如上人此地に來りて一小刹を今の城址の地に建立したのが創まりで、戰國時代の文明三年本願寺第八世の蓮如上人亦來りて此處に住し、伽藍本願寺を創立して別院とし、土塁を設け、木柵を繞らし、御山（或は尾山）と稱し、遂に勢力を得、長享二年守護富樫政親を亡し、兵革防守のため堡障を設け近江山科から下間頼善を招いて堡守と爲した。その後天正八年織田信長の將佐久間信盛、主命を受けて之を陷れ、大いに修築を加へて居城と爲し、居山城と稱した。然るに天正十年信長は本能寺の變に仆れ、羽柴秀吉が其後をうけて天下の實權を握るや、忽ち信長の宿將等との間に衝突が起り、賤ケ岳の戰となつた。此役に信盛は柴田勝家の部將として亡び秀吉は加賀二郡の地を能登の領主前田利家に加封した。依て利家は翌一一年六月一四日能登七尾城から此の地尾山城に居を移し、文祿元年土木を起して塁壁を築き、金澤城と改稱し、子孫繼承して明治に至つたのである。

前田氏が入城してからは、越前、尾張等から參集するもの多く、忽ち城下町として急に其面目を改めた。利家は夙く秀吉と共に信長に仕へ、また秀吉の晩年には德川家康等と共にその五大老の重任を擔つたのであるが、家康が江戸幕府を開くに及び、他の外樣大名と共に、幕府に臣禮をとらなければならなかつた。然し前田氏は外樣大名中の最雄藩であつたので、自然自己防衞策から常に德川氏に對し恭順の意を表し、また他方に於ては名工巧匠を招いて建築土木を起し、或は茗趣を張り名器を連ねて風流韻事を事として幕府の鋭鋒を避くるに力めたものの如くであつた。されば當時、本阿彌光悅、光瑳、光甫、後藤顯乘・卽乘・程乘・小堀遠州等、豐臣氏の保護を受た巧匠で金澤に集つたものが多い。今日市が美術、工藝の上に於て京都、東京に次ぐ優越の地位を占むるは、此の時代の餘澤である。また能樂は、舊藩時代に於ける金澤人士の娛樂の中心であつたので、今日も尙生流謠曲の隆盛な事は特筆に値し、茶道、生花も亦盛んで、市人の魚釣遊樂の習慣などと共に、金澤は如何にも古い町であるとの感を深からしめ、金澤は人情の優しく住よい町であるとは他鄕の人々のよく言ふ處である。

〔旅館〕安井屋（金澤ホテル、驛前、電二四八・五三三、和室三二、一泊三圓以上、洋室三、室代三圓—五圓。階下に和洋食堂あり、㊐三圓半）源圓（上松原町一、驛へ一粁半、電一二三・二七七〇、和室一七、一泊四圓—八圓、洋室二、室代三圓）、藤屋（上柿木畠町、驛へ一粁八、電一六〇三・一一二三、室一二、三圓—五圓、㊐三圓半）、宮保（下柿木畠町、驛へ一粁八、電一二一八、室一七、三圓—五圓）、茶屋（驛前、電四七五、室一八、洋室一あり。二圓—三圓）、朝井屋（仙石町、驛へ一粁半、電七三三、室一七、一泊二圓半—五圓）等。

〔廻遊順路〕驛—持妙院—本願寺別院—卯辰山公園—兼六園—天德院—大乘寺—野田山—香林坊—尾山神社—驛。

▲持妙院の妙蓮池　驛前、木の新保六番町持妙院の境內にある。池は三九七方米及七三方米の二個あり、共に所謂妙蓮が群生してゐる。此の蓮は淡紅色の花を一莖に三乃至八輪、中には十數輪もつけるので珍奇なものとして天然紀念物になつてゐる。花期は八月上・中旬頃。▲東本願寺別院　東約一粁、市內橫安江町にあり、市の起原と因緣の深い寺で、眞宗の盛んな市の寺として參詣者が多い。今の本堂は昭和二年の建立になり、市內第一の大伽藍である。▲卯辰山公園　驛の東約二粁半（電車小坂神社前下車百米）、淺野川を隔てゝ東北に蜿蜒連る丘陵で、向山又は東山遊園とも稱し、面積八萬アール餘の森林公園である。園中起伏に富み、望湖臺と名づくるあたりが最も眺望に富み、河北潟から日本海をも望み、脚下には金澤市を一眸に收める。▲兼六園　驛の東南二粁、電車公園前下車（五錢）、城址の東南に隣接し、小立野臺地の西北端を占め、日本三公園の一に數へられる名園である。もとの御殿殿の址で、文政二年（紀元二四七九年）前田齊廣の開いたものである。洛陽名園記の「園廻之勝不能相兼者六　務宏大者少幽邃　人力勝者少蒼古　多水泉者艱眺望　兼此六者惟湖園而已」と云ふ句に因り松平定信（樂翁公）の命名したものと云ふ。園內を二大部に分ち低部を蓮池庭、高所を千歲臺と呼ぶ。總面積凡そ三萬五百坪、明治七年五月太政官布告により萬人偕樂の公園として公開されたもので、千歲臺の東部、日本武

塔の銅像前には櫻廻り二米半、樹高六米半に及ぶ菊櫻があり天然紀念物に指定され、また園の西部には圖書館・商品陳列所・兼六會館等があり、尙園の南部にある成巽閣は前田侯爵家の別墅であるが、その庭園は指定の名勝である。▲天德院（曹洞宗）驛の東南約四粁、市内上鶴間町にあり電車の便がある。元和年間加賀藩主前田利常の内室天德院菩提のために建立された名刹である。▲大乘寺（曹洞宗）驛の南七粁、市内野田町にあり、弘長年間富樫家尙の建立にかゝる古刹である。▲野田山　驛の南約六粁、市の西南端に起伏する丘陵で、文祿年間以來の共同墓地で、その山麓には利家以下前田氏累代の墳塋がある。

尾山神社　（別格官幣社）驛の東南一粁半、市内西町舊前田家別邸の地にあり、電車の便がある。境内風致に富み、加賀藩の祖前田利家を祀る。例祭は四月二七日、尙利家の入府記念日、即ち六月一四日には市祭があり、種々の餘興など行はれ、大いに賑はふ。▲加賀千代女墓　驛の南半粁、市内田丸町專光寺の墓地にある。千代女は江戸時代の女流俳人で、蕉園又は妙林と號し、加賀松任の表具師六兵衞の女である、金澤の人福田彌八に嫁したが、二五才にして夫に別れた時「起つて見つ寢て見つ蚊帳の廣さかな」の句を吟じ、のち薙髮して「髮を結ぶ手の隙あつて炬燵かな」、また愛子追想の句「蜻蛉釣り今日は何處まで行つたやら」及び「朝顏に釣瓶とられてもらひ水」、「澁からうか知らぬど柿の初ちぎり」などの句が最も人口に膾炙して居る。安永四年九月八日七四才にて歿す。北陸本線松任驛附近興聖寺境内に千代尼塚がある。▲小立野臺　兼六園に續く屋、淺野二流に挾まれた狹長な丘陵で、出羽町練兵場・衞戍病院・金澤醫科大學・高等工業學校・刑務所等があり、また藩主前田利常の室、天德院のために建てる名刹天德院（曹洞宗）などがある。

市内遊覽自動車一臺二五人乘、六時間一五圓、四時間一〇圓、三時間七圓、二時間五圓。バス一區五錢。

山中溫泉　石川縣江沼郡山中町。

北陸線大聖寺驛から八粁九、溫泉電氣會社電車により二八分、賃二八錢、電車終點から旅館迄徒歩100米以上。又は大聖寺驛から自動車貸切四圓。

町は西に藥師山、水無山の翠巒、東に東山の丘陵を繞らし黑部川の淸流を控へ、町の南端にこほろぎ橋の景勝がある。此處は山中節と漆器で知られた情緒豐かな溫泉町で、溫泉は無色透明の鹽類泉で泉溫四九・五度、消化器病・神經衰弱・皮膚病・呼吸器病・腎臟炎等に效があり、特に脚氣山中の稱がある。

〔旅館〕吉野屋（黑谷川畔、山中驛から八七二米、電山中一・四、和室五一、洋室二、一泊四圓半、五圓、六圓、㊐五圓）、聽泉閣（黑谷川畔、同二一八米、電七・五七、和室五〇、洋室五、一泊二圓半、三圓、四圓、㊐四圓）、たわらや（黑谷川畔、同一〇九米、電三八・二三八、室一六、一泊二圓半、三圓、三圓半）、五明館（總湯附近、同三二七米、電二、室三〇、一泊二圓半、三圓、四圓、㊐四圓）、山田屋（同上、同三二七米、電三二、室一五、一泊二、二半、三圓）、こんや（同上、同三二〇米、電三一、室一九、二圓—三圓）、越後屋（同上、同三四〇米、電三九、室一五、一圓、二圓半、四圓）、近江屋（同上、同三二七米、電二二、室一〇、二圓、二圓半）、かつらや（同上、同三〇〇米、電一六、室一六、二圓—三圓）、きく屋（同上、同三四〇米、電四七、室九、一圓半—二圓半）、丸田屋（同上、同三四〇米、電九、電二一八、室一六、一圓半—三圓半）、山下屋（同上、同三二〇米、室九、一圓半—二圓半）、柿屋（同上、電六、二圓—四圓）、常磐屋（電三五）、三好屋（電一八）、（以上九・一〇、大聖寺驛調）

〔附近名所〕小富士、促織橋、味谷、道明淵、高濱、桂泉、釆石巖、水無山大巖等の十景及蟋蟀橋の奇景其他の勝地がある。〔名產〕山中漆器、九谷燒。

山代溫泉　石川縣江沼郡山代町。

北陸線動橋驛から南五粁二、溫泉電軌會社電車で一五分、賃金一五錢。貸切自動車一圓半。前記山中溫泉から電車で一九錢、同大聖寺驛から東六粁餘、電車一九錢、同粟津驛から電車三九錢、粟津溫泉から電車二八錢、片山津溫泉から電車二七錢。

東に春日山及藥師寺山一帶の丘阜があり、他の三面は展けてゐる。有名な九谷燒の窯元は此の地で陶工後藤才次郎吉田屋などが出て居る。溫泉は弱鹽類泉で無色透明、溫度六六度乃至七三度、リウマチス・中風症等に特效があり、山中溫泉と同じく僧行基の發見と云ふ。附近に藥王院・萬松閣・椎木淵等の曳杖地がある。

〔旅館〕あらや（電山代七・五九、室二四、㊐四圓）、くらや（電四・四八、室二四、㊐四圓）、大野屋（電五・六五、室二二、㊐四圓）以上普通一泊二圓半乃至五圓、吉田屋（電一三・一一三、室一八、㊐三圓）、白銀屋（電二五、室一三）、吉野屋（電三、室一九）、花屋（電一六、室二一、㊐三圓）、やまや（電一二、室一六）、以上一泊一圓半乃至三圓、田中屋（電一）、玉屋（電二四）、出藏屋（電六）、かもや（電二六）、以上一泊一圓半、二圓半。

片山津溫泉　石川縣江沼郡作見村片山津。

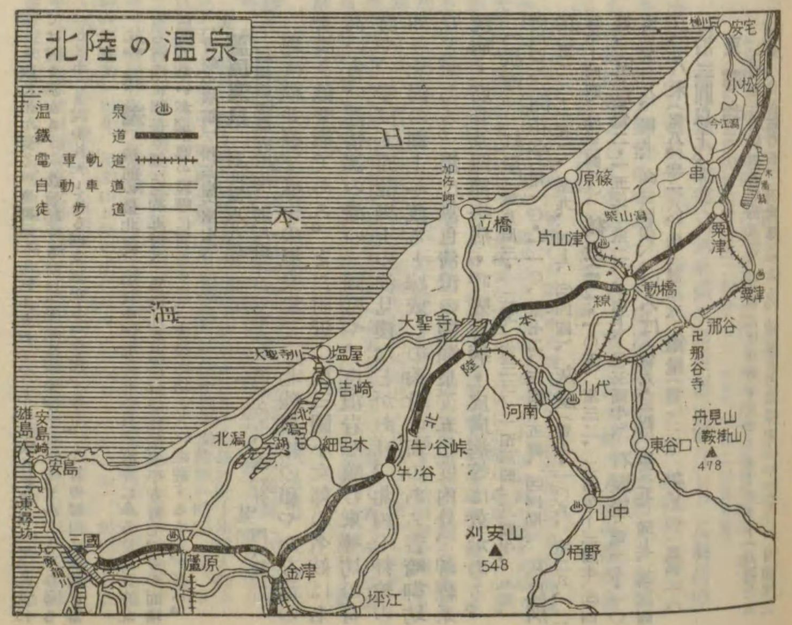
北陸線動橋驛から西四粁五電車八分、一二錢。自動車乘合一三錢（前八時—後七時半迄列車毎）貸切五人乘八〇錢。

地は瓢湖畔（柴山潟とも云ふ）の風光明媚の境、湖は四時色彩の變化極まりなく、又舟遊に適す。泉質鹽類泉で慢性胃腸病・糖尿病・黃疸に效がある。附近に小鹽・浦・藥師山・三湖臺（眺望佳）等の勝地がある。

〔旅館〕矢田屋（電車片山津驛から二〇〇米、電話片山津八、室三五普通一泊二圓半—五圓、㊐四圓）、東野（同七〇米、電同七、室二六、二圓半—四圓㊐三圓）、湯之出別莊（同一八〇米、電三九、室二三、二圓半—三圓半、㊐三圓）、あらや（同五〇米、電五二、室三〇、二圓半—三圓半、㊐三圓）、森本（同二五〇米、和室二二、洋室一、二圓—三圓、㊐二圓五〇錢）、鹿野（同一七〇米、電一一、室二四、二圓—三圓、㊐三圓半）、吉野屋（電二六、室三二、㊐二圓半）、關（電一〇、室二〇、一圓半—二圓半）。

粟津溫泉　能美郡粟津町。

北陸本線粟津驛の東南三粁一、電車一〇分、賃金一一錢。自動車八分、乘



合（列車毎）二〇錢、貸切一圓三〇錢。山中から電車四七錢。

溫泉の東方の丘は養老公園と云はれ日本海の碧波を望む事が出來、山村水郭の風光掬すべき地である。湯は無色透明の硫黄泉で、五〇度内外、慢性呼吸器病・慢性消化器病・リウマチス・皮膚病・花柳病等に效がある。

溫泉から二粁餘、電車を利用して行けば紅葉に名高い那谷寺がある。

〔旅館〕 法師（善吾樓、電要津一、室五〇、㊐四圓）、坂田（神泉館、電八、室三二、㊐四圓）、山下（對岳館、電五、室三五、㊐四圓）、嘉宮（かみや、電一七、室三三、㊐四圓）、山本（電一二、室二三）、のとや（電七、室二〇）、のみや（電三、室一五）其他一泊一圓三〇錢乃至四圓。

那谷寺（眞言宗高野派） 溫泉電軌那谷寺驛の南半粁、那谷村那谷にあり、境内に聳ゆる岩山は紅葉の名所として知られ風致に富み、庫裡に屬する小庭園は名勝として指定されて居る。

吉崎御坊（東西兩本願寺別院） 坂井郡吉崎村にあり、北陸本線大聖寺驛から西六粁五、自動車三〇分、賃片道四〇錢、往復七〇錢（一日六回以上）貸切五人乘二圓、尙大聖寺驛から七〇〇米の所から吉崎御坊の手前七〇〇米の地點迄大聖寺川の巡航船（一日五回定期）の便がある。片道二〇錢往復三〇錢、三〇人乘、四〇錢。又は細呂木驛から約六粁、自動車二〇分、賃三〇錢（七回、貸切一圓半或は三國線芦原驛から七粁二、自動車三〇分、乘合片道五〇錢往復八〇錢（一日四回、貸切往復五圓。

寺は北潟湖北口東岸にあり、蓮如上人が文明三年近江の三井寺を免れて越前に入り、一乘谷城の國主朝倉敏景に謁して一宇を建立したのが今の吉崎御坊で、今は東西本願寺の別院となり、堂塔伽藍壯大である。その願慶寺、正念寺には何れも「肉付の面」を傳へ、互に眞贋を爭て居る。肉付の面とは昔嫁を憎める姑が、恐しい面をつけて嫁をおどした處、天罰たちどころに至つて面が顔から取れなくなり、始めて己が罪深きを悔い、蓮如上人の法力に依つて取り去る事が出來たと云ふ傳說の面である。而し事實は一種婦武、上人の下に來り美しき顔に生を受くべき御示しを乞ふたので、上人は憐れに思召して「此世には醜き惡女も、一念發起する時は、未來は極樂淨土に往生せんこと疑ひあるべからず」と說かれたとある御文章からの俗說である。寺背の御山は展望に富んで居る。

北潟湖 越前の最北部、加賀の國境に近い日本海岸にある。潟は東北から西南に細長く延び（約五粁）、周圍凡そ二〇粁、面積三平方粁で、その面積は廣くないが、水郷の雅趣に富むので、吉崎御坊と共に來遊するものが多い。

〔吉崎の旅館〕 相柴屋（室七）、鹿野屋、一泊一圓半位。

蘆原溫泉 福井縣坂井郡芦原村。

三國線蘆原驛附近、別に福井から電車の便がある、四一分、四八錢。

地は福井縣下唯一の溫泉場で、北陸屈指の和やかな湯の香濃き歡樂鄉である。また附近には三國小女郎の名妓に名高い古い港情調の濃い三國町や、白浪岩を嚙む東尋坊の奇勝や、春は九頭龍堤上の汐見櫻などがあり、北約七粁繪の如き北潟の湖上を渡ると嫁威しの肉付の面のある吉崎御坊などがある。湯は無色清澄の鹽類泉で五〇度内外、神經系統病・筋骨及關節疾病・呼吸器病・皮膚病等に效がある。

〔旅館〕 紅屋（電芦原三・一二五、室三二、一泊三圓、三圓半、九圓、㊐四圓）、開花亭（電一〇・一一〇、室七二、三圓―五圓、㊐四圓）、灰屋別莊（電二三・一五二、室九、同上、㊐四圓）、灰屋（電七・一〇八、室二八、二圓半―四圓、㊐三圓半）、鶴屋（電一・一〇五、室三二、二圓半―三圓半、㊐四圓）、室吉（電二・一五三、室二〇、同上、㊐三圓半）、石塚屋（電一七・一〇七、室二八、同上、㊐三圓半）、いろは（電九・三四、室三五、同上、㊐三圓半）、八木（電八、室一八、㊐三圓半）、龜屋（電一一）、かどや（電四一）、一泊二圓以上。

東尋坊

三國線三國驛の西北約五粁、夏季には自動車及モーターボート（片道二五錢、往復四〇錢、列車毎）がある。前記芦原溫泉から一一粁二、自動車三五分、乘合片道二八錢往復四五錢。一日五回、貸切片道三圓、往復四圓半。

三國町の北方に接する雄島村の西海岸で、一の斷帶崖海に臨む處、奇岩怪石峭壁の如く相連つて、海水の碧潭に映じ、北方に斗出する安島岬からその岬頭に浮ぶ雄島に至る迄風光絕佳の勝地である。東尋坊の奇勝は此の地方を被ふ安山岩が海蝕作用を受けた結果で、其の節理は三角形或は六角で、龜裂の方向は水平面に直角をなして居る。米ヶ脇浦から安島浦に至る間に於ける東尋坊の七ツ釜と稱せられるものは最も著しいもので、その池壁をなす安山岩は柱狀節理を呈し、神巧鬼削千仞の絕壁をなし、池の深さ五丈五尺岩壁一七丈間口八間奥行二三間、實に天下の奇觀である。東尋坊と相對する雄島の小島は、安島岬から二〇〇米、安山岩の露出著しく、樹木茂りて風趣がよい。東尋坊から更に北東へ二粁の海岸崎浦も亦奇勝に富んで居る。

〔遊覽の好期〕 四月から一〇月迄で、七・八・九月の魚釣最も可。

〔舟賃〕 東尋坊往復モーターボート貸切往復（六人迄）三圓、夏季中は乘合がゆく、往復五〇錢、所要往復四〇分位

雄島廻遊乘合七〇錢、貸切（六人迄）五圓、一時間半。

三國港 九頭龍川の河口に臨み、越前平野水運の咽喉を扼し、商業盛んで、北國の要津をなして居る。港は昔から船舶の出入繁く、其結果遊廓場所が榮え三國小女郎の名は世に著名な處である。町は水鄉の雅趣に富み、春は汐見櫻の桃めも美しく、夏は避暑によく、秋は名高い盆踊りで賑はふ。

（名物）うに、かに、わかめ。〔旅館〕「雄島村米ヶ脇」望洋樓（驛から一粁五、電六七、一圓半―二圓半）、雄島館（驛から九〇〇米、一圓―二圓）。「三國町」宮太館（電三八、驛から一粁、一圓―二圓半、晝食八〇錢、一圓）、地上屋（驛から二〇〇米、電二二九、一圓半―三圓）。

福井市

▲上野から一三時間三六分（金澤迄急行）五四八粁九、三等五圓九一錢。
▲大阪から急行列車で四時間二四分二二〇粁三、三等二圓九五錢。

市は福井縣の北部、越前國の稍西部に偏なし、足羽川の流に沿ふた越前平野の中心地で、今人口六七、四四四（昭和八年末調）福井縣治の中心、また氣溫濕度が機業に適する處から絹織産地として名高く、羽二重・富士絹・人絹の産が多い。（七年度絹織物總額一、八五三萬圓）

市はもと福井城の周圍に發達した謂はゆる城下町で、松平氏三二萬石、北陸の雄藩として知られて居た。福井は古來勇將の封ぜられ、或は陣を置いた所で天正元年織田信長は越前の朝倉義景を滅ぼし、大いに北陸に勢威を伸べんと志し、越後の上杉謙信に備ふるため、宿將中の勇將柴田勝家を越前に封じ、之を「北の莊」と呼んだ（今の柴田神社の地）。のち德川家康が天下の權を握るに及び、外樣大名の隨一として加、能、越三ケ國百萬石を領する前田家を抑へる要地として、慶長五年その子松平秀康を越前に封じ、六八萬石を領せしめた。秀康は翌六年九月北の莊を修築し同一一年九月に至つて竣成した。その子忠昌の時代（寛永年間）に北の莊の北は敗北の北に同じく不吉なりとて福井と改稱せしめたと云ふ。

〔旅館〕 名和屋（佐佳枝上町、電二二四、一泊四圓、六圓、一〇圓）、幾代（佐佳枝上町、電七三、一泊三圓半、四圓、五圓）、田島屋（佐佳枝上町、電三七四、一泊二圓半、三圓、四圓）、茶治（電六三五）、其他。

〔遊覽順路〕 驛―福井城址―九十九橋―足羽山公園―藤島神社―幸橋―驛。タクシー小型（二人乘）四〇錢、大型（五人乘）五〇錢、大型貸切一時間三圓、半日（五時間）一二圓。

〔名所〕 ▲福井城址 驛の西三三〇米、城内には藩祖を祀つた佐佳枝神社があり其他福井縣廳・縣會議事堂・中學校・女學校・圖書館等がある。▲足羽山公園 驛の西南約一粁半、足羽山丘陵の上にあり（登山口から半粁餘）、眺望頗るよく、市街を一眸に收める。山頂には招魂社、纖體天皇石像及橋本左内の銅像があり、東腹には別格官幣社藤島神社、西麓には足羽神社がある。足羽神社は越前の歷史上忘るべからざる男太迹皇子を祀る。皇子は應神天皇四世の御孫、孫

主人尊の皇子のちの繼體天皇にあらせられたお方で、越前坂中氏の振姫をお母とし給ひ、粟田部の郷（今の粟田部町）に住ませ給ふた。當時水利興らず、生業は不振で、庶民の困苦するを憐み給ひ、親く辛酸を嘗めさせられ、農業の途、交通の便を開かせ給ふた。其後皇子の御名は國外に響き、遂に迎へられて天位を踐ませ給ふたのである。▲養浩館（驛から北八〇〇米、寶永仲町にあり、松平侯の別邸で、邸園は通稱御泉水邸と稱して居る。

藤島神社　（別格官幣社）驛の西南約二粁、市内岩堀町足羽山の勝景地にあり、新田義貞及義宗、義興、脇屋義助及殉難將士を祀る。例祭は八月二五日。▲專照寺　驛の西南二粁、乘合一〇錢。足羽山の東北麓にあり。眞宗三門徒派の本山である。▲商品陳列所　驛の西一粁六、自動車乘合一〇錢。市内には其他寺院が多く、東西本願寺別院、興宗寺、本覺寺、善慶寺（驛の西南二粁、市内堀岩町にあり、境内には安政六年六月幕府のために捕へられて江戸小塚原刑場の露と消えた勤王の志士橋本左内の墓碑がある）を始め、天台宗の光照寺（曹洞宗の心月寺、孝顯寺、淨土宗の安養寺（國寶、惠心僧都の佛畫を藏す）、眞宗大谷派の淨德寺（狩野永德筆の日本及世界古畫を藏す、國寶）等がある。

永平寺（曹洞宗永平寺派大本山）福井縣吉田郡志比谷村志比谷。

北陸本線福井驛から越前電鐵及永平寺鐵道により永平寺門前驛下車約一粁徒歩。但電車は福井驛―永平寺門前間直通運轉されて居る。所要四〇分（一六粁五）、片道四二錢。

地は永平寺川の清流に枕み、枯木寒岩の色、鳥聲松籟の音、自ら俗塵を遠く脫するの淨境で、老樹巨木の間に山門中雀門・承陽門・法堂・光明藏・一切經藏・不老閣・瑞雲閣・僧堂・佛殿等の宏壯なる堂塔伽藍輪奐の美を極め、何れも近年の再建である。寛元元年道元禪師（承陽大師）の開山になり海内屈指の巨刹で、末派寺院は廣く全國に亘つて一萬四千有餘を有し、檀越、信徒は一千餘萬と云はれ我國佛教派中諸屈指の大本山である。年中參詣者絶ゆることなく、特に毎年四月二三日から同二九日に至る授戒會及九月二三日から同二九日に至る開山忌には全國の善男善女踵を接し夥しく殷賑を極める。尙此處へ來た參詣者の目を驚かすことは、寺とは思はれぬ樣な近代的設備の整つて居ることで、立派な食堂、浴場等もあり信徒は三階建鐵筋コンクリートの宿坊に宿泊することが出來る。（宿泊料は思召と云ふ事になつて居るが、普通一圓五〇錢位）

小舟渡遊園地　越前電鐵小舟渡驛前にあり（福井から電車五〇分、四六錢、二一粁七）、同電鐵會社の經營で九頭龍川の流に沿ひ、風光よく夏季は納涼地として賑はふ。此の附近はまた鮎漁地としても有名である。

敦賀町　福井縣敦賀郡。

地は三面山を繞らして海山の形勝に富み、敦賀灣頭に臨んで良港をなし、對岸浦鹽斯德との間には毎月三往復の連絡船を出し、東京からの國際直通列車も運轉されてゐる。毎月五日・一五日・二五日東京發の第七列車に一・二等寢臺車を連結して東京―敦賀港間に直通運轉してゐる。東京發午後九・四五、敦賀港着前九・一四、五〇八粁八、二等一一圓二二錢）、また北鮮各港との最捷經路として重きをなし清津・雄基・羅津・元山等の定期航路が開かれて居る。

此の地は古く笥飯（ケヒ）と稱し、また角鹿（ツヌガ）と呼ばれ、韓土との往來の要津に當り、舊藩時代には酒井氏一萬石の支封地で北國樞要の商港であつた。鐵道は小濱線を出して山陰方面に連絡し、海陸交通の便によく市況殷盛である。人口二四七〇六（昭八・一二調）

（旅館）植山別莊（驛から二粁一、電六四、室一七、普通一泊三、四、五圓、㊁三圓五〇錢、料理兼業）、熊谷ホテル（電一四三、驛一粁五、室一三、内洋間四、二圓―三圓半）、具足屋（電一三八、驛二粁、室一六、同上）大黑屋（電一六八、驛二粁、室一九、同上）、松屋（電一三五、驛前、室一

一、同上）、小林別館（電一二八、驛一粁五、室一六、うち洋間二、同上、料理兼業）。

氣比神宮　（官幣大社）驛の北一粁半、敦賀町の東端曙にあり、バス一〇錢伊奢沙別命（御倉津大神とも申し、播種・養蠶の道を開かれた大神でゐる）日本武命・帶中津彥命（仲哀天皇）・息長帶姬命（神功皇后）・譽田別命（應神天皇・豐姬命（神功皇后の御妹）・武内宿禰の七神を奉祀し、神宮の造營は頗る古く、今の社殿（慶長年間福井城主松平秀康の造營）及大鳥居（高さ三丈四尺丹塗の四脚門で、正保二年の建立）は特別保護建造物になつて居る。例祭九月四日。

金崎宮　（官幣中社）驛の北三粁、バス一〇錢。町の東北部字泉にあり尊良親王（後醍醐天皇の第一皇子）、恒良親王（後醍醐天皇第六の皇子）を祀る。社境は古の金ケ崎城址で、敦賀灘一帶の風光を瞰下する景勝の地でゐる。延元元年（紀元九九六年）後醍醐天皇尊氏と御和談の際、新田義貞は恒良、尊良兩親王を奉じて此の地に下り北國經略に當つた。尊氏之を聞いて、足利高經、高師泰に命じ金ケ崎城を圍ましめた。義貞よく拒いたが、城中遂に糧食盡き、圍を衝いて免れ、尊良親王は自盡し給ひ（延元二年三月六日、御年二七歲）、恒良親王は舟に搭じて蕪木浦（今の甲樂城の邊）に逃れられたが遂に捕へられ、城は遂に陷つた。高經は諸將の首を實驗するに、義貞、義助の首がないので親王に御尋ねすると、親王は事もなげに「昨夕二人とも自害したが、火葬にするとて、皆で騷いでゐた樣だ」と僞つて仰せられたので、高經も心を安じ、親王を都に送り、やがて御弟の成良親王と共に花山院に幽閉し奉つた。然るに義貞兄弟は足利氏の油斷のひまに、密に兵勢を蓄へ、忽ち敵の數城を破つたので、尊氏は親王を憾み、遂に藥を勸めて殺し奉つた。時に延元三年四月十三日、御年僅かに二十五歲にあらせられたのである。當社は卽ち恒良、尊良兩親王奉祀するもので、誰か當時の歷史を繙くもの、一度此地に遊ばんか、千載の下になほ悲憤の情堪へ難きものがあらう。

▲松原公園　驛の西約三粁。町の西南端にあり、白砂青松、海を望んで風光明媚である。園内には幕末史上に著名な水戸の浪士武田耕雲齋等を祀つた松原神社がある。

以上巡遊約二時間、自動車賃切二圓牛（クーポン契約二圓二五錢）。松原から更に海に沿つて北に進めば辨天島があり、更に北方四粁の松原村には縣社常呂神社があり船でゆくと面白い。敦賀約二圓、夏季は遊覽船四〇錢。

小濱町　福井縣遠敷郡。小濱線の主要驛で敦賀から一時間半（四九粁五）三等七八錢。地は若狹第一の都會で、小濱灣の東南岸に位し、北川の河成平地を控へ、敦賀と共に天然の良港である。もと酒井氏一二萬五千石の城下で、山海の風光に富み、また海産物に富んで居る。人口八、三二〇（昭和八・一〇調）

市街の南方後瀨山麓には小濱城址（驛の東北一粁七、バス一〇錢）、北麓には縣社八幡神社・發心寺がある。また町の西方青井山には小濱公園があり（驛の西約一粁三）山上の眺望勝れ、園内には梅田雲濱の碑、佐久間艇長の銅像がある。（名物）若狹漆、若狹鯛、若狹鰈。

（旅館）青濱館（電三〇、室二七、㊁三圓半）、せくみ屋（電二〇、室二六、㊁三圓）以上料理兼業、普通一泊二圓半乃至四圓。新田（電一五一）、鶴田屋（電五六）、一泊一圓半、二圓、木崎（三四二）。

蘇洞門（ソトモ）　小濱灣を抱く北の半島、久須夜ケ岳（クスヤ）（六一九米）の西南岸は外面濱（トモ）と呼ばれ、凡そ八粁の間曠岩峭立、島嶼起伏して頗る偉觀を呈して居る。中でも大門小門と稱するは各東西に貫通した洞門で、その中に舟を入れる事が出來、吹雪瀑、唐船岩、沖之岩、泊の蘇洞門などの奇景が勝れて居る。海上八粁、モーターボート賃切四人迄七圓半、一〇人以内九圓半、定期乘合一人九〇錢、遊覽時間約三時間、五月から八月中旬までがよい。驛から乘船地迄半粁。バス一〇錢、陸上からの交通はなく、海上も外洋に面して居るので波濤險惡の日は赴き難い不便がある。

尙敦賀、小濱間の三方驛の北八八〇米に風光のよい**三方四湖**がある。湖は南から三方湖、水月湖、久々子湖、日向湖の四湖で、其中水月湖は最も大きく、周圍一四粁、面積五平方粁、最深四三米ある。三方湖（上湖）は淡水湖、水月湖（中湖）は半鹹湖、久々子・日向の二湖は鹹湖で、三方・久々子・水月の三湖は切通しによつて互に連り、水月湖と久々子湖との切通した浦見川と呼び寬文の頃の奉行、行方久兵衛の開鑿したものである。一湖窮つて一湖生ずる眺望は移りゆく湖邊の美景とよく調和し、夏日の舟遊には理想的のものである。遊覽には先づ驛の北三三〇米の三方石觀音に詣り、三方湖、水月湖を經て浦見湖の勝を訪ね、久々子湖に行く、そこから早瀨港に出て小舟で日本海の風光を賞し、久々子湖に上陸久々子辨天に詣でて河原市驛に出るがよい。約半日の行樂である。

黒部峡谷探勝日程案（東京から五日）

日程	地名	發着時刻	記事	備考
第1日	上野驛	發後 八・五五	金澤行急行列車（二、三等寢臺車アリ）車中一泊	▲上野―三日市間急行列車デ九時間一〇分（三八〇粁六分）、三等片道四圓五三錢、急行料六五錢。 ▲三日市―宇奈月間電車デ（黒部鐵道會社線）三八分（一七粁一）片道電車賃五四錢（三等ノミ） 「註」冬期スキー季節ニハ東京及京阪方面カラ往復連帶割引乘車券發賣の筈デアル。
第2日	三日市驛 宇奈月驛 猫又	着前 六・〇五 發前 六・〇六 着前 六・四四 發前 七・〇〇	乘換 宇奈月行電車 下車 日電軌道	**宇奈月溫泉**（二九七頁參照） ▲宇奈月カラ鐘釣迄一五粁五ノ間日本電力會社ノ專用軌道ガアリ便乘スル事ガ出來ル。片道一圓往復一圓半、一時間一〇分。宇奈月發七・〇〇、九・二五、一・二〇、鐘釣發九・〇〇、一・〇〇、三・三五。尙鐘釣―小屋ノ平間二粁一ノ間ガソリンカー（一五分）ガアルガ一般ノ便乘ハ出來ヌ。
	鐘釣	發後 一・〇〇	日電軌道	**鐘釣溫泉**（二九七頁參照） 普通一般ノ黒部溪谷ノ探勝ハ、宇奈月溫泉カラ始マリ、鐘釣溫泉、猿飛ノ奇勝ヲ經テ祖母谷溫泉マデ行ク。此ノ間ハ道モヨク、充分ニ黒部溪谷ノ美觀ニ接スルコトガ出來ル。 ▲猿飛ハ黒部奇勝ノ一ツデ、鐘釣溫泉カラ上流約五粁、徒歩約二時間、日電軌道ノ小屋ノ平終點カラ約半粁。東カラ流下スル祖母谷ト本流トノ合流點デ、急激ニ黒部川ハソノ河身ヲ狹メ、白泡沸騰スルガ如ク奔流シテ居ル所デアル。 鐘釣溫泉カラ百貫山ヲ對岸ニ望ミ、ガラ谷、ウド谷ヲ橫ギリ、小屋ノ平ヲ經テ小黒部谷ノ落口ニ到レバ後廻ハ愈愈大トナル。小黒部谷ハ鷲岳大窓ノ南面ニ發ヲ發シ、毛勝岳、猫又岳カラ來ル中ノ谷ノ水ヲ併セテ一大溪谷ヲ形造リ黒部本流ニ合流スルモノデ、支流中ノ最モ長大ナモノデアル。小黒部谷ノ吊橋ヲ渡リ山側ヲ登レバ道ハ二ツニ岐レ、右ニスレバ立山登山路デ、池ノ平ニ出テ、左ガヘ黒部本流ノ岨道ヲユケバ數百米デ猿飛ノ奇勝ヲ俯瞰スルノデアル。 猿飛カラ尙暫ク進ムト道ハ二ツニ岐ル。左ニ溪側ヲ下リ、長キ吊橋ヲ渡ツテ對岸ニ移ル道ハ祖母谷入リノ道デ上流約五粁半ノ所ニ祖母谷溫泉ガアル。猿飛カラ約一時間半。此處ハ祖母谷、祖父谷溪流ノ合流點ニアリ、名劔山ノ南麓デ海拔八四五米四圍悉ク密林デ蔽ハレタ神祕境デアル。
第3日	宇奈月	着後 二・一〇	一泊、夕食	
第4日	上野驛	着前 七・〇〇	歸宅	

旅行費用概算

二等 四〇・三〇圓
三等 二〇〇・五四

内譯（資車賃急行料共往復二等二一圓八〇錢、三等一一圓四四錢二等寢臺下段二夜分九圓、三等上段二回一圓六〇錢、黒部一泊料（二圓五〇錢、食事料其他費用二等七圓、三等五圓ヲ計上ス、

〔參考〕黒部カラ白馬又ハ立山ヘノ行程及宿泊所

▲白馬岳ヘ　祖母谷溫泉カラ中脊尾根を辿リ鑓ケ岳ヲ經テ達スルモノ、祖母谷川ノ右岸ヲ辿リ百貫峠ヲ經テ清水岳ヲ廻ツテ（途中不歸岳附近ニ小屋ガアル）達スルモノ、及ビ祖母谷カラ南越ヲ經テ大黒ニ出デ唐松小屋一泊、唐松岳カラ北ニ縱走シテ達スルモノトガアル。

▲立山ヘ　鐘釣溫泉カラ小黒部峠中腹分岐點（此間約七粁、約二時間）ヲ右折シテ小黒部谷尾根ヲ辿リ池ノ平小舍着一泊（分岐點カラ約一六粁、約一二時間途中坊主山ニ黒部保勝會建設ノ小舍ガアル）翌日劔小舍ヲ經テ別山乘越シカラ地獄谷ニ下リ室堂一泊（此間約一六粁、一〇時間）。室堂カラ立山往復シテ立山溫泉一泊、千垣驛カラ富山ニ出テ歸ル。（第三四一頁參照）

〔注意〕黒部方面カラ立山其他アルプス諸峰ヘノ登山ニハ充分ナル用意ト熟練セル案内者ガナケレバ決シテ斷行スベキデハナイ。案内人夫一日二圓三〇錢（食費ハ雇主支辨）、案内人ノ世話其他ハ宇奈月ノ黒部保勝會又ハ宇奈月驛内黒部案内人組合ニ申込メバヨイ。

〔黒部ノ宿泊所〕黒部ノ交通ニ於テ最モ必要ナル宿泊所ハ前記各溫泉場ノ外ニ左記ノ小舍ガアル。

〔清水小屋〕祖母谷カラ百貫峠ヲ經テ白馬岳ニ至ル途中、不歸岳ノ南側ニアル。モト黒部保勝會ノ建設ニカヽリ、昭和六年營林署デ改築シタモノデアル收容約一五名。

〔坊主小舍〕小黒部峠カラ尾根傳ヒニ立山方面池ノ平ニ達スル途中ノ坊主山ニアル。昭和六年黒部保勝會ノ建築ニナル二間ニ三間ノ木造平屋造リデ一〇名位收容出來ル。

〔小屋ノ平小屋〕日電專用軌道ノ終點ニアル。

〔欅平小舍〕欅平分岐點カラ約一粁バカリニアル。

〔欅ノ木小舍〕欅平ヲ過ギテ下廊下ヲ經、更ニ新越澤ノ落合神仙峽ヲ經テ僅カノ所ニアル。木造二階建。

〔十字峽小舍〕十字峽ヲ過ギテ下廊下ヲ經、更ニ新越澤ノ落合神仙峽ヲ經テ僅カノ所ニアル木造二階建。

〔雄山澤小舍〕雄山澤ノ落合ニアル木造二階建。

〔平ノ日電小舍〕平ノ小舍附近ニアリ、木造二階建デ無電ノ設備ガアル。

黒部峡谷

黒部峡谷は越中の最奥、信・飛・越の三國の境上に聳ゆる鷲羽嶽（海拔二、九二四米）に源を發し、東西共に二、五〇〇米乃至三、〇〇〇米に及ぶ大山列—立山・藥師連峯と白馬・針ノ木・烏帽子連峯ノ間ヲ隔てゝ本邦第一の深峡を刻し、日本北アルプスの北半を縱貫すること凡六〇粁、愛本に至つて始めて平野に出で、北西に擴がる大扇狀地を造り、富山平野の東北隅に至つて日本海に注ぐ急流である。全延長凡そ八四粁、此の峡谷は飛騨山脈を縱貫する最大最深のものであつて、飛騨の双六谷と共に最も原始的風趣を保有し得た峡谷で、花崗岩に依て構成せられた大峡谷、高山風景の特色を具備するその流域は、全流域の大部分實に六〇粁に連つて居る。殊に吾人が此の峡谷を推賞しておかないものは、其特色の豐富であり、從つて景勝の非常に多い事であつて、鼠返し・猿飛・仙人谷・十字峡・神仙峡或は下廊下・中廊下・上廊下等々、殆ど全流を通じて景勝を以て滿され、緊張せる風景の連續的美觀をもつて居る此の峡谷の如きは、内地に其比を見ぬ處であるからである。而も岩壁の高い黒部の廊下では、森林は自然に高所に移て居るので、日光は直接大峭壁を射て激流の面に反映し、最も狹く幽邃の谷である廊下に於て却て、明快壯麗の感を與へ明るいしかし深い神祕を藏して居る谷、赤裸々な豪快な、男性的な谷の面影を、此の黒部の峡谷に於て痛切に賞味する事が出來るのである。

加ふるに此の峡谷には至る所に溫泉が湧出して居るので上流無人の境に、花崗岩の窪みに堪ふる天然の浴槽に身を浸し乍ら、附近の豪快な峡谷美を恣にするの快ほ、之れ眞に仙境に遊ぶの感である。

【下廊下、中廊下、奥廊下探勝】欅平に於て祖母谷道との分岐點から黒部本流を溯り—欅平（日本電力會社の一根據地）—筋見坂の險（對岸奥鐘山西面に高さ八〇〇米に迫る大峭壁がある）—シアヒ谷合流點（筋見坂から約一時間、夫婦岩の勝がある）—オリオ谷（此間約一時間、溪趣雄麗で黒部上流の一勝區をなす。此の落口上流の崖上に岩小屋がある）—アゾ原谷（附近到る處溫泉が出る）…仙人谷落口（附近一帶に出湯多く、仙人谷は數段の瀧となつて本流に合して居る）以上一三粁餘、所要六時間位。

東谷—奥仙人谷—十字峡（此の區間の峡間は峻高な岩壁に劃られて居る。約三粁半、所要五時間位）。十字峡は劍岳東南面に源を發する劍澤と、後立山劍から鹿島槍、鹿岳等から落ちる釋小屋澤とが黒部本流を挾んで相對して合流して居るので十字の廊下を形成す。溪相の卓越、流水の壯美、岩壁、森林の豪景は黒部廊下絶勝の一つである。

十字峡—下の樽澤落口（歩道は岩場を選び、水面より一〇米内外の高さに通じ、約一時間を要する）—新越澤落口「神仙峡」（此區間は黒部本流中隨一の峻嶮であるが又壯觀を極め、下廊下の中心點をなして居る。此の歩道は殆ど棧道によつて通ず。十字峡から大べつり迄の道は昭和四年秋開通したものである。されど冬季毎に破壞を免れぬから、日電會社に於て毎年修繕を見ざる限り此歩道は到底通過不可能である）—ハンの木平小屋。十字峡から三粁四、一日行程である。

ハンの木平小屋—内蕨の助谷落口（約二時間、下廊下上部の關門に當り、四周岩壁高く流水また壯美）—御前谷落口（約一時間）—御山谷落口（約半時間）。（日本電力會社の大きな小屋があり、附近に溫泉が出る）—平の小屋（約四粁御前谷から平までの間は黒部上流中最も廣闊、優美なる流域で、森林及溪流の美、四周の高山の景趣など獨特のものがある。平は日電黒部上流の根據地であり、また信濃大町から針の木峠を經て立山方面に至る極要地點で、小屋が數

まれ、七、八月中は宿泊、賄をする。ハンの木小舍から八粁半、歩道さへ通過可能ならば十字峡から一日で平の小舍に出られる。

欅平林道分岐點から十字峡を經て平の小舍まで約三三粁（八里一七丁）。平から尙上流は中廊下の絶勝、上廊下の深峡があり、下廊下と共に黒部探勝の樞點をなしてゐる。平—東澤落口（約四粁、三時間）—金作谷落口（中廊下と呼ばる、半日行程で、口もとの樽澤を中心としたクロビンカの峻嶮があり、スゴウ澤から金作谷までは中廊下の核心をなす豪壯、荒快な廊下の勝を賞する事が出來、また金作澤を遡れば半日で藥師岳の頂上に達する）—奥の樽澤落口の立石（約三時間、立石には五、六人宿泊出來る小屋がある）—藥師澤の出合（約四時間、此處で全く廊下の域を脱し、溪谷は快豁な源流地の風景を展開して居る）—アカギ澤落口（約三〇分）—五郎澤落口（約一時間）—更に約二時間できすが雄大な黒部峡谷も草地や露岩の間を蛇らぐ小溪となり、遂に祖父岳と小鷲岳とを連ぬる尾根でつき、鷲羽乘越に到つて信越國境の脊稜に達するのである。鷲羽乘越には三ツ又蓮華の小屋があり、夏季は宿泊、賄が出來る。

宇奈月溫泉

富山縣下新川郡内山村。

北陸本線三日市驛から黒部鐵道の急行電車で三八分（一七粁一）、賃金片道五四錢（三等車のみ）

地は黒部川の上流、黒部峡谷の關門に當り、莊嚴な日本アルプスの山彙北に延びて其山裾を見せて居る幽邃境で、春花秋葉の美もあるが特に冬はスキーの好適地として有名である。溫泉は黒部川の上流約六粁の黒薙、二見兩溫泉を引いたもので、泉質炭酸泉、溫度九五度、胃腸病・慢性皮膚病・リウマチス・婦人病・梅毒・痛風・腺病等に效がある。

〔旅館〕延對寺別館（電三〇・三一、室二五、普通一泊二圓半—三圓半、㊐四圓）、富山館（電三三・三四、室一七、同上、㊐四圓）、宇奈月館（電六・七、和室一二、二圓—三圓、㊐和三圓、洋六圓、洋室二、）、河内屋（電三六・四四、室二二、洋室一、一泊㊐三圓）、水月（電三二、室六、㊐三圓）、桃源館（電二九、室一一、一圓半以上）、芳友館（電四〇、室一〇、一圓半以上）、温泉湯元（電四・五、室一〇三、湯間賃一人四〇錢、一室貸切一圓二〇錢、一圓半）。

▲宇奈月スキー場　宇奈月驛の南方二〇〇米の高臺にあり約一〇萬坪、傾斜は三〇—四〇度から緩急自在のコースに富み又廣大な山谷に連絡して居る。好期一二月下旬から翌年三月中。

▲烏帽子岳スキー場　宇奈月の南方約四粁、二〇—三〇度傾斜の大高原で北方面に低下して居る。登路宇奈月から約四時間、降路下立口驛まで二〇—三〇度の斜面を滑降二時間位。

▲鋲ケ岳スキー場　標高八六一米、下立口驛から四粁、登り三時間、滑降一時間位、一二月中旬から四月上旬まで雪量平均五、六尺。

【黒部峡谷の諸溫泉】

宇奈月から上流黒部峡谷には黒薙・二見・錦繡・鐘釣・祖母谷・阿曾原・仙人・東谷の諸溫泉があり、黒部探勝者の休泊所となつて居るが、日本電力會社の專用軌道が宇奈月から鐘釣迄通じ、夏季は探勝者を便乘させて居る。

○黒薙溫泉　宇奈月から約六粁、黒部本流と黒薙川の會合點、黒薙川の右岸後曳橋（日電軌道後曳停留所がある、宇奈月—黒薙間八〇錢）から約一粁の所に在る。黒薙川の奔流狂ひ屏風の如く峭壁相迫る脫俗の山水境で特に晩秋の紅葉は天下の美觀である。此處は宇奈月溫泉の泉源で、溫度九八度、泉質效能は宇奈月と同樣。〔旅館〕佐々木（室數二五、收容人員七、八十名、一泊一圓半—一圓八〇錢、二圓、二圓半。

○二見溫泉　黒薙から半粁餘の上流にあり、まだ浴舍の設がない。

○錦繡溫泉　日電軌道錦繡停留所所在、宇奈月から約一六粁。

此處は東鐘釣山の大岩峯の懷に、黒部本流に面し、景勝の地を占めて居る。もと新鐘釣溫泉と稱して居たが、先年故久邇宮殿下御遊覽の碑、景觀の勝れたるを賞でさせられ、附近溪谷に錦繡關の名を贈つて以來、錦繡溫泉と改稱して居る。泉質は無色透明の鹽類泉で溫度七四度半、胃腸病、腦病、神經病等に效がある。

○鐘釣溫泉　錦繡溫泉から約八〇〇米、日電軌道鐘釣驛から約三〇〇米、西鐘釣山の麓に在り、溫泉は浴舍より下る一〇〇米許り、左岸河域中、廣さ十坪程の石灰石の天然浴槽に湛へられて居る。炭酸泉に屬し湧出量豐富、古來胃腸病に

特徴があると世に知られて居る。日本電力會社經營の旅館數棟あり、一泊二圓、二圓半、三圓半位。外に自炊部室あり、一日三〇錢以上。百四五十名を收容する。

○祖母谷溫泉　鐘釣から約一〇粁、猿飛の奇勝を經て櫟平の吊橋を渡りて右岸に移り、支流祖母谷川を溯つた左岸、名劍山の南麓標高八四五米の所にあり、四圍悉く密林で蔽はれた神秘境である。溫泉は硫黃泉で九七度の高溫を有し、旅館はないが四間に六間の木造平屋建の營林署經營の小舍があり、夏季に探勝者の使用に便して居る。此處は白馬岳方面への要衝地で、夏季には物資を供給する賣店がある。

○阿曾原溫泉　鐘釣から約一八粁、櫟平から仕合谷、折尾を經てゆく。阿曾原谷の落合近く左岸の岩石の間に湧いて居る。

○仙人溫泉　阿曾原から約三粁、仙人谷の落合附近左岸及右岸に湧出して居る

○東谷溫泉　仙人谷から約一粁、東谷の落合附近黑部本流右岸にあり、水側に近く花崗岩の窪みに湛へられて入浴に使用して居る。

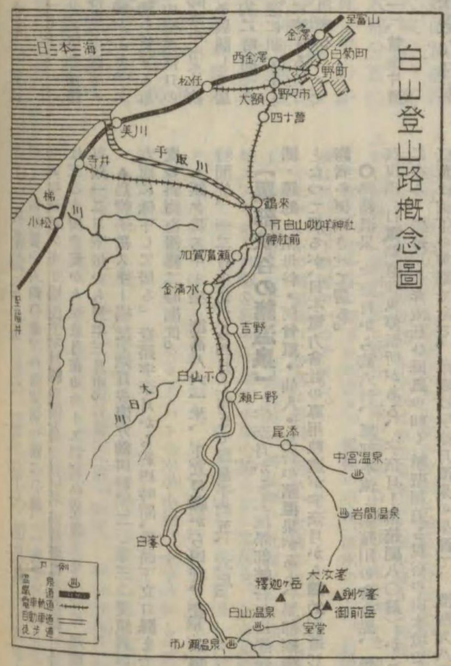
白山　大汝・劍ヶ峰・別山・三峰等の山峰を抱き、最高峰を御前嶽と云ひ海拔二、七〇二米、加賀・飛驒・越前の三國に跨る北陸の雄峰で、古來富士・立山等と共に三名山として信仰登山の山である。

山頂に國幣中社白山比咩神社の奥宮が祀られてあり、七月一八日開山祭、九月五日に閉山祭がある。

白山は今から約三五〇年前の天正七年八月二七日に噴火したのが最後として、今は只一部に硫氣を噴出してゐる孔があり、山上には礫々たる燒石が堆積して居る間、舊噴火のあとなどに水を湛へて大きな池を形成して、鮮美と、池水の碧色と、燒石の褐色等の對照に富み、高山植物の趣味を表はして居る。晴れた日には紅黃紫白色とりどりの高山植物の花咲き誇り、鶯鳥や鶯の聲頻りに起る彼方西方には北陸平野と日本海の眺め絶佳にて福井・金澤・小松町・高岡等の市邑や今江潟・木場潟・柴山潟・河北潟等鏡の如く光つて見え、飛驒の荻町や白山溫泉なども脚下に見え、又、能登半島の海中に突出して居るのが見える日もある。又他方には日本アルプスの連峰が雲の如く殆ど帶狀に連り、遙か西の重疊たる山の間からは、江州伊吹山も望まれる等、山頂の眺望は頗る廣大である。

〔登路〕左記日程案の如く北陸線金澤又は西金澤驛から白山下まで金澤電氣鐵道及金名鐵道により、それから山麓の白山溫泉まで自動車でゆく。白山溫泉口と、尾添口、平瀨口、石徹白口の四路がある。

「尾添口」は岩間溫泉を根據地とするもので、「平瀨口」は飛驒の平瀨から登る二〇粁の道程、「石徹白口」は越前電鐵の終點大野から石徹白まで自動車でゆき、それから三の峯別山を經て白山室堂まで三六粁の行程である。



白山登山日程案（東京及京阪から五日行程）

日程	地名	發着時則	記事	備考
第1日	（イ）上野驛	發後 八・五五	金澤行二、三等急行列車、車中一泊	（イ）（上野—金澤間普通急行デ一一時間一五分（四七二粁一分）三等五圓三三錢、急行料一圓。上記列車二二、三等寢臺アリ
	（ロ）大阪驛	發後 一〇・五〇	青森行普通列車（リ）二、三等寢臺アリ	（ロ）（大阪—寺井八時間（二一七四粁五分）三等三圓五二錢
	（ロ）京都驛	發前 一二・〇一	車中二一泊	（京都—寺井七時間（二三一粁七分）三等三圓六錢
第2日	（イ）金澤驛	着前 八・一〇	乘換	▲金澤驛カラ金澤電鐵、白菊町驛ヘ二粁八（同野町驛ヘ三粁）自動車一臺七〇錢。
	（イ）白菊町驛	發前 八・四四	金澤電鐵神社前行電車	▲白菊町驛—神社前間金澤電氣鐵道會社電車デ約四五分（一六粁九）、三等三一錢（並等車ノミ）「註」金澤驛カラ鶴來町迄自動車モユク、五五分、一六粁五、乘合六〇錢廣小路ニテ乘換）
	（イ）神社前驛	着前 九・三〇		
	（イ）白山下驛	發前 一〇・二二	白山下行汽車	▲神社前（鶴來町）—白山下驛間金名鐵道デ五〇分（一六粁八）賃四七錢（三等ノミ）
	（ロ）寺井驛	着前 一一・一一		
	（ロ）新寺井驛	發前 一一・二〇		
	（ロ）鶴來驛	着前 一〇・二二	能美電車ニ乘換	▲新寺井—鶴來間能美電車デ五二分（一六粁七）賃四七錢、（三等ノミ）
	（ロ）神社前驛	發前 八・〇五	鶴來行電車	
	（ロ）白山下驛	着前 一〇・二二	白山下行汽車	▲白山下驛カラ白山溫泉入口ノ市瀨迄約三〇粁四ノ間金名鐵道列車ニ接續シテ乘合自動車運轉ス（但終列車ヲ除キ、一日五回）賃一圓四五錢、所要約二時間。
	白山溫泉	着後 二・〇〇	宿泊	
	市瀨	發後 一・三〇	徒歩	

▲市瀨カラ白山溫泉迄約一粁四。

白山溫泉　石川縣能美郡白峯村。地ハ白山ノ峻峰ヲ背負ヒ、湯ノ谷川ニ枕ム海拔約一千米ノ幽邃境デ、泉質炭酸鹽類泉、溫度攝氏四八・五度、效能ハ主トシテ神經系統病・胃病等ニ效ガアル。溫泉旅館白山館、山田屋、同新館山田ホテル、林屋、一泊二圓、三圓。

第3日	白山温泉	発	早朝
	白山温泉	着	
		徒歩	室堂迄上リ四時間位白山比咩神社奥宮参拝
		宿泊	

▲白山温泉カラ白山頂上迄ハ新道、舊道ノ二途アル。新道ハ一二粁舊道ハ九粁、然シ新道ノ方ガ樂デ時間モカカラヌ。舊道ハ變化ニ富ミ又美シク御花畑モアルカラ往復道チ變ヘレバ面白イ。

▲頂上ノ御來光ヲ拜スルニハ前夜八時頃白山温泉ヲ出發スルカ、又ハ室堂ニ一泊ノ上早朝四時半頃同所出發スレバヨイ。室堂カラ頂上迄八丁七間、所要三〇分乃至四〇分。

第4日	白山市ノ瀬	発	前
	白山下駅	着	前
		発	前
	神社前駅	着	後
		発	後
	野町駅	着	後
		発	後
	(イ)金澤駅	発	後
	(ロ)金澤駅	発	後
		徒歩	
		乗合自動車	
		神社前行汽車乗換野町行電車	
		金澤見物	
		上野行急行	
		大阪行列車	

第5日	(イ)上野駅	着	後
		着	前
	(ロ)(京都駅	着	前
	(ロ)大阪駅	着	前
		帰宅	

一二・二六
一二・一一
一二・一七
一・〇二
七・一五
九・〇三
七・〇〇
四・五五
五・五八

▲強力一日三圓（荷物八四貫目迄、強力ハ頂上案内ヲセズ）。
▲案内料　頂上案内料一圓、大汝案内料二圓。
▲白山温泉―白山下―野町間交通機關ハ往路ノ反對。
神社前―鶴來　野町間四五分（一五粁八）四四錢。

金澤市内見物（二八六頁參照）

(イ)金澤發信越廻リ上野行急行二、三等寢臺アリ。
(ロ)大阪行普通列車二、三等寢臺アリ。
金澤―京都　八時間（二五四粁三）、三等三圓三一錢。
金澤―大阪　九時間（二九三粁一）、三等三圓七二錢。

【岩間温泉】　アルカリ性炭酸泉デ岩罅カラ滾々トシテ湧出シテ居ル。
〔旅館〕山崎、一泊一圓三〇錢。

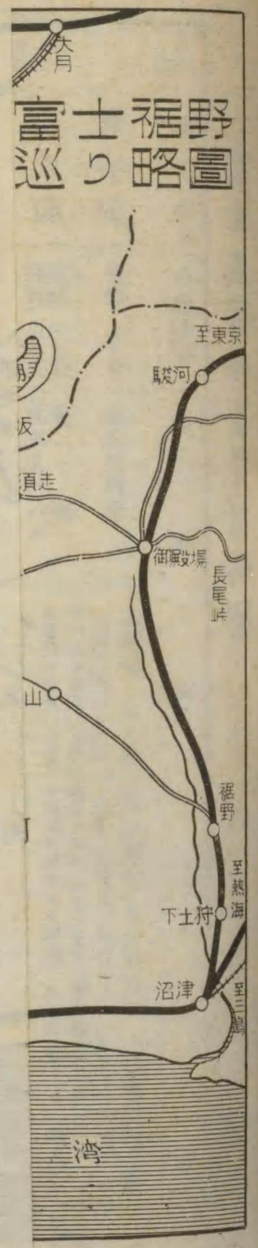
參考
▲白山室堂　七月一〇日カラ九月五日迄營業（此期間外ハ寢具、食事等ノ設備ナキ故各自用意スルヲ要ス）一泊四〇錢、食事一食四〇錢、貸毛布四〇錢、休憩料一五錢、夜番休料三〇錢。
風呂モ隔日位ニアルガ特ニ註文ガアレバ何時デモ湧カス（木炭代ヲ申受ク）。
▲高山植物　史蹟名勝天然紀念物保存法ニヨリ採取スルコトヲ嚴禁サレテ居ル
▲室堂カラ岩間温泉迄一二粁餘、下リナレド道路惡ク疲勞ガ多イ四時間位、（上リハ五時間位。岩間カラ尾添（オーゾ）、二時間）ヲ經テ白山下驛ヘ二二粁二、徒歩四時間、合計八時間位。白山下驛カラ東新谷マデ一一粁半貸切ガユク五圓。

旅行費用概算

	上野から	京都から	大阪から
二等	四九・八圓	三九・二〇	三七・六八
三等	二九・八圓	二四・五六	二三・九二

内譯（汽車賃急行料ノ外（備考欄參照）二等寢臺下段二夜分九圓、三等上段一圓六〇錢、旅館二泊料四圓、食事料自動車料其他費用トシテ概算一〇圓宛ヲ計上ス）

三國一の富士の山

富士山

上、富士とさくら
下、精進湖の大觀